

千鷄Ⅳ遺跡

—宮古市水産課千鷄地区漁港漁村総合整備事業関係—

1999. 3

岩手県宮古市教育委員会

千鷄Ⅳ遺跡

—宮古市水産課千鷄地区漁港漁村総合整備事業関係—

1999. 3

岩手県宮古市教育委員会

The Miyako Board of Education
Miyako, Iwate, Japan

序 文

重茂半島は市内でも昔ながらの大きな自然を残している数少なくい地域の一つです。今回の発掘調査は太平洋を望む千鷄地区で行われました。千鷄地区では先年の調査で縄文時代でも古い時期の集落の跡が発見されています。今回の調査ではそれらに続く縄文時代、弥生時代の住居跡やたくさん土器が見つかりました。重茂地区の調査でも実に多くの土器が出土した例もあり、海と山の雄大な自然のなかで営々として暮してきたことを物語っています。これらの自然、文化を後代に伝えていくことはわれわれの責務と考えます。

最後になりましたが、野外での調査、資料の整理にあたり御協力いただきました多くの関係者、各位に感謝申し上げますとともにこれらの成果が広く活用されることを願って序文といたします。

宮古市教育委員会
教育長 中屋 定基

例 言

1. 本書は、宮古市水産課千鶏地区漁港漁村総合整備事業に伴い平成7年から平成8年かけて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査の主体は宮古市教育委員会である。平成7年の試掘調査は橋本が担当し、平成8年の発掘調査は竹下、高橋、鎌田、阿部、工藤が担当した。本書の編集、執筆は阿部が担当し、竹下、高橋、鎌田、加納、工藤がこれを補佐した。
3. 遺構の平面位置は、平面直角座標第X系を座標変換したものを使用した。局地的な座標系であることを明示するためRを冠して表示した。

原点の座標は下記のとおりである。

X -51400.000、Y +102800.000

4. 高さは標高値をそのまま使用した。
5. 遺物の表現については下記のとおりとした。



繊維を含む土器

土器片の実測図、拓本は、内面と外面を示す場合、内面／断面／外面の順序で並べた。

6. 土層観察に際しては、「新版標準土色帖」（1967、小山正忠、竹原秀雄）を参考とした。土壌の固さについては固、中、軟、密度については、密、中、疎の三段階で示した。
7. 出土した遺物、実測図、写真など調査に関する資料は、宮古市教育委員会が一括して保管している。

目 次

序 文 例 言 目 次

1. 調査経過	
1-1. 調査に至る経過	1
1-2. 調査要旨	1
1-3. 調査体制	1
2. 遺跡の立地環境	
2-1. 宮古市の立地	2
2-2. 遺跡の立地と周辺の遺跡	4
3. 調査の結果	
3-1 基本層序	7
3-2 検出した遺構と遺物	
a. 弥生時代	22
b. 縄文時代	42
c. 土坑跡	147
3-3 遺構外出土遺物	
a. A区遺構外出土遺物	160
b. B区遺構外出土遺物	186
c. C、D区遺構外出土遺物	202
d. D区谷包含層出土遺物	238
e. D区礫層出土遺物	276
f. E区遺構外出土遺物	276
g. G区遺構外出土遺物	276
4. 調査のまとめ	
4-1 竪穴住居跡	281
a. 弥生時代	281
b. 縄文時代	281
4-2 土器について	283
4-3 土偶について	291
写真図版	293
報告書抄録	325

図 版 目 次

第1図	位置図、周辺の遺跡	3
第2図	地形分類図	5
第3図	遺跡周辺の地形	6
第4図	調査区配置図	9
第5図	A1～A3区調査区、遺構配置図・土層断面図	11
第6図	A4、A5区調査区遺構配置図	13
第7図	A4、A5区土層断面図	14
第8図	B区遺構配置図・土層断面図	15
第9図	C区遺構配置図・土層断面図	16
第10図	D区遺構配置図・I、II	17
第11図	D区土層断面図	18
第12図	E区、F区、G区調査区、遺構配置図・土層断面図	19
第13図	D-1号竪穴住居跡	23
第14図	D-1号竪穴住居炉跡	24
第15図	D-1号竪穴住居跡出土遺物(1)	25
第16図	D-1号竪穴住居跡出土遺物(2)	26
第17図	D-1号竪穴住居跡出土遺物・石器(3)	26
第18図	D-1号竪穴住居跡出土遺物・石器(4)	27
第19図	D-2号竪穴住居跡	29
第20図	D-2号竪穴住居炉跡	30
第21図	D-2号竪穴住居跡出土遺物(1)	31
第22図	D-2号竪穴住居跡出土遺物・石器(2)	32
第23図	D-3号竪穴住居跡	33
第24図	D-3号竪穴住居炉跡	34
第25図	D-3号竪穴住居跡出土遺物	34
第26図	C-1号竪穴住居跡	35
第27図	C-1号竪穴住居跡出土遺物	36
第28図	B-1号竪穴住居跡	39
第29図	B-1号竪穴住居炉跡	40
第30図	B-1号竪穴住居跡出土遺物(1)	40
第31図	B-1号竪穴住居跡出土遺物(2)	41
第32図	A-1号炉跡	42
第33図	C-2号竪穴住居跡(1)	43
第34図	C-2号竪穴住居跡(2)	44
第35図	C-2号竪穴住居跡・炉I	47
第36図	C-2号竪穴住居跡・炉II	48
第37図	C-2号竪穴住居跡出土遺物(1)	51

第38图	C-2号竖穴住居迹出土遺物(2)	52
第39图	C-2号竖穴住居迹出土遺物(3)	53
第40图	C-2号竖穴住居迹出土遺物(4)	54
第41图	C-2号竖穴住居迹出土遺物(5)	55
第42图	C-2号竖穴住居迹出土遺物(6)	56
第43图	C-2号竖穴住居迹出土遺物(7)	57
第44图	C-2号竖穴住居迹出土遺物·石器(8)	58
第45图	C-2号竖穴住居迹出土遺物·石器(9)	59
第46图	C-2号竖穴住居迹出土遺物·石器(10)	60
第47图	C-2号竖穴住居迹出土遺物·石製品(11)	61
第48图	D-4号竖穴住居迹	63
第49图	D-4号竖穴住居炉跡	64
第50图	D-4号竖穴住居迹出土遺物(1)	66
第51图	D-4号竖穴住居迹出土遺物(2)	67
第52图	D-4号竖穴住居迹出土遺物(3)	68
第53图	D-5号竖穴住居迹	70
第54图	D-5号竖穴住居炉跡	72
第55图	D-5号竖穴住居迹出土遺物(1)	74
第56图	D-5号竖穴住居迹出土遺物(2)	75
第57图	D-5号竖穴住居迹出土遺物(3)	76
第58图	D-5号竖穴住居迹出土遺物(4)	77
第59图	D-5号竖穴住居迹出土遺物·石器(5)	78
第60图	D-5号竖穴住居迹出土遺物·土偶(6)	78
第61图	D-6号竖穴住居迹	79
第62图	D-6号竖穴住居炉跡	80
第63图	D-6号竖穴住居迹出土遺物	82
第64图	C-3号竖穴住居迹	83
第65图	C-3号竖穴住居炉跡	84
第66图	C-3号竖穴住居迹出土遺物	84
第67图	C-4号竖穴住居迹·C-15号土坑跡	85
第68图	C-4号竖穴住居炉跡	86
第69图	C-4号竖穴住居迹出土遺物(1)	87
第70图	C-4号竖穴住居迹出土遺物(2)	88
第71图	B-2号竖穴住居迹	89
第72图	B-2号竖穴住居炉跡	90
第73图	B-2号竖穴住居迹出土遺物(1)	92
第74图	B-2号竖穴住居迹出土遺物(2)	93
第75图	B-2号竖穴住居迹出土遺物(3)	94
第76图	B-2号竖穴住居迹出土遺物(4)	95

第77图	B-2号竖穴住居迹出土遺物·石器(5)	96
第78图	B-2号竖穴住居迹出土遺物·石器·骨角器(6)	97
第79图	B-3号竖穴住居迹	99
第80图	B-3号竖穴住居炉迹	100
第81图	B-2号竖穴住居迹出土遺物(1)	100
第82图	B-2号竖穴住居迹出土遺物(2)	101
第83图	D-7号竖穴住居迹 I期	103
第84图	D-7号竖穴住居迹 II、III期	105
第85图	D-7号竖穴住居迹 完掘状况	107
第86图	D-7号竖穴住居迹土層断面	109
第87图	D-7号竖穴住居迹 土坑·周溝断面图(1)	110
第88图	D-7号竖穴住居迹 土坑迹断面图(2)	111
第89图	D-7号竖穴住居迹 烧土遺構II	112
第90图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(1)	121
第91图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(2)	122
第92图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(3)	123
第93图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(4)	124
第94图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(5)	125
第95图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(6)	126
第96图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(7)	127
第97图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(8)	128
第98图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(9)	129
第99图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(10)	130
第100图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(11)	131
第101图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(12)	132
第102图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(13)	133
第103图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(14)	134
第104图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(15)	135
第105图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(16)	136
第106图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(17)	137
第107图	D-7号竖穴住居迹出土遺物(18)	138
第108图	D-7号竖穴住居迹出土遺物·石器(19)	139
第109图	D-7号竖穴住居迹出土遺物·石器(20)	140
第110图	D-7号竖穴住居迹出土遺物·石器(21)	141
第111图	D-7号竖穴住居迹出土遺物·石器(22)	142
第112图	D-7号竖穴住居迹出土遺物·石器(23)	143
第113图	D-7号竖穴住居迹出土遺物·石器·石製品(24)	144
第114图	D-8号竖穴住居迹	146
第115图	D-8号竖穴住居迹出土遺物	146

第116图	C-8号土坑跡	148
第117图	C-8号土坑跡出土遺物	148
第118图	C区土坑群	149
第119图	C区土坑群出土遺物	150
第120图	D-9号、D-10号、D-11号土坑跡	152
第121图	D-9号土坑跡出土遺物	153
第122图	D-10号土坑跡出土遺物(1)	153
第123图	D-10号土坑跡出土遺物·石器(2)	154
第124图	D-11号土坑跡出土遺物	155
第125图	D-12号、D-13号土坑跡	156
第126图	D-12号、D-13号土坑跡出土遺物	157
第127图	G-1号、G-2号土坑跡	158
第128图	A-2号柱穴跡	158
第129图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(1)	164
第130图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(2)	165
第131图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(3)	166
第132图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(4)	167
第133图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(5)	168
第134图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(6)	169
第135图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(7)	170
第136图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(8)	171
第137图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(9)	172
第138图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(10)	173
第139图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(11)	174
第140图	A-4区遺物包含層出土遺物·弥生土器(12)	175
第141图	A-4区遺物包含層出土遺物·縄文土器(13)	176
第142图	A-4区遺物包含層出土遺物·縄文土器(14)	177
第143图	A-4区遺物包含層出土遺物·縄文土器(15)	178
第144图	A-4区遺物包含層出土遺物·縄文土器(16)	179
第145图	A-4区遺物包含層出土遺物·石器(17)	180
第146图	A-4区遺物包含層出土遺物·石器(18)	181
第147图	A-4区遺物包含層出土遺物·石器(19)	182
第148图	A-4区遺物包含層出土遺物·石器(20)	183
第149图	A-4区遺物包含層出土遺物·石製品(21)	184
第150图	A-2区遺物包含層出土遺物(22)	185
第151图	B区遺構外出土遺物(1)	188
第152图	B区遺構外出土遺物(2)	189
第153图	B区遺構外出土遺物(3)	190
第154图	B区遺構外出土遺物(4)	191

第155图	B区遺構外出土遺物(5)	192
第156图	B区遺構外出土遺物(6)	193
第157图	B区遺構外出土遺物(7)	194
第158图	B区遺構外出土遺物(8)	195
第159图	B区遺構外出土遺物(9)	196
第160图	B区遺構外出土遺物(10)	197
第161图	B区遺構外出土遺物(11)	198
第162图	B区遺構外出土遺物・石器(12)	199
第163图	B区遺構外出土遺物・石器(13)	200
第164图	B区遺構外出土遺物・石器(14)	201
第165图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(1)	206
第166图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(2)	207
第167图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(3)	208
第168图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(4)	209
第169图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(5)	210
第170图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(6)	211
第171图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(7)	212
第172图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(8)	213
第173图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(9)	214
第174图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(10)	215
第175图	C、D区遺構外出土遺物・弥生土器(11)	216
第176图	C、D区遺構外出土遺物・縄文土器(12)	217
第177图	C、D区遺構外出土遺物・縄文土器(13)	218
第178图	C、D区遺構外出土遺物・縄文土器(14)	219
第179图	C、D区遺構外出土遺物・縄文土器(15)	220
第180图	C、D区遺構外出土遺物・縄文土器(16)	221
第181图	C、D区遺構外出土遺物・縄文土器(17)	222
第182图	C、D区遺構外出土遺物・土偶(18)	223
第183图	C、D区遺構外出土遺物・石器(19)	224
第184图	C、D区遺構外出土遺物・石器(20)	225
第185图	C、D区遺構外出土遺物・石器(21)	226
第186图	C、D区遺構外出土遺物・石器(22)	227
第187图	C、D区遺構外出土遺物・石器・石製品(23)	228
第188图	C、D区遺構外出土遺物・石器(24)	229
第189图	C、D区遺構外出土遺物・石器(25)	230
第190图	C、D区遺構外出土遺物・石器(26)	231
第191图	C、D区遺構外出土遺物・石器(27)	232
第192图	C、D区遺構外出土遺物・石器(28)	233
第193图	C、D区遺構外出土遺物・石器(29)	234

第194图	C、D区遺構外出土遺物・石器 (30)	235
第195图	C、D区遺構外出土遺物・石器 (31)	236
第196图	C、D区遺構外出土遺物・石器 (32)	237
第197图	D区谷包含層出土遺物 (1)	244
第198图	D区谷包含層出土遺物 (2)	245
第199图	D区谷包含層出土遺物 (3)	246
第200图	D区谷包含層出土遺物 (4)	247
第201图	D区谷包含層出土遺物 (5)	248
第202图	D区谷包含層出土遺物 (6)	249
第203图	D区谷包含層出土遺物 (7)	250
第204图	D区谷包含層出土遺物 (8)	251
第205图	D区谷包含層出土遺物 (9)	252
第206图	D区谷包含層出土遺物 (10)	253
第207图	D区谷包含層出土遺物 (11)	254
第208图	D区谷包含層出土遺物 (12)	255
第209图	D区谷包含層出土遺物 (13)	256
第210图	D区谷包含層出土遺物 (14)	257
第211图	D区谷包含層出土遺物 (15)	258
第212图	D区谷包含層出土遺物 (16)	259
第213图	D区谷包含層出土遺物 (17)	260
第214图	D区谷包含層出土遺物 (18)	261
第215图	D区谷包含層出土遺物 (19)	262
第216图	D区谷包含層出土遺物 (20)	263
第217图	D区谷包含層出土遺物 (21)	264
第218图	D区谷包含層出土遺物 (22)	265
第219图	D区谷包含層出土遺物 (23)	266
第220图	D区谷包含層出土遺物 (24)	267
第221图	D区谷包含層出土遺物 (25)	268
第222图	D区谷包含層出土遺物・石器 (26)	269
第223图	D区谷包含層出土遺物・石器 (27)	270
第224图	D区谷包含層出土遺物・石器 (28)	271
第225图	D区谷包含層出土遺物・石器 (29)	272
第226图	D区谷包含層出土遺物・石器 (30)	273
第227图	D区谷包含層出土遺物・石器 (31)	274
第228图	D区谷包含層出土遺物・石器・石製品 (32)	275
第229图	D区礫層出土遺物 (1)	277
第230图	D区礫層出土遺物 (2)	278
第231图	D区礫層出土遺物 (3)	279
第232图	E区出土遺物	279

第233図	D区礫層出土遺物（4）	280
第234図	G区遺構外出土遺物	280

插图目次

插图1	弥生土器集成(1)	284
插图2	弥生土器集成(2)	285
插图3	弥生土器集成(3)	286
插图4	縄文土器集成(1)	288
插图5	縄文土器集成(2)	289
插图6	縄文土器集成(3)	290

写真图版目次

写真图版1	D-1号竖穴住居跡・D-2号竖穴住居跡	295
写真图版2	D-3号竖穴住居跡・C-1号竖穴住居跡	296
写真图版3	B-1号竖穴住居跡・C-2号竖穴住居跡	297
写真图版4	C-2号竖穴住居炉I・D-4号竖穴住居跡	298
写真图版5	D-5号竖穴住居跡・D-6号竖穴住居跡	299
写真图版6	C-3号竖穴住居跡・C-4号竖穴住居跡	300
写真图版7	B-2号竖穴住居跡・B-3号竖穴住居跡	301
写真图版8	D-7号竖穴住居跡	302
写真图版9	D-7号竖穴住居跡 焼土遺構II・D-7号竖穴住居跡土坑跡(P79)	303
写真图版10	D-7号竖穴住居土坑跡(P78)・C-8号土坑跡块状耳飾り出土状況	304
写真图版11	C区土坑群・D-12号、D-13号土坑跡	305
写真图版12	A-4区遺物包含層	306
写真图版13	D区遺物包含層・D区石斧出土状況	307
写真图版14	B-2号、C-2号、D-4号、D-5号出土土器	308
写真图版15	D-11号土坑跡、D-7号竖穴住居跡出土土器	309
写真图版16	D-7号竖穴住居跡・A区出土土器	310
写真图版17	A区出土土器	311
写真图版18	A~C区出土土器	312
写真图版19	C区出土土器	313
写真图版20	C, D区、D区谷包含層出土土器	314
写真图版21	D区谷包含層出土土器	315
写真图版22	D区谷包含層出土土器	316
写真图版23	D区谷包含層出土土器	317
写真图版24	D区谷包含層出土土器	318
写真图版25	D区谷包含層出土土器	319
写真图版26	D区谷包含層出土土器	320

写真図版27	D-7号住居跡出土土器・土偶	321
写真図版28	石製品	322
写真図版29	石製品・骨角器	323
写真図版30	C区土層堆積状況・D区土層堆積状況	324

1. 調査経過

1-1. 調査に至る経過

平成7年に宮古市水産課の千鶏地区漁港漁村総合整備事業工事にさきだって宮古市教育委員会との協議が行われ、その際に道路建設工事予定区域が遺跡包蔵地にあたることが判明した。その後の協議で、平成7年度に試掘調査を行うことが取決められた。試掘調査の結果を受けて平成8年度に本調査が行われ、調査は平成8年10月をもって終了した。

1-2. 調査要旨

遺跡名	千鶏IV遺跡	遺跡コード番号	LG75-0248
調査地点	宮古市大字重茂第12地割字千鶏川向13番地ほか		
調査期間	野外調査	試掘調査	平成7年9月21日～平成7年11月24日
		本調査	平成8年4月11日～平成8年10月15日
	整理作業		平成7年12月25日～平成8年3月27日
			平成8年12月16日～平成9年3月31日
			平成9年4月9日～平成10年3月31日
			平成10年4月15日～平成11年3月30日
調査面積	1. 367㎡		
検出遺構・遺物	竪穴住居跡15棟（弥生時代5、縄文時代中期 8、縄文時代前期 2） 炉跡 1、土坑跡 16、柱穴跡 1、遺物包含層		

1-3. 調査体制

調査委託者	宮古市水産課		
調査主体	佐藤 勇逸	宮古市教育委員会教育長（平成9年4月まで）	
	中屋 定基	"（平成9年4月～）	
調査総括	岩田 善弘	宮古市教育委員会社会教育課課長（平成5年度）	
	浦野 光廣	"（平成6年度～平成9年度）	
	中洞 惣一	"（平成10年度～）	
事務担当	瀬川 康平	宮古市教育委員会社会教育課課長補佐（平成10年度～）	
	田鎖 春雄	" 社会教育係長（平成6年度～平成9年度）	
	野崎 政博	" 社会教育課主事	
	坂下 昇	" 社会教育課主事補～庶務主査	
調査員	竹下 将男	宮古市教育委員会社会教育課主任	
	高橋 憲太郎	"	
	鎌田 祐二	"	
	橋本 晃一	" 主事（平成7年度まで）	
	三浦 千秋	" 主事（平成8年9月まで）	
	加納 由美	" 主事（平成9年～）	
	阿部 豊	" 埋蔵文化財調査員（非常勤、主担当）	
	工藤 剛司	" 埋蔵文化財調査員（非常勤）	

調査の実施にあたり次ぎの各位から多大の御協力を頂いた。記して感謝申し上げます。（敬称略）

<野外調査>

木村 フミ子	木村 富子	中野 ミネ	川畑 光子	川畑 貴美子	馬場 茂子
上野 勲	上野 忠	木村 清	姉石 勝子	下沢 安男	佐々木力
山根一郎	坂下節朗	中屋東一	古舘友三	今津東一	中居磯雄
中嶋正裕	松尾喜一郎	柳沢秀平	前川友宏	藤井洋一	小成裕信
堀内良子	佐野利男	島田義道	斉藤 貞子	菅原テルミ	藤谷晶子
永田美弥子	久保田千工	舘下久雄	千葉 英美	福土 祐二	佐伯裕則
小林 尚市	舘崎 登	中村 京平	小野寺 青治郎		

<資料整理>

中村明子	斉藤貞子	堀内良子	吉田純子	志賀規子	安中直美	古舘悦子
久保田加代子	遠藤千紘	工藤純子	阿部希葉	斎藤京子	佐々木厚子	長洞妙子
佐々木純子						

2. 遺跡の立地環境

2-1. 宮古市の立地

宮古市は三陸海岸のほぼ中央に位置する。本州の最東端にあたる重茂半島は北東にむかって太平洋に突出し、その西側に宮古湾が形成される。宮古湾には東から閉伊川、南から津軽石川の二つの大きな川が流れ込む。市の大部分は丘陵と山地で占められ、平地は湾岸と両河川の流域に分布し、現在の市街地はその平坦地に築かれている。

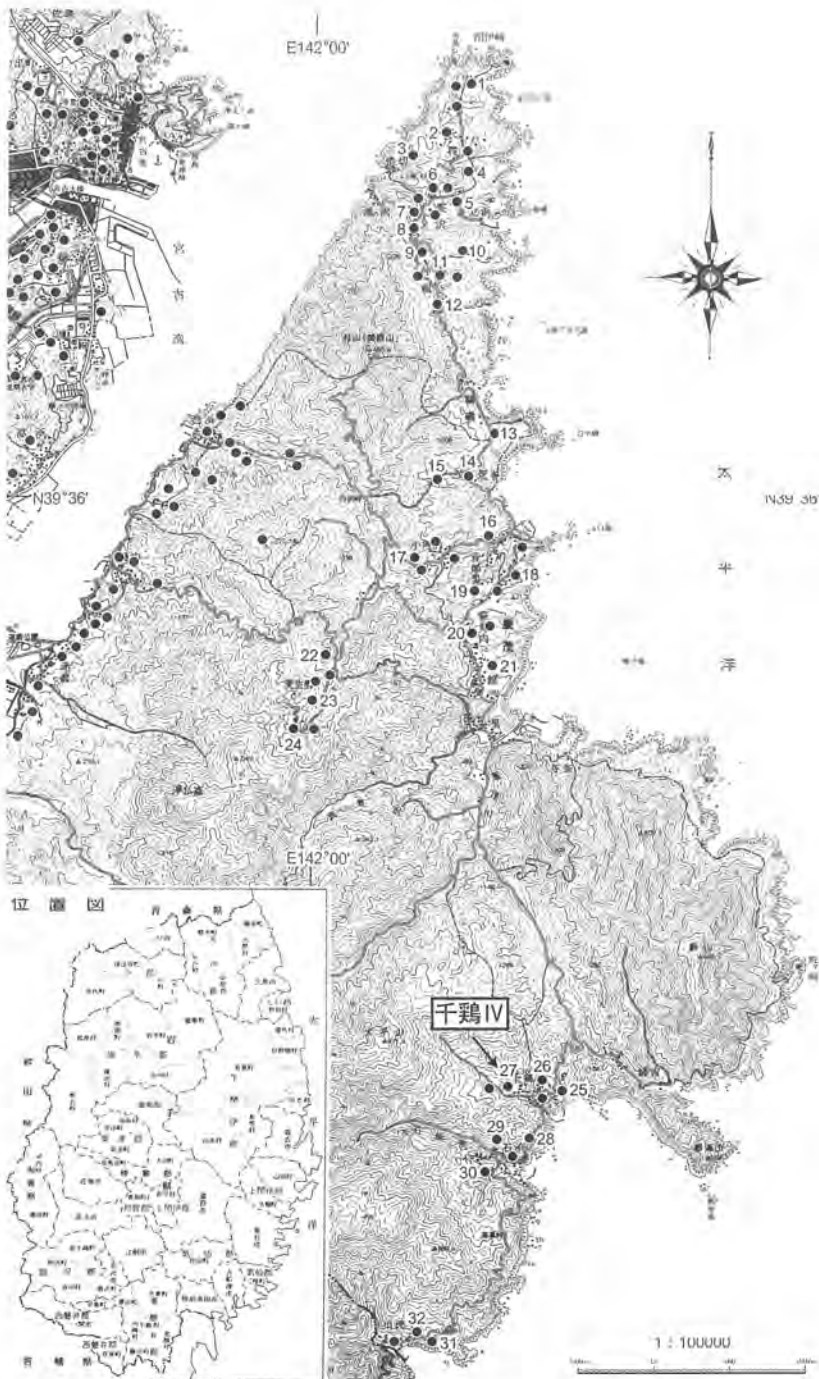
宮古市の縁辺部を形成する丘陵、山地は北上山地の東端にあたる。丘陵地は北から小本丘陵、千徳丘陵、八木沢丘陵、豊間根丘陵と連なり、その背後に黒森山地、花輪山地が控えている。山地は内陸にいくほど高くなり、市内では西端の亀ヶ森(1112.4m)、峠の神山(1229.7m)あたりが最も高くなり、さらに西にむかって早地峰山(1914m)を頂点とする。重茂半島は十二神山(731m)を頂点とする山塊に占められ、縁辺部にわずかながら丘陵地を形成している。宮古市で確認されている400余りの遺跡は、大部分が閉伊川、津軽石川の流域、これらの丘陵地に分布する。

海岸線は宮古市を境として大きく景観を異にしている。北には海岸段丘が発達した隆起性の海岸線が連なり、かなり険しい表情を見せる。南は沈降性の入組んだ海岸であるリアス式海岸が続き、大小の湾を形成し変化に富んだ景色を見せているばかりではなく貝塚の多いことでも知られている。また海域を見た場合、津軽暖流、三陸沖を北上する黒潮暖流、南下する親潮など三海流の影響を受けている。黒潮はアジ、サバ、イワシ、サンマなど沿岸性多獲魚類の母体であり、親潮はシロサケ、マス類、タラ類、カレイ類などの北方寒流系の魚種をもたらしている。さらに海流の影響は海藻類にも及び、温帯性種、亜寒帯性種のほかに、対馬暖流の影響であろう日本海固有の海藻を産出している。

宮古市の気候を「宮古市の自然」を参照しながら見てみたい。そのなかで石塚は、吉良竜夫の温量指数¹の利用がきわめて有効であるとして、宮古市の温度気候と植生分布を考察している。宮古市の温量指数は179.4°で、吉良の分類によれば宮古市は冷温帯に属する²。冷温帯と暖温帯の境界は中間温帯といわれ、その指標であるモミ・イヌブナ林は、内陸部では一ノ関付近、沿岸部では宮城県との境を北限としている。しかしモミをのぞいたイヌブナ林の分布は北にのびて宮古市を北限としていることが観察されており、「宮古市は温度気候的には冷温帯域ではあるが、仙台市付近によ

く発達する中間温帯のモミ・イヌブナ林地帯の北方への推移帯の北端部という性格をもち、植生分布帯の考察上極めて興味ある位置をしめる」と報告されている。また、寒さの点では、前述した海流の影響を受けて内陸部に比べてはるかに冬が暖かい。しかしその影響も海岸のごく狭い地域に限られており、内陸にむかって急激な冬の気温の低下がみられる。

本州でもっとも東に張出した位置にある宮古市は、地形的にも気候的にも「境界」にあるというのが大きな特徴の一つである。このことは当地方の文化にさまざまな影響を与えているものと思われる。



番号	遺跡コード	遺跡名称
1	L G 25-2211	大浜 I
2	L G 25-2187	大程 I
3	L G 35-0113	追切
4	L G 35-0230	大程 III
5	L G 35-0179	立浜
6	L G 35-0155	笹沢 III
7	L G 35-0184	笹沢 I
8	L G 35-1123	加村
9	L G 35-1144	赤なしが沢
10	L G 35-1240	仲組 I
11	L G 35-1177	仲組 III
12	L G 35-2117	堺ノ神
13	L G 45-0247	鵜磯
14	L G 45-1222	荒巻 I
15	L G 45-1137	荒巻 II
16	L G 45-2225	音部大下
17	L G 45-2154	小角柄 IV
18	L G 45-2268	音部谷地頭 II
19	L G 45-2294	音部追磯
20	L G 55-0242	笹見内 I
21	L G 55-0284	重茂館遺跡群
22	L G 55-0083	麦生野 I
23	L G 55-1052	麦生野 IV
24	L G 54-1379	麦生野 VI
25	L G 75-0354	千鷲 I
26	L G 75-0332	千鷲 III
27	L G 75-0248	千鷲 IV
28	L G 75-1311	千鷲 VI 川向
29	L G 75-1227	石浜 II
30	L G 75-1264	石浜 III
31	L G 85-0188	川代 I
32	L G 85-0176	川代 II

第 1 図 位置図・周辺の遺跡

1. どのくらいの温度が持続するかという暖かさの総量を示す指数である。月平均気温5℃以上の月を、植物の生育できる期間と考え、その期間について、月平均気温から5度を引いた値を積算して求める（中公新書「照葉樹林文化」）。
2. 吉良は185°～180°を暖温帯の領域としている。

参考・引用文献

- 石塚和雄ほか 1979「宮古市の自然」宮古市
上山春平編 1969「照葉樹林文化」中央公論社

2-2. 遺跡の立地と周辺の遺跡

重茂半島の地形を概観すると、その大部分が十二神山山地の山塊で占められ、周辺部に形成された丘陵地（銚ヶ崎丘陵）を断崖をなす海岸線が囲む。東西に延びる十二神山山地（海拔731m）の尾根が山田町との境界となっており、半島の先端部にむかって延びる尾根が半島を東西に二分する。遺跡の大部分が、宮古湾岸、銚ヶ崎丘陵の扇状地、緩斜面に位置する。

半島に分布する遺跡は、四区域に大別される。

第一区は、半島西側の宮古湾に面した小堀内、赤前地区である。奈良～平安時代の住居跡、製鉄遺構などが出土している。

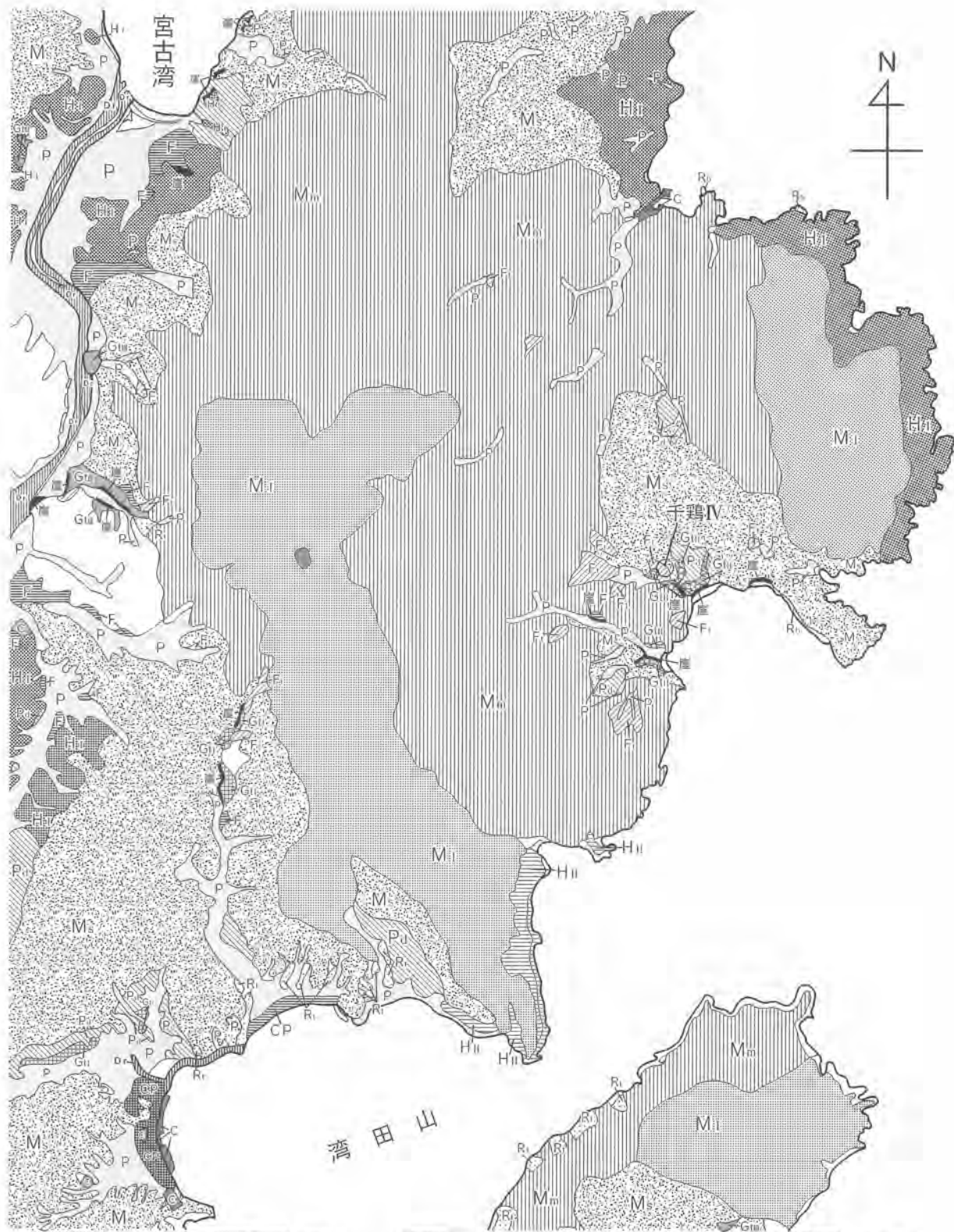
第二区は、半島先端部である堺ノ神～大程地区である。調査例は多くないが、縄文時代中期の土坑跡、早期、前期の土器、中世の銭貨などが出土している。

第三区は、半島中央部の麦生野～館地区である。重茂遺跡群など大規模な遺跡が見られる。遺跡の主体は縄文時代のものであるが、館跡などの中世の遺跡も存在する。

第四区が今回の調査区にあたる千鷲～川代地区である。重茂半島の十二神山山地帯が太平洋にむかって突出して本州最東端の地を形成している。丘陵の南北の付根に小湾が形成され、漁港として利用されている。南側が千鷲、川代地区にあたる。南の千鷲漁港は山田湾の湾口にあたり、千鷲IV遺跡は、千鷲漁港を見下ろす山麓に位置する。

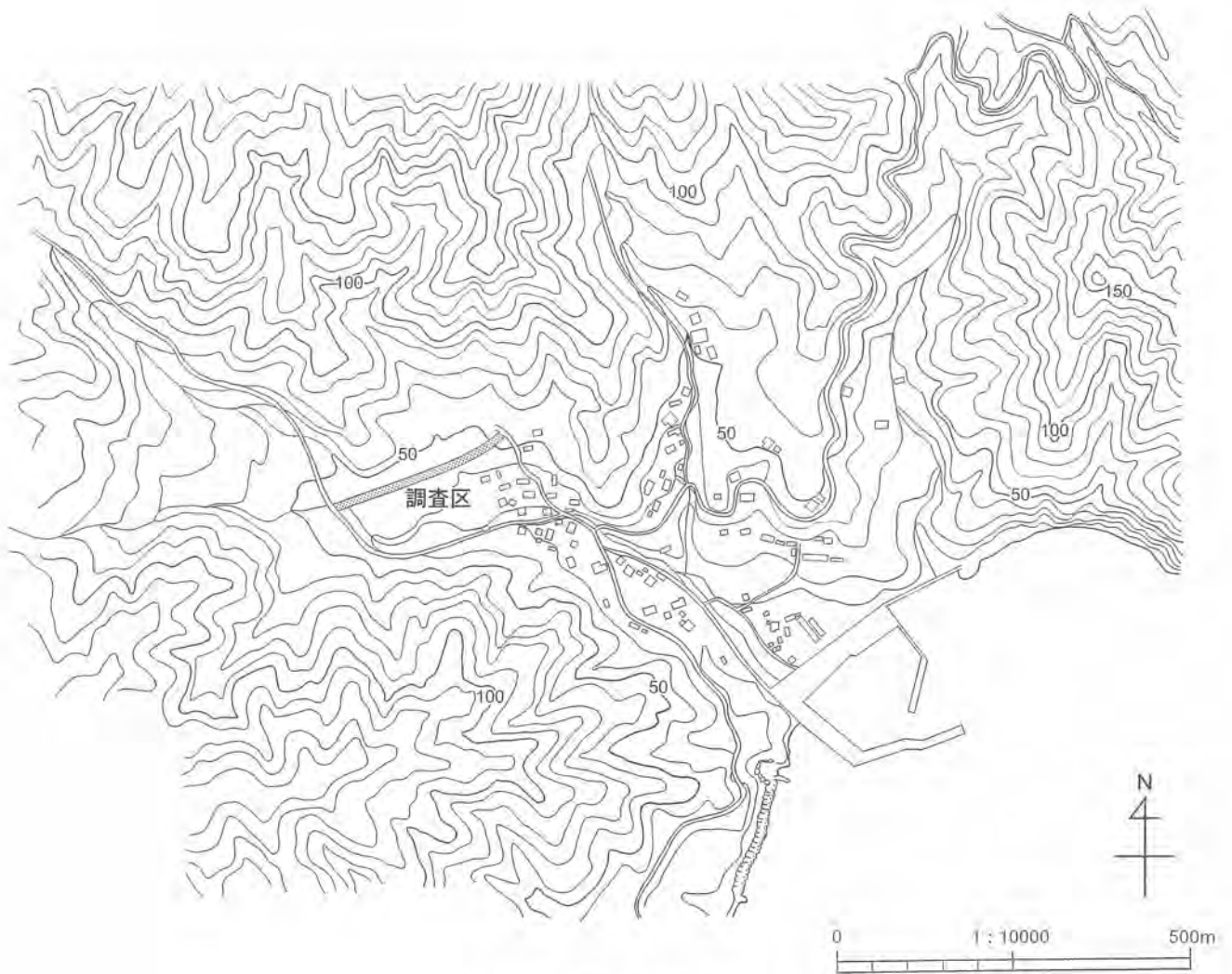
重茂半島での調査例は6例である。半島の先端に近い内陸部の調査では、縄文時代早期の条痕文土器、縄文時代中期の土器、フラスコピットなどが出土している（「笹沢1遺跡1995」）。平成2年の重茂館遺跡群の調査では、調査面積はわずかであったが、縄文時代中期大木7a式～大木9式に伴う密度の濃い包含層を検出している。

千鷲地区では、六ヶ所で遺跡が確認されている。千鷲遺跡では、昭和62年に調査が行われ、縄文時代前期初頭の集落を形成する住居跡34棟が出土している（「千鷲遺跡1989」）。千鷲遺跡は海岸に位置し、今回調査を行った千鷲IV遺跡は山麓に位置する。また表採資料では、千鷲I遺跡は縄文時代早期、千鷲III遺跡は中期、千鷲V殿畑遺跡は中期～後期を主体とした土器が出土している。



- | | | | | |
|-------------------------------|-----------------------|------------------------|-------------------------|--------|
| M _I 大起伏山地 | H _I 丘陵地Ⅰ | G _{III} 砂礫段丘Ⅲ | P 谷底平野及び
氾濫平野 | C 人工変地 |
| M _m 中起伏山地 | H _{II} 丘陵地Ⅱ | R _I 岩石段丘 | CP 海岸平野及び
三角洲 | 崖 |
| M _s 小起伏山地 | G _I 砂礫段丘Ⅰ | F 扇状地 | SP _{D,r} 浜及び河原 | |
| P _d 山麓地及び他の
傾斜面 | G _{II} 砂礫段丘Ⅱ | F _I 崖錐性扇状地 | R _b 礫 | |

第2図 地形分類図



第3図 遺跡周辺の地形

重茂半島発掘調査一覧（宮古湾頭部をのぞく）

遺跡名	調査年度	調査担当	遺構・遺物	報告書など
千鷲遺跡	昭和62年	鎌田 祐二	縄文時代前期集落跡	「千鷲遺跡 1989」
重茂館遺跡群	平成2年	高橋 憲太郎	縄文時代中期の遺物包含層	「重茂館遺跡群 1992」
塚ノ神遺跡	平成4年	阿部 豊	縄文時代中期遺物包含層	「塚ノ神遺跡他 1995」
笹沢Ⅰ遺跡	平成5年	橋本 晃二	縄文時代早期の遺構・遺物	「笹沢Ⅰ遺跡他 1995」
仲組遺跡	平成5年	橋本 晃二	縄文時代早期、中期土器	「仲組Ⅱ遺跡他 1995」
加村遺跡	平成6年	工藤 剛司	縄文時代中期土坑跡、中世銭貨	「加村遺跡他 1995」

3. 調査内容

3-1 基本層序

調査区は、山麓の小段丘と緩斜面である。段丘部と緩斜面は沢で隔てられている。段丘部をA区、緩斜面をB～D区とした。緩斜面は、現状で水田が造成され、平坦面をなしていた。そこから一段下がって畑地などに利用されていた区域をE、F、G区とした。A区～G区は、A1～A5などのように適宜に小区に分けて調査を行った。

A区からは炉跡、柱跡、遺物包含層が出土し、住居跡、土坑跡はB～D区から集中して出土している。

A区 (第5図)

A5区は、現状は平坦面をなしていたが、表層は人為的な堆積層で覆われており、削平、盛土によって整地された可能性がある。中央のA4区は谷にあたり、厚い堆積層に覆われていたが、水が湧き出し地山面まで掘下げることができなかった。

A1～A3区 (第5図)

1層は褐色土を含む固めの暗褐色土層である。D区の谷にむかって厚く堆積する。2層は固い黒褐色土層である。A区に厚く堆積する。1、2層は人為的な堆積層と思われる。3層は固く、やや粘性のある黒褐色土である。旧表土層である。4層は固く、粘性のある黒色土層である。5層は固く、粘性のない褐色土である。地山への漸移層である。

A4、5区 (第6、7図)

1層は粘性のないにぶい黄褐土である。盛土層である。2層は固めの暗褐色土層である。A1～A3区の1層に対応する。3層は灰黄褐土を含む黒褐色土である。旧表土層である。4層は固めで、あまり粘性のない黒褐色土である。5層はにぶい黄褐土を含む黒褐色土である。6層は固めで粘性のある黒色土である。7層は固く粘性のある黒褐色土である。8層は黒褐、灰黄褐土を含む固いにぶい黄褐土である。9層は黄褐土を含む固めの褐色土である。10層は黄褐土を含む固めの暗褐色土層である。11層は黄褐土を含む褐色土層である。12層は固く粘性のある黒色土層である。13層は固く粘性のない明黄褐土である。地山への漸移層である。

B～G区の緩斜面は、盛土による水田造成のため、段差を設けて整地されている。またB区とC区の間で、旧表土層が盛土層によって寸断されており、B区とC、D区を分けて記述する。

B区 (第8図)

B区はB2区が頂点となって、B1区は北の沢にむかってやや急傾斜していき、B3、B4区は南向きの緩斜面を形成する。B3区から住居跡が3棟出土し、B2区から火山灰層を検出している。

1層は軟質の黒褐土である。2層は黄褐土を含む軟質の黒～黒褐土である。3層は火山灰を含む黒褐土層である。火山灰層は、層状の淡黄色土とにぶい黄褐土で構成されるが、一部層が逆転しているところが観察された。4層は固めで粘性のある黒褐色土である。5層は砂ブロックを含む黒褐色土層である。6層は明黄褐土を含む軟質の黒褐土層である。7層は明黄褐土を多く含む固く、粘性のない暗褐土層である。地山への漸移層である。N層は平坦面の造成のため盛られた砂礫土層である。

2層は、出土遺物からみて後述するC、D区の6層に対応するものと思われる。

C、D区（第9～11図）

1、2層は水田の構築土、3層は礫が混じる盛土層である。4～6層が旧表土層で、5層からは弥生、縄文土器が多く出土した。7～10層はD区の南を横断する谷の堆積層である。大量の縄文土器を含む包含層である。11層は礫層である。少量の遺物を含む。12～15層はいずれも砂質の水成堆積層であり、火山灰を含む。16、17はD-7号住居跡の埋土層である。後述するD、F層にあたる（第86図）。

1～3層は固くしまった層である。礫層は上層は礫が細かく、下層では大きくなる。

4層はやや軟質の暗褐色土層である。D区に堆積する。5層はやや軟質の黒褐色土である。C、D区に堆積し、遺物を含む。6層は黒色土を含む軟質の黒褐色土である。C、D区に堆積し、多くの遺物を含む。

7層は固めで粘性のない暗褐色土層である。旧表土層と思われる。8層は軟質で、あまり粘性のない暗褐色土層である。焼土、炭を含む。9層は軟質で、ややしまりのある暗褐色土層である。炭が混じる。10層は軟質で、粘性のない褐色土である。7～9層は大木6式を主体とした大量の土器を含む。

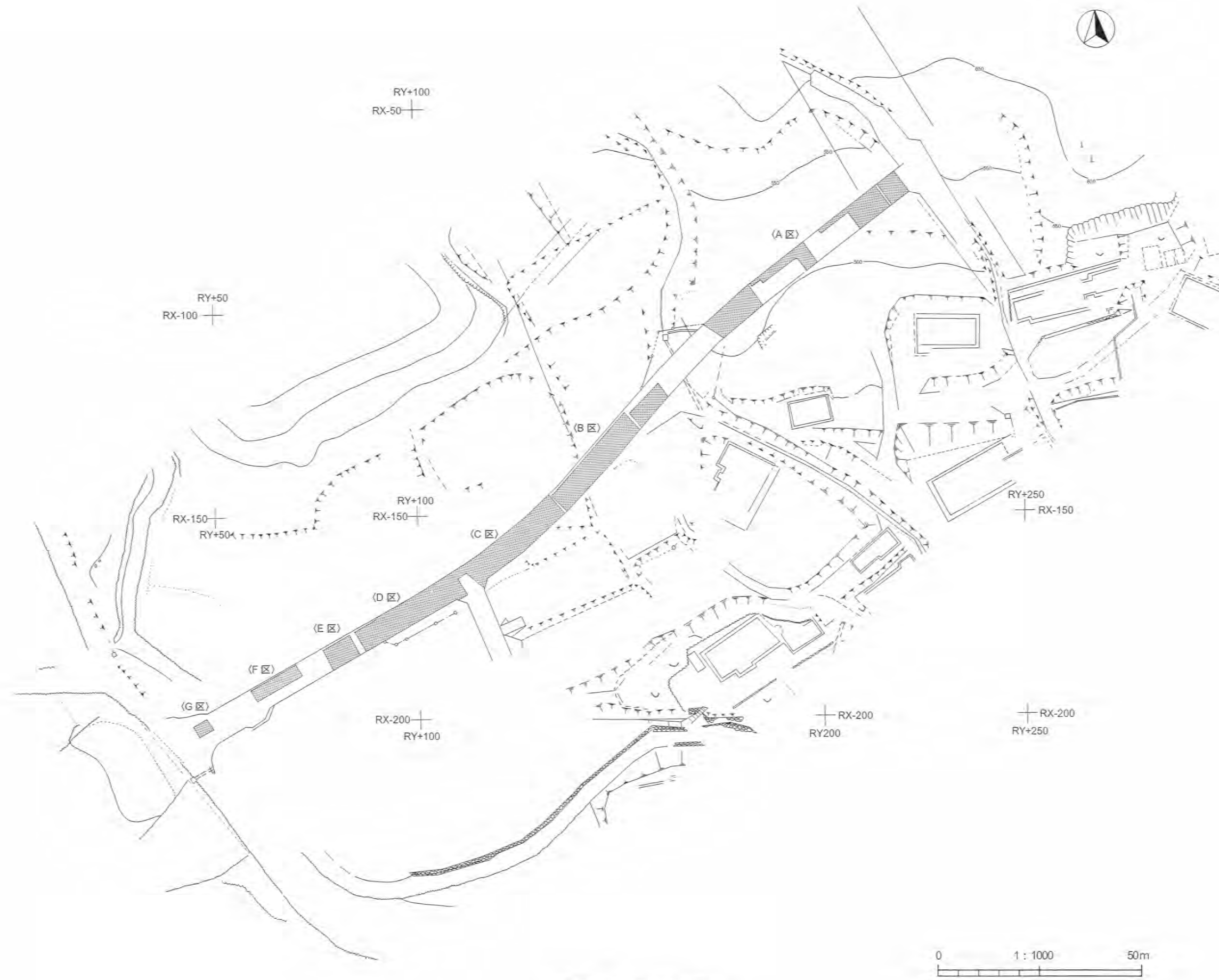
11層は黒色土を含むやや軟質の暗褐色土層である。12層は純礫層である。13層は、固めで粘性のない褐色土である。粗い砂層である。14層は、固めで粘性のある黒褐色土層である。15層は固めで、粘性のあるにぶい黄褐色土である。

16層は固く、粘性のない暗褐色土である。炭が混じる。17層は炭、焼土の混じる黒褐色土である。

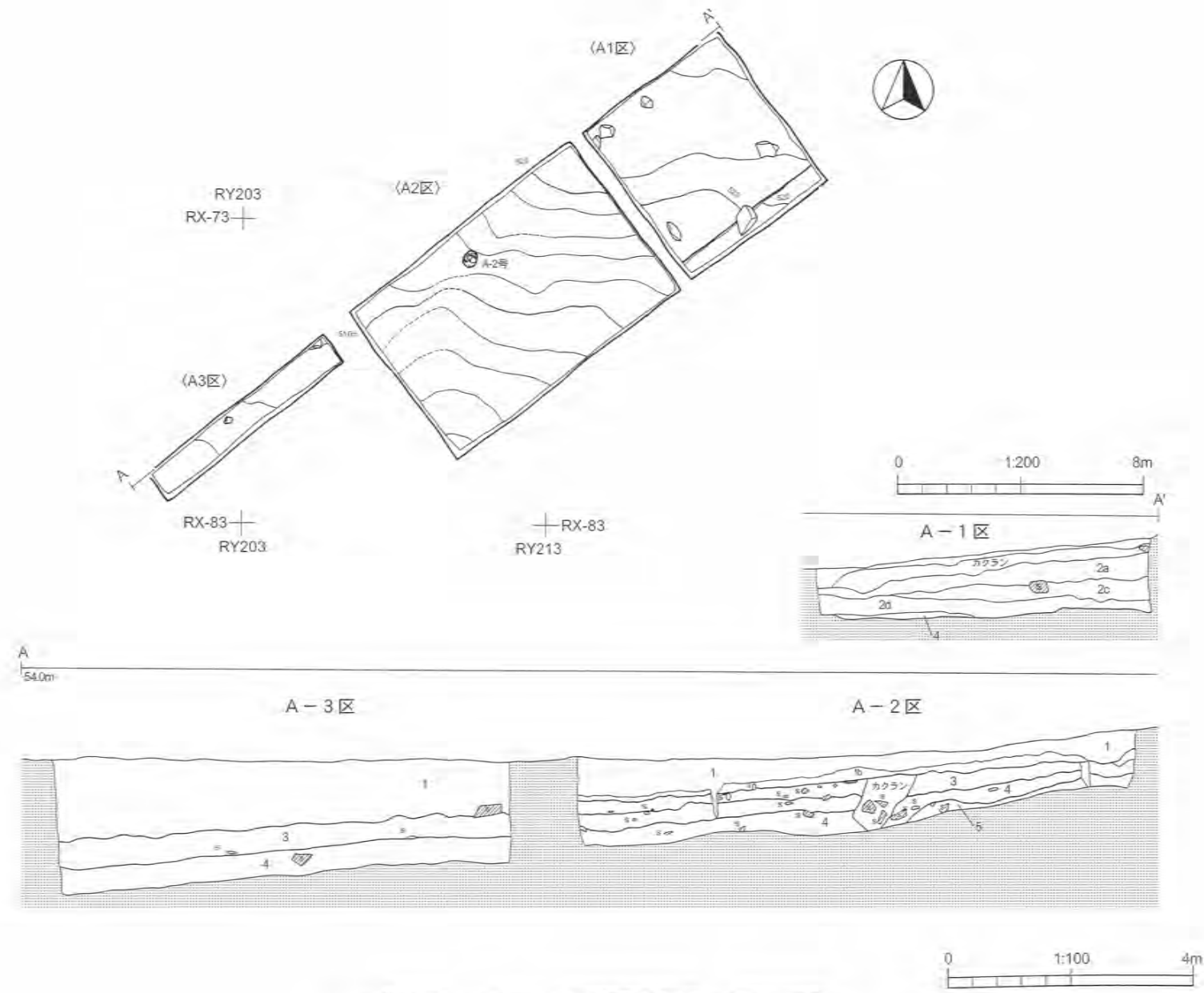
E～G区（第12図）

10層が観察されている。1、2層は水田の構築土である。3層は固く、粘性のない暗褐色土である。4層は固く、粘性のない黒褐色土である。5層は固く、やや粘性のある褐色土である。6層は軟質で粘性のない黒褐色土である。7層は軟質の黒色土である。8層は真砂土の盛土層である。9層は大礫を多く含む黒色土層である。10層は礫を含む黒色土層である。

G区では6層下面から土坑跡が出土している。



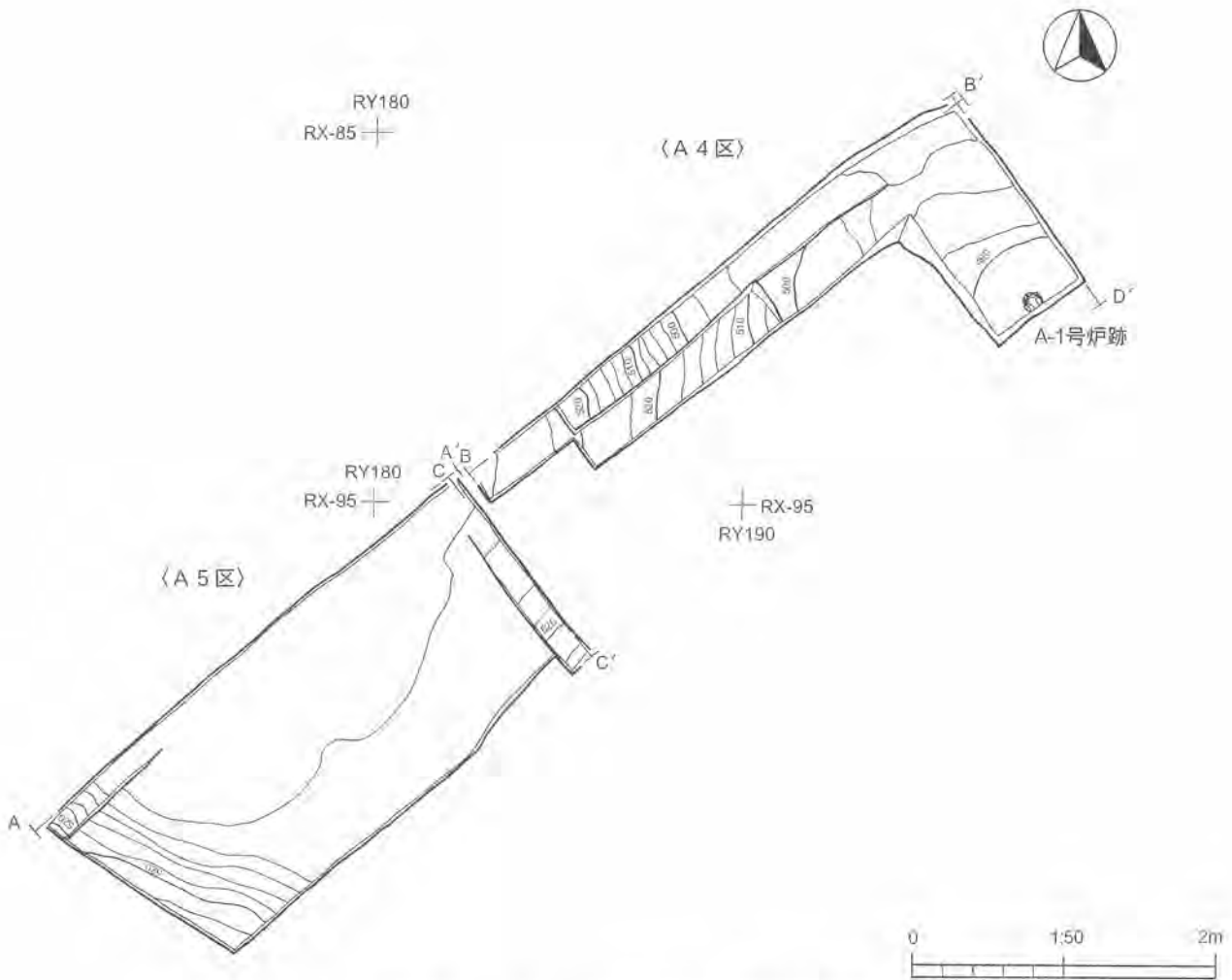
第4図 調査区配置図



第5図 A1～A3区遺構配置図・土層断面図

<A1区～A3区土層観察表>

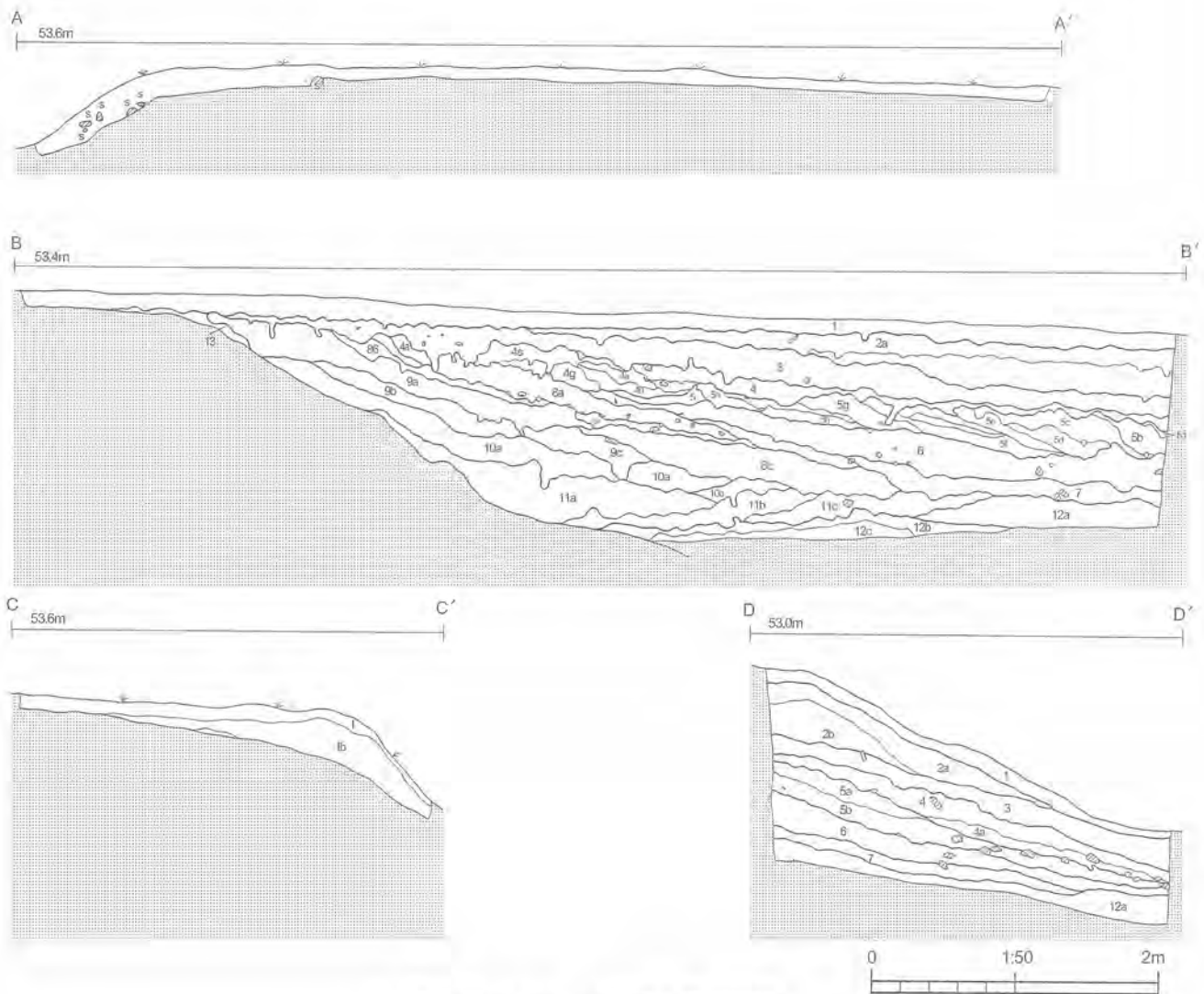
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
1	10YR3/4 暗褐 砂壤土	10YR4/4 褐 砂壤土 15%	中～固、中。
1 b	10YR3/3 暗褐 砂壤土	10YR2/3 黒褐 砂壤土 10%	中、疎。
2 a	10YR2/3 黒褐 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	中～固、中。
2 b	10YR3/3 暗褐 砂壤土	10YR2/3 黒褐 砂壤土 10%	固、中。
2 c	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR2/3 黒褐 砂壤土 10%	中～固、中。
2 d	10YR2/3 黒褐 砂壤土	10YR3/3 暗褐 砂壤土 10%	中～固、中。
3	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR2/3 黒褐 砂壤土 10%	固、中。
4	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR3/3 暗褐 砂壤土 10%	固、中～密。
5	10YR4/4 褐 壤質砂土	10YR2/3 黒褐 砂壤土 10%	固、疎。



第6図 A4、A5区調査区、遺構配置図

<A4、A5区土層観察表>

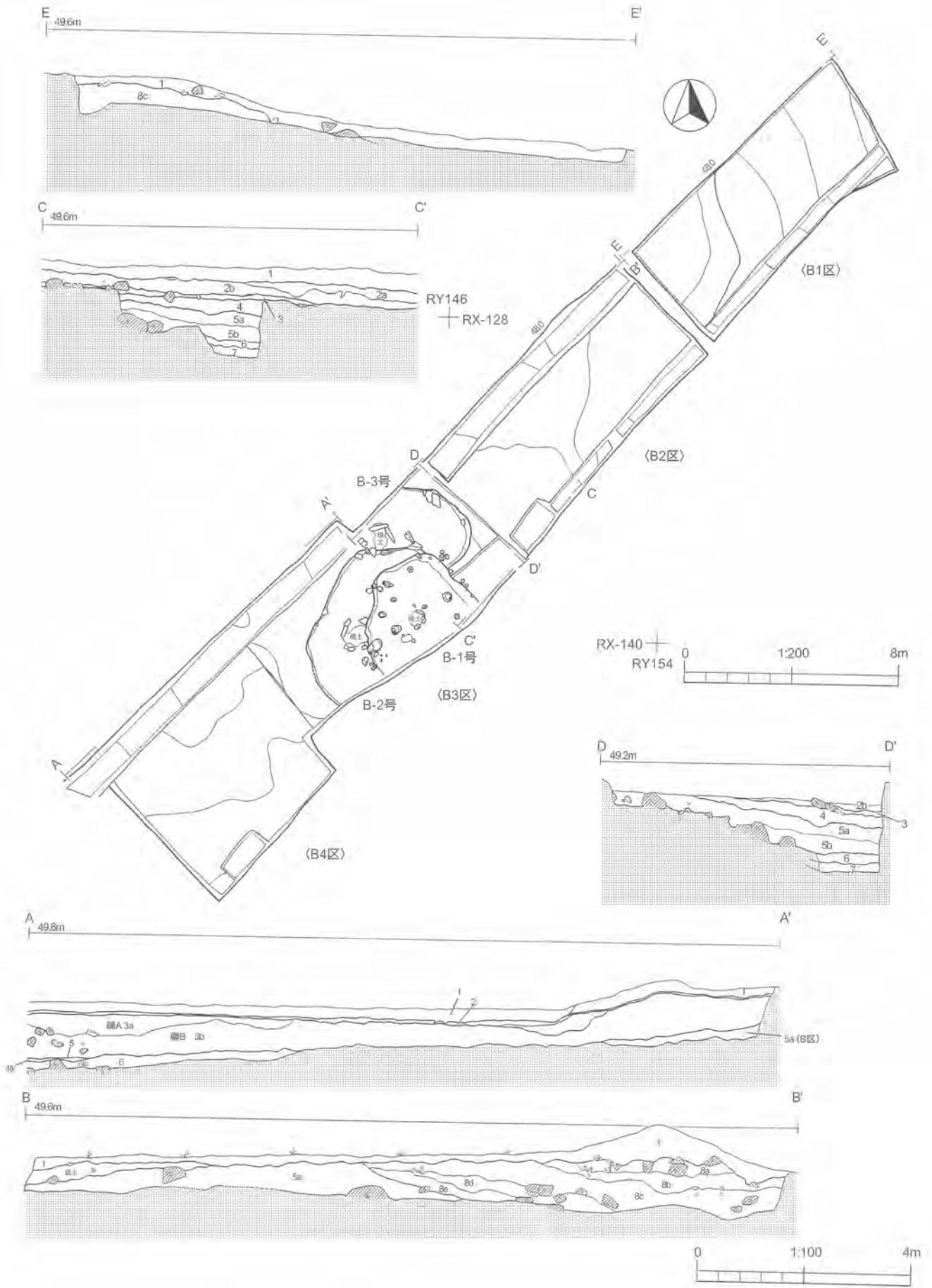
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
1	10YR5/4 にぶい黄褐 壤質砂土	10YR6/4 にぶい黄橙 壤質砂土 30%	中、疎 表土
2 a	10YR3/4 暗褐 壤質砂土	10YR4/4 褐 壤質砂土 10%	中～固、疎。ビニール混入
2 b	10YR3/3 暗褐 壤質砂土	10YR4/3 にぶい黄褐 壤質砂土 20%	中、中。
3	10YR3/2 黒褐 壤質砂土	10YR4/2 灰黄褐 壤質砂土 20%	中、中～疎。炭粒混入
4	10YR2/2 黒褐 壤質砂土	10YR4/4 褐 壤質砂土 20%	中～固、中～疎。焼土、炭を含む
4 a	10YR1.7/1 黒 砂質埴壤土	10YR2/1 黒 砂質埴壤土 15%	固、中～密。炭を多く含む
4 f	10YR2/3 黒褐 砂質埴壤土	10YR3/3 暗褐 壤土 7%	固、中～疎。
4 g	10YR3/2 黒褐 砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐 壤質砂土 10%	
4 h	10YR3/2 黒褐 壤質砂土	10YR3/3 暗褐 壤土 25%	固、中～疎
5 h	10YR3/2 黒褐 壤質砂土	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土 15%	中～疎、疎
5 i	10YR2/3 黒褐 シルト質壤土	10YR3/2 黒褐 シルト質壤土 1%	固、中～疎。炭粒混入
5 j	10YR3/2 黒褐 壤土	10YR2/1 黒 シルト質壤土 2%	固、中～疎。
5 e	10YR2/3 黒褐 砂壤土	10YR3/2 黒褐 シルト質壤土 15%	中～固、中～疎。炭粒混入
5 g	10YR2/2 黒褐 砂壤土		固、中～疎。
5 f	10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質壤土	10YR2/1 黒 砂壤土	固、中。炭粒混入
5 c	10YR4/3 にぶい黄褐 砂壤土	10YR3/2 黒褐 壤土 20%	中、中～疎。



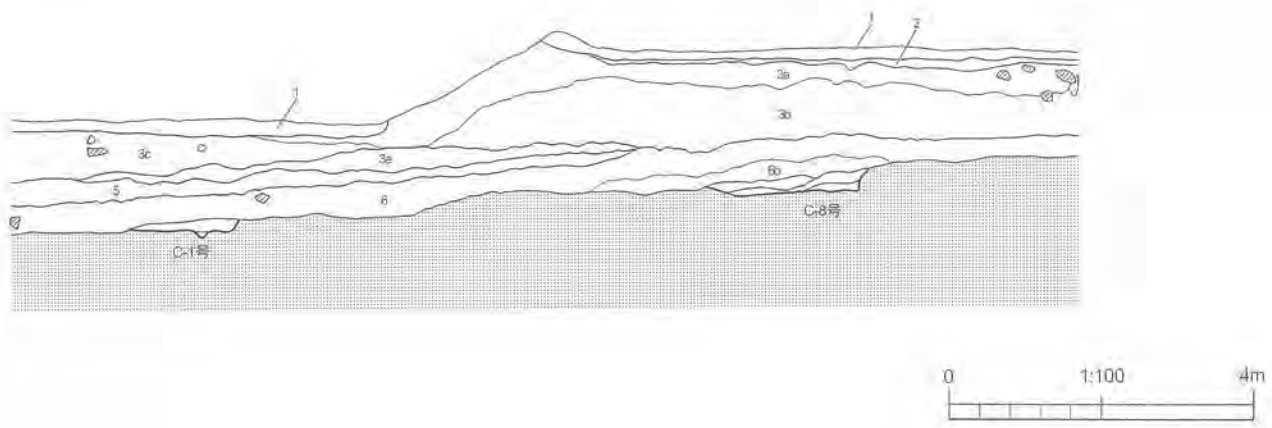
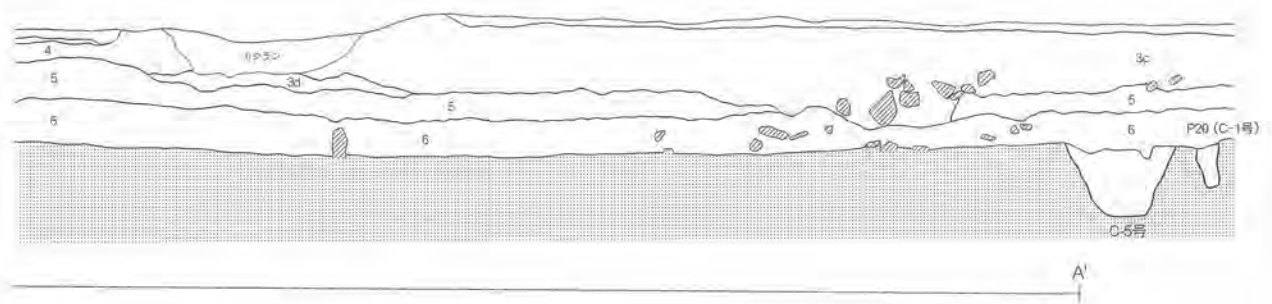
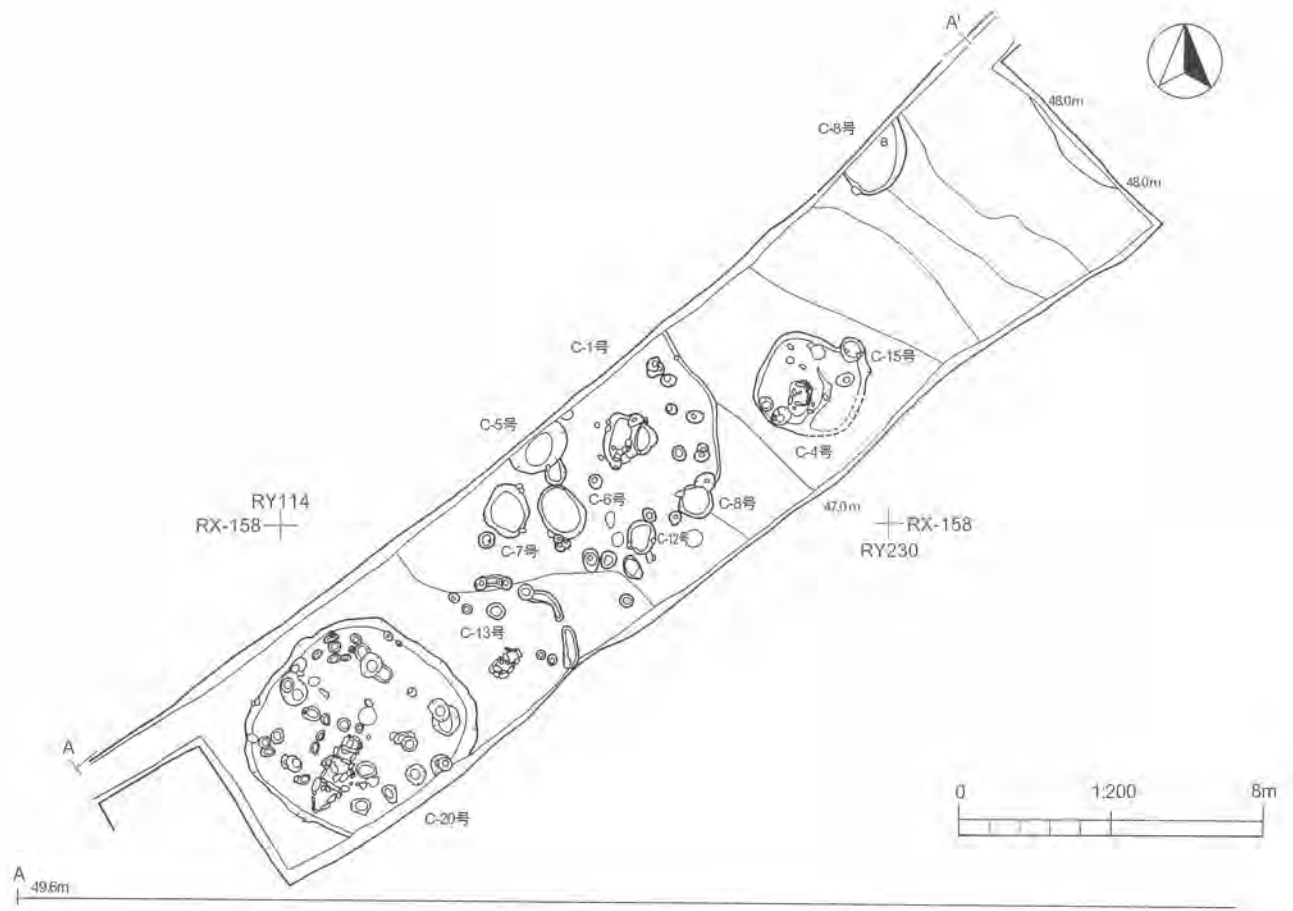
第7図 A4、A5区土層断面図

<A4、A5区土層観察表(続き)>

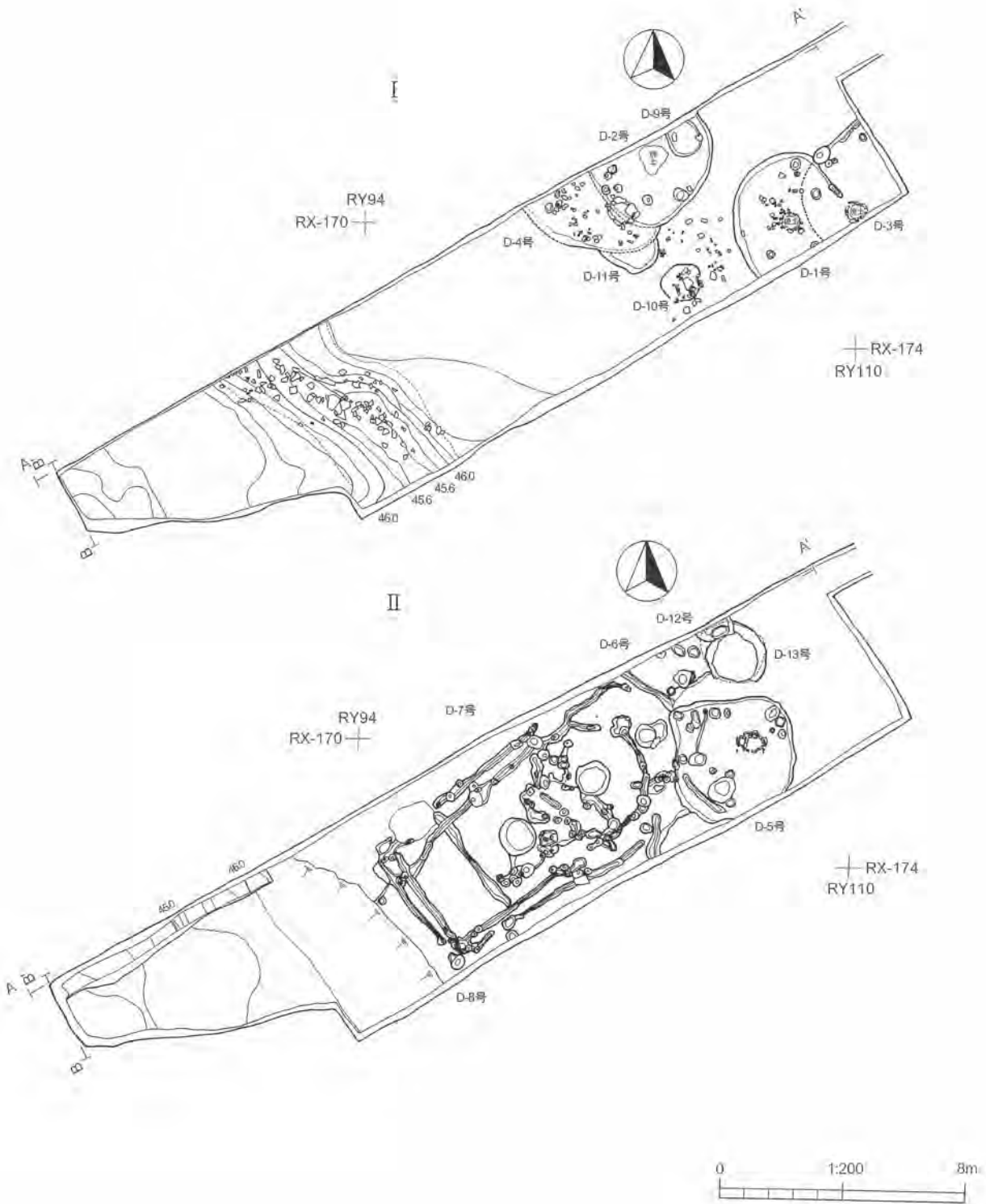
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
5 d	10YR3/2 黒褐 砂壤土	10YR2/3 黒褐 砂壤土 7%	固、中～疎。
5 a	10YR3/2 黒褐 砂壤土	10YR4/2 灰黄褐 壤土 5%	中、中。
5 b	10YR3/3 暗褐 砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐 砂土 40%	固、中～疎。
6	10YR2/1 黒 砂質埴壤土	10YR3/2 黒褐 砂壤土 3%	固、中～密。
7	10YR2/2 黒褐 重埴土		固、密。
8 b	10YR4/2 灰黄褐 砂質埴壤土	10YR3/2 黒褐 砂質埴壤土 5%	固、中。
8 a	10YR4/3 にぶい黄褐 砂質埴壤土	10YR3/2 黒褐 砂壤土 10%	固、中～疎。
8 c	10YR4/3 にぶい黄褐 砂壤土	10YR4/2 灰黄褐 砂質埴壤土 30%	固、中。
9 a	10YR3/3 暗褐 壤土	10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質埴壤土	固、中。
9 b	10YR4/4 褐 壤質砂土	10YR5/6 黄褐 砂壤土 2%	固、中。
9 c	10YR4/4 褐 壤質砂土	10R5/4 にぶい黄褐 砂質埴壤土 10%	固、中。
10 a	10YR3/3 暗褐 軽埴土	10YR5/6 黄褐 砂壤土 15%	固、中。
10 b	10YR3/4 暗褐 砂質埴壤土	10YR4/4 褐 砂質埴壤土 10%	固、中～疎。
11 a	10YR4/4 褐 砂質埴壤土	10YR2/3 黒褐 重埴土 7% 10YR5/8 黄褐 砂質埴壤土 40%	中、中～固。



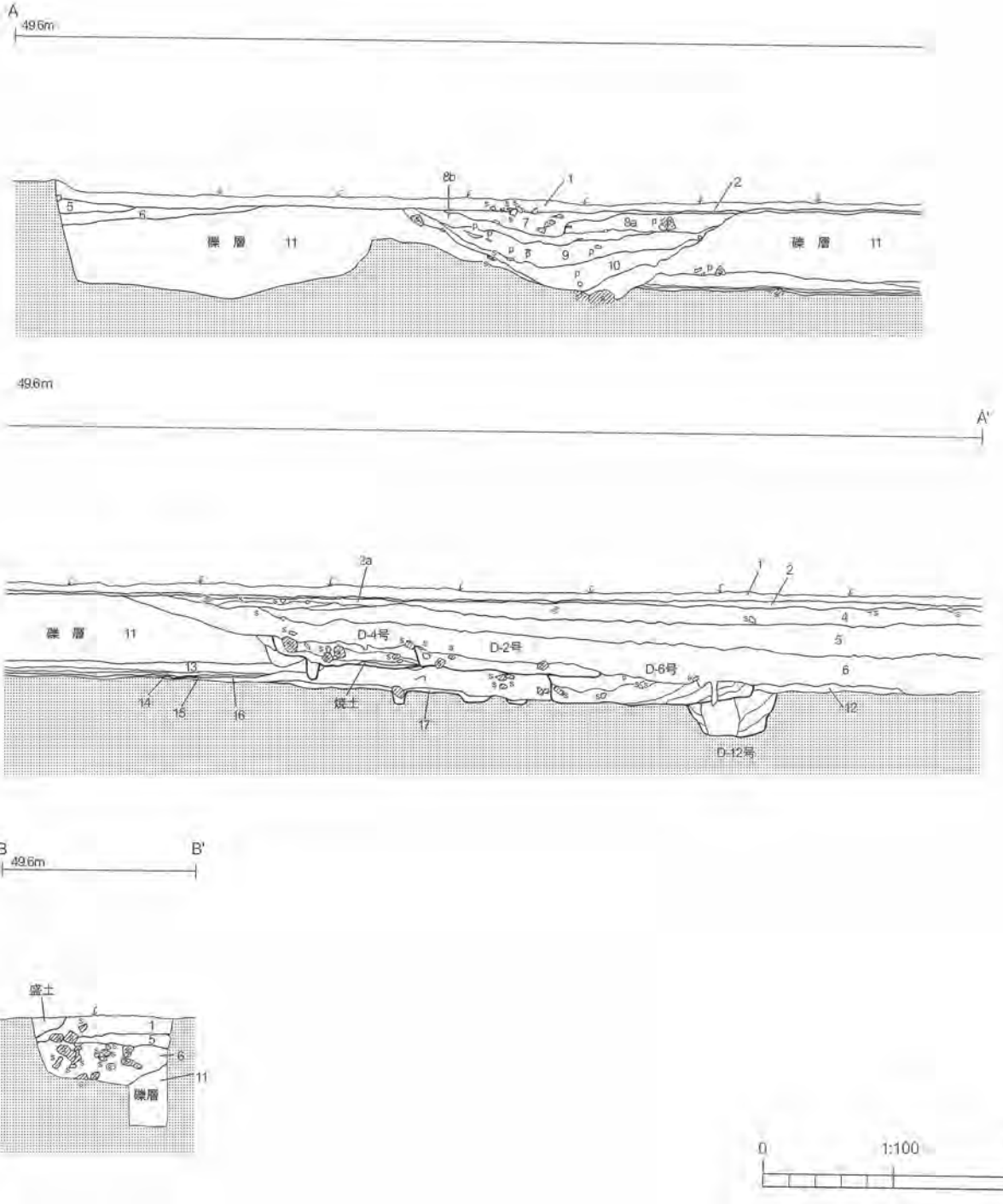
第8図 B区遺構配置図・土層断面図



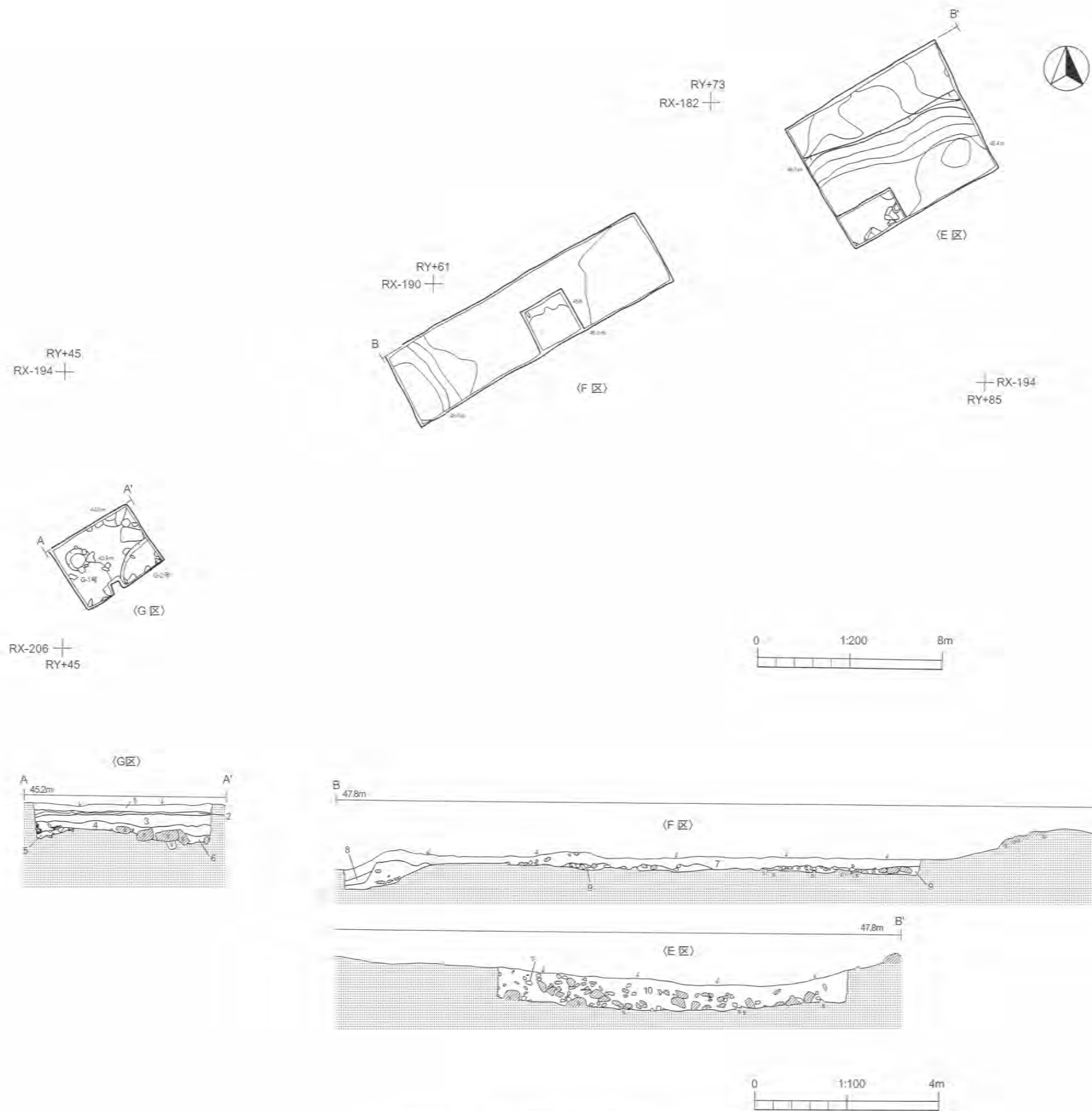
第9図 C区遺構配置図・土層断面図



第10図 D区遺構配置図 I、II



第11图 D区土层断面图



第12図 E、F、G区調査区配置図・土層断面図

< B区土層観察表 >

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
1	10YR2/3 黒褐 砂壤土	10YR2/1 黒 砂壤土 3%	軟、疎。
2 a	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/3 黒褐 砂壤土 10YR5/6 黄褐 砂土 2%	軟、疎。
2 b	10YR2/2 黒褐 壤土	10YR2/1 黒 壤土 5%	やや軟質、疎。
3	10YR2/3 黒褐 壤土	10YR2/3 黒褐 壤土	火山灰を30%含む
火山灰A	2.5Y8/4 淡黄 シルト質壤土		中、密。
火山灰B	10YR5/3 にぶい黄褐 シルト質壤土		中、密。
4	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR3/3 暗褐 砂壤土 2%	やや固、密。
5 a	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR3/4 暗褐 砂壤土 3% 10YR4/6 褐 砂壤土 2%	部分的に砂ブロック含む
5 b	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR4/6 褐 砂土 10%	砂ブロック含む
6	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR4/6 褐 砂土 1%	軟、密。
7	10YR3/4 暗褐 砂壤土	10YR6/8 明黄褐 砂土 30%	やや固、疎。地山漸移層

< C、D区土層観察表 >

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR2/2 砂壤土10%	固、疎。
2	10YR6/6 砂壤土 明黄褐		固、密。水田床土上層
2 a	10YR2/2 シルト質壤土 黒褐	10YR2/3 シルト質壤土15%	固、密。白粒多
2 b	7.5YR4/6 砂壤土 褐		固、密。水田床土下層
2 b	10YR2/3 シルト質壤土 黒褐	10YR3/2 シルト質壤土10%	固、密。白粒多
2 C	10YR2/2 シルト質壤土 黒褐	10YR2/3 シルト質壤土15%	固、密。
3 a 礫層	7.5YR3/4 砂土 暗褐	7.5YR4/6 砂土15%	固、密。水田床土酸化層。
3 b 礫層	10YR2/3 砂土 黒褐	10YR4/6 砂土20%	固、疎。礫層
3 c 礫層	10YR4/4 砂土 褐	10YR5/6 砂壤土10%	固、疎。多くの大礫。
3 d	10YR4/3 砂壤土 にぶい黄褐	10YR3/4 砂壤土20%	固、疎。
3 e	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR3/4 砂壤土15%	固、疎。
4	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR2/2 砂壤土10%	軟、中
5	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/3 砂壤土10%	中、疎
6	10YR2/2 砂壤土 黒褐	10YR2/1 砂壤土15%	軟、疎。旧表土
7	10YR3/3 シルト質壤土 暗褐	10YR2/3 壤土3%	やや軟質。少量の炭。
8 a	10YR3/3 シルト質壤土 暗褐	10YR2/3 壤土1% 7.5YR4/6 壤土1%	やや軟、やや疎。焼土、炭混じり。多量の土器。
8 b	10YR3/4 シルト質壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土5% 5YR5/8 シルト質壤土3%	軟、やや疎。焼土、炭混じり。多量の土器。
9	10YR3/4 シルト質壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土7% 10YR2/3 埴壤土5%	軟、中。焼土、炭混じり。下層に礫。
10	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR3/4 砂壤土15% 10YR2/3 砂壤土10%	少量の粘土塊、炭。
12	10YR4/6 シルト質壤土 褐	10YR4/3 砂壤土15%	固め、疎。粗い砂層。
13	10YR2/2 シルト質埴壤土 黒褐	10YR5/6 シルト質壤土3%	固め、密。砂層。
14	10YR4/3 シルト質埴壤土 にぶい黄褐	10YR4/4 シルト質壤土5%	密。粘性のある砂層。
15	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土5%	固め、疎。少量の炭。
16	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR2/2 砂壤土10%	少量の炭、焼土。→25号埋土
17	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土10% 10YR5/6 砂壤土5%	固め、やや密。少量の炭。

3-2 検出された遺構と遺物

a. 弥生時代

D-1号竪穴住居跡（第13図）

〈検出状況〉 D区の北部に位置する。検出面はD区6層下面である。切り合い関係は、D-3号住居跡を切っている。

〈形状・規模〉 平面形は円形である。規模は径4m前後と推定される。壁高は南側で0.3mである。床面は平坦で、ほぼ水平である。貼床は断面で確認されたが、平面的範囲は確認できなかった。

周溝は南と北で検出している。周溝は最大幅10cm、深さは最深部で7cm程である。

〈埋土〉 1層である。一部に暗赤褐色土の混じるややしまりのある黒褐色土である。多数の土器片が出土している。

〈柱穴〉 床面で6基の土坑が確認された。いずれも平面形は円形である。P1、P2～P5では柱痕が確認されている。それらが支柱穴にあたるものと思われる。

(cm)

PIT	P1	P2	P3	P4	P5	P6
径	26	38	17	35	44	26
深	30	18	7	29	42	48

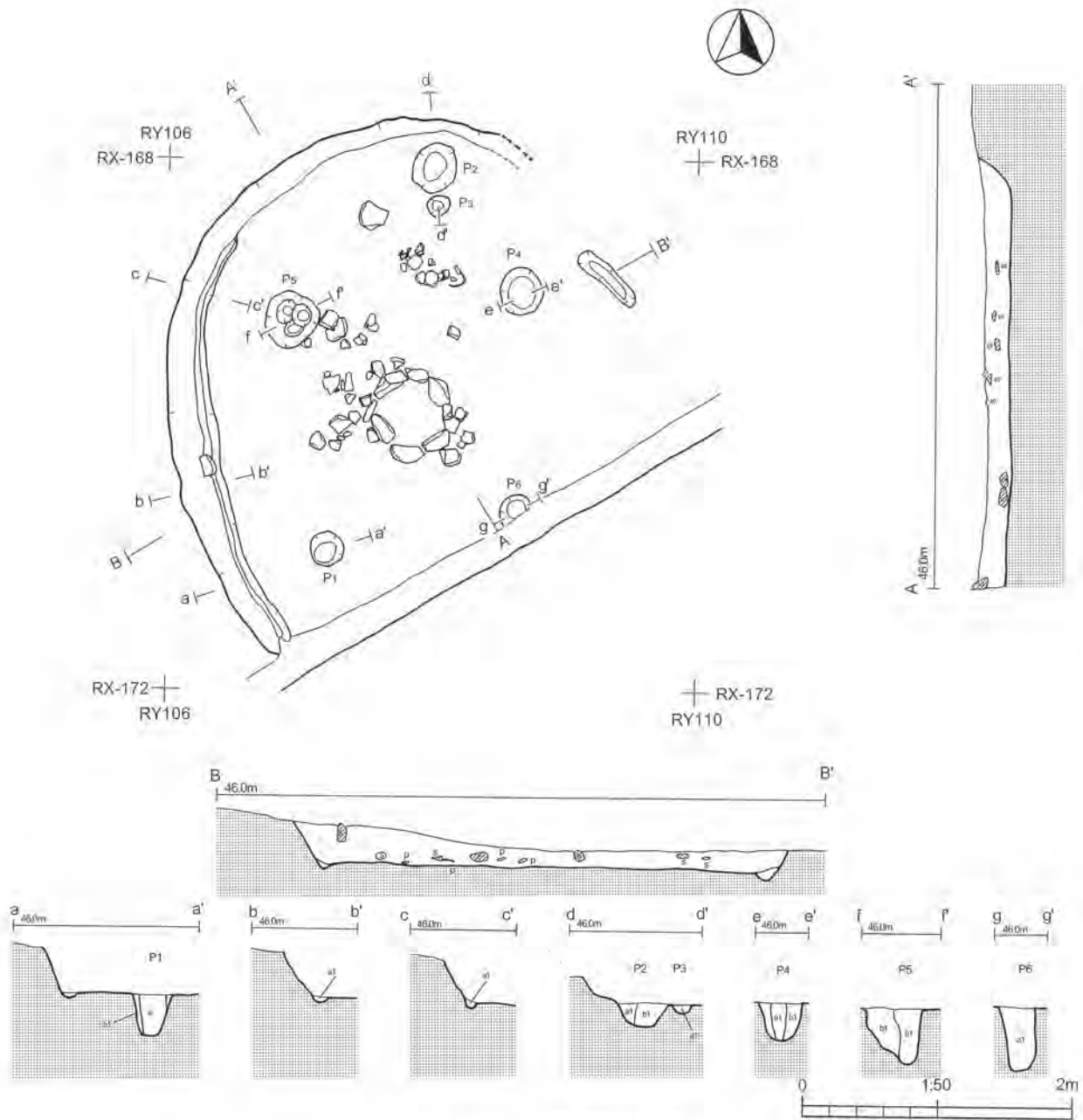
〈炉跡〉（第14図）住居跡のほぼ中央部から出土している。石を円形に組んだ石囲炉である。円形に掘り窪めて、周辺部に石を据えている。K2層は固く焼きしまった焼土層である。層厚は約5cmである。

出土遺物（第15～18図）

1、2は壺である。1の肩部の張出しは弱い。1、2とも縄文を横走させている。縄文、胎土とも酷似しており、同一個体の可能性がある。3～13は高坏である。3～6の口縁部は内反し、7～10は外反する。4は平縁で、上部は平行沈線のみよる施文で、下位に縄文を配している。8は山形口縁で、口唇部に溝が入る。4をのぞきモチーフは変形工字文であるが、貼瘤は認められない。13は高坏の脚部で、波状の沈線で施文される。14は山形の小突起をもつ鉢の口縁部である。

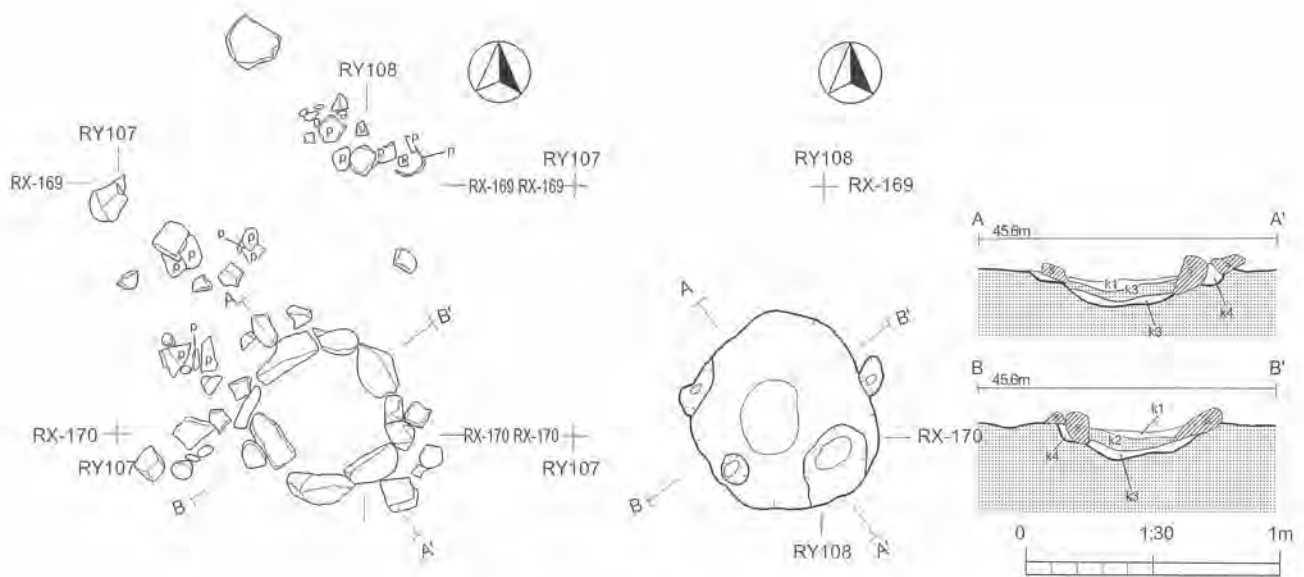
15～25は甕である。口縁部は外反もしくは直立し、肩部はやや強く張出し、口縁部は無文で頸部から下は縄文で施文される。頸部の境界に段、沈線をもつことなどが特徴である。15は口縁部に抉りと溝が交互に入る。21は口縁部に山形の小突起をもち、口唇部に溝が入る。肩部の張出しは弱い。1～25は弥生時代前期に伴う。

26は沈線のなかに交互刺突文を施した口縁部である。27、28は磨消縄文による施文である。29は沈線の下に縄文を横走させている。30は複合口縁で、口縁部は無文である。31は波状口縁の頂部である。波状に太い粘土紐が貼付けられ、その上にボタン状の瘤が付けられている。その下は剥離しているが一部沈線による施文が認められる。32は沈線のなかに円形刺突を施す。33は粘土紐に押圧を加えている。34は細かい縄文を施された底部である。



第13図 D-1号竖穴住居跡

35～45は石器である。35～37は磨製石器である。35、36は石斧である。35は刃部で、刃縁は丸みをもつ。ほぼ全面に調整痕を残す。36は頭部である。全体に丸みをもつ。端部に敲打痕を残しており、敲石として再利用されたものと思われる。37は敲石である。円礫の底面、側面に敲打痕を残す。38、39は石鏃である。38は凹基である。側縁は平たく、正三角形型である。39は凸基である。側縁は平たく、二等辺三角形型である。40は半製品で、石鏃あるいは石錐と思われる。41、42は石匙である。いずれも縦型で、41は両面の周縁部を、42は両面のほぼ全面を加工している。43～45は不定形の石器である。43は末端を尖らせて刃部をつくりだし、44、45は片方の側縁を刃部としている。



第14図 D-1号竪穴住居炉跡

D-1号竪穴住居跡埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR3/4 砂壤土15% 5YR3/6 砂壤土3%	中、疎。NO. 3埋土

<D-1号住居跡柱穴土層観察表>

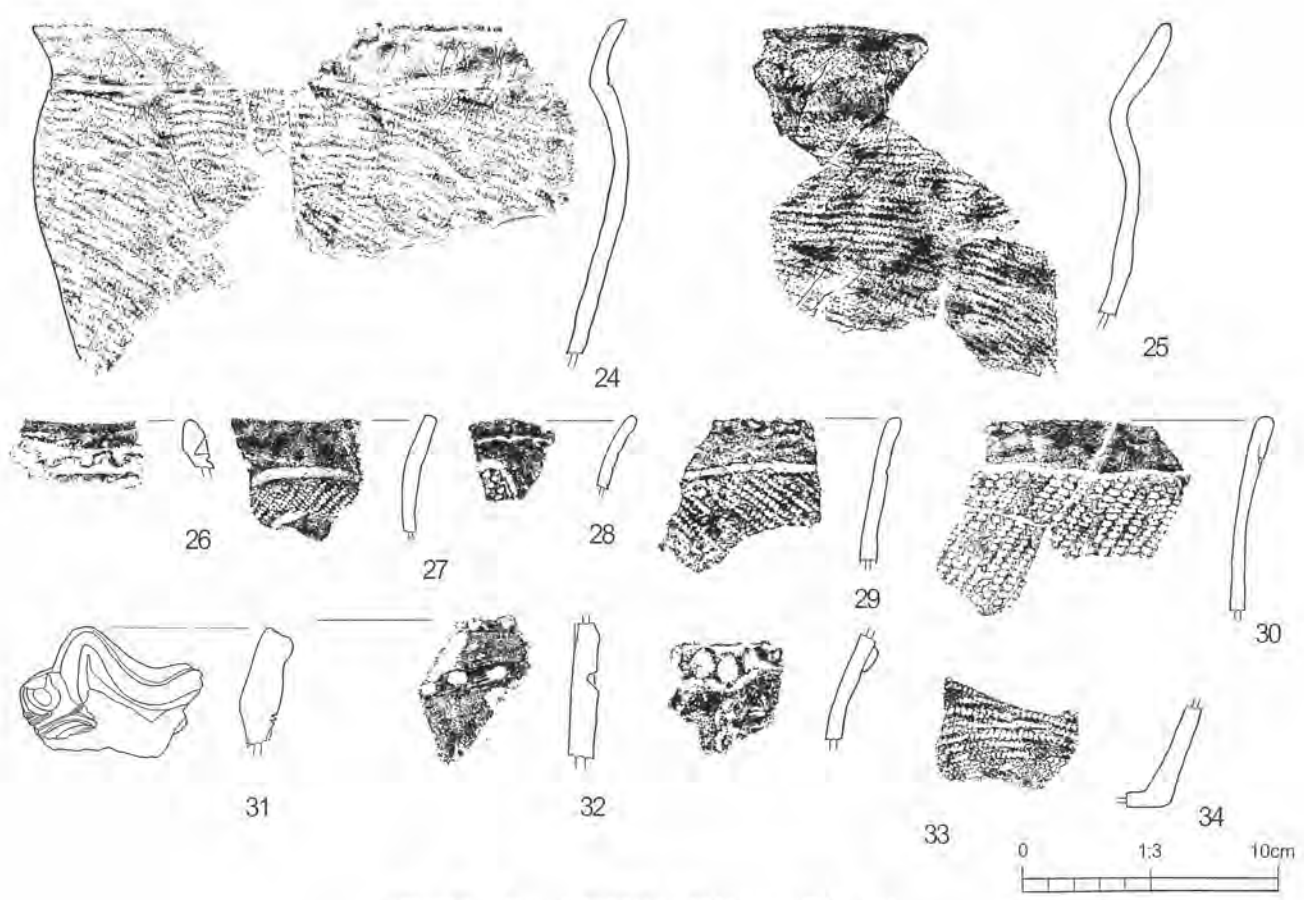
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P 1 a 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中～固、中。
" b 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中～固、中。
P 2 a 1	10YR2/3 黒褐	10YR4/4 砂壤土10%	中～固、中。
" b 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR5/8 埴壤土10%	中～固
P 3 a 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中、中。
P 4 a 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中、中。
" b 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR3/3 砂壤土10%	中、中。
P 5 a 1	10YR2/2 黒褐	10YR2/1 砂壤土5%	軟、やや密。炭多し
" b 1	10YR2/3 砂壤土	10YR2/2 砂壤土10% 10YR4/6 砂壤土5%	中～固、中。
周溝 a 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR2/2 砂壤土10%	中～軟、疎。炭粒少。

<D-1号竪穴住居炉跡土層観察表>

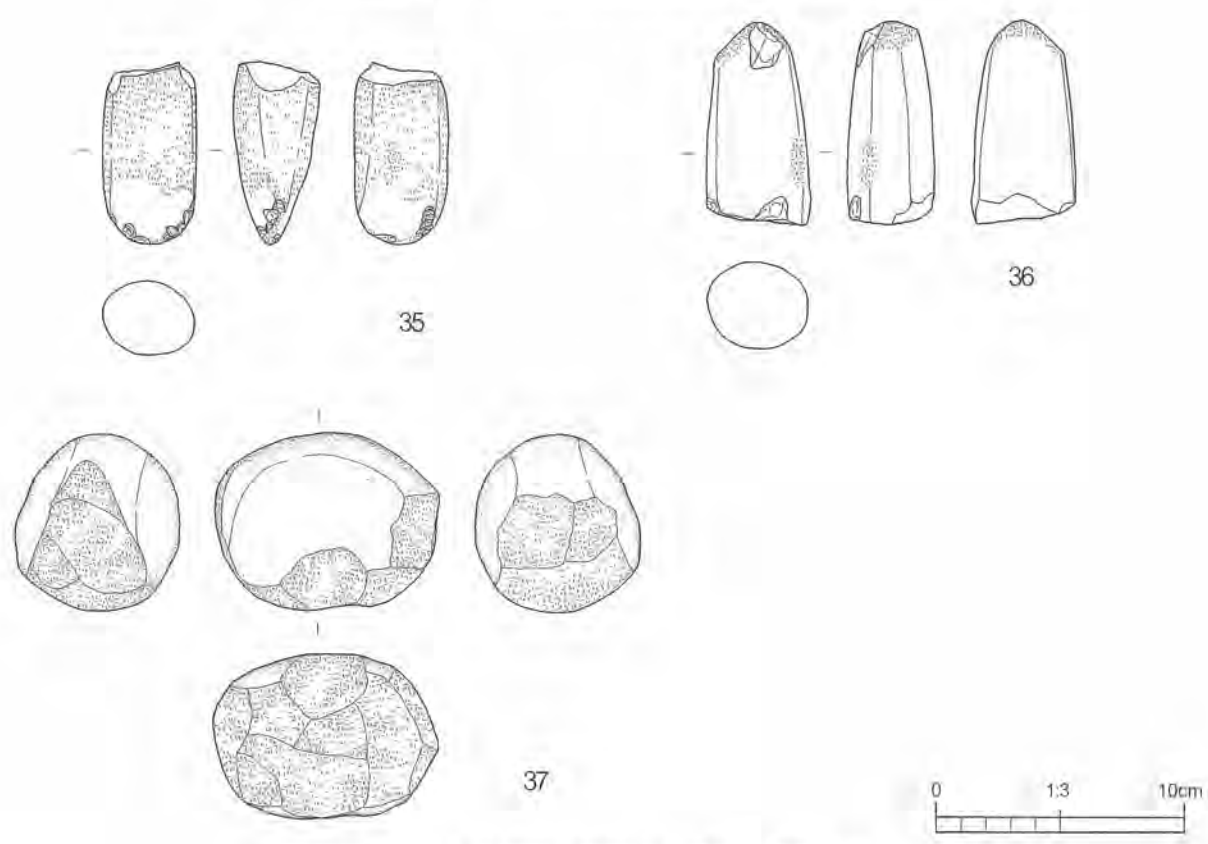
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
k 1	10YR2/1 黒砂壤土	7.5YR3/4 砂壤土10% 10YR4/4 砂壤土5%	軟、やや密。
k 2	5YR4/6 赤褐砂壤土	5YR4/8 砂壤土10%	固、密。
k 3	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR3/4 砂壤土10% 7.5YR4/4 砂壤土5%	中、密。
k 4	7.5YR3/4 暗褐砂壤土	10YR3/4 砂壤土15%	中～固、やや密。



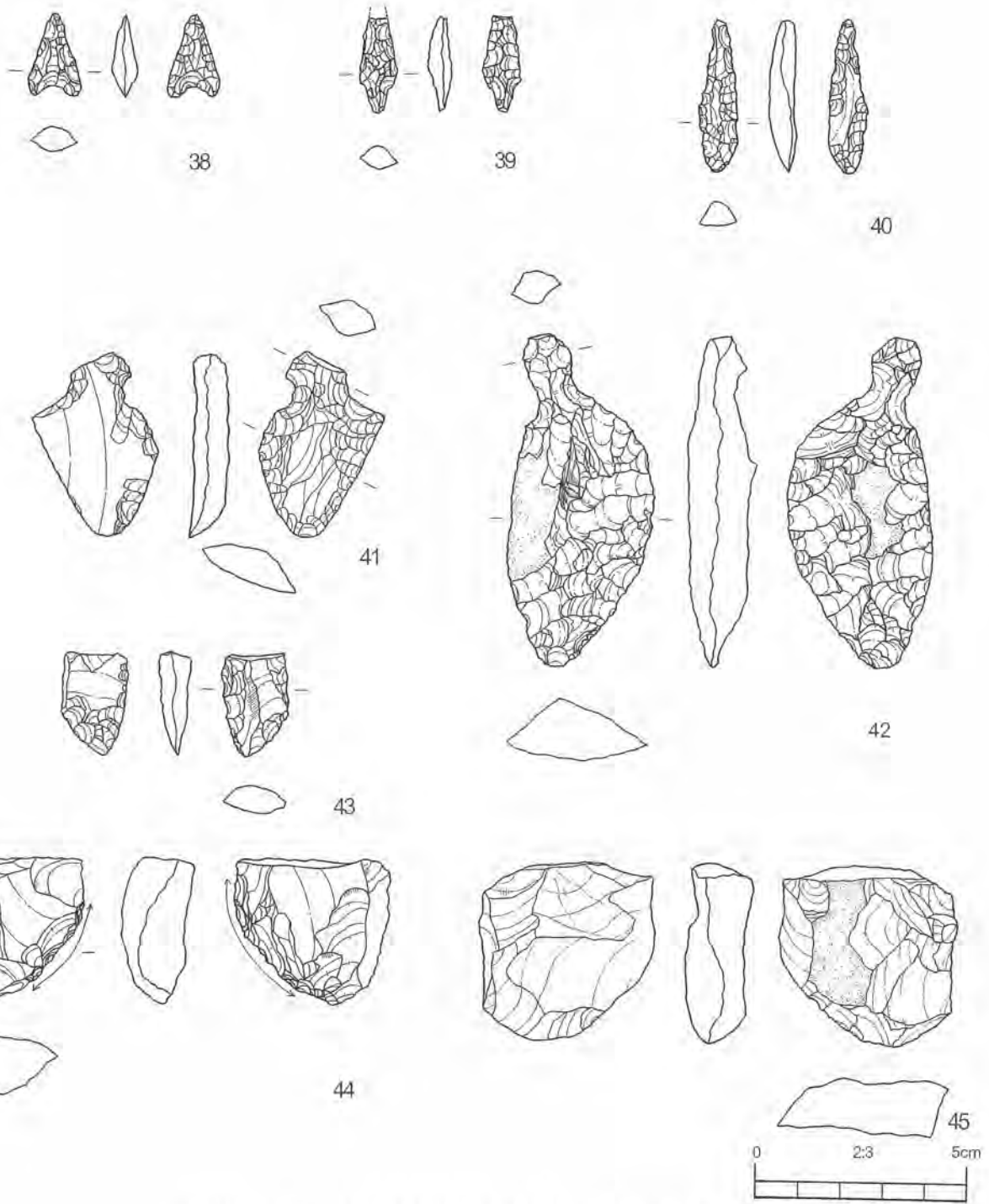
第15图 D-1号竖穴住居跡出土遺物(1)



第16图 D-1号竖穴住居跡出土遺物(2)



第17图 D-1号竖穴住居跡出土遺物・石器(3)



第18图 D-1号竖穴住居跡出土遺物・石器(4)

D-2号竪穴住居跡 (第19図)

<検出状況> D区中央部、西側に位置する。検出面は12層上面である。切り合い関係は、D-4号住居跡、D-9号土坑跡を切っている。住居跡東側半分の検出である。

<形状・規模> 平面形は南北にやや長い不整な円形と推定する。規模は南北4.1m、壁高は南側で、20cmである。床面は平坦で、北にむかって傾斜する。周溝は検出していない。

<埋土> 1層である。わずかに褐色土の混じるややしまった黒色土層である。

<柱穴> 南側の壁の周辺で7基の土坑を検出した。いずれも平面形は円形の浅い土坑で、もっとも深いもので20cmである。柱痕を確認できたのはP2だけである。

(cm)

PIT	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
径	24	30×25	15	25	35	33	47
深	7	13	6	8	8	20	14

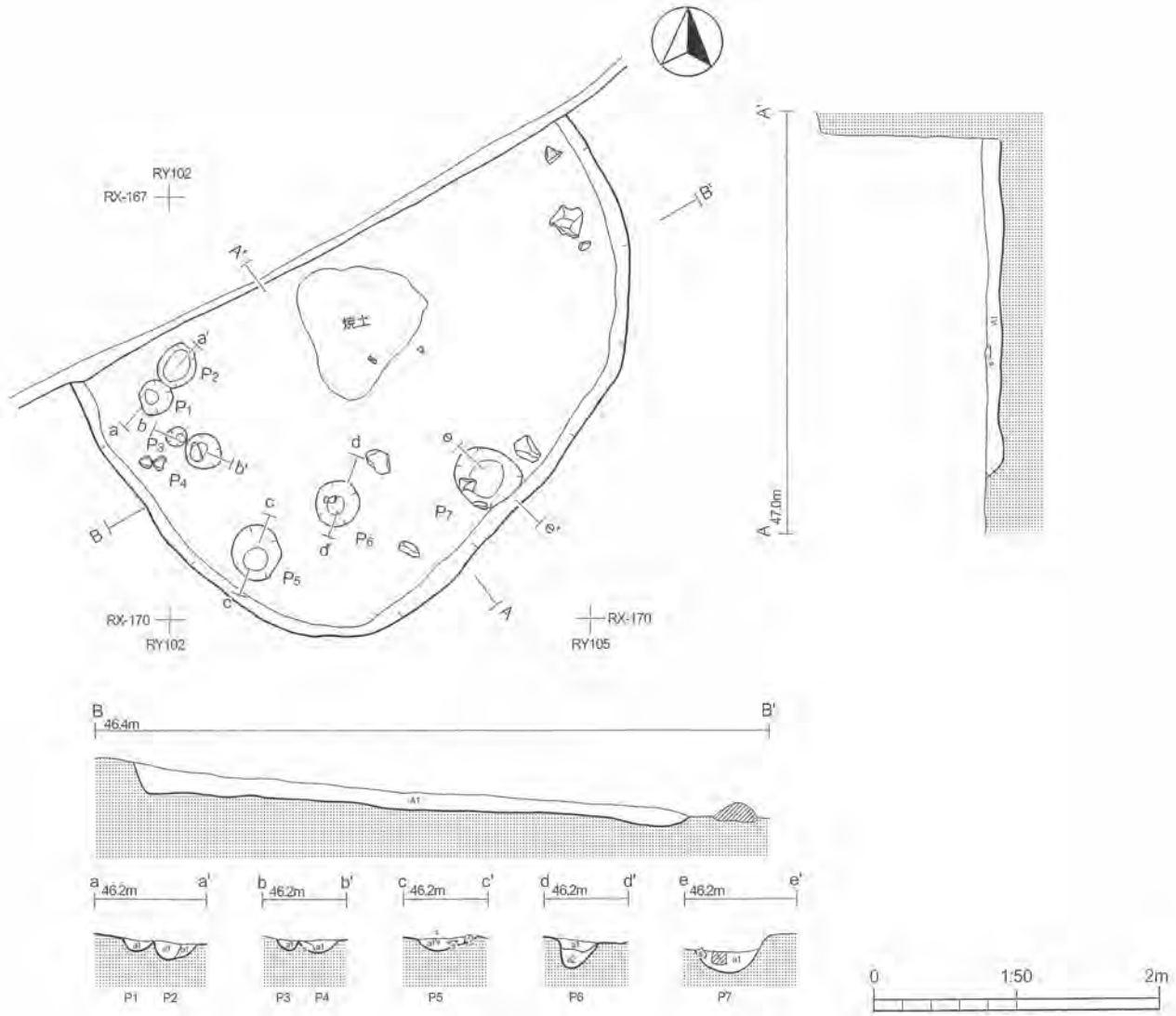
<炉跡> (第20図) 床面の中央部の焼土が炉跡とであることが確認された。炉石はなく埋設跡のみを残している。円形に掘り窪め、周辺部に炉石を埋設したものと推定される。規模は径約80cm、最深部で15cmである。K2層は固く焼きしまった焼土層である。層厚は約5cmである。

出土遺物 (第21~22図)

1~4は壺である。1は体部に縄文を施し、頸部に沈線をめぐらせる。2は無文の底部である。ヘラミガキ調整を施され、胎土は金雲母を含む。3、4は口縁部に沈線をめぐらした壺の口縁部である。5~11は高坏の口縁部である。5~7の口縁部は内反もしくは直立し、8~11は外反する。9、10は口縁部に小さな山形突起をもち、10は口唇部に溝を入れる。11は山形口縁の頂部に抉りが入る。5、10、11は変形工字文をモチーフとし、11は貼瘤付きである。12、13は浅鉢である。12は口縁部に沈線をめぐらし、13は中位に沈線下位に縄文を施す。14は鉢か甕の台である。15~24は甕である。15~22は平縁で、口縁部は外反または直立し、肩部は強く張出す。口縁部は無文で、頸部から下に縄文が施される。頸部の境界に段もしくは沈線をもつ。1~24は弥生時代前期に伴う。

25、26は沈線で施文された口縁部である。25は細い沈線で、口唇部に刻目が入る。27は山形の口縁部で、縄文の側面圧痕が施される。28は縦位の粘土紐に押圧を加えたものである。29は複合口縁の下に鋸歯状の沈線を横走させる。30~32は胎土の繊維を含む土器である。30は不整撚糸文の下に羽状縄文を施し、31は山形の口縁部で、全面に縄文を横走させる。32は縄文の側面圧痕を横位に施す。

33~35は石器である。33は石鏃である。凹基で、鋭角三角形型であり、側縁はふくらむ。34はつまみと錐部の境が明瞭ではないが石錐と思われる。35は敲打磨石である。Aが調整磨面、Bが機能面である。



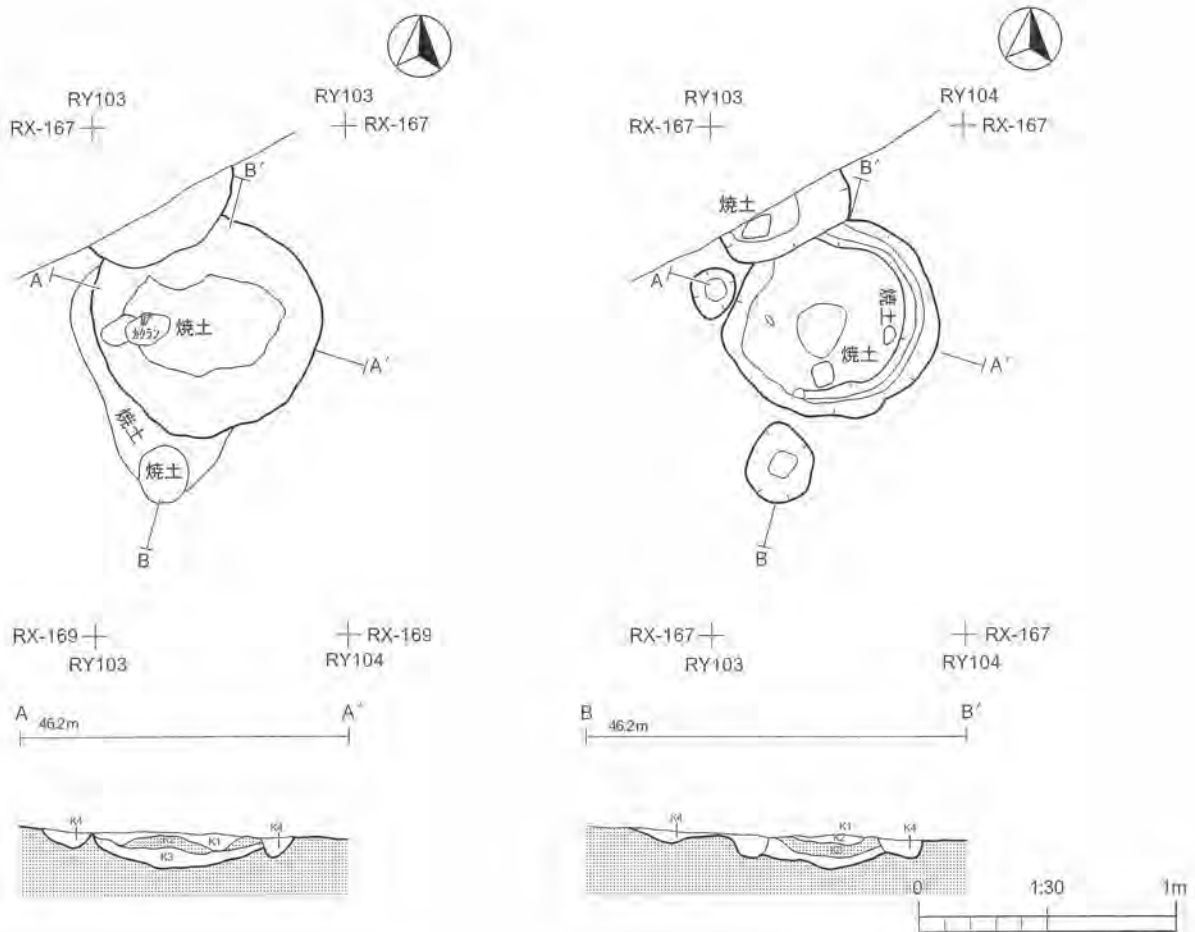
第19図 D-2号竪穴住居跡

<D-2号竪穴住居跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A 1	10YR2/1 黒砂壤土	10YR2/3 砂壤土10% 10YR4/4 砂壤土10%	中、中。

<D-2号竪穴住居跡柱穴土層観察表>

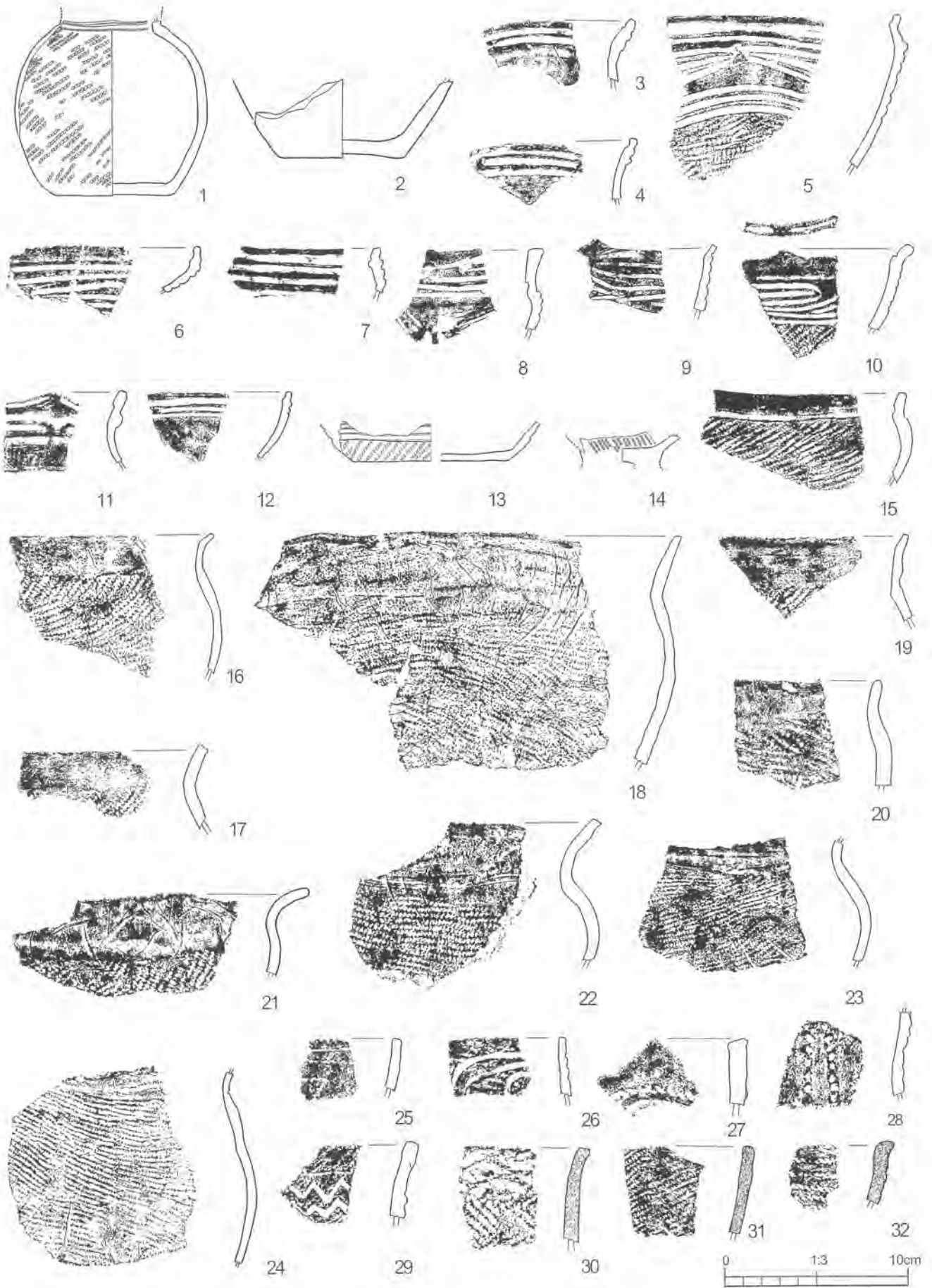
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P 1 a 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR2/2 砂壤土10%	中、中。炭粒多し
P 2 a 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR2/2 砂壤土10%	中、疎。炭粒多混入
" b 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR3/4 砂壤土10%	中、中。
P 3 a 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中、中。炭粒少混入
P 4 a 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中～固、中。炭粒少混入
" a 2	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR2/2 砂壤土10%	中、中。小礫
P 5 a 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中～固、疎。礫多。
P 6 a 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中～固、中。炭少
P 7 a 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR3/3 砂壤土10%	中～固、やや密。



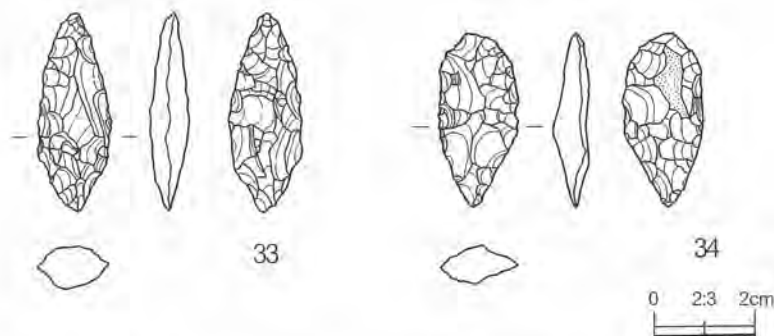
第20図 D-2号竖穴住居炉跡

<D-2号竖穴住居炉跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
k 1	10YR2/1 黒砂壤土	5YR4/6 砂壤土15%	中～軟、疎。
k 2	5YR4/8 赤褐砂壤土	5YR3/4 砂壤土10%	中～固、中～密。
k 3	7.5YR3/4 暗褐砂壤土	10YR3/4 砂壤土10%	中～軟、中。焼土粒多。
k 4	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土	中、中。炭、焼土少。



第21图 D-2号竖穴住居跡出土遺物(1)



第22図 D-2号竖穴住居跡出土遺物・石器(2)

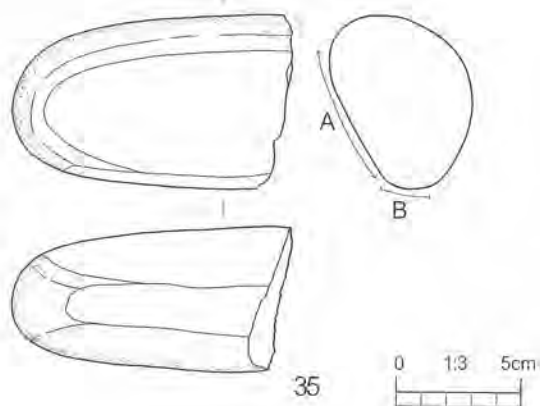
D-3号住居跡(第23図)

<検出状況> D区の北東部の隅に位置する。検出面は6層下面である。切合い関係は、D-1号住居跡に切られている。西側の壁の一部と炉跡を検出した。

<形状・規模> 平面形、規模とも不明である。壁は一部で周溝を伴い、壁高は約10cmである。床面は平坦で、勾配は水平である。貼床は検出されていない。

<埋土> A層は暗褐色土の混じる固めの黒褐色土層である。

<柱穴> 西壁にそって5基の小土坑跡が検出しているが、いずれも柱痕は確認されていない。



(cm)

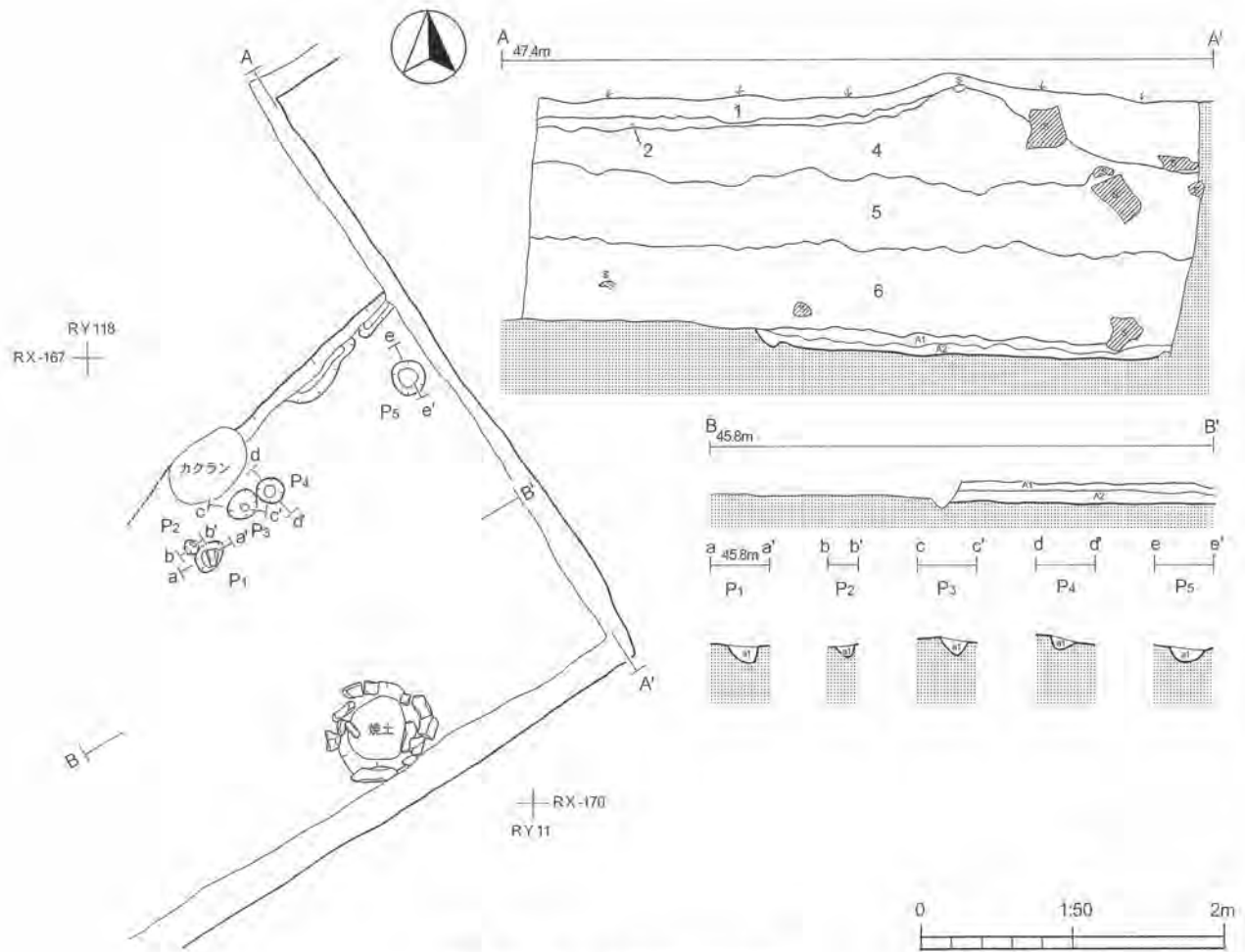
PIT	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
径	22	11	21	18	24
深	12	7	10	9	9

<炉跡> (第24図) 壁から東へ2.3mばかり離れた所で出土した。円形の石囲炉である。円形に掘り込み、周辺部に石を据えている。規模は径70cm、掘り込みの深さは20cmである。K3層は固く焼きしまった焼土層である。層厚は5cmである。

出土遺物(第25図)

1は弥生土器である。壺の頸部で、細かな縄文で施文される。2~5は沈線による区画と磨消を伴う。5は粘土瘤が貼付される。6は沈線によりS字を縦位に交差させる文様の一部と思われる。縄文後期初頭に伴う。

<時期> 弥生時代のD-1号住居跡に切られ、1点であるが弥生の遺物が出土していることから弥生時代と考えたい。



第23図 D-3号竪穴住居跡

<D-3号竪穴住居跡土層観察表>

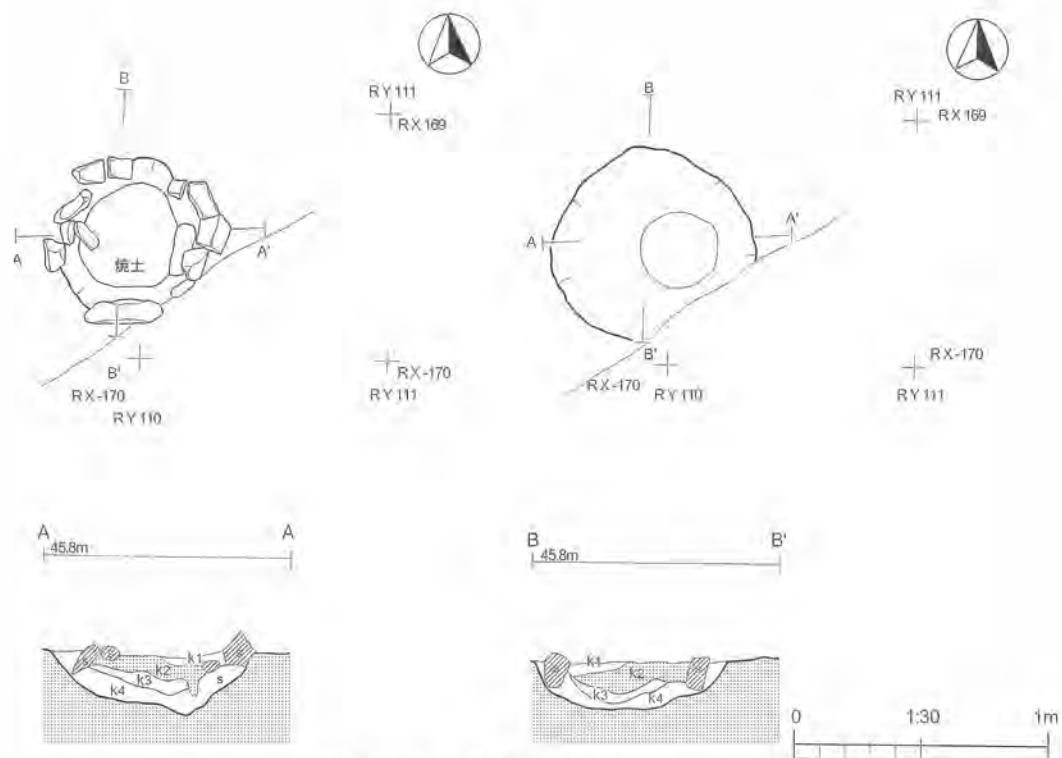
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中～固、中。
A 2	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR2/1 砂壤土15%	中、中。

<D-3号竪穴住居跡柱穴土層観察表>

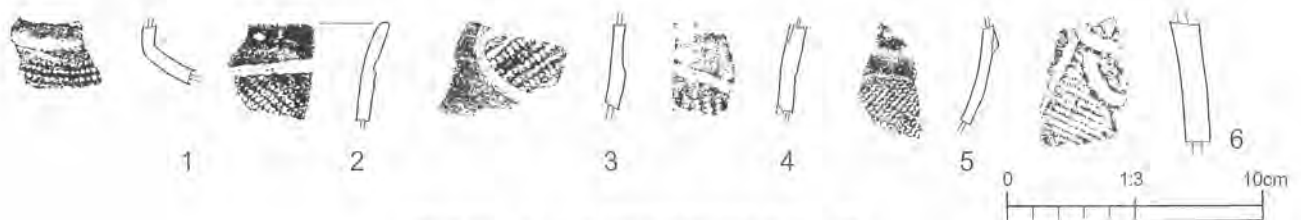
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P 1 a 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR2/2 砂壤土15%	軟、疎。
P 2 a 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR2/2 砂壤土5%	中、中。
P 3 a 1	10YR2/2 黒褐	10YR2/3 砂壤土10%	軟、疎。

<D-3号竪穴住居跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
k 1	10YR2/2 砂壤土	10YR2/3 砂壤土	中～固、中
k 2	7.5YR3/3 砂壤土	7.YR3/4 砂壤土 7.5YR4/6 砂壤土	中、中～疎。
k 3	5YR4/6 砂壤土	7.5YR5/8 砂壤土	固、密。
k 4	7.5YR3/3 砂壤土	7.5YR5/8 砂壤土	中～固、中～密。



第24図 D-3号竪穴住居炉跡



第25図 D-3号竪穴住居跡出土遺物

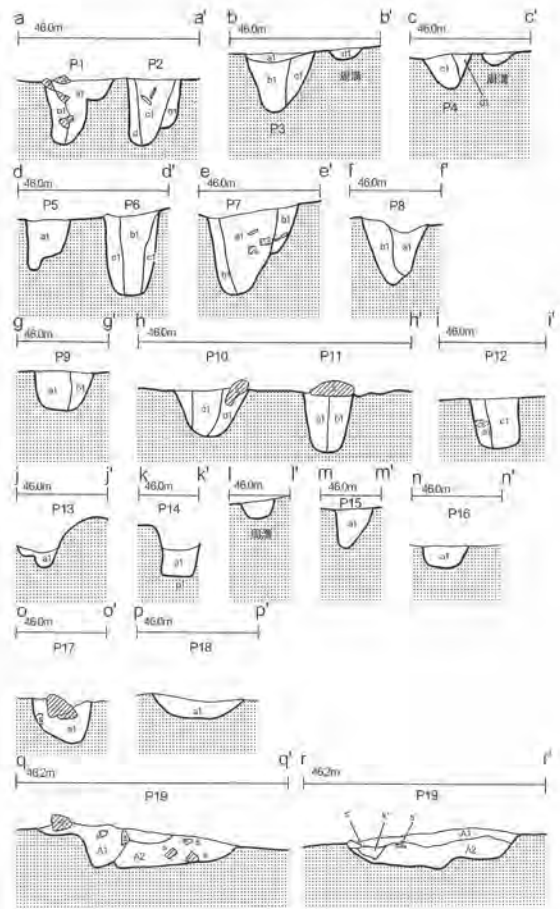
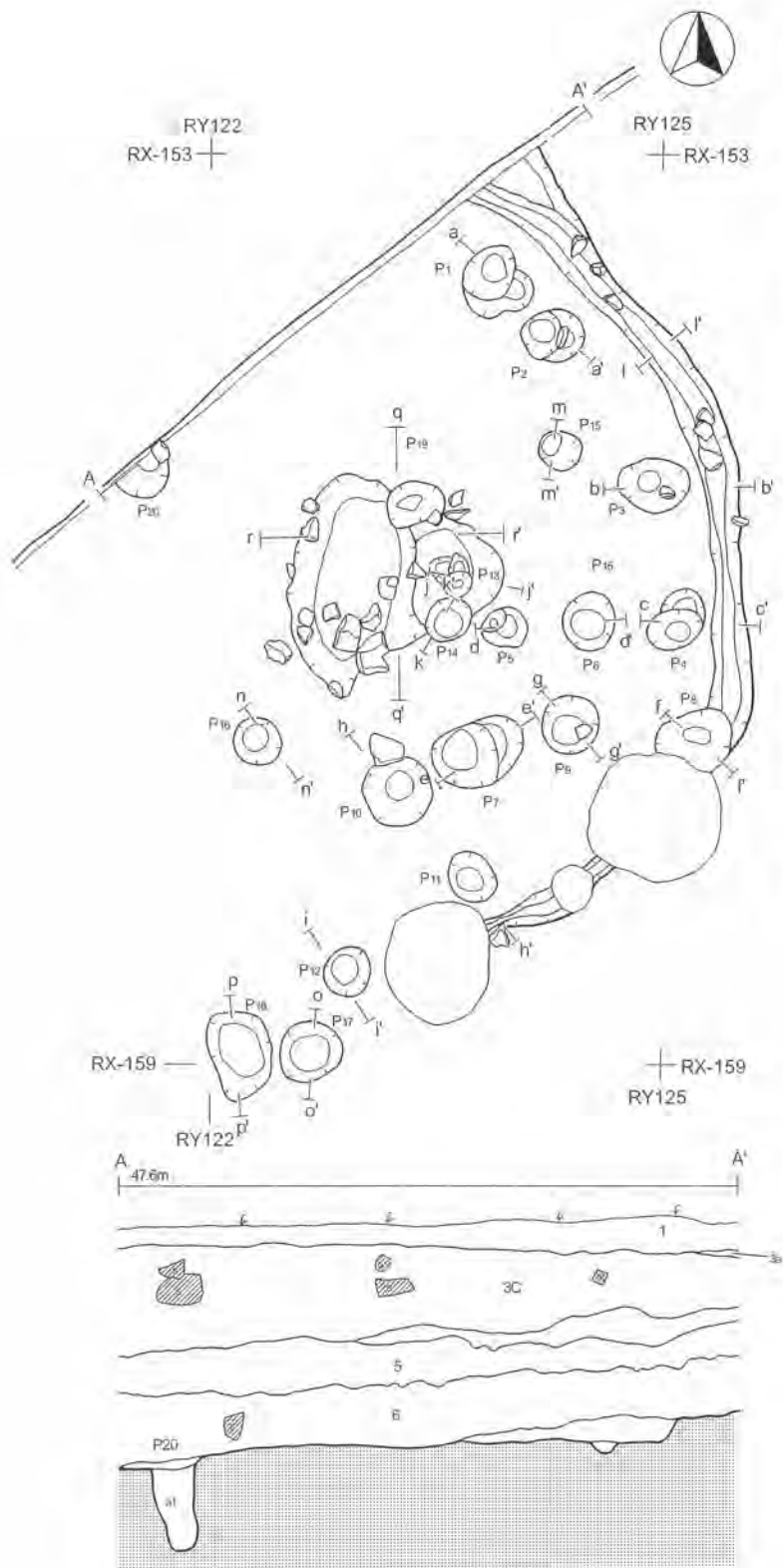
C-1号住居跡 (第26図)

＜検出状況＞ C区の中央部、西側に位置する。検出面は地山面である。C-5号～C-7号土坑跡に切られている。北側と東側の周溝跡と柱穴跡を検出した。調査区西端で壁を一部検出したが、周溝と方向がずれており、別遺構の可能性はある。

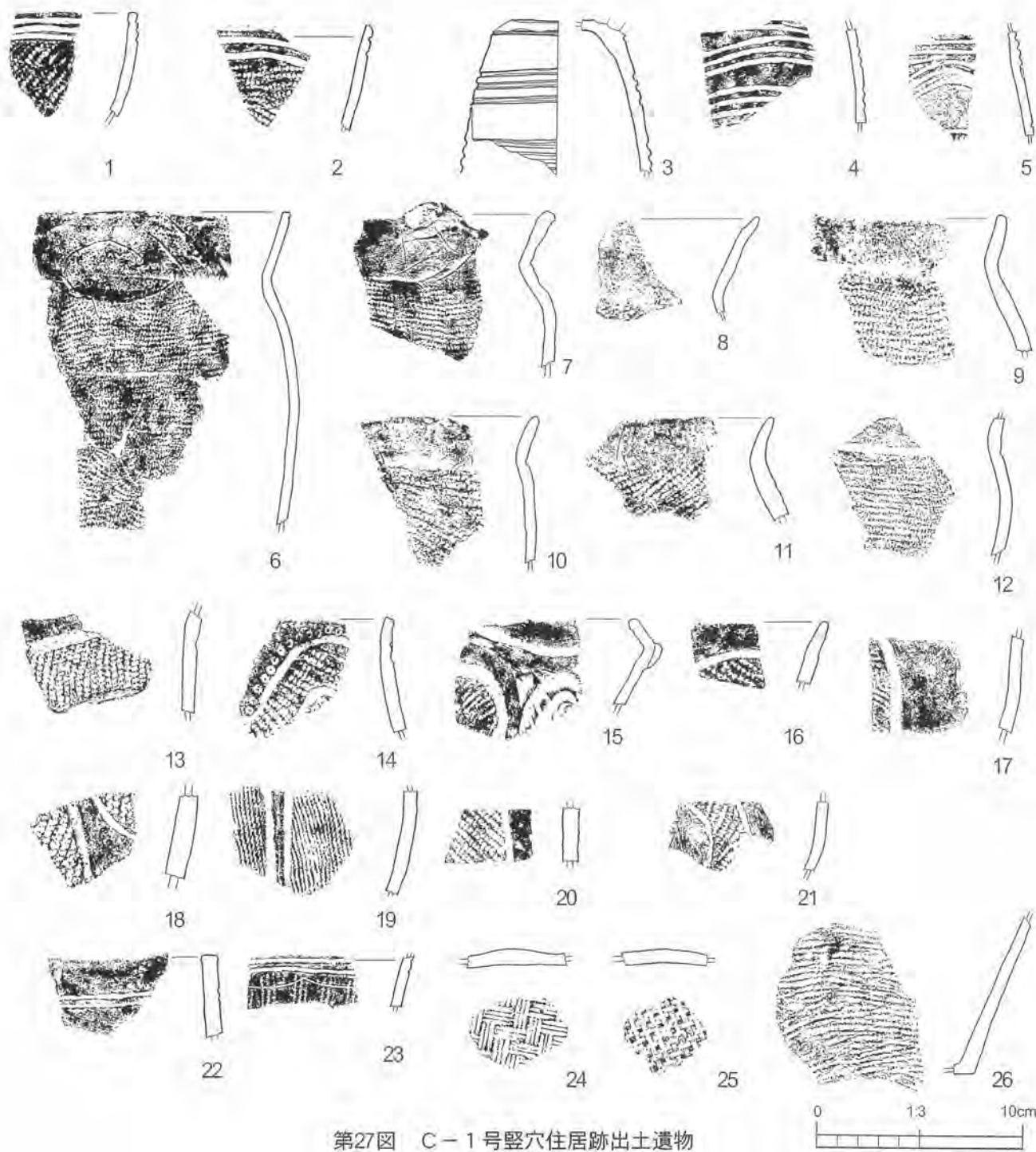
＜形状・規模など＞ 平面形は円形である。規模は、少なくとも径5mを測るやや大形の住居が推定できる。床面は、南半分はすでに削られている。北側の残存部分では、貼床などは検出されずやや凹凸があるが、ほぼ水平である。周溝の規模は、幅25cm前後、深さ約10cmである。

＜埋土＞ 1層である。褐色土の混じるややしまった暗褐色土層である。

＜柱穴＞ おもに床面の周縁部から20基の土坑が検出している。周縁部の土坑(P1～P12)は、比較的規模が大きく、柱痕も確認されている。それらが支柱穴にあたるものと思われる。



第26图 C-1号竖穴住居跡



PIT	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
径	40	34	48	37	30	40	50	50	40
深	43	44	40	23	33	53	52	46	26

(cm)

(cm)

PIT	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18
径	46	37	34	20	32	29	33	41	60
深	32	40	33	10	34	26	15	28	12

(cm)

PIT	P19	P20
径	150×140	40
深	25	60

<炉跡> 住居跡の中心部の土坑跡（P19）の埋土から焼土層が出土しただけで、石組みなどは検出できなかった。検出段階で、土坑周辺に礫と焼土が散乱しており、炉はずでに壊されていた可能性がある。土坑埋土K1層の焼土はその際に廃棄されたものと考えられる。

出土遺物（第27図）

1は鉢である。口縁部の内外面に沈線をめぐらせる。2は高坏の体部片である。上位に沈線、下位に縄文を配している。3～5は高坏の脚部である。4、5は波状の平行沈線をモチーフとする。6～13は甕である。口縁部は外反もしくは直立し、肩部が張出す。7は口縁部に山形の突起をもつ。口縁部は、無文、頸部から下を縄文で施文する。頸部の境に段または沈線をもつ。1～13は弥生前期に伴う。

14～21は磨消縄文で施文された土器片である。15は「く」の字に内反する。22は口縁部に平行沈線をめぐらせ、23は平行沈線の下に弧線を施す。24、25は網代痕を残す底部片である。26は細かい縄文で施文された底部である。壺の底部と思われる。

<C-1号竪穴住居跡埋土土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/4 砂壤土10%	中、疎

<C-1号竪穴住居跡柱穴、溝跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P1 a1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR2/2 砂壤土10%	固め、疎。
" b1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土10%	やや軟、疎
P2 c1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/4 砂壤土10%	疎。
" d1	10YR4/6 砂壤土 褐	10YR3/4 砂壤土15%	固め。
P3 a1	10YR2/2 砂壤土 黒褐	10YR2/3 砂壤土10%	疎。
" b1	10YR3/3 砂壤土 黒褐	10YR3/4 砂壤土15%	固め、疎。
" c1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土10%	固め、疎。
P4 b1	10YR2/2 砂壤土 黒褐	10YR2/1 砂壤土5%	固、疎。
" c1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR2/3 砂壤土10%	固、疎。
P5 a1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/2 砂壤土5%	固、疎。
P6 b1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR2/1 砂壤土3%	固。
" c1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR4/6 砂壤土10%	固、疎。b1より明。
P7 a1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/4 砂壤土5%	中～固、疎。
" b1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR5/6 砂壤土5%	中～固、疎。
P8 a1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR3/4 砂壤土10%	中、疎。
" b1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/4 砂壤土10%	中、疎。
P9 a1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR2/2 砂壤土10%	固め、疎。
" b1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土10%	中、疎。

P 1 0	c 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土15%	中、やや疎。
	d 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR5/6	砂壤土5%	
P 1 1	a 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR2/2	砂壤土10%	固め、疎。
	b 1	10YR3/3	砂壤土	黒褐	10YR4/4	砂壤土10%	固め、疎。
P 1 2	c 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土10%	中、中。
	d 1	10YR3/3	砂壤土	黒褐	10YR2/3	砂壤土10%	中、中。
P 1 5	a 1	10YR3/3	砂壤土	黒褐	10YR2/2	砂壤土10%	やや軟質、疎。
P 1 6	a 1	10YR2/2	砂壤土	黒褐	10YR3/3	砂壤土10%	中、疎。
P 1 7	a 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR3/4	砂壤土15%	軟質、疎。礫。
	b 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR5/6	砂壤土10%	固め、疎。
P 1 8	a 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR3/4	砂壤土10%	固、疎。
P 2 0	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土15%	中、疎。
P 2 3	a 1	10YR2/2	砂壤土	黒褐	10YR2/3	砂壤土10%	中、中。礫。
周溝	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	固、疎。
周溝 4	a 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR4/4	砂壤土5%	中、疎。

B-1号住居跡（第28図）

〈検出状況〉B区の中央部に位置する。今回の調査区では比較的高い位置にある。切り合いは、B-2号住居跡を切る。

〈形状・規模〉平面形は不整形である。明瞭な壁の立上がりは確認できず、全体に浅く掘り窪めたような形状である。規模は、東西約4mである。床面は緩い起伏があり、勾配は南に向かって下がり気味である。貼床、周溝は検出していない。

〈埋土〉2層に分れる。A層は黒褐色土の混じる軟質の黒色土で、焼土ブロックを含む。B層はやや固めの黒褐色土層である。

〈柱穴〉床面から小土坑が6基検出している。柱痕が確認できたのは、P1だけである。規模からみて、P1、P5が支柱穴にあたると思われる。

(cm)

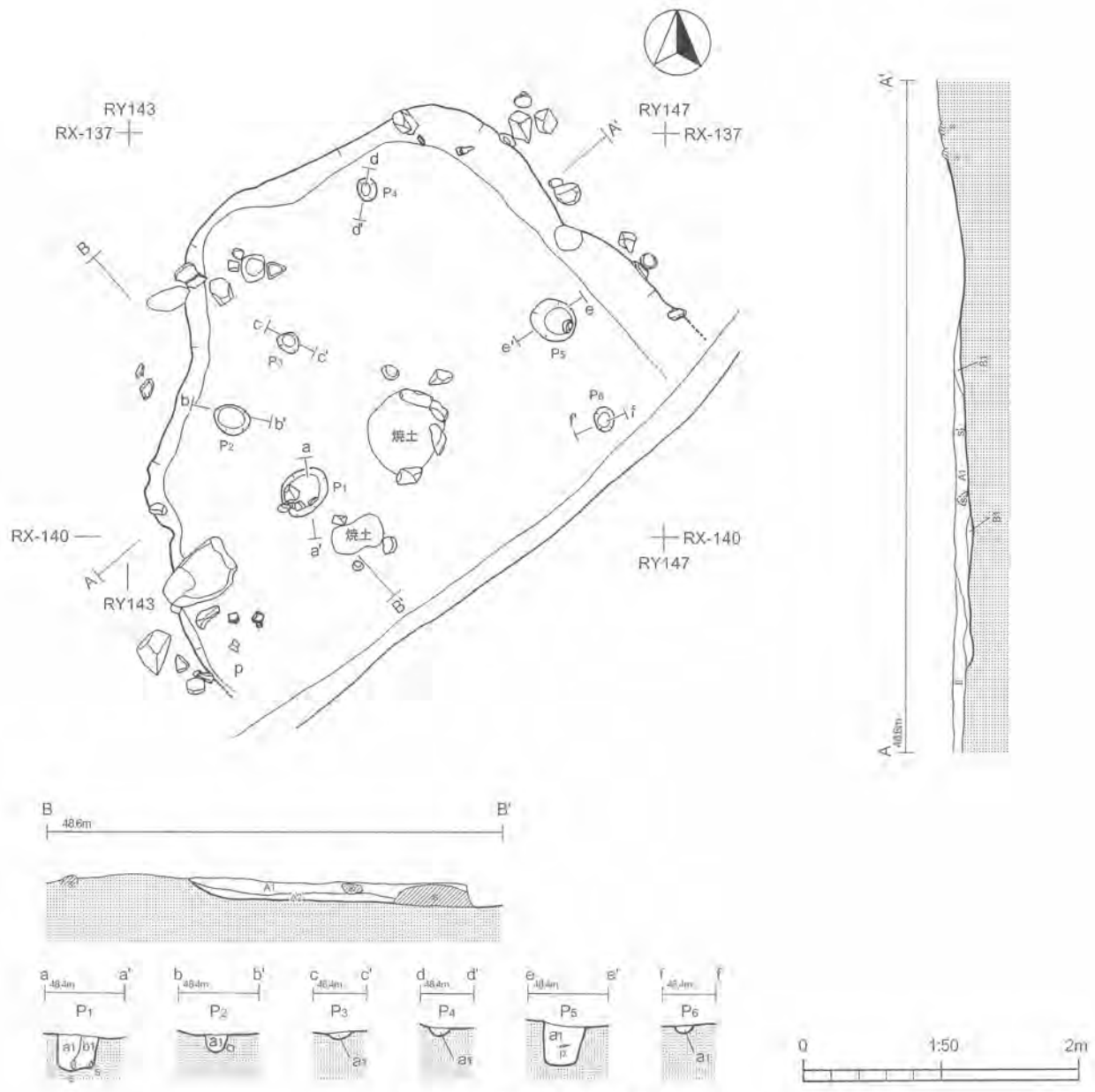
PIT	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
幅	35	30	28	17	18	20
深	36	28	27	6	6	7

〈炉跡〉（第29図）床面中央部から検出している。円形の焼土を半円形の石組みが囲む。円形の石囲炉であったと思われる。浅く掘り窪め、周りに石を据えただけの簡単な構造で、とくに石を埋設した跡は確認していない。規模は65cm×55cm、深さ15cmである。

K2層は、やや固めで粘性のない赤褐色土である。

出土遺物（第30図）

1～9は床面の出土である。1、2は沈線と磨消縄文を伴う。3、4は複合口縁で、3は口縁部を無文、4は縄文で施文される。5は粘土紐の上下に横位の平行沈線を走らせ、沈線の間を縦位の刻み目で埋めていく。3～5は大木7aに伴う。4は口唇部と頸部に粘土紐を貼付し、頸部の粘土紐は波状にめぐらす。大木4式に伴う。7は、外面を太めの平行沈線で施文し、内面頸部に稜線をめぐらす。8は口縁部は無文、頸部に鋸歯状？沈線と縄文で施文される。9は胎土に繊維を含み、結節縄文を横走させる。



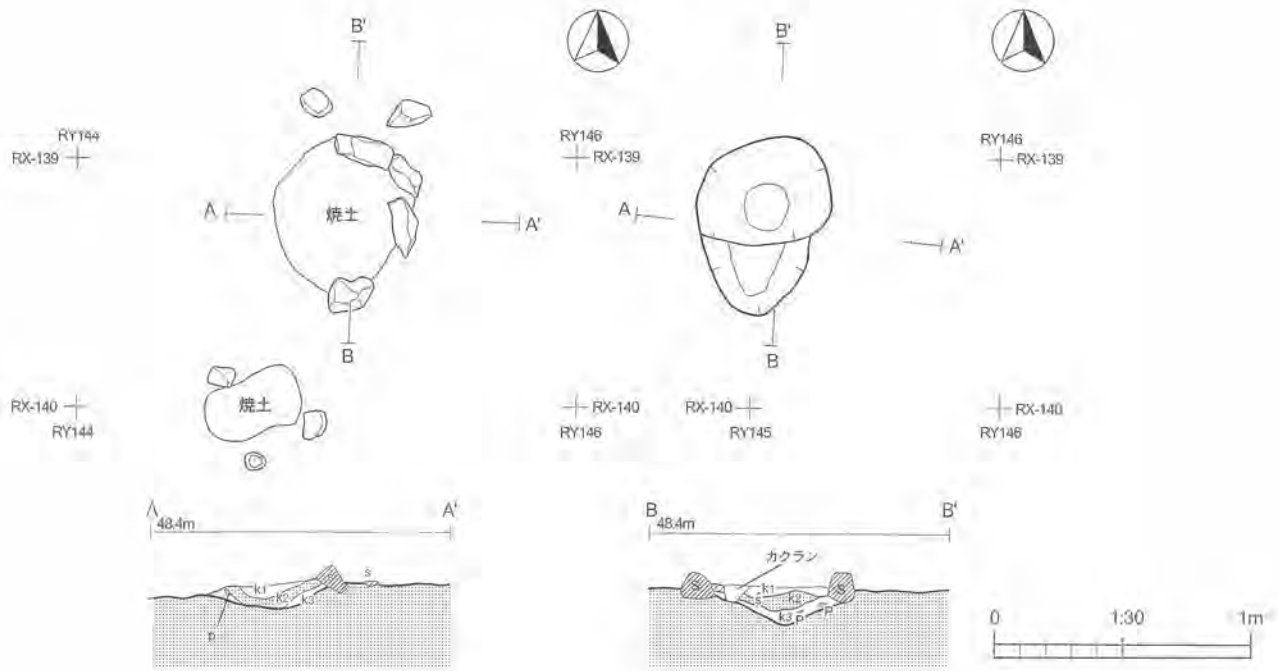
第28図 B-1号竖穴住居跡

< B-1号竖穴住居跡土層観察表 >

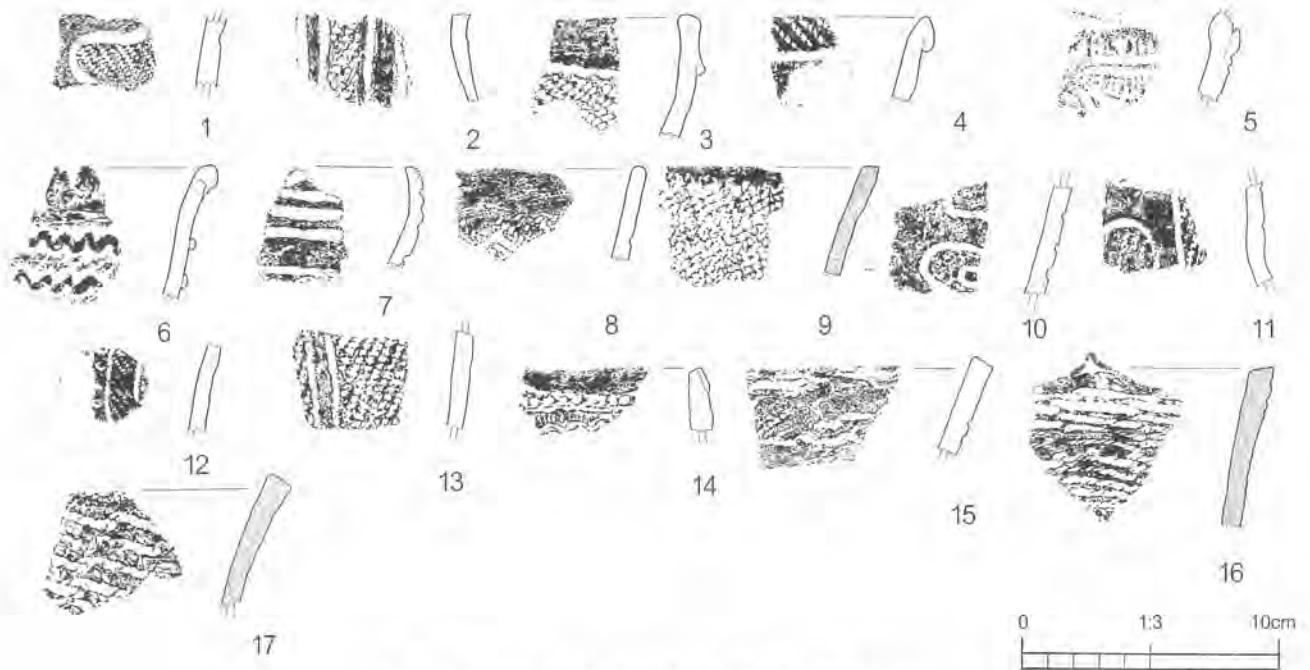
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A 1	10YR2/1 黒	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	軟、疎。焼土ブロック含む
B 1	10YR2/2 黒褐	10YR2/3 黒褐 砂壤土 15%	やや固、疎。

< B-1号竖穴住居跡柱穴土層観察表 >

層名	基本土	混入土	土性
P 1 a 1	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR2/1 黒 砂壤土 5%	やや固、疎。
# b 1	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	軟、疎。
P 2 a 1	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	軟、疎。
P 3 a 1	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	中、疎。
P 4 a 1	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR2/1 黒 砂壤土 15%	軟、疎。
P 5 a 1	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	軟、疎。
P 6 a 1	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	中、疎。



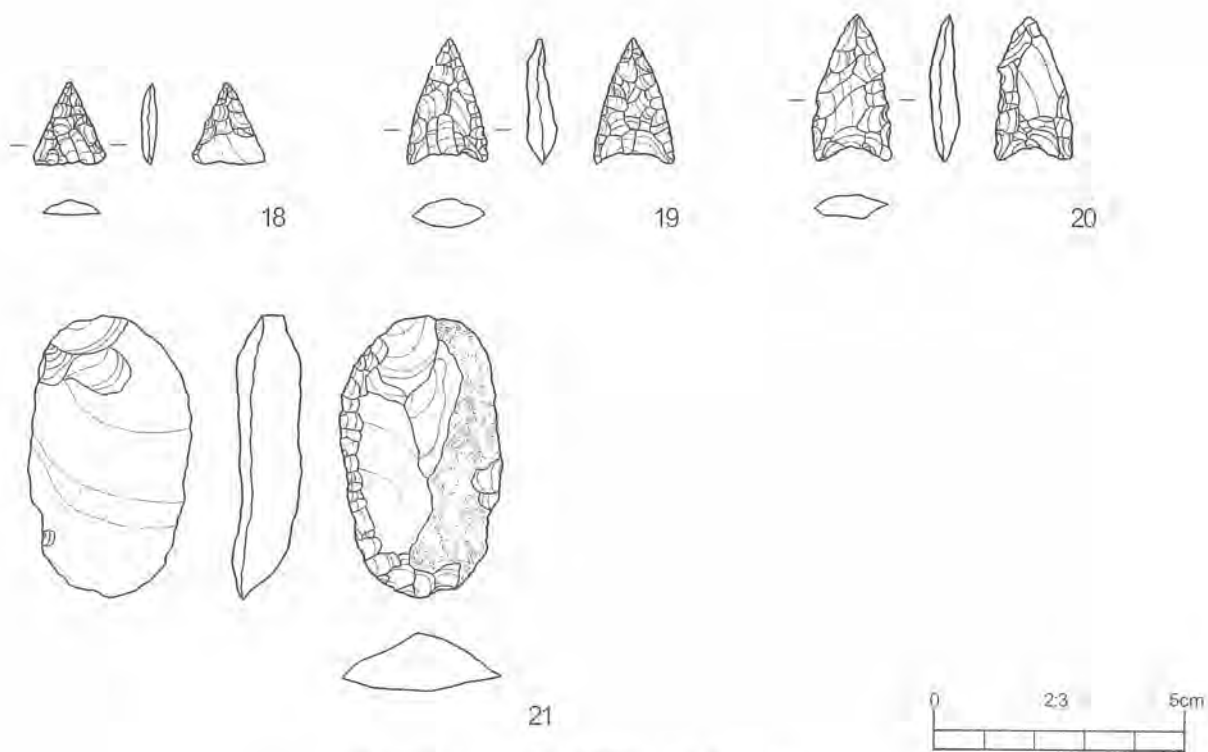
第29図 B-1号竪穴住居炉跡



第30図 B-1号竪穴住居跡出土遺物(1)

<B-1号竪穴住居跡土層観察表>

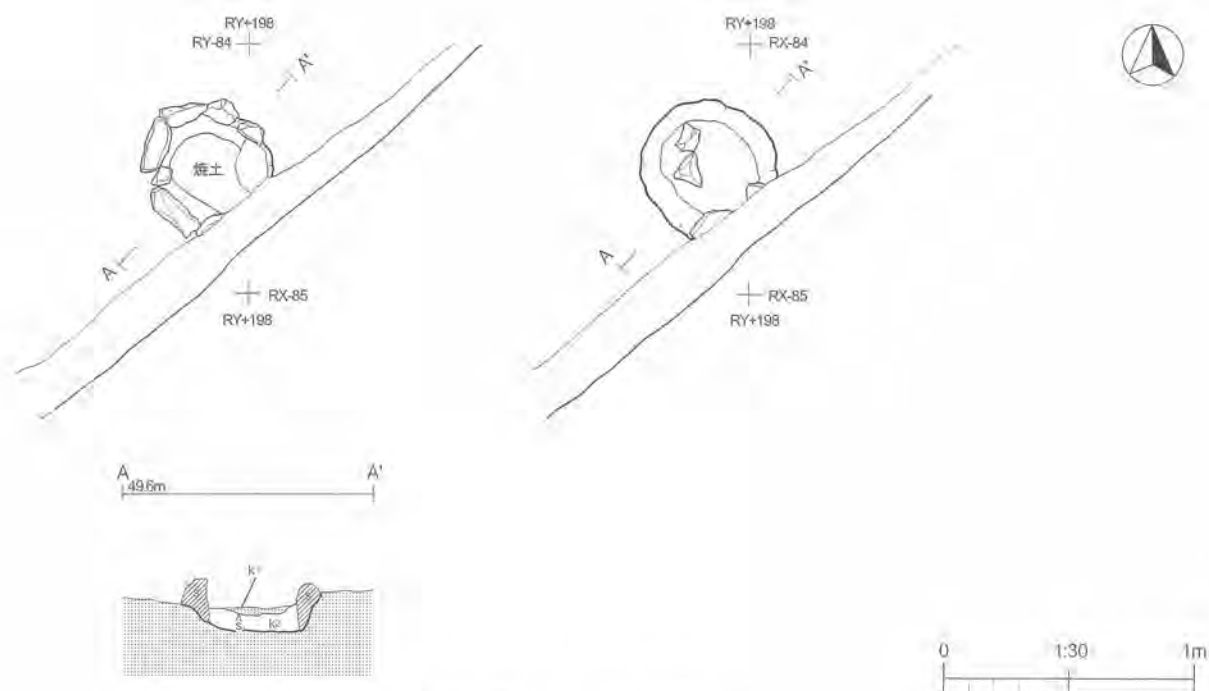
層名	基本土		混入土		土性
k 1	7.5YR3/3	暗褐 砂壤土	5YR4/6	赤褐 砂壤土 15%	軟、疎。
k 2	5YR4/6	赤褐 砂壤土	5YR4/8	赤褐 砂壤土 10%	やや固、疎。
k 3	7.5YR3/3	暗褐 砂壤土	10YR2/2	黒褐 砂壤土 10%	中、中。
k 4	7.5YR2/3	極暗褐 砂壤土	5YR4/4	にぶい赤褐 砂壤土 10%	中、中。



第31図 B-1号住居跡出土遺物(2)

10～17は埋土の出土である。10は沈線による楕円と方形の区画文を伴う。11、12は磨消縄文を伴い、12には円形刺突が加えられる。13は沈線と縄文による施文である。14は波状の複合口縁である。口縁部の沈線の中に円形刺突が入り、その下に縦位の刻み、波状の沈線が並ぶ。15は口縁部に山形状突起をもち、結節縄文を横走させる。16、17は胎土に繊維を含み、不整撚糸文で施文される。

18～21は石器である。18～20は石鏃である。18は平基で、正三角形型である。側縁は平らである。19、20は凹基であるがえぐりは深くない。いずれも二等辺三角形型で、側縁はふくらむ。21は不定形石器である。小判状で片面の周縁を二次加工して刃部をつくりあげる。



第32図 A-1号炉跡

A-1号炉跡（第32図）

＜検出状況＞ A-4区の東端に位置する。検出面は7層上面である。炉跡に伴う住居跡、柱穴などは検出されていない。

＜形状・規模＞ 円形の石囲炉である。掘り方をもち、周縁部に石を埋設する。規模は径55cm、深さ10cmである。埋土層は、K1層が焼土層であるが、軟質で焼き締ってはいない。

＜時期＞ 検出面から弥生時代前期に伴う。

＜A-1号炉跡土層観察表＞

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
k1	7.5YR3/4 暗褐 砂壤土	7.5YR5/6 黄褐 砂壤土 10%	軟、中～疎。
k2	7.5YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	中、中～密。

b 縄文時代

C-2号住居跡（第33図）

＜検出状況＞ C区の南側に位置する。検出面は地山面である。切り合い関係は、C-3号住居跡を切る。住居跡の南東部を一部欠いているが、ほぼ全体を検出している。

＜形状・規模など＞ 平面形は隅丸方形で、ほぼ正方形である。規模は、南北5.5m、東西も5.5m前後と推定される。壁は、外反して直線的に立上がり、壁高は、北側で40cm、南側で45cmである。床面は平坦で、水平である。貼床は確認されていない。周溝は、一部で途切れているが、壁際を一周している。幅15cm～25cm、深さ10cm～15cmである。



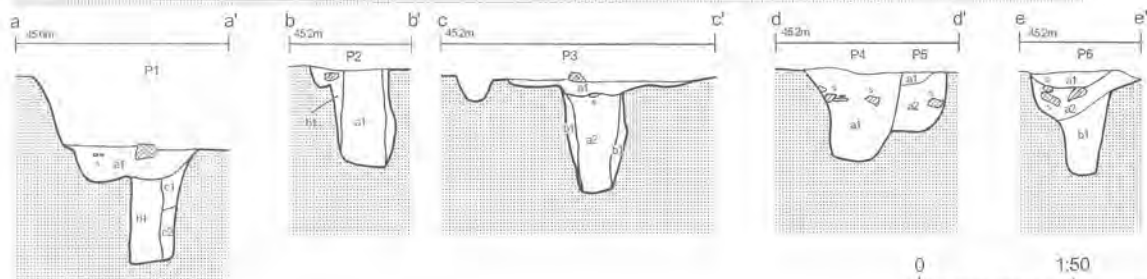
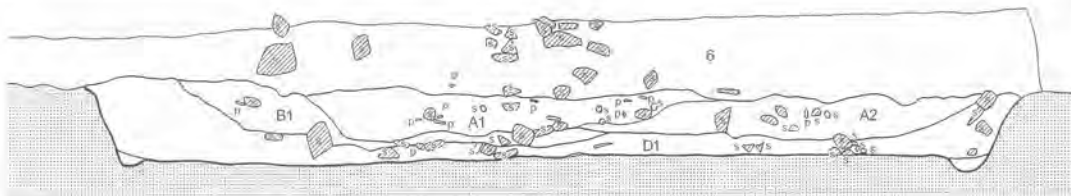
RY113
RX-160



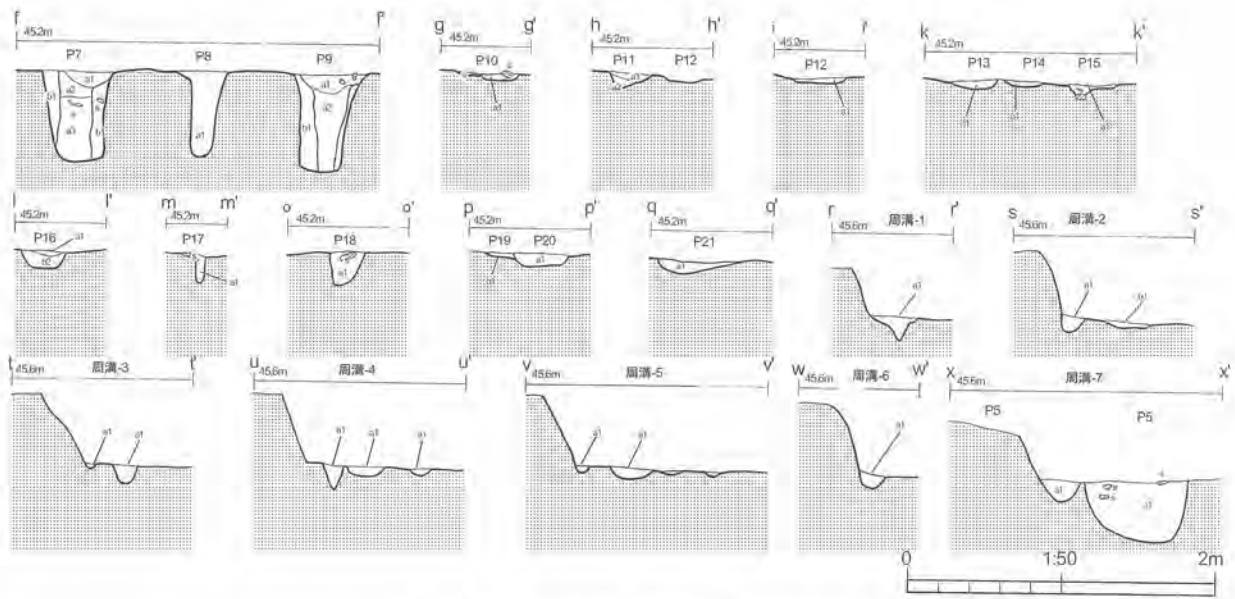
RX-167
RY118

RX-167
RY118

A 46.2m A'



第33图 C-2号竖穴住居跡(1)



第34図 C-2号竪穴住居跡(2)

<埋土> 4層に大別される。A層は黒褐色土の混じるややしまりのある黒色土である。B層は黒褐色土の混じる固めの褐色土層である。C層は、焼土、礫が多く混じる黒褐色土層である。B、C層は人為的な堆積層である。D層は白粒が混入する黒褐色土層である。

<柱穴> 床面で21基の土坑跡が確認されている。そのなかでも規模の大きな土坑はP1～P9である。それらが支柱穴にあたるものと推定され、P1～P3、P7、P9では柱痕が確認されている。

(cm)									
PIT	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
径	40×34	40	62	59×44	72×39	32	48	44×34	48
深	77	64	64	69	39	68	60	56	64

(cm)									
PIT	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18
径	31×20	27	35×30	33×19	28×18	31×24	33	16×10	24
深	4	11	4	6	4	7	12	19	22

(cm)			
PIT	P19	P20	P21
径	38×19	38	55×45
深	4	9	8

<C-2号竪穴住居跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
集石くろ	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土10%	中、疎。土器多
A 1	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土10%	中、疎。土器多
A 2	10YR3/3 暗褐 砂壤土	10YR3/2 黒褐 砂壤土10%	中、疎。
B 1	10YR4/4 褐 砂壤土	10YR3/3 黒褐 砂壤土15%	固、疎。
C 1	10YR2/3 黒褐 砂壤土	7.5YR3/3 暗褐 砂壤土20%	中、疎。焼土粒多
D 1	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR2/3 黒褐 砂壤土	中、疎。白粒が混入

<C-2号竖穴住居跡柱穴土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P 1	a 1 10YR2/3 黒褐シルト質壤土	10YR4/4 シルト質壤土20%	中、中～疎。
"	b 1 10YR3/3 暗褐シルト質壤土	10YR2/3 シルト質壤土20%	軟、疎。
"	c 1 10YR4/4 褐シルト質壤土	10YR3/4 シルト質壤土30%	中～軟、中～疎。
"	c 2 10YR4/4 褐シルト質壤土	10YR3/4 シルト質壤土5%	中～軟、中～疎。微量の炭。C 1より明
P 2	a 1 10YR2/2 黒褐シルト質壤土	10YR2/1 シルト質壤土15% 10YR3/3 シルト質壤土10%	軟、疎。
"	b 1 10YR3/3 暗褐シルト質壤土	10YR4/4 シルト質壤土20%	中、中。
P 3	a 1 10YR2/2 黒褐シルト質壤土	10YR2/1 黒シルト質壤土20% 10YR2/3 黒褐シルト質壤土10%	中～軟、中～疎。少量の炭。
"	a 2 10YR4/4 褐シルト質壤土	10YR3/4 暗褐シルト質壤土20% 10YR3/3 暗褐シルト質壤土15% 10YR2/2 黒褐シルト質壤土15% 10YR2/1 黒シルト質壤土5%	中～軟、中～疎。少量の炭。
"	b 1 10YR4/6 褐シルト質壤土	10YR4/4 褐シルト質壤土15% 10YR3/3 暗褐シルト質壤土10%	中～軟、中～疎。少量の炭。
P 4	a 1 10YR2/1 黒シルト質壤土	10YR2/3 黒褐シルト質壤土20% 10YR3/3 暗褐シルト質壤土5%	中、中～疎。少量の炭。
P 5	a 1 5YR3/6 暗赤褐シルト質壤土	7.5YR3/3 シルト質壤土10%	中～軟、中～疎。少量の炭。
"	a 2 10YR2/2 シルト質壤土	10YR2/3 シルト質壤土10% 10YR3/4 シルト質壤土10%	中、中。
P 6	a 1 10YR2/2 シルト質壤土	10YR3/3 シルト質壤土15%	中～軟、中～疎。
"	a 2 10YR2/2シルト質壤土 黒褐	10YR2/3 シルト質壤土10%	中～軟、中～疎。
"	a 3 10YR3/4 暗褐シルト質壤土	10YR4/4 シルト質壤土20% 10YR3/3 シルト質壤土10%	中～固、中。多量の礫。
P 7	a 1 10YR2/1 黒シルト質壤土	10YR2/2 シルト質壤土10% 10YR4/4 シルト質壤土5%	軟、中～疎。
"	a 2 10YR3/4 暗褐シルト質壤土	10YR3/3 シルト質壤土15% 10YR2/2 シルト質壤土10%	軟、疎。
"	a 3 10YR2/2 黒褐シルト質壤土	10YR2/1 シルト質壤土20%	軟、疎。
"	b 1 10YR4/4 褐シルト質壤土	10YR3/4 シルト質壤土15%	中、中～疎
P 8	a 1 10YR2/2 黒褐シルト質壤土	10YR2/1 シルト質壤土20% 10YR4/4 シルト質壤土5%	中～固、中。
P 9	a 1 10YR2/2 黒褐シルト質壤土	10YR2/3 シルト質壤土10%	中～軟、中～疎。
"	a 2 10YR2/3 黒褐シルト質壤土	10YR2/1 シルト質壤土20% 10YR4/4 シルト質壤土15% 10YR3/4 シルト質壤土5%	中～軟、中～疎。
"	b 1 10YR4/4 褐シルト質壤土	10YR3/4 シルト質壤土10% 10YR3/3 シルト質壤土5%	中～軟、中～疎。
P 1 0	a 1 10YR2/3 黒褐シルト質壤土	10YR3/3 シルト質壤土10%	中、中。少量の炭、礫。
P 1 1	a 1 10YR3/4 暗褐シルト質壤土	10YR2/2 シルト質壤土15%	固、中。微量の炭。
"	a 2 10YR2/2 黒褐シルト質壤土	10YR3/4 シルト質壤土5%	中～固、中～疎。少量の炭。
P 1 3	a 1 10YR2/3 黒褐シルト質壤土	10YR3/4 シルト質壤土15%	中～固、中。
P 1 4	a 1 10YR2/2 黒褐シルト質壤土	10YR3/2 シルト質壤土15%	中～固、中～疎。
P 1 5	a 1 10YR2/3 黒褐シルト質壤土	10YR2/2 シルト質壤土10%	軟、中～疎。
P 1 6	a 1 10YR2/1 黒シルト質壤土	10YR2/2 シルト質壤土15%	中、中。
"	a 2 10YR3/4 暗褐シルト質壤土	10YR4/4 シルト質壤土30%	軟、疎。
P 1 7	a 1 10YR2/2 黒褐シルト質壤土	10YR4/4 シルト質壤土15%	中～固、中。
P 1 7	a 1 10YR2/3 黒褐シルト質壤土	10YR3/3 シルト質壤土10%	中、中。微量の炭。
P 1 8	a 1 10YR2/2 黒褐シルト質壤土	10YR2/3 シルト質壤土15%	軟、疎。

P 1 8	a 1	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR3/3 シルト質埴土5%	中～固、中～疎。少量の炭。
P 1 9	b 1	7.5YR3/3 暗褐シルト質埴土	7.5YR2/2 シルト質埴土10% 10YR2/1 シルト質埴土10%	中～軟、中～疎。
#	c 1	5YR3/4 暗赤褐シルト質埴土	7.5YR4/4 シルト質埴土10% 5YR3/3 シルト質埴土5%	固、中。微量の炭。
P 2 0	a 1	10YR3/3 暗褐シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴土20%	中～固、中。
P 2 1	a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR4/4 シルト質埴土5%	軟、中～疎。少量の炭。
P 2 1	a 1	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR2/2 シルト質埴壤土15%	中～固、中。多量の炭。
周溝7	a 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭。

<C-2号竪穴住居炉跡Ⅰ期土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/3 シルト質埴壤土10% 10YR2/1 埴壤土埴土5%	中～固、中。
a 2	10YR2/3 黒褐シルト質埴壤土	10YR3/4 シルト質埴土15% 10YR2/2 シルト質埴土5%	中、中～疎。
a 1'	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR2/2 シルト質埴壤土10% 10YR2/3 シルト質埴土5%	中、中。少量の炭。
b 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土15% 10YR3/4 シルト質埴土15%	中～軟、中～疎。少量の炭。
b 2	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR3/4 シルト質埴土30%	中～軟、中～疎。微量の炭。
b 3	10YR3/3 暗褐シルト質埴土	10YR2/3 シルト質埴土20% 10YR4/4 シルト質埴土15%	中、中～疎。疎。少量の炭。
c 1	7.5YR4/4 褐シルト質埴土	7.5YR3/4 シルト質埴土15% 10YR2/1 シルト質埴土10%	中、中。
d 1	10YR4/4暗 褐シルト質埴土	10YR3/4 シルト質埴土10% 10YR2/2 シルト質埴土5%	中～軟、中～疎。
e 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土20% 10YR2/1 シルト質埴土5%	軟、疎。
e 2	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴土15% 10YR3/3 シルト質埴土10%	固、中。
f 1	10YR3/3 暗褐シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴土15% 10YR3/4 シルト質埴土15%	中、中～疎。

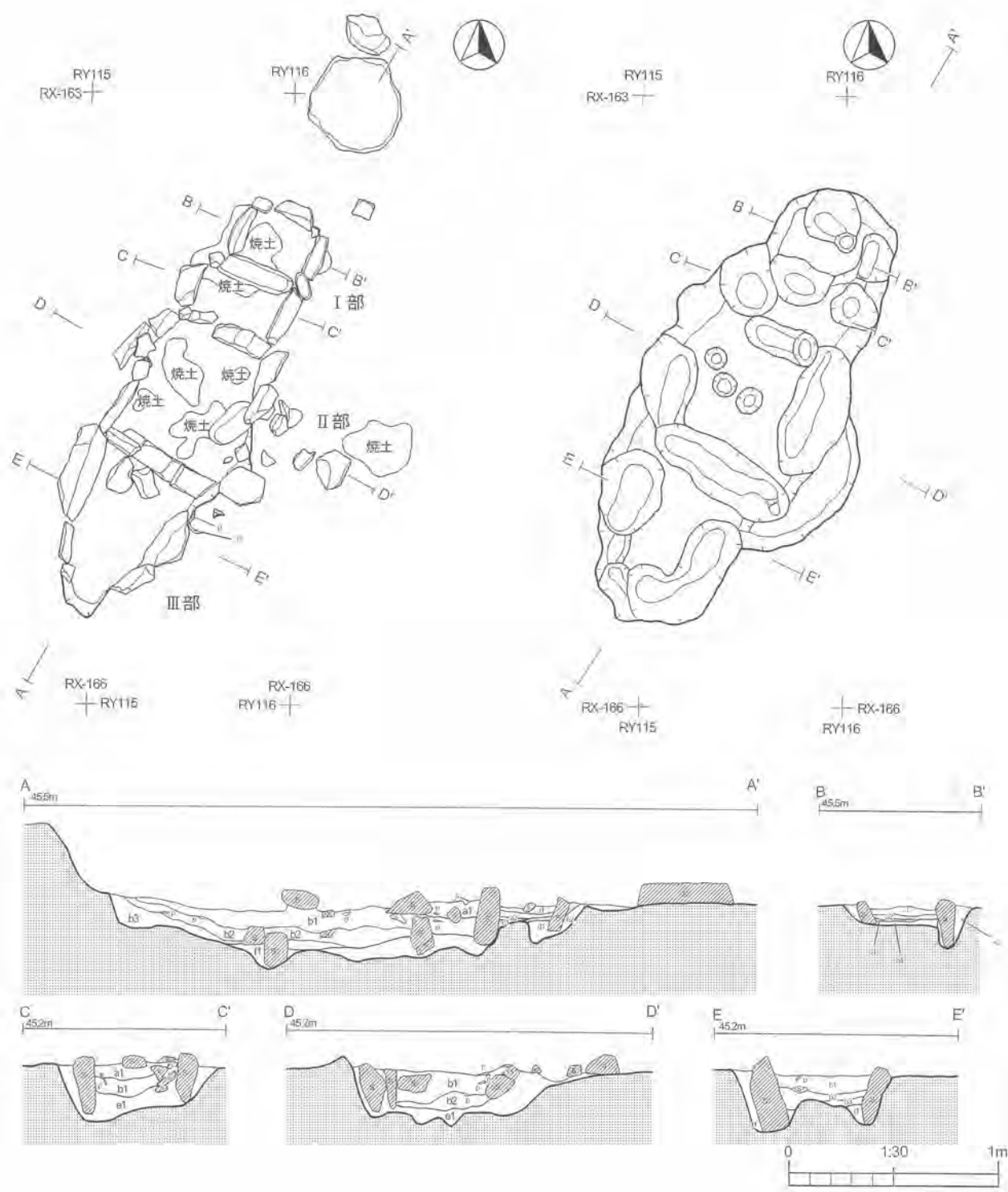
<C-2号竪穴住居炉跡Ⅱ期土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a 1	10YR4/4 褐シルト質埴土	10YR3/4 シルト質埴土20% 10YR2/2 シルト質埴土15%	固、中。
b 1	10YR2/1 黒シルト質埴土	10YR1.7/1 シルト質埴土15% 10YR2/2 シルト質埴土15%	中～固、中～疎。

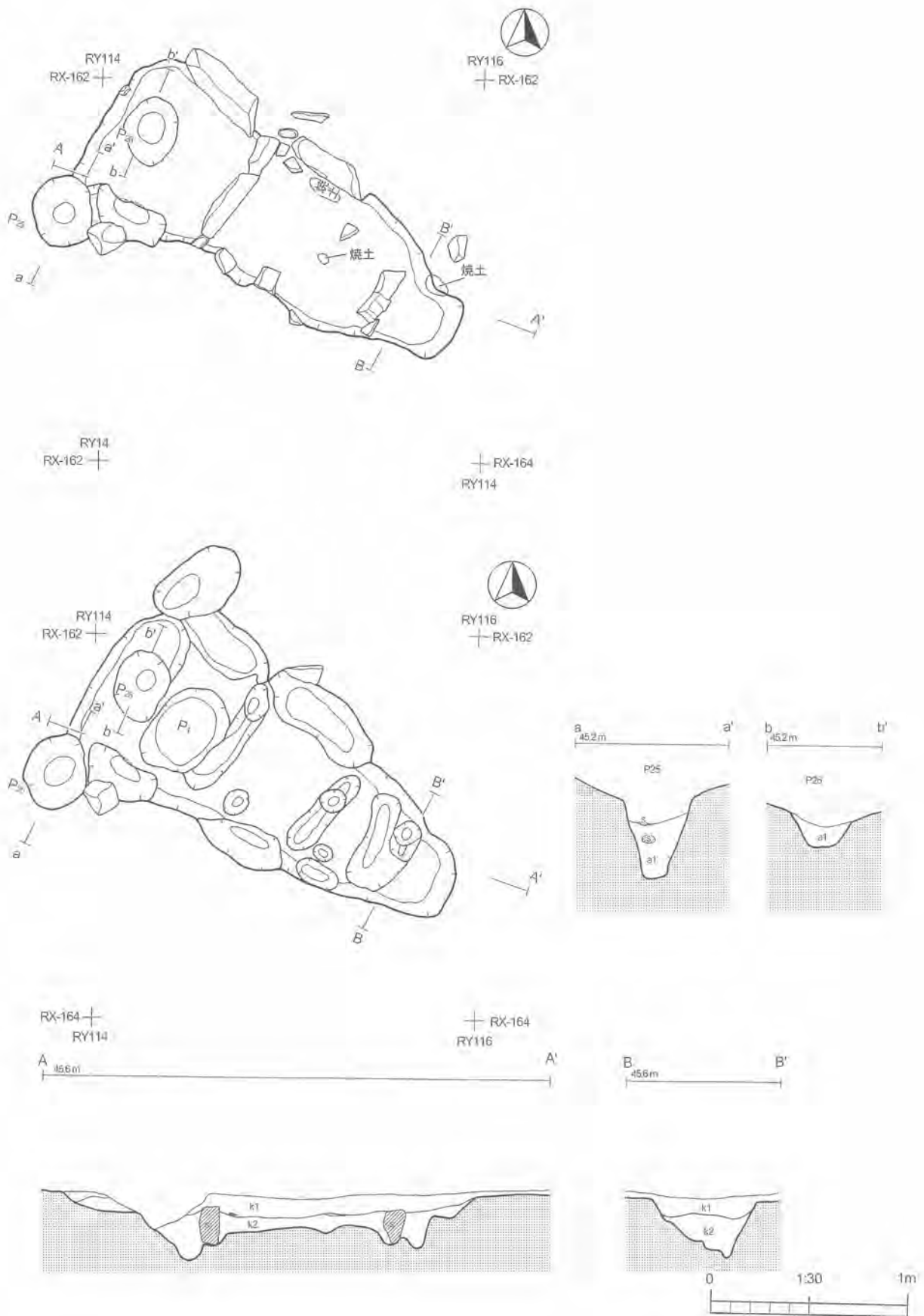
<炉跡> 床面の南端（炉Ⅰ）と西端（炉Ⅱ）で検出している。新旧関係は、炉Ⅱは床面直下から出土しており、炉Ⅰが新しいが、炉Ⅱの位置からみて、同一住居内での作り替えと判断した。

炉Ⅰ（第35図）

炉Ⅰは、いわゆる複式炉である。「日」字形の石囲炉（Ⅰ部）、掘込炉（Ⅱ部）、前庭部の三部で構成される。平面形は下膨れの不整形を呈し、主軸方向は北東である。埋甕は出土していないが、主軸延長線上北側で、台石かと思われる円形の扁平な石を検出している。規模は、Ⅰ部が30cm×25cm、40cm×20cm、Ⅱ部が60cm×50cmと並び、前庭部は南北80cmである。Ⅰ、Ⅱ部では、6箇所焼土が確認されているが、前庭部では確認されていない。使用面はⅠ部では浅く、Ⅱ部でもっとも深くなり、前庭部で再び浅くなる。埋土層は、a～c層が炉の埋土層で、c～f層が構築土層である。焼土層は検出していない。



第35图 C-2号竖穴住居跡炉 I



第36图 C-2号竖穴住居跡炉Ⅱ

炉Ⅱ（第36図）

炉Ⅱは掘り方からみると、Ⅲ部で構成される炉Ⅰとほぼ同形の複式炉である。異なる点は、前庭部も方形に作っている点である。規模は、Ⅰ部が25cm×30cm、40cm×20cm、Ⅱ部が60×45cm、前庭部が75cm×65cmと並び、規模からみても炉Ⅰと同じといえる。埋土は2層に分れる。K1層は暗褐色土を含む固くしまった褐色土層、K2層は黒褐色土混じり固めの黒色土層である。

出土遺物（第37～47図）

1～16は床面及び炉跡からの出土である。

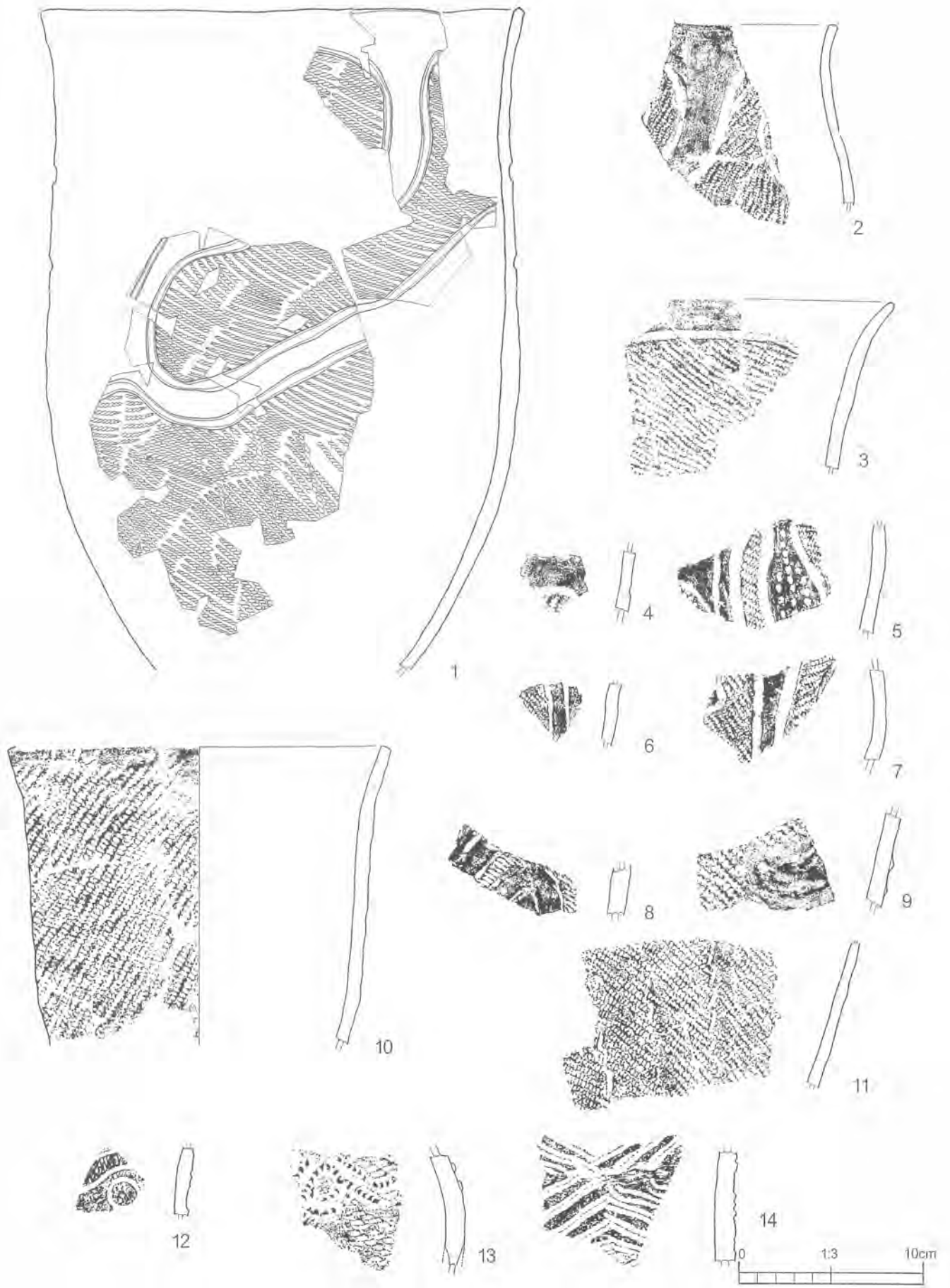
1は胴部がやや張出し、口縁部がわずかに外反する深鉢である。連結「S」文を沈線で区画し、縄文を充填する。2、3も1と同じ施文による深鉢の口縁部である。4～7は磨消縄文を施された深鉢の体部片である。5は磨消の上に円形の刺突が施される。隆起区画文を施文された体部片である。10は口縁部から下をLR単節斜縄文を縦走させた深鉢、11は結節縄文を縦回転させた深鉢の体部片である。1～3は大木10式に伴う。12は沈線と円形刺突文を施文され、13は細い波状の粘土紐に半円形の粘土紐を下げるように貼付し、粘土紐には細かい刻目が入る。12、13は大木3式に伴う。14は撚糸文で施文される。15はLR単節縄文を縦回転させたずんどう型深鉢、16は底面の全面に網代痕を残す深鉢の底部である。

17～36はD層の出土である。17は沈線による「S」字状区画を縄文で充填する深鉢の口縁部である。18は高坏の口縁部である。上～中位に変形工字文、下位に縄文を配す。19は隆起区画文、21は磨消縄文を伴う深鉢の口縁部である。22は沈線に円形刺突を加え、23は沈線による区画を撚糸文で埋める。20は口縁部から下を撚糸文で施文した深鉢である。24は結節縄文、25はRL単節縄文をそれぞれ縦回転させた深鉢の口縁部である。26は25と同施文の深鉢体部片である。27は沈線による区画に縄文と撚糸文を施文する。28～32磨消縄文で施文された体部片である。29は隆起区画文に円形刺突を伴う。33、34は複合口縁である。33は山形の小突起と口縁部の下に貼瘤をもつ。複合口縁部にも施文される。34は複合口縁部に2列、口縁部の下に1列、斜方向の細かい刺突が施されている。35は太めの粘土紐に斜方向の刻目が入る。33～35は大木6～7a式に伴うものと思われる。36は底面に木葉痕を残す深鉢の底部片である。

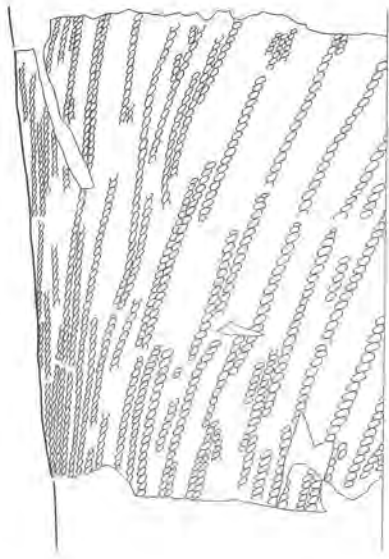
37～65はC層の出土である。37は弥生の精製の甕である。口縁部は直立し、肩部が張出す。口縁部は無文、頸部から下に縄文を施す。頸部の境と口縁部内面に沈線をめぐらす。38はRL単節斜縄文を縦回転させ、底面に網代痕を残す小形の深鉢である。39は結節縄文を縦回転させる深鉢の口縁部である。40、42は磨消縄文で施文され、42は隆起区画文を伴う。43はブリッジ状の把手が付けられた口縁部である。44、48は結節縄文を縦走させる。45はLR単節斜縄文、46、47はRL単節斜縄文を縦回転させる。49は横位の沈線、51は水平、斜方向の沈線に半円形の刺突が施され、50は沈線の中に縦位の刺突が施された口縁部である。52～59は磨消縄文を伴った体部片である。56、57は隆起区画文を伴い、59は撚糸文で施文される。60は底面に木葉痕のほかに、円形の溝跡を周縁部に残している。61は網代痕、62は木葉痕を残している底部である。63、64はLR単節斜縄文を施された深鉢の底部である。65は小形の鉢の底部である。

66～104はB層の出土である。66～69は弥生土器である。66～68は高坏の口縁部である。66、67は山形口縁で、67は粘土瘤が貼付される。69は口縁部が無文の甕の口縁部である。70は沈線で区画（「S」字状か）し、縄文を充填する。70から76は沈線による区画と円形刺突で施文される。74は大きめの凹穴の周囲を刺突痕が円形に囲む。70～74は大木10式に伴う。77はキャリパー型深鉢の口縁部である。隆沈線で文様帯を区画し、区画の下部を粘土紐で結び、粘土紐に刻みを入れる。上部は山形の粘土紐で連絡し、山形の頂部に沈線で丸を描く。大木7b式に伴う。78は複合口縁で、山形口縁の頂部である。頂部には抉りが入り、その下に凹穴を作る。複合口縁上には鋸歯状の沈線が施される。大木7a式に伴うか。79は沈線で施文したあと、隆線上に爪型の刻みを1本おきに入れていく。80は口縁部の無文帯に円形刺突を施している。81は撚糸文、82、83、87はRL単節斜縄文を縦回転させて施文する。84～86は結節縄文の縦回転による施文である。88は結束縄文、89は無節の縄文による施文である。90～97、100、101は磨消縄文を伴う体部片である。99は沈線に円形刺突を施す。98、102は結節縄文を縦回転させているが、102は渦文状の粘土紐が貼付される。103、104は網代痕を底面に残す底部である。

105～123はA層の出土である。105～107は弥生土器である。105は高坏の口縁部である。山形口縁で、内外面を沈線で施文される。106は浅鉢の口縁部と思われる。107は甕の口縁部である。口縁部は無文で、頸部に沈線が入る。108～112、114～116、119には沈線による区画と磨消が伴う。119は「S」字状の区画文と結節縄文で施文される。大木10式に伴う。113、118は結節縄文の縦回転で施文される。113、120の底部は網代痕を残す。121は粘土紐と縄文の側面圧痕で施文され、122の粘土紐には刻みが入る。123は竹管による円形刺突文を施される。

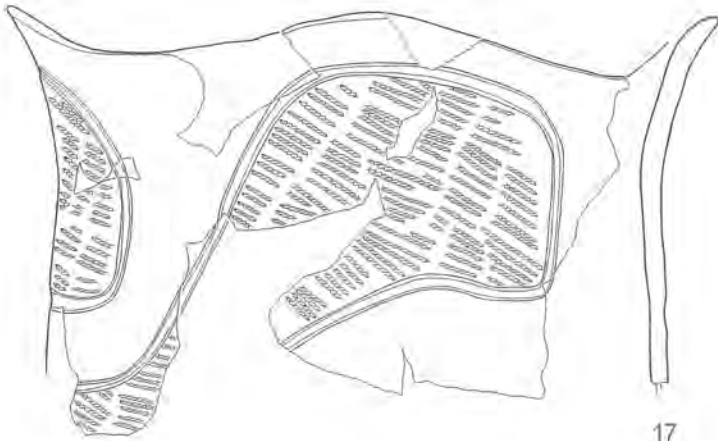


第37图 C-2号住居跡出土遺物(1)

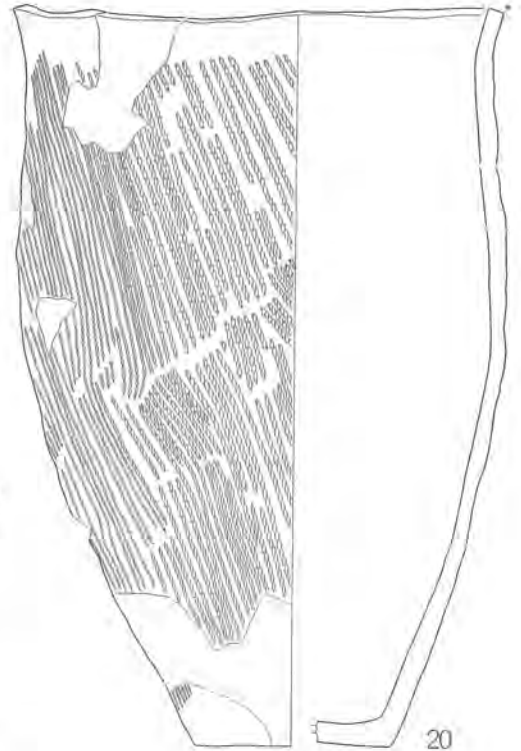


15

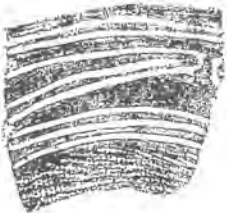
16



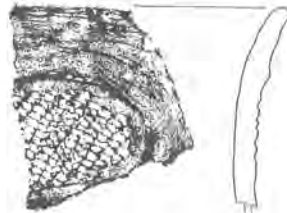
17



20



18



19



21



24



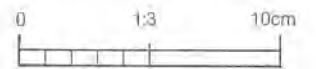
25



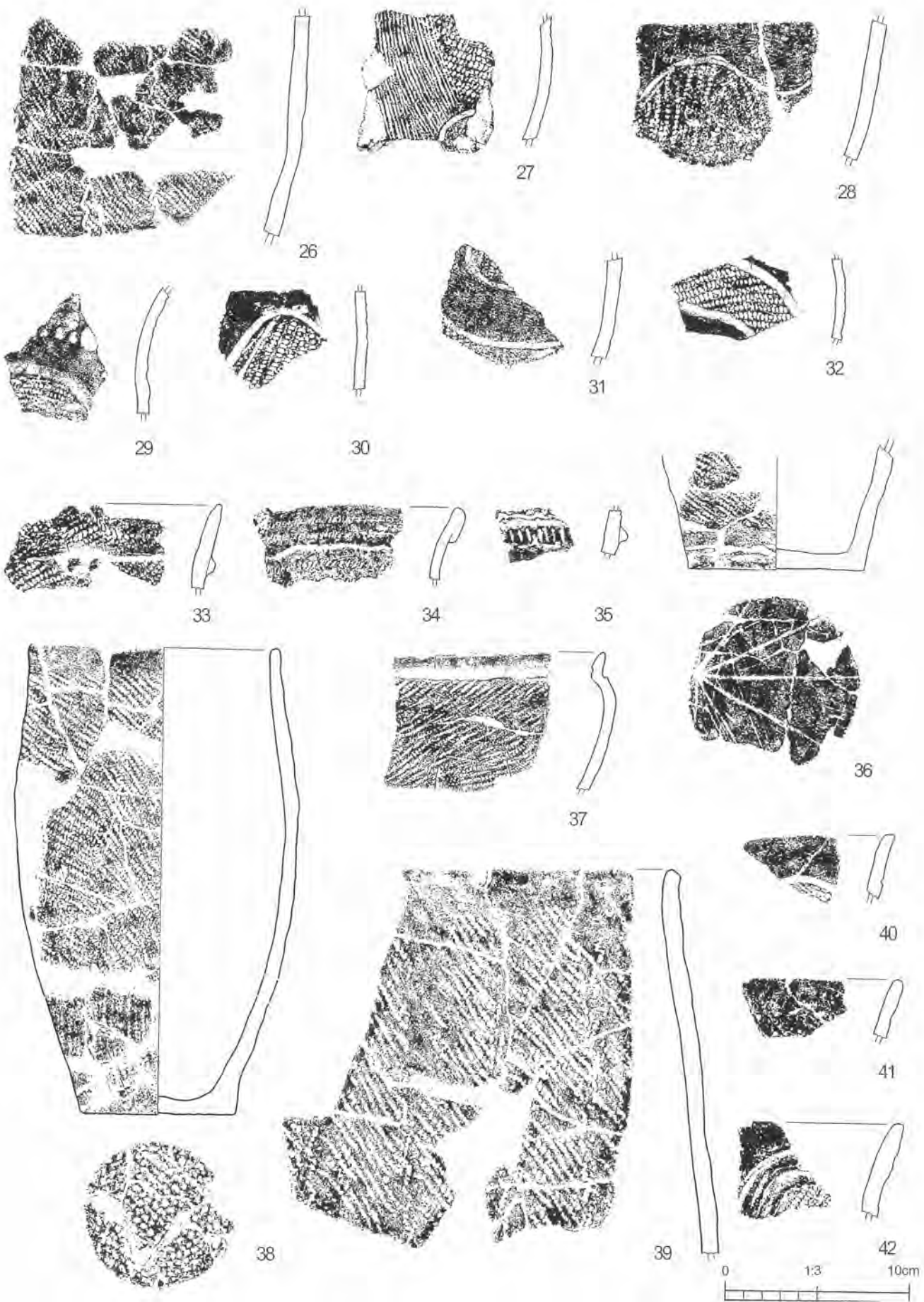
22



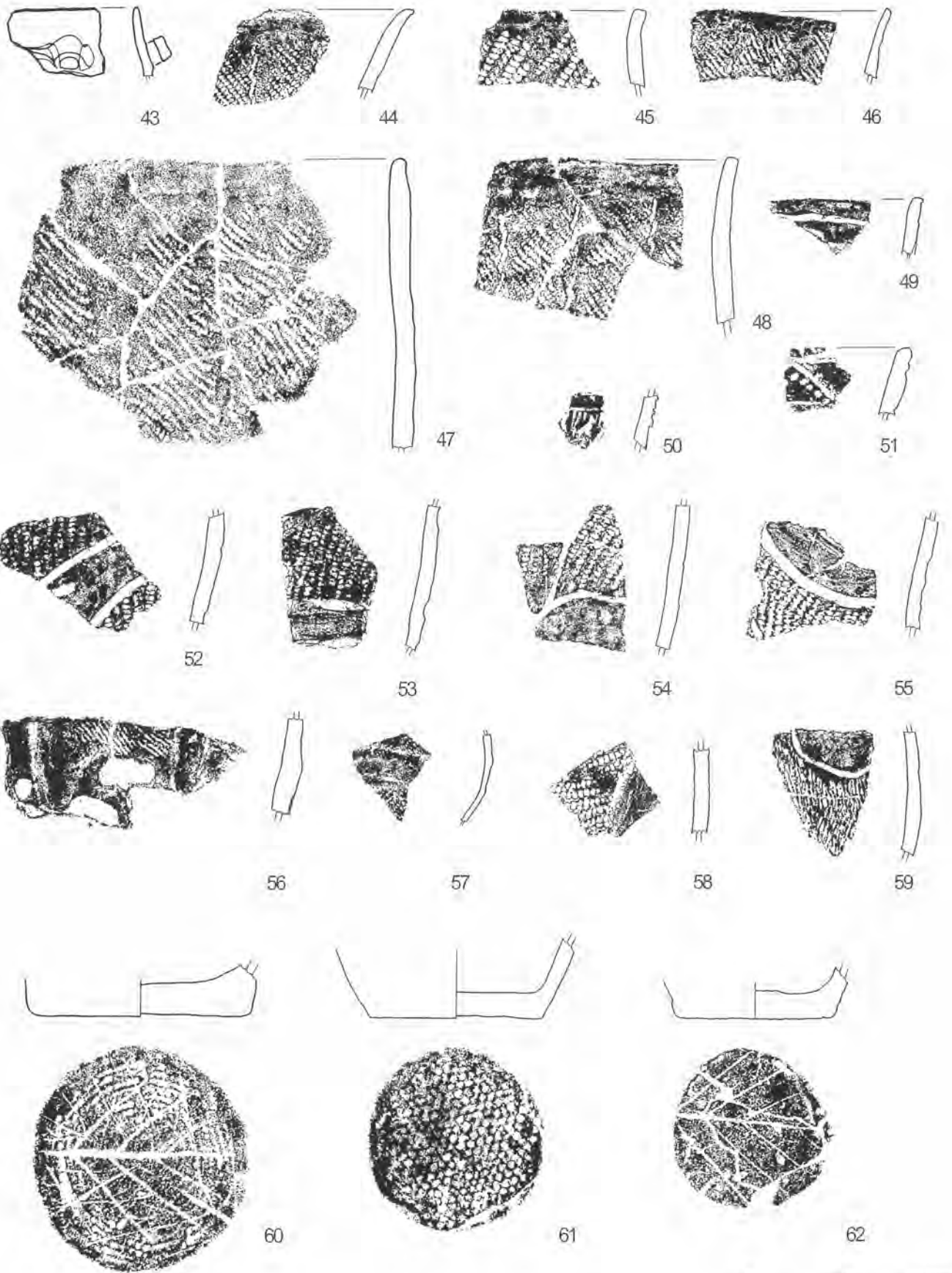
23



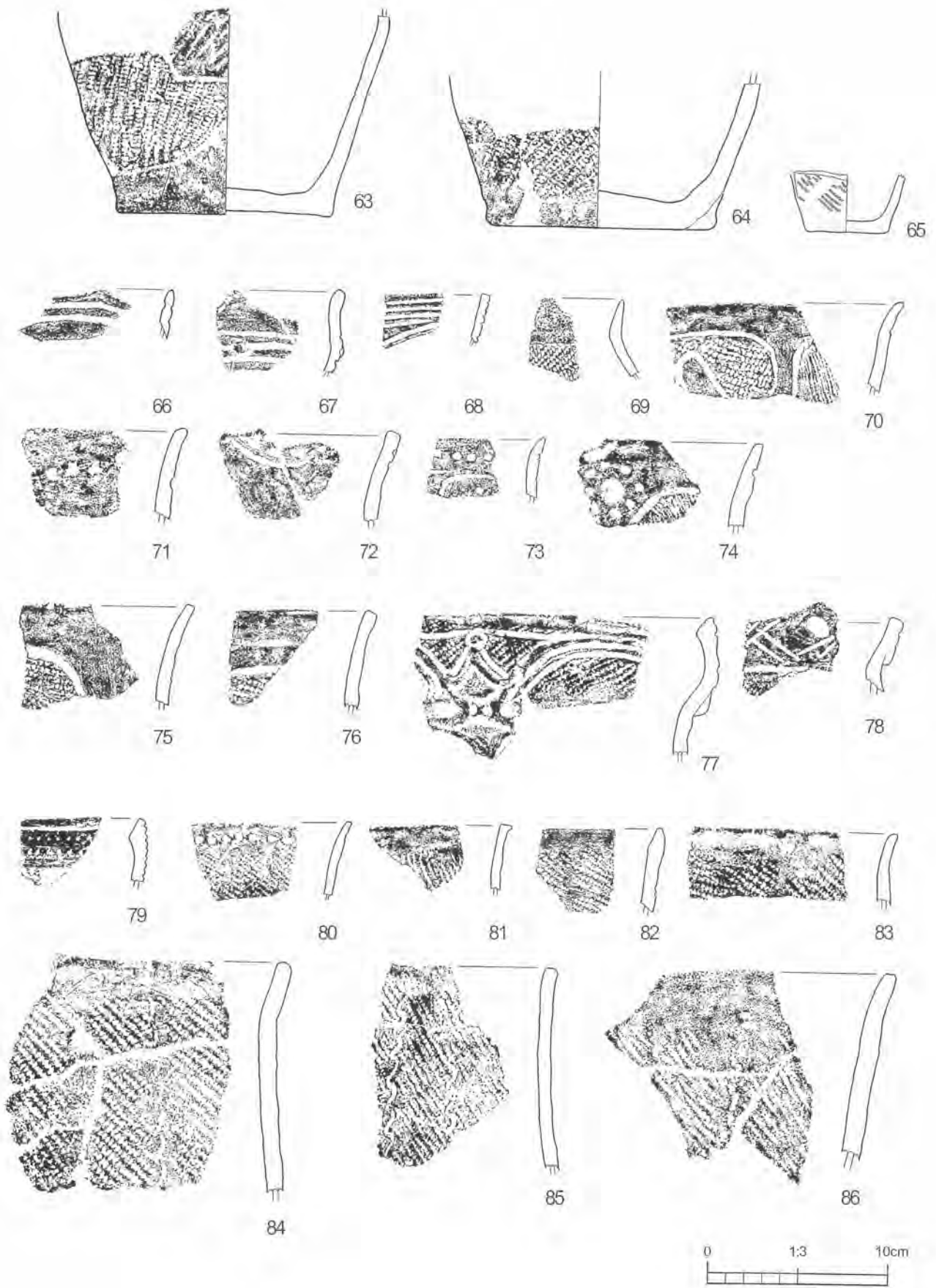
第38图 C-2号住居跡出土遺物(2)



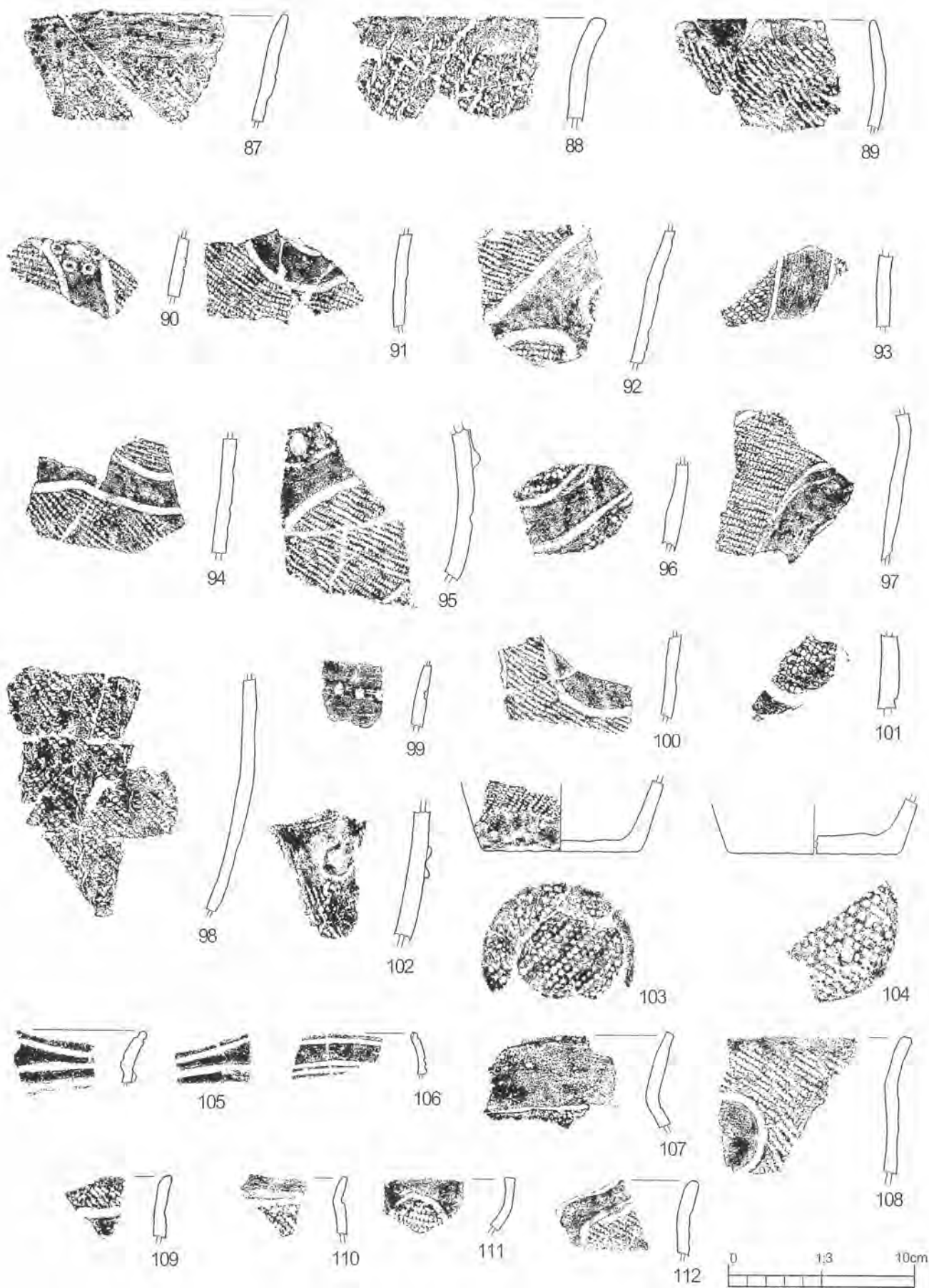
第39图 C-2号竖穴住居跡出土遺物(3)



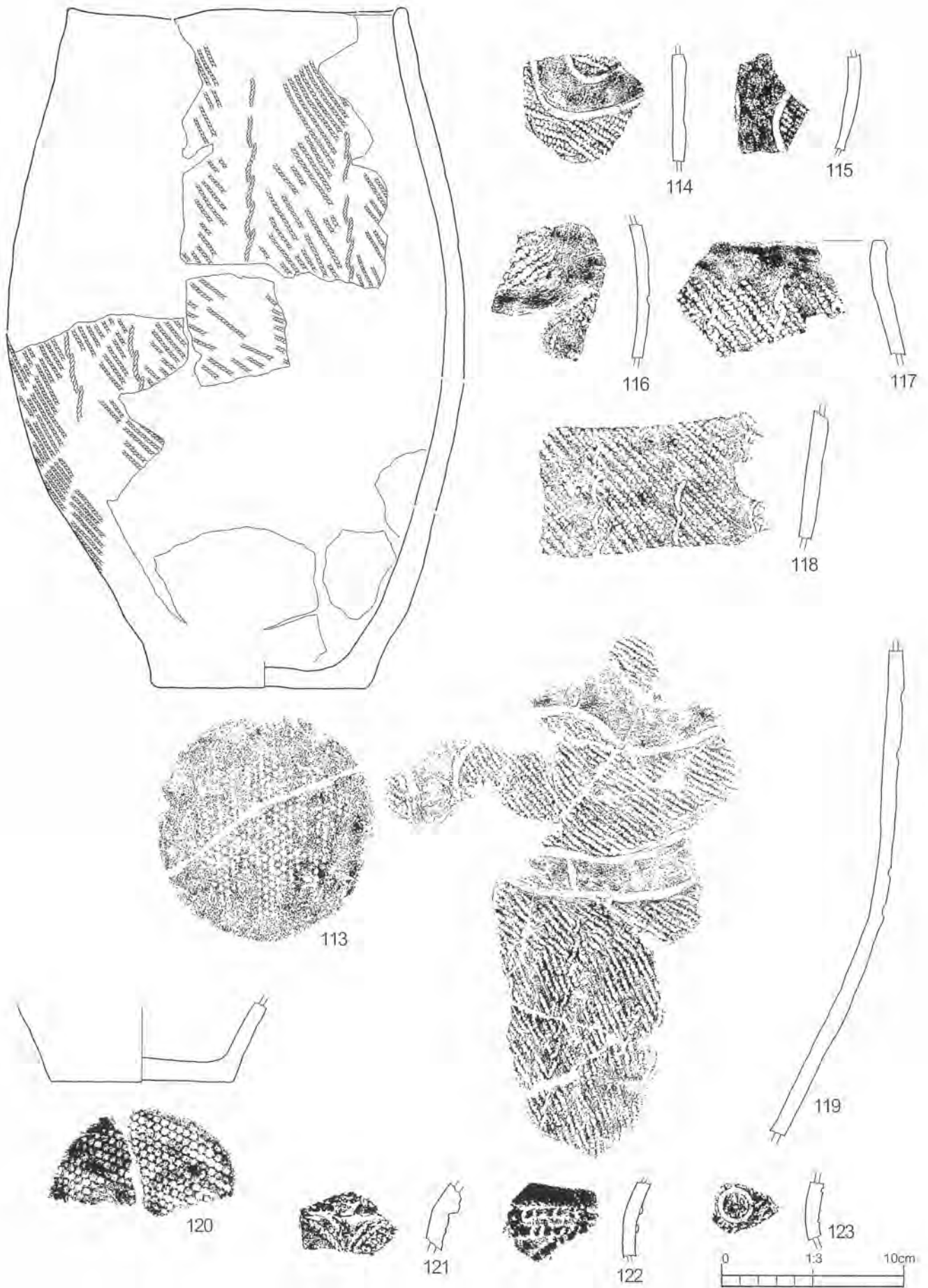
第40图 C-2号竖穴住居跡出土遺物(4)



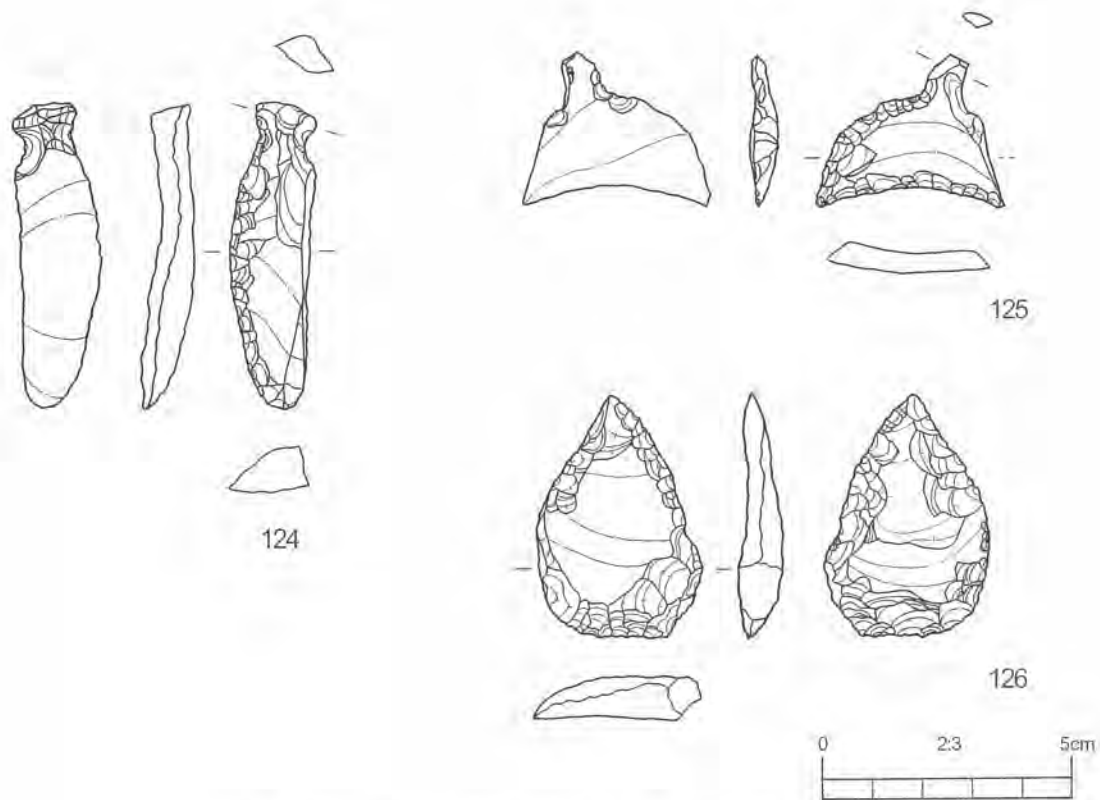
第41图 C-2号竖穴住居跡出土遺物(5)



第42图 C-2号竖穴住居跡出土遺物(6)



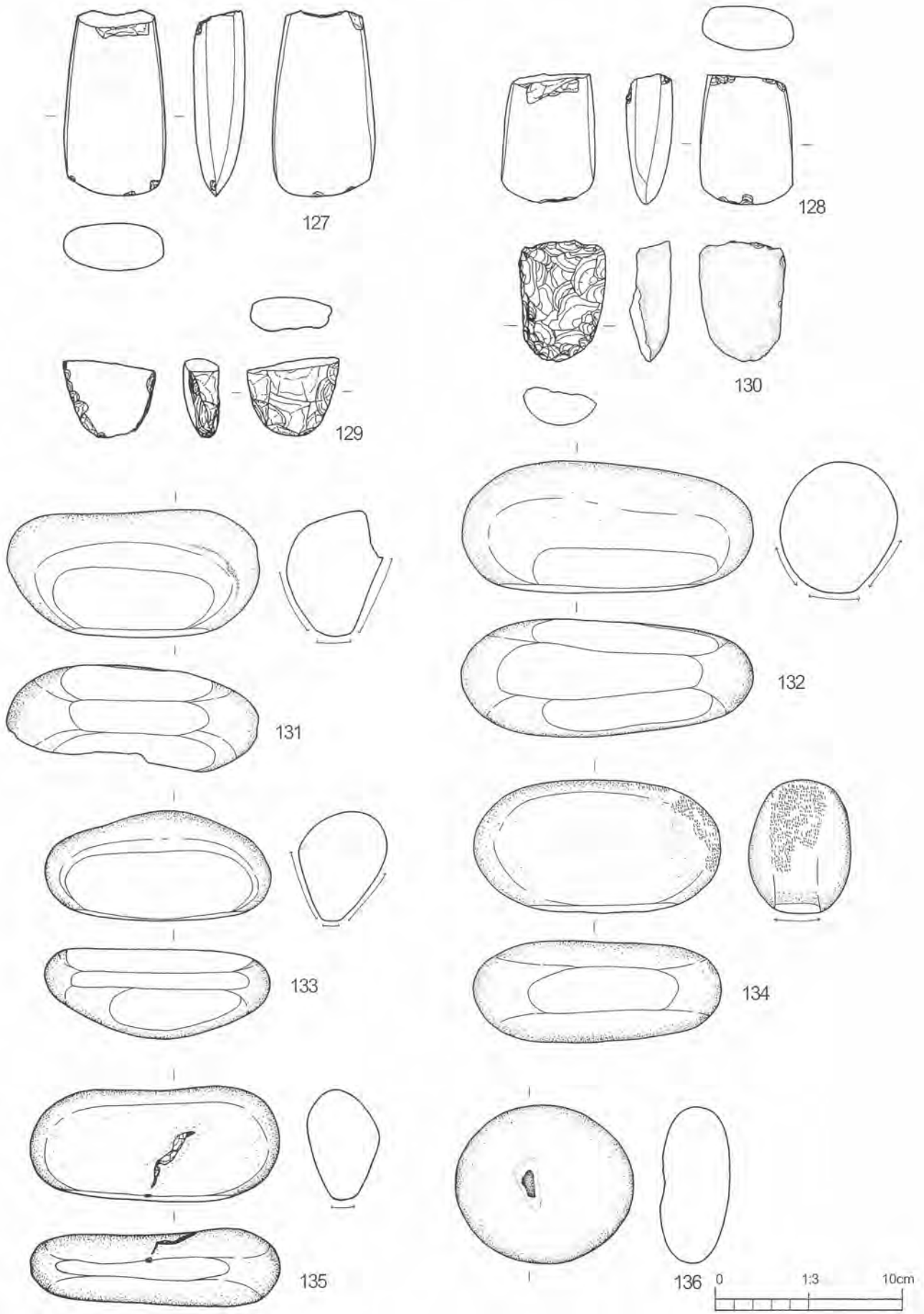
第43图 C-2 竖穴住居跡出土遺物 (7)



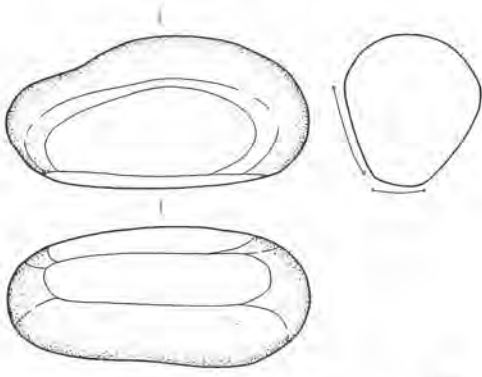
第44図 C-2号竪穴住居跡出土遺物・石器(8)

124～140は石器である。124、125は石匙である。124は縦型で、片面の周縁を加工し、刃部末端は尖らない。125は横型で、片面の周縁を加工し、刃部末端は尖る。126は両面の周縁を加工して刃部をつくりだし、先端を尖らしている。錐部の短い石錐と推定する。127～130は石斧である。127、128は胴部下半の幅がやや広くなり、刃縁は丸みをもつ。129は片面に研磨を施し、片面は剥離調整の段階である。130は打製石斧である。片面は剥離調整を施し、片面は未加工のままである。131～135、137は敲打磨石である。135をのぞき、機能磨面と調整磨面をもち、134は敲打痕を残す。136は凹石である。片面のほぼ中央部に細長い凹みをもつ。138は敲石である。片方の先端部に敲打痕を残し、敲打面は平らになる。139、140はすり石である。楕円礫の側面をほぼ全面にわたって擦っている。141は石皿である。石材は軽石である。

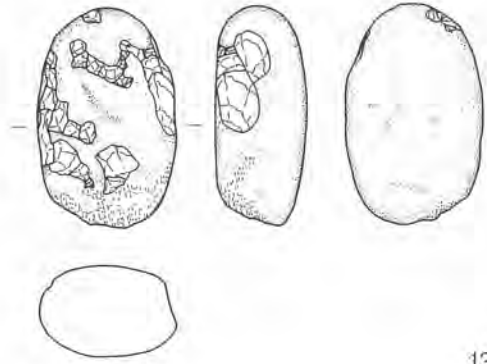
142、143は石製品である。142は炉Ⅰの前庭部付近から出土したヒスイのペンダントである。片面に縦方向の段がついている。穿孔痕は片端の径がやや広がっている。薄い緑が基調となっているが、周縁部は白色にちかく、中心部に濃い緑の部分を残している。143の用途は不明の製品である。石の先端部を釋状に切れ込みを入れて、三つの部分に分ける。それぞれの部分に凹状の穴を穿つ。穴は正面のものが大きく、側面の二つは小さい。基部周辺には剥離痕を残している。完形品でないとするれば、石棒の基部という可能性も考えられる。



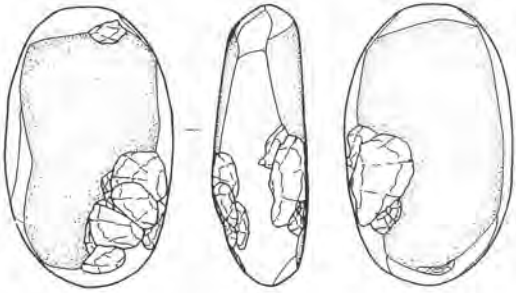
第45图 C-2号竖穴住居跡出土遺物・石器(9)



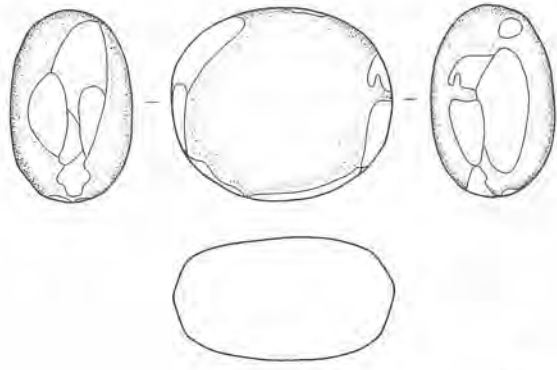
137



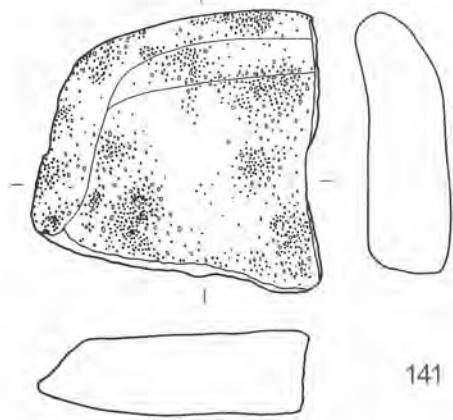
138



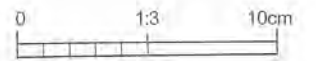
139



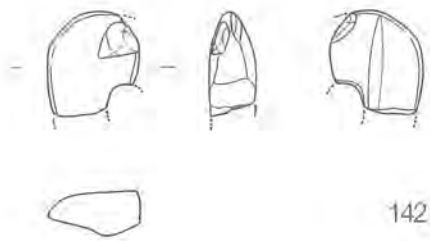
140



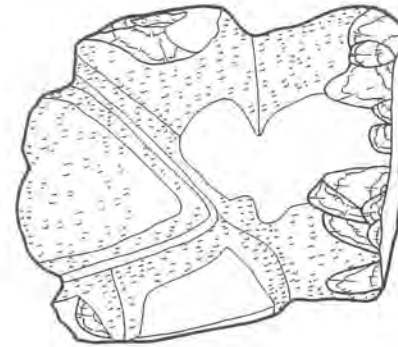
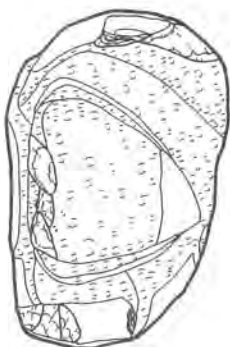
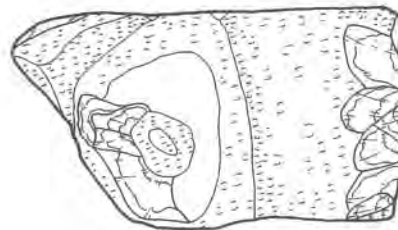
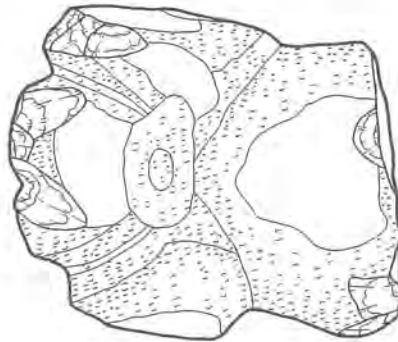
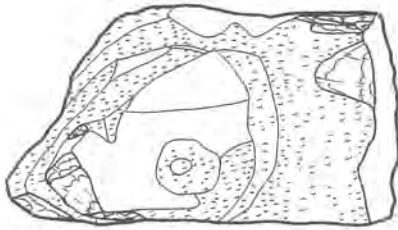
141



第46図 C-2号竪穴住居跡出土遺物・石器(10)



142



143



第47図 C-2号竪穴住居跡出土遺物・石製品(11)

D-4号住居跡（第48図）

＜検出状況＞ D区南西部に位置する。検出面は3層下面である。切り合いは、D-2号住居跡に切られ、D-11号土坑跡を切る。炉跡と壁の一部を検出した。

＜形状・規模＞ 平面形は円形と推定されるが、規模は不明である。壁は外反して立上がり、壁高は南側で25cmである。床面はやや起伏があり、勾配は北にむかって下がり気味である。炉の周辺部に貼床が施されていた。周溝は検出していない。

＜埋土＞ 4層に大別される。A層は褐灰土の混じるややしまりのある黒褐色土層である。B層は褐灰土の混じる固めでしまりのある褐色土層で、大きめの礫を多く含む。C層は褐灰土の混じる軟質の灰黄褐土である。D層は褐灰土の混じる軟質の黒褐色土層である。E1層は焼土層である。F1は貼床層である。G1、G2層は、堅穴の構築土で、礫層の上に敷いたものと思われる。

＜柱穴＞ 床面から3基の土坑が検出している。P1は規模が小さく、柱痕は確認されていない。P2、P3は比較的規模が大きく、支柱穴にあたると思われる。P2は断面のみの確認である。

(cm)

PIT	P1	P2	P3
径	30	24	70
深	16	58	55

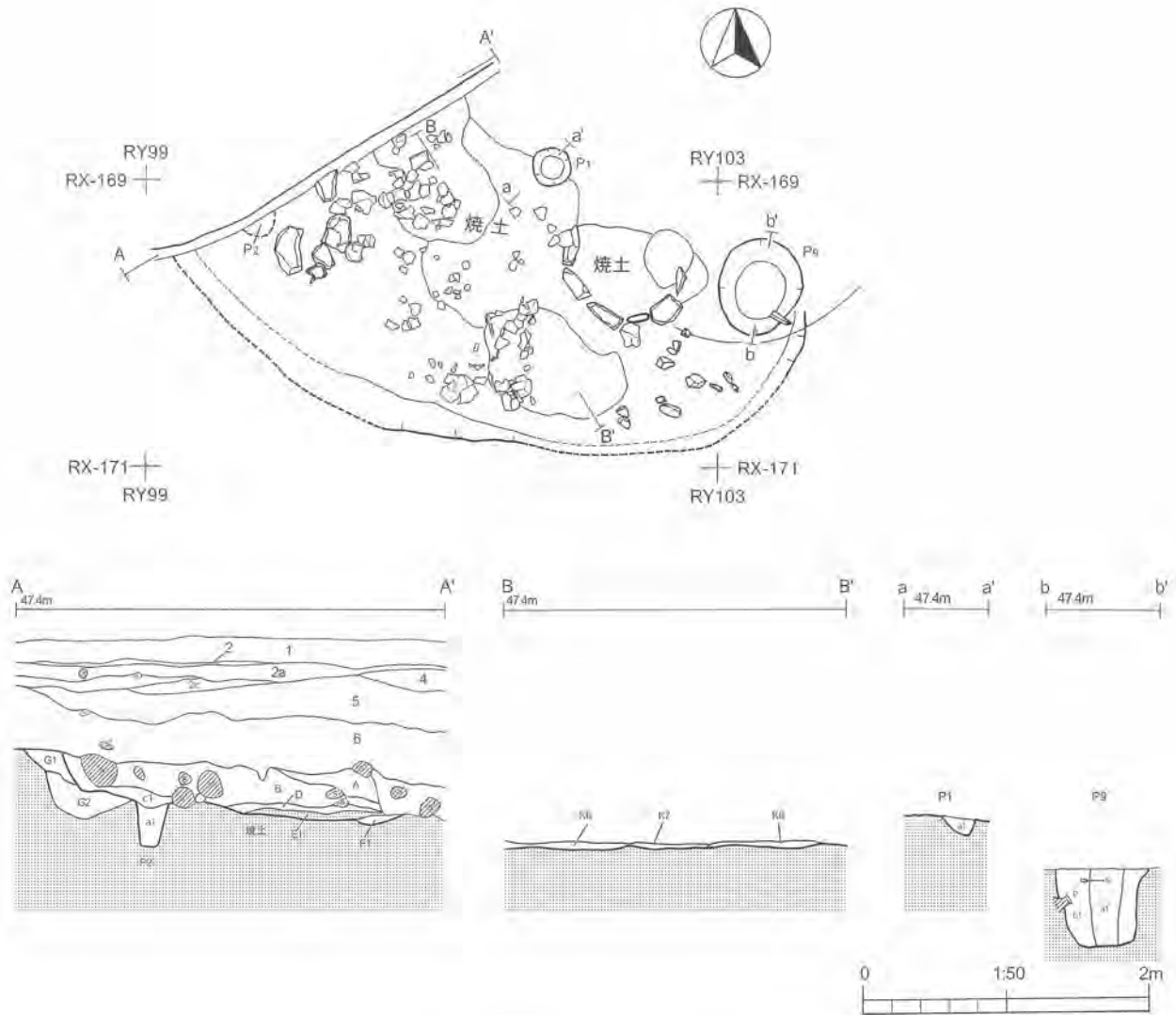
＜炉跡＞（第49図） 西側の壁から東に約1mの壁寄り地点で検出した。隅丸長方形の石囲炉である。南の部分はD-2号住居跡の構築時に壊され、炉石の埋設跡のみを残している。炉の西側に炭混じりの焼土が広がっている。土坑を不整形に浅く掘り込み、周縁部に石を方形に据えている。規模は、1.0m×0.7m、深さは17cmである。K2層はやや固く焼きしまった焼土層で、層厚は約5cmである。K4層は構築土層である。K4層下部から「L」字に組まれた石組みが出土している。「L」字の石組みだけで、使用痕もないことから、旧炉跡ではなく、何らかの理由で途中で放棄されたものとする。西側の焼土の下から小土坑を伴ったごく浅い掘り込みを検出している。

出土遺物（第50～52図）

1～11は最下層～床面の出土である。1は胴部の張る深鉢である。胴上部に沈線による「ノ」字状の無文帯を区画する。大木10式（Ⅱ～Ⅲ期）に伴う。2はRL単節斜縄文を縦回転させるずんどう型の深鉢である。3は隆起区画文を伴う深鉢の口縁部である。4は結節縄文を縦回転させる。5は複合口縁で、無文である。6も複合口縁である。縦、横方向に直、波状の沈線を施し、粘土紐には円形の刺突が加えられる。7は口縁部が肥厚し、隆線による区画と縄文側面圧痕を伴う。8も口縁部が肥厚し、隆沈線による区画を伴う。9、11は沈線と磨消で施文される。12は胎土に繊維を含み、結節縄文を横回転させる。

12～22は3層の出土である。12は弥生土器、高坏の体部片である。13は口縁部に半円の刺突をめぐらせる。14は結節縄文を縦回転させる胴張りの深鉢である。15は口縁部に橋状の把手をもち、隆起線上に刺突が入る。16～22は磨消を伴う体部片である。

23～27は2層の出土である。23は結節縄文を縦回転させる胴張りの深鉢である。24～27は磨消縄文を伴い、24には円形刺突列が加えられる。

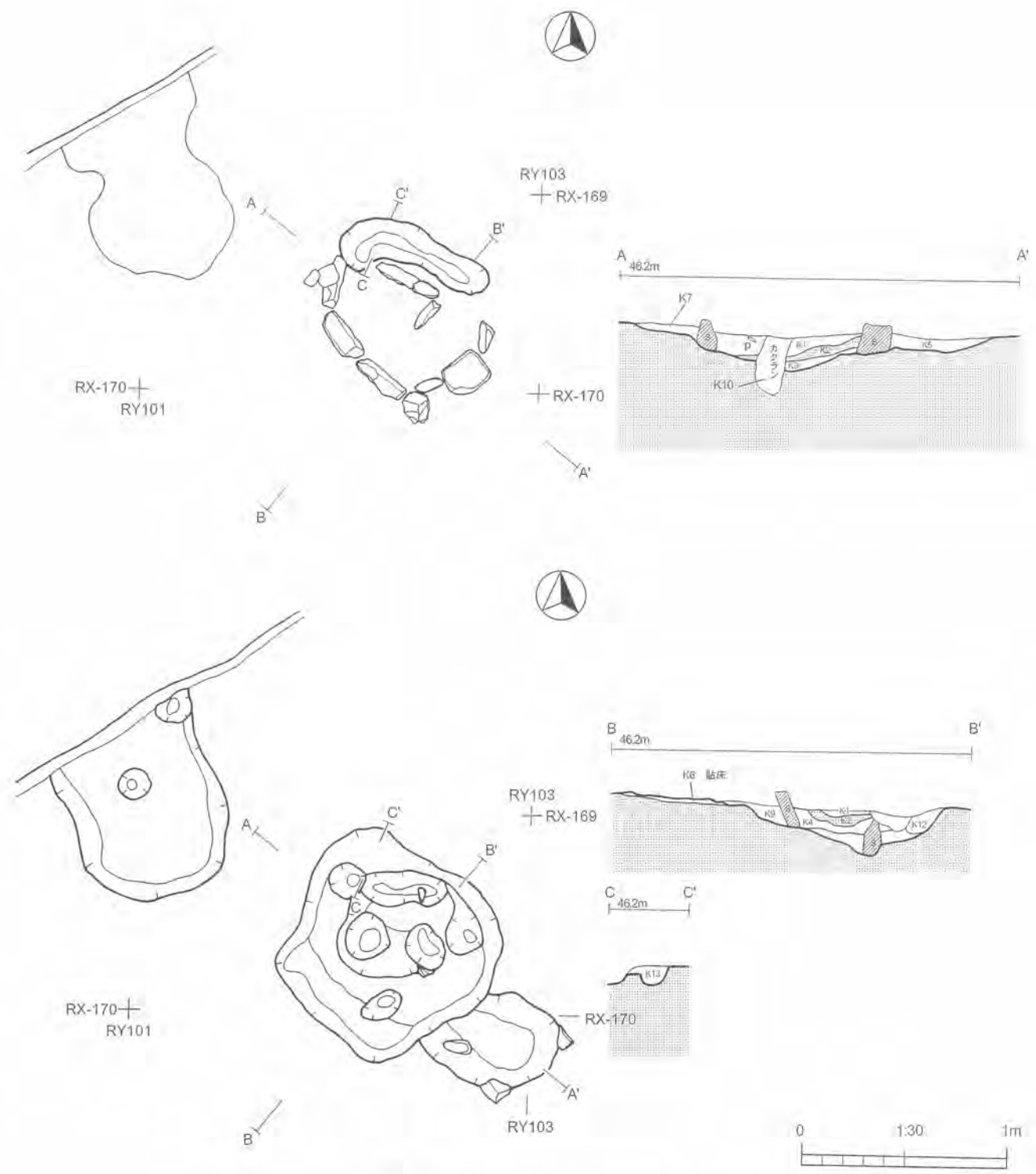


第48図 D-4号竪穴住居跡

28～32は1層の出土である。28は口縁部は無文にし、RL単節斜縄文を縦走させる。29は円形刺突列の上を無文して、下に縄文を施す。30～32は沈線と磨消を伴い、31は隆起区画文である。

33はRL単節斜縄文を縦回転させる深鉢で、底面に網代痕を残す。34は結節縄文を縦回転させる胴張りの深鉢で、底面に網代痕を残す。35は、溝跡を底面の周縁に残す底部である。同様の底部がC-2号住居跡から出土している。

<時期> 床面出土遺物から大木10式に伴う縄文中期後葉に属する。



第49图 D-4号竖穴住居炉跡

<D-4号竖穴住居跡土層観察表>

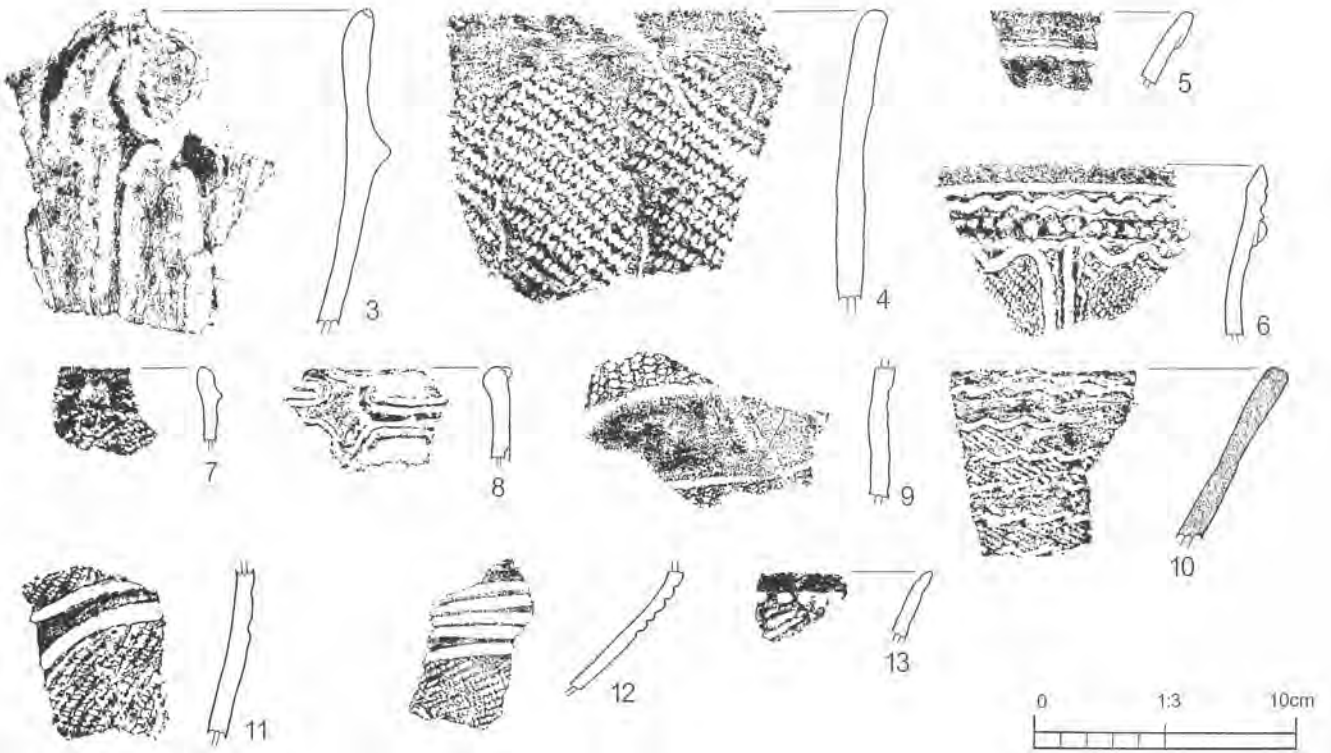
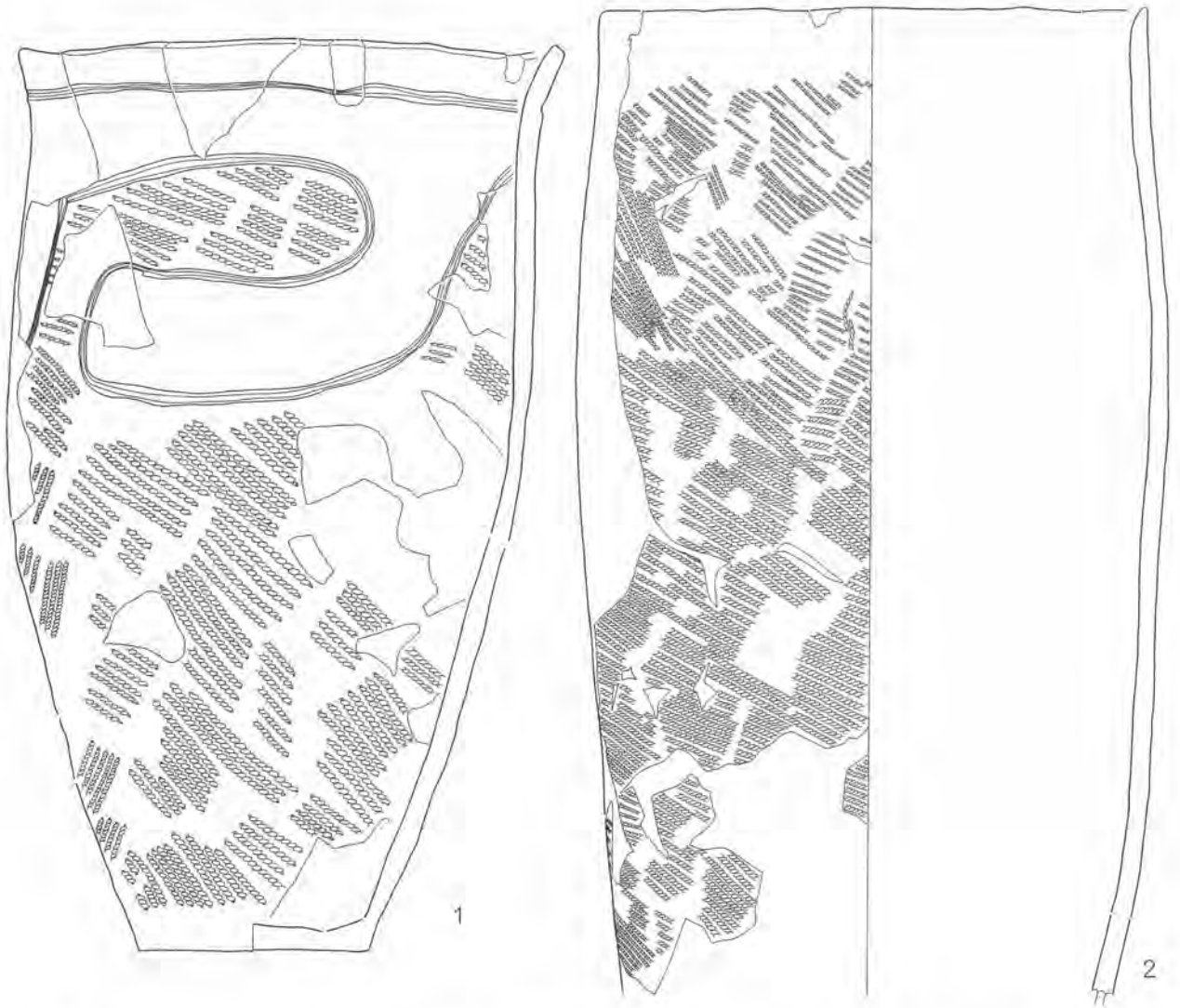
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
G 1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR2/2 砂壤土10%	中、疎。
G 2	10YR5/6 埴壤土 黄褐	10YR4/4 砂壤土15%	固、疎。粘土ブロック。
F 1	7.5YR2/2 砂壤土 黒褐	10YR2/2 砂壤土5%	固め、疎。少量の炭、焼土。貼床?
E 1	10YR2/2 砂壤土 黒褐	10YR2/1 砂壤土10%	中、疎。多量の炭、焼土。

<D-4号竖穴住居跡柱穴土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P 2 a 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR3/3 砂壤土10%	軟質、疎。少量の炭。
P 3 a 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土5%	中～固、中。
// b 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10%	固め。a 1より明。

<D-4号竖穴住居炉跡土層観察表>

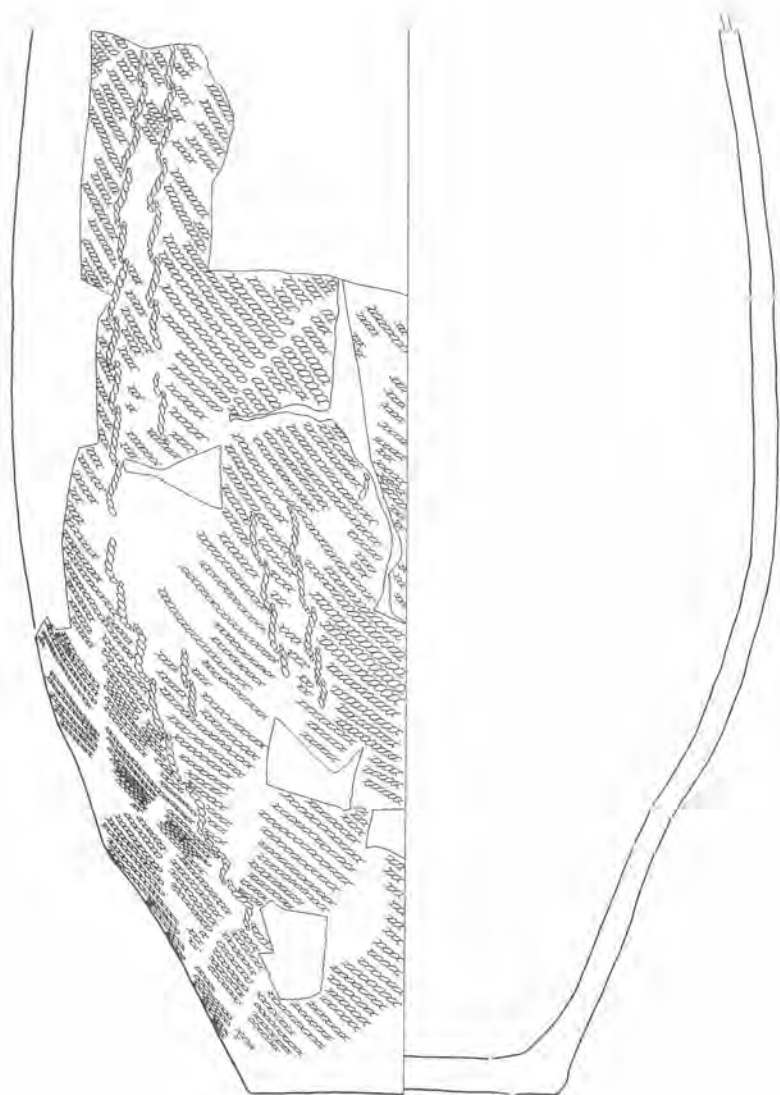
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
k 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR2/2 砂壤土10%	中、中～密。炭混入。
k 2	5YR4/8 赤褐砂壤土	5YR4/6 砂壤土10% 7.5YR5/4 砂壤土10%	中～固、中～密。
k 3	10YR3/4 暗褐砂壤土	7.5YR3/4 砂壤土10%	中～固、中。
k 4	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR3/4 砂壤土10%	軟、中。
k 5	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	軟、中。
k 6	10YR5/8 黄褐埴壤土	10YR2/2 砂壤土15%	固、密。
k 7	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR2/2 砂壤土10%	中～軟、中～密。炭、焼土多量に混入。
k 8	5YR4/8 赤褐砂壤土	5YR4/4 砂壤土15% 10YR2/2 砂壤土15%	固、中～密。
k 9	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中～固、中。炭、焼土多量に混入。
k 1 0	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/1 砂壤土15%	軟、中。炭多く含む。
K 1 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	7.5YR3/4 砂壤土5%	中～固、疎。
k 1 2	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	軟、中。
k 1 3	10YR3/4 暗褐砂壤土	7.5YR4/4 砂壤土10%	中、中。



第50图 D-4号竖穴住居跡出土遺物(1)



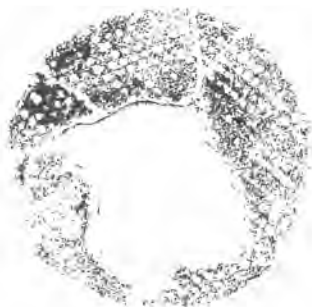
第51图 D-4号竖穴住居跡出土遺物(2)



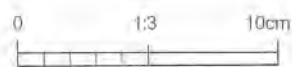
35



36



34



第52図 D-4号竖穴住居跡出土遺物(3)

D-5号住居跡（第53図）

＜検出状況＞ D区の北寄り、ほぼ中央に位置する。検出面は6層下面である。切り合いは、D-1号住居跡に切られ、D-6号、D-7号住居跡、D-12号土坑跡を切る。

＜形状・規模＞ 平面形は円形である。規模は径約4.5mである。壁は、東西で外反し、南では直に立上がる。壁高は、約50cmである。床面は西側で段が設けられているほかは平坦である。勾配は水平である。周溝は南東の壁際で新、旧の溝跡を検出している。規模はいずれも幅約15cm、深さ7～10cmである。貼床は検出していない。

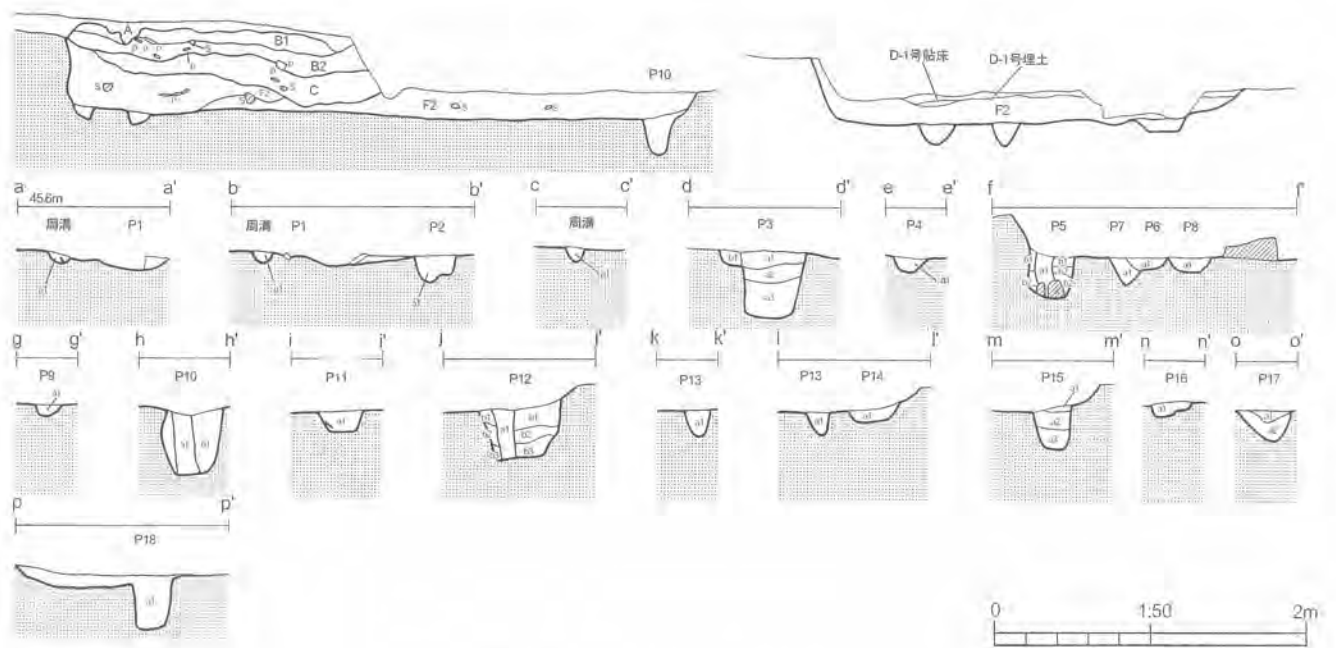
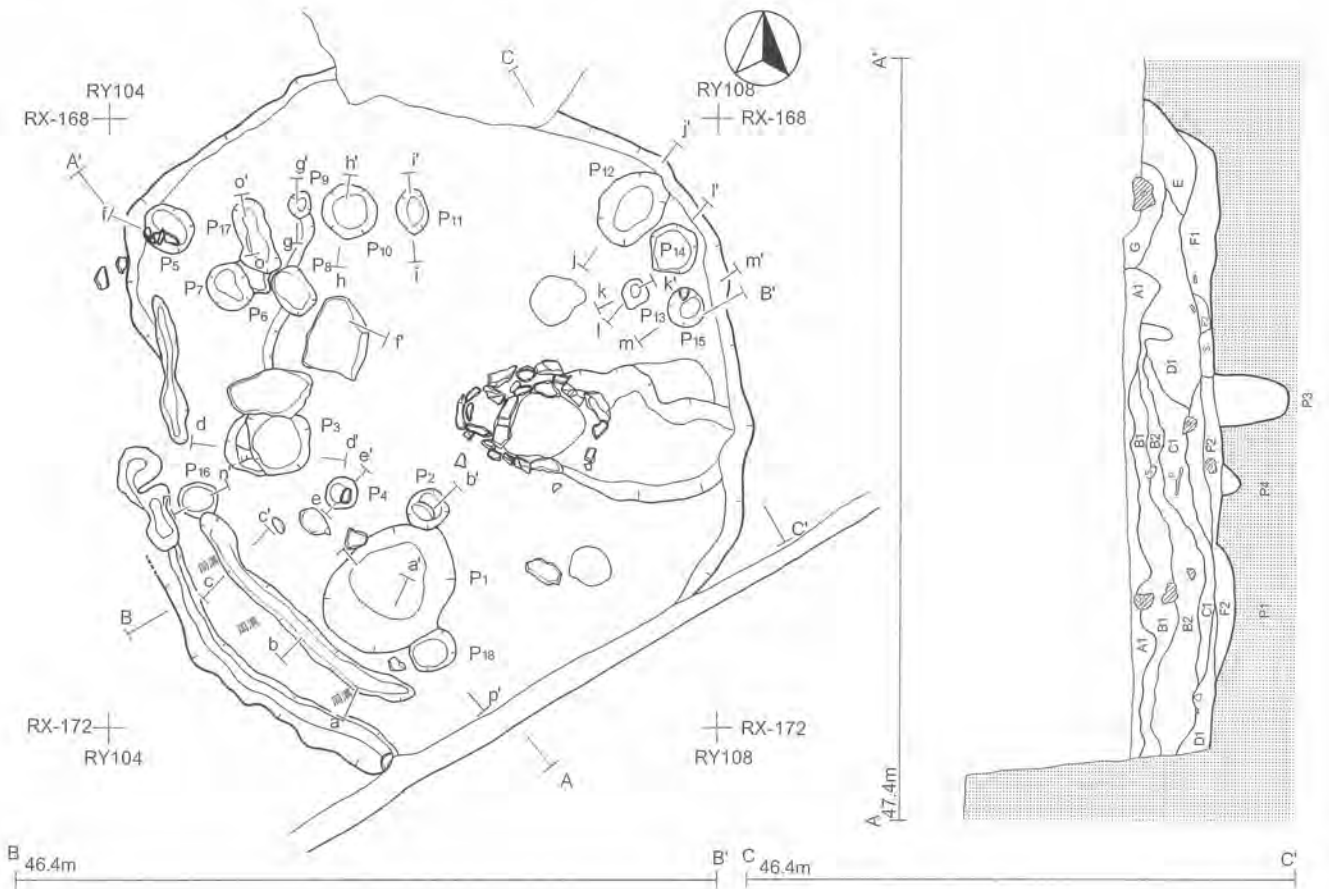
＜埋土＞ 6層に大別される。A層はやや固めの粘性のない黒色土層である。B層はあまり粘性のない黒褐色土層である。C層は褐色土の混じるやや軟質の黒褐色土層である。D層は暗褐色土の混じるあまり粘性のない黒褐色土である。E層は褐色土の多く混じるあまり粘性のない黒褐色土層である。F層は黒褐色土の混じるやや軟質の黒色土層である。

＜柱穴＞ 床面から18基の大小の土坑跡が出土している。柱跡を確認できたP5、P10、P12、比較的規模の大きいP3、P15、P19などが支柱穴にあたると思われる。

PIT	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P18	P9
径	96	28	58	73	34	28	33	33	19
深	9	17	43	9	27	8	19	9	7

PIT	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18
径	37	30	54	21	35	27	27	52×24	32
深	40	12	33	16	7	28	8	19	34

＜炉跡＞（第54図）床面の東の壁寄り、中央部に位置する。二組の石囲炉（Ⅰ部、Ⅱ部）と前庭部（Ⅲ部）から構成される複式炉である。主軸方向は西である。Ⅰ、Ⅱ部の石は方形に組まれている。Ⅰ部の規模は30cm×30cm、掘込みの深さは、23cmである。Ⅱ部の規模は70cm×60cm、掘込みの深さは25cmである。前庭部のⅢ部は、形状は不整楕円形で、規模は80cm×65cm、掘り方の深さは約15cmである。掘り方はⅡ部がもっとも深く、Ⅲ部でもっとも浅くなり、床面の勾配は東にむかって高くなっていく。Ⅰ、Ⅱ部は大きく楕円形に掘り込み、石組みでⅠ、Ⅱ部の規模を区別している。埋土はa、b層が埋土層、c層が焼土層、d～g層は構築土層である。c層の焼土は固くなくあまり粘性のない焼土層である。



第53图 D-5号竖穴住居跡

<D-5号竪穴住居跡埋土土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A 1	10YR2/1 黒シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴土20% 10YR1.7/1 シルト質埴土10%	中～固、中～疎。
B 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴土10%	中、中～疎。
B 2	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴土10%	中、中～疎。炭少量含む。
C 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土30% 7.5YR4/4 シルト質埴土10%	中～軟、疎。土器多く含む。
D 1	7.5YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土5%	中、中～疎。
E 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土20%	中、中～疎。
E 2	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土30%	中、中～疎。
F 1	10YR2/1 黒シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴土10%	中～軟、疎。
F 2	10YR2/1 黒シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴土20%	中～軟、疎。
D-1号最下層	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 黒シルト質埴土5%	中～軟、中～疎。
D-1号貼床	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土5%	中～固、中。

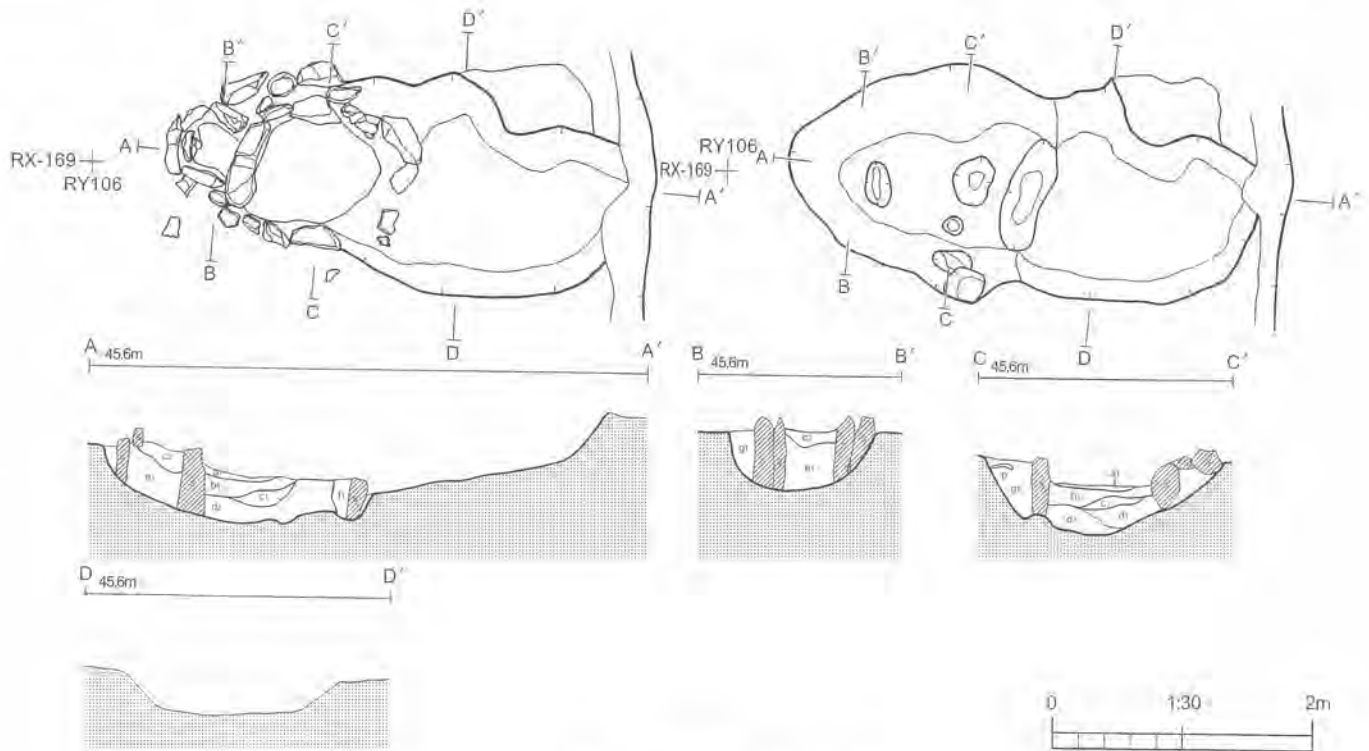
<D-5号竪穴住居跡柱穴土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P 1 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/1 シルト質埴壤土5%	中、中～疎。少量の炭。
P 2 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/1 シルト質埴壤土10%	軟質、疎。少量の炭。
P 3 a 1	10YR2/2 褐シルト質埴壤土	10YR3/3 シルト質埴土15%	中～固、中。少量の炭。
" a 2	10YR3/3 暗褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土20%	中、中。
" a 3	10YR3/4 暗褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土25%	中～軟、中～疎。少量の炭。
" b 1	10YR3/3 暗褐シルト質埴土	10YR3/4 シルト質埴土15%	中～固、中。少量の炭。
P 5 a 1	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR2/2 シルト質埴壤土15% 10YR4/4 シルト質埴壤土10%	軟、疎。
" b 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR4/4 シルト質埴土5%	中～軟、中～疎。
" b 2	10YR4/4 褐シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴土10%	中、中。
" b 3	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR4/4 シルト質埴土15%	中、中。
P 6 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR3/3 シルト質埴土15%	中～軟、中～疎。
P 7 b 1	10YR3/4 暗褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土30%	中、中～疎。
P 9 a 1	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR4/4 シルト質埴土20%	固、中。
P 1 0 a 1	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR4/4 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭。
" b 1	10YR4/4 褐シルト質埴土	10YR3/4 シルト質埴土20%	軟、疎。
P 1 1 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR4/4 シルト質埴土10%	軟質、疎。少量の炭。
P 1 2 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR3/3 シルト質埴土10% 10YR4/4 シルト質埴土5%	中、中。
" b 1	10YR3/2 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土10%	軟質、疎。少量の炭。
" b 2	10YR3/3 暗褐シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴壤土15%	軟質、疎。少量の炭。
" b 3	10YR3/4 暗褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭。
P 1 3 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/1 シルト質埴壤土10%	軟質、疎。少量の炭。グライ化
P 1 4 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR3/3 シルト質埴土20%	中、中。
P 1 5 a 1	10YR4/4 褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土20%	固、中。少量の炭。貼床?
" a 2	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/1 シルト質埴壤土10%	中～固、中。少量の炭。
" a 3	10YR3/4 暗褐シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴壤土10%	中、中。
P 1 5 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR3/4 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭。
" a 2	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR3/4 シルト質埴土20%	軟質、疎。微量の炭。
" a 3	10YR4/4 褐シルト質埴土	10YR3/4 シルト質埴土10%	中～軟、中。
P 1 7 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/1 シルト質埴壤土10%	中～固、中。
" a 2	10YR3/3 暗褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土30%	中～固、中。
P 1 8 a 1	10YR3/3 暗褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土20%	中～軟、疎。
周溝 a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/1 シルト質埴壤土5%	軟質、疎。少量の炭。

RY106
RX-168

RY106
RX-168

RX-168
RY106



第54図 D-5号住居炉跡

<D-5号竪穴住居炉跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴壤土10%	軟質、疎。少量の炭、骨片。
b 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴壤土20% 10YR3/3 シルト質埴土15%	少量の炭、骨片。a 1より暗
c 1	5YR3/6 暗赤褐シルト質埴土	7.5YR3/3 シルト質埴土15% 10YR3/4 シルト質埴土10%	やや疎。少量の炭。焼土層。
c 2	7.5YR3/4 暗褐シルト質埴土	7.5YR4/4 シルト質埴土10% 10YR2/3 シルト質埴土10%	やや疎。少量の炭。焼土層。
d 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭、骨片。
d 2	10YR4/4 褐シルト質埴土	10YR3/4 シルト質埴土20%	軟質、疎。微量の炭、骨片。
e 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	7.5YR3/3 シルト質埴土20%	中、中。炭少。
f 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴壤土5%	軟質、疎。微量の炭。
g 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴土10%	軟質、疎。少量の炭。

出土遺物（第55～60図）

1～19は床～F層の出土である。1は胴張りタイプの深鉢で、沈線によるU字状、∩文の区画を伴う。大木9式に伴う。2～4は沈線によるC字状の区画文で施文される。大木10式に伴う。5～11は沈線と磨消を伴い、6～10には円形刺突が加えられる。13は隆沈線による施文である。14の細い粘土紐には刻目が入る。15は平行沈線の間を交互刺突文で埋め、16は縦位の粘土紐に刻目が入り、原体圧痕を伴う。大木7a式に伴うものと思われる。17は複節縄文を横回転させる深鉢である。18、19は小形の鉢の底部である。

20～38はC層の出土である。20、21、23～31は沈線による区画と磨消を伴う。

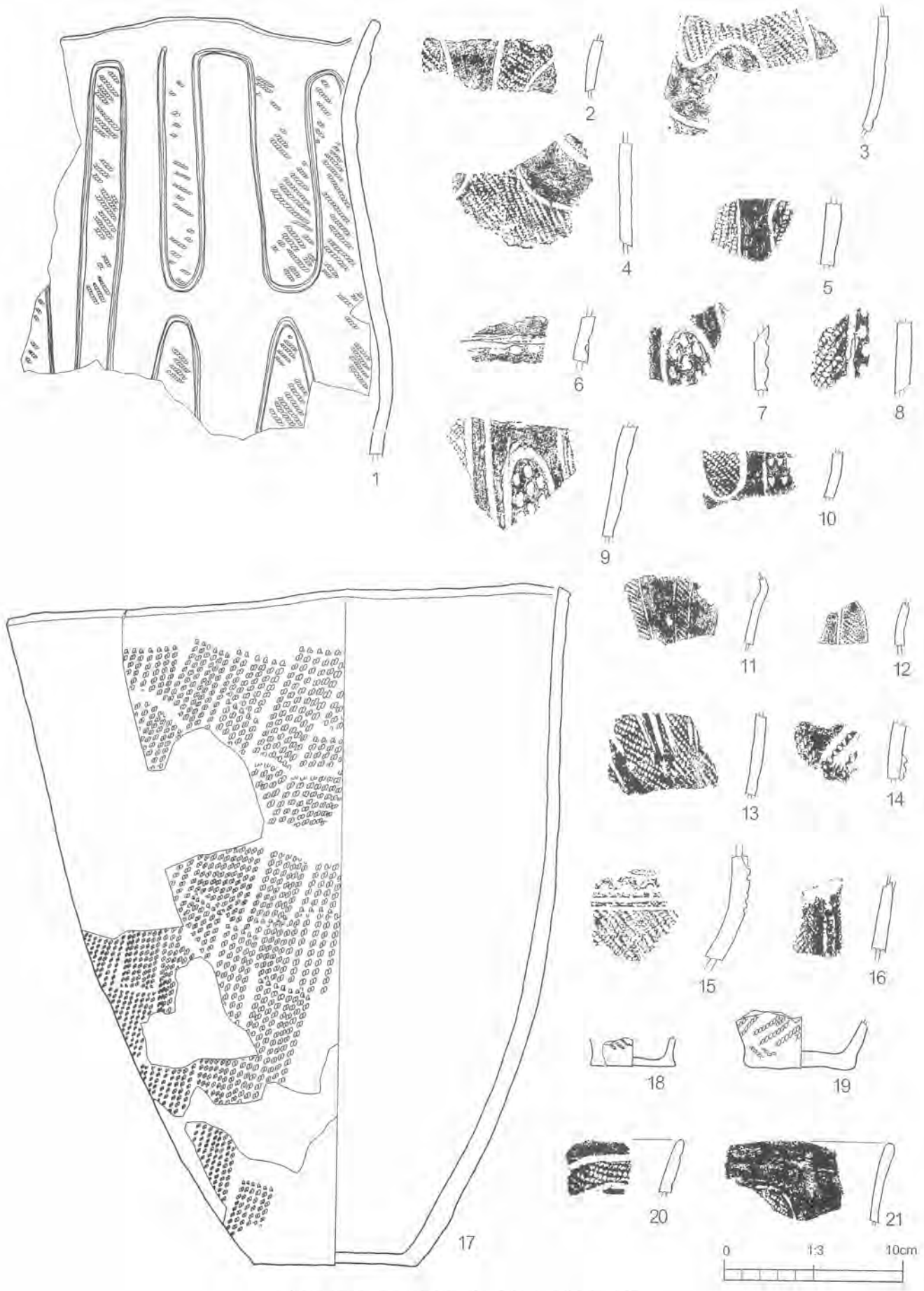
23、28はC字状の区画文か。32は沈線状に円形刺突が加えられる。33は沈線による区画の上に橋状の把手が付けられる。以上大木10式に伴う。34は沈線による楕円区画に刺突が加えられる。大木9式に伴う。22は結節縄文を縦回転させる胴張りタイプの深鉢である。35、38は複合口縁である、35は境目に沈線をめぐらし、38は口縁部を帯状に浅く凹ませる。37は結節縄文を縦回転させる。36は頸部に粘土紐を回し、口唇部内面と粘土紐に押圧を加える。

39～66はB層の出土である。39は弥生土器である。平行沈線で施文された高坏である。40～51は沈線による区画と磨消を伴い、51は円形刺突列が加えられる。39～51は大木10式に伴う。52は沈線による縦位の楕円区画文である。53は隆沈線を伴う。54は複合口縁に波状の粘土紐を貼付する。55は波状口縁で、横位の沈線を伴う。56は隆線の下に横位の円形刺突列が入る。57は細い隆帯に円形刺突が加えられる。58は口縁部に隆帯をめぐらす。59は複合口縁で、口縁部の下に細い沈線で縦位の梯子状の様子が描かれる。60は口縁部の隆帯の上下に原体圧痕を伴う。61は口縁部の沈線をめぐらす。63、64は深鉢の底部で、63は木葉痕、64は網代痕を残す。65、66は胎土に繊維を含み、不整撚糸文で施文される。62は円盤状土製品である。C字状区画文で施文された土器片を利用している。

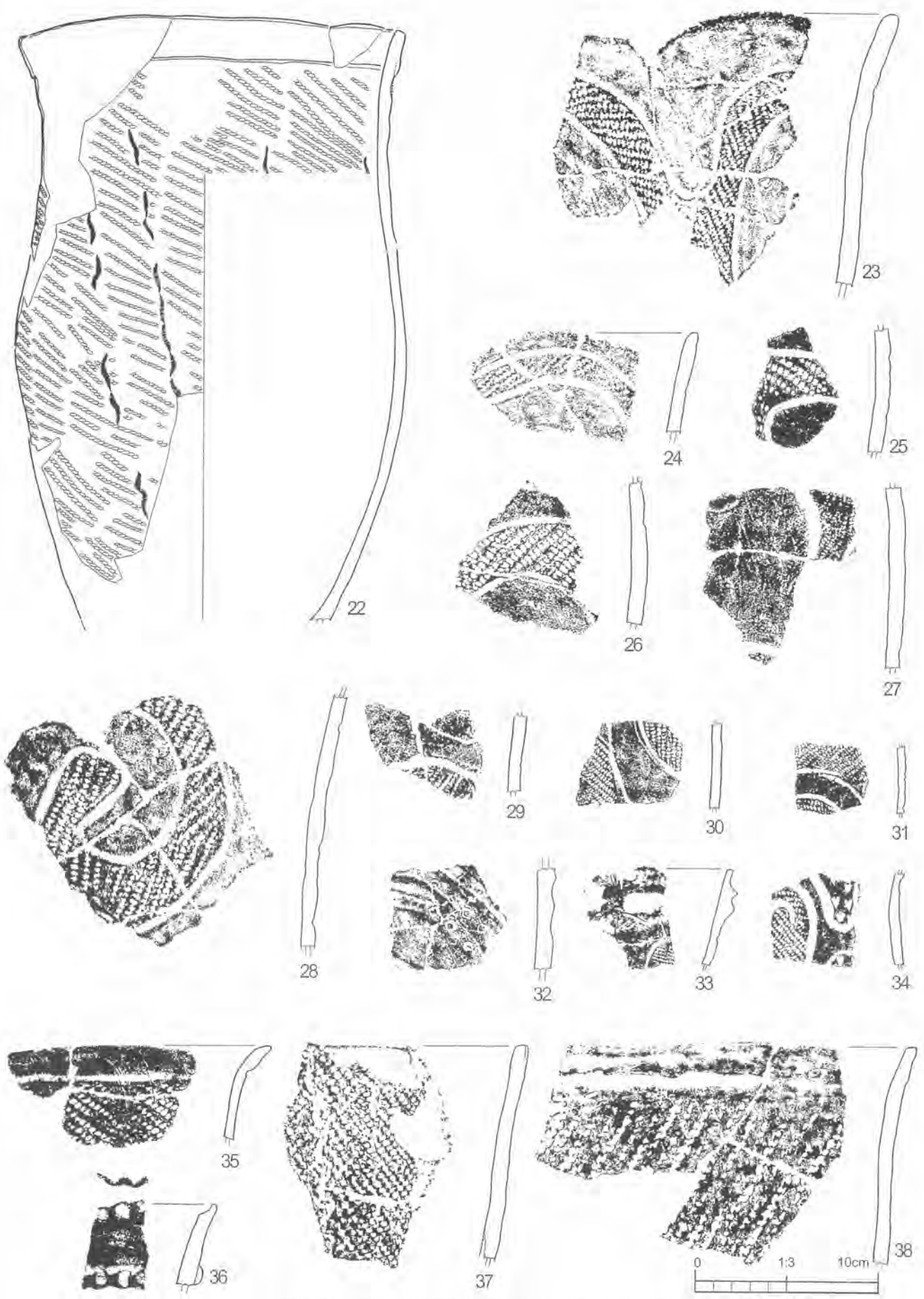
67～79はA層の出土である。67は弥生土器の甕である。口縁部は無文、頸部から下に縄文を施し、境目に段をもつ。68、70、71は沈線による区画と磨消を伴う。69はLR単節斜縄文を縦回転させる。72は結節縄文の縦回転である。73は口縁部に沈線をめぐらす。74は平行沈線の間を半円刺突で埋め、75は沈線による区画に縦位の刻目が伴う。76は口縁部を肥厚させ、平行沈線を施す。77は口縁部の内外面に粘土紐が貼付される。78は結節縄文を横回転させる。79は尖底土器の底部で、胎土に繊維を含む。

80～87は遺構内で出土した層位不明のもの、86、87は遺構外検出面から出土したものである。80は浅鉢で、渦巻隆線文に原体圧痕が伴う。大木7b式に伴う。81は山形口縁で網目状撚糸文で施文される。82、84は結節縄文を横走させ、84は口唇部に押圧が加えられる。83、85は沈線による区画文であるが、85は楕円を縦位に配する。86は胎土に繊維を含み、原体圧痕を伴う。87は口縁部に馬蹄形の粘土帯を貼付し、刺突を施す。粘土紐でV字状に区画し、やはり粘土紐による梯子状の文様でそのなかを埋める。大木4式に伴う。

88～92は石器である。88は石錐である。錐部は短く、つまみ部は全周を加工する。89は不定形石器で、両面の側縁を調整して刃部をつくりだし、先端を尖らせる。90はすり石である。円形で、側縁に擦痕を残す。91は敲石である。楕円形で先端部に敲打痕を残す。92は不定形石器である。片面に粗い剥離痕を残し、片方の先端は丸く成形され、片方の先端は平たく、



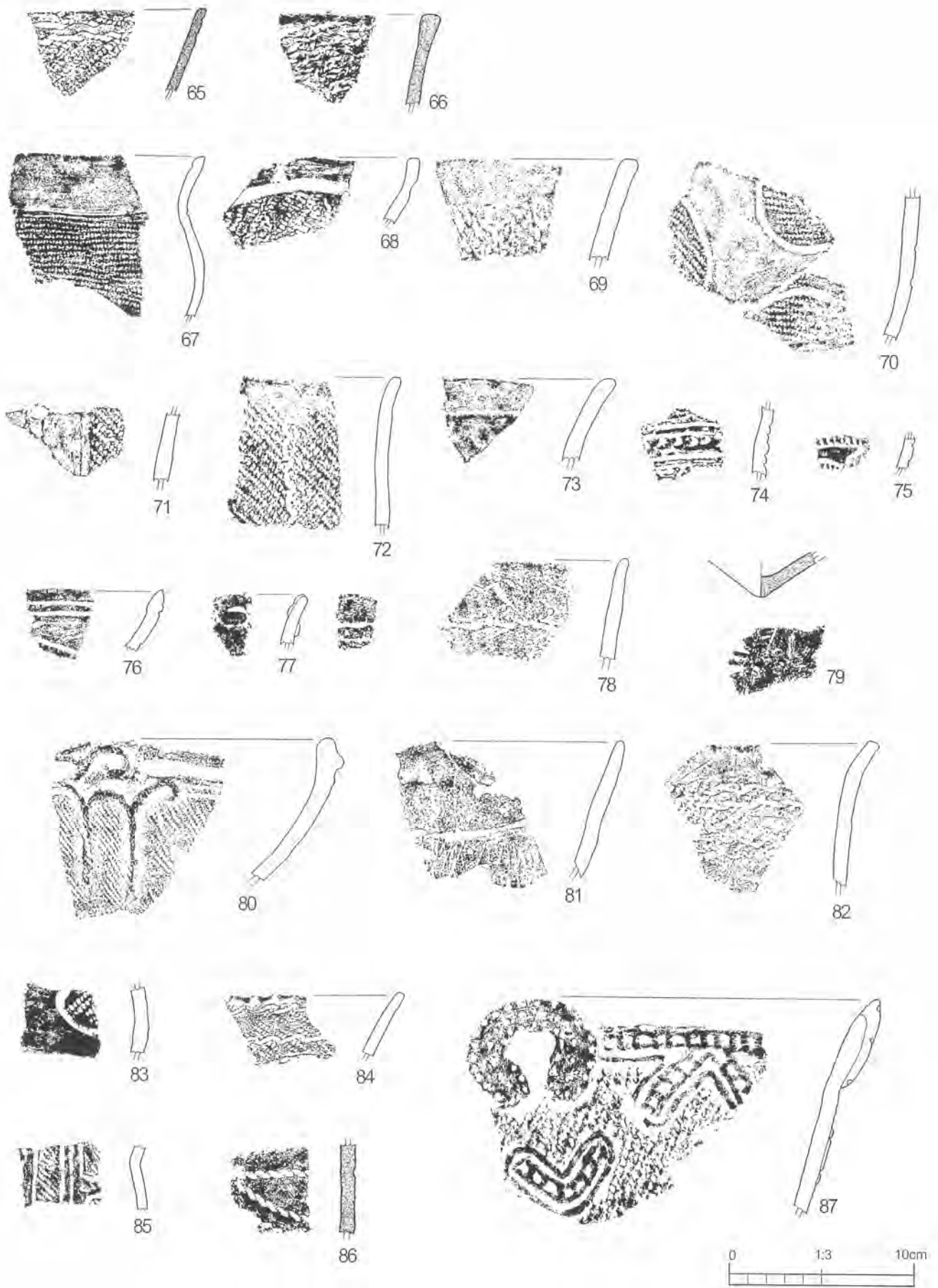
第55图 D-5号竖穴住居跡出土遺物(1)



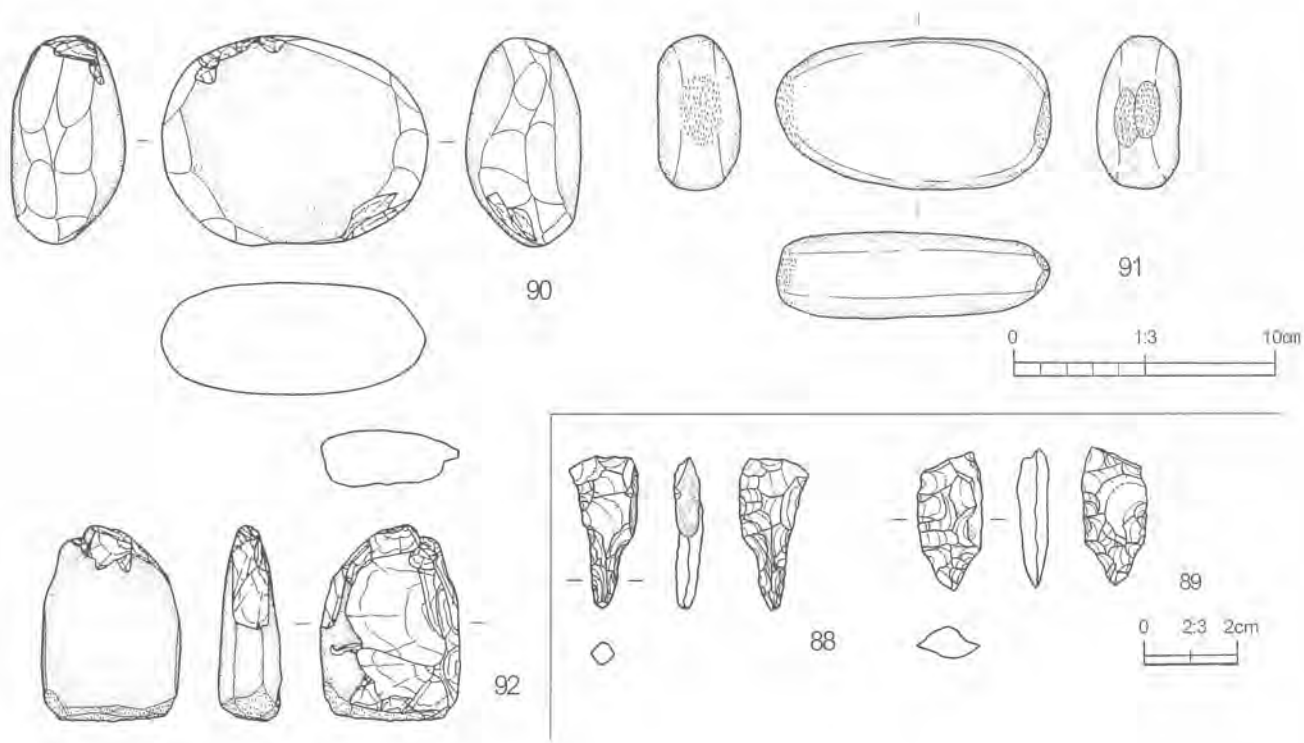
第56图 D-5号竖穴住居跡出土遺物(2)



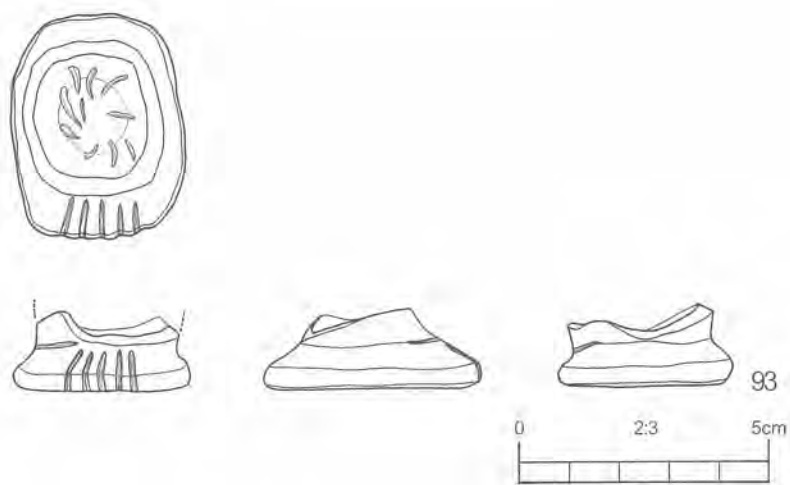
第57图 D-5号竖穴住居跡出土遺物(3)



第58图 D-5号竖穴住居跡出土遺物(4)



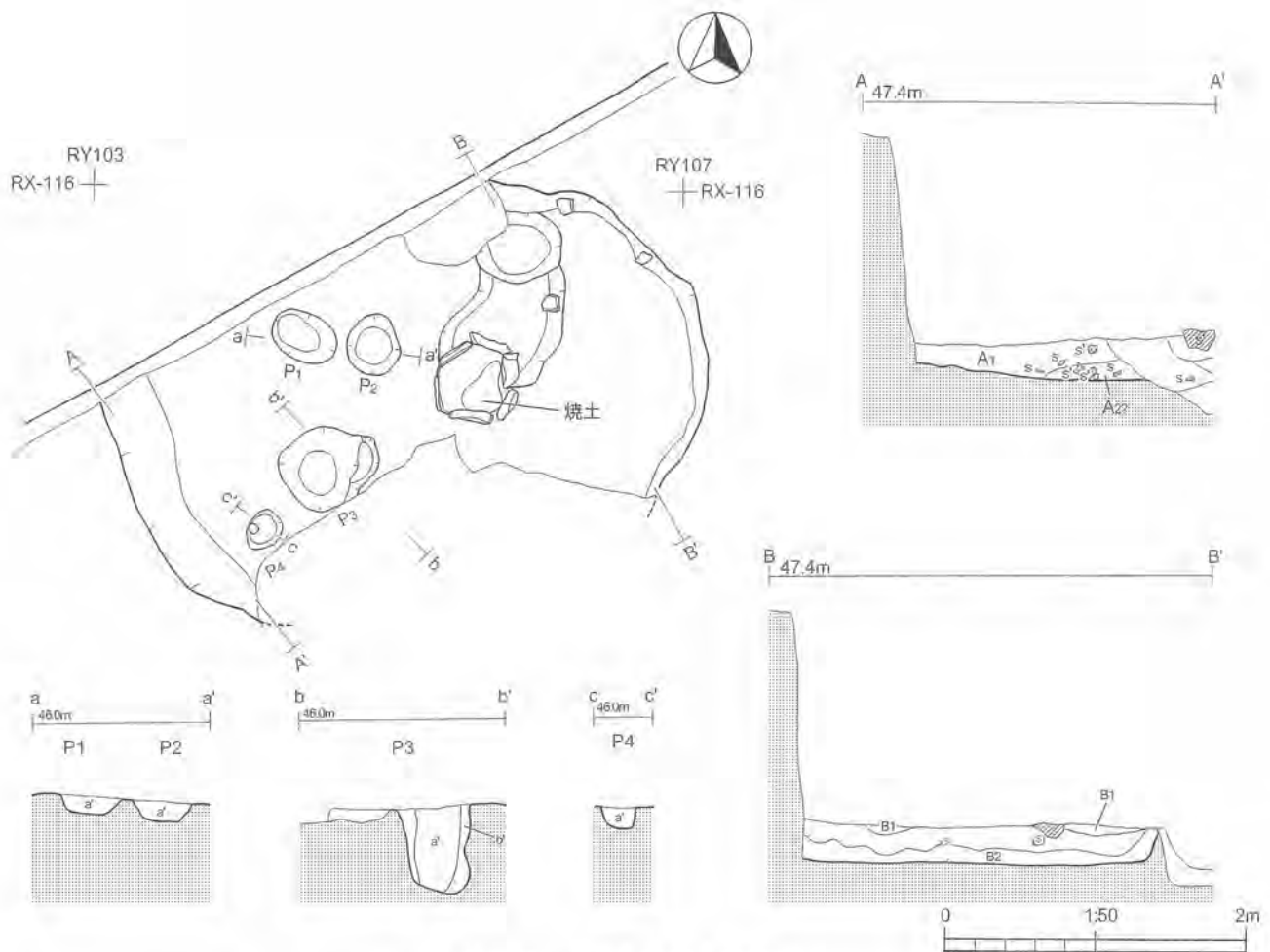
第59図 D-5号竪穴住居跡出土遺物・石器(5)



第60図 D-5号竪穴住居跡出土遺物・土偶(6)

敲打痕を残している。

93はB1層から出土した土偶の足である。足指を5本の沈線で現している。内部は中空で、円形の調整痕を残している。



第61図 D-6号竪穴住居跡

D-6号竪穴住居跡 (第61図)

<検出状況> D区の北部、西側に位置する。検出面は6層下面である。切り合いは、D-5号住居跡に切られ、D-12号、D-13号土坑跡を切る。

<形状・規模> 平面形は、壁の形状から円形と推定される。規模は、東西4.0mである。壁は外傾しながら立上がり、壁高は20cmである。床面は平坦で、勾配は水平である。周溝、貼床は検出していない。

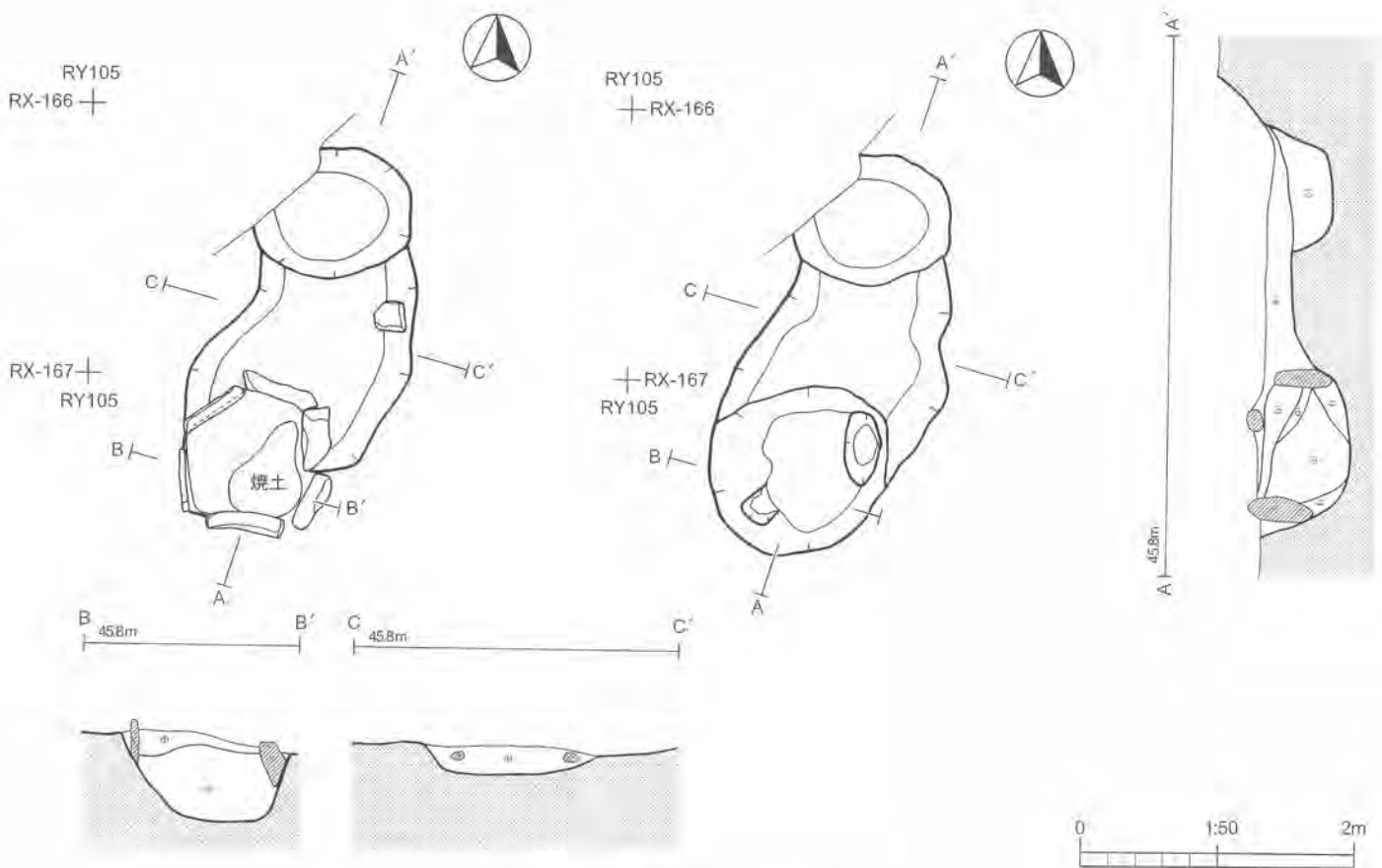
<埋土> 2層に大別される。A層は軟質で、粘性のない黒色土層である。主に西側に堆積する。B層は固めのしまりのある黒褐色土層で、東側に堆積する。

<柱穴> 床面から土坑跡が4つ検出している。P3は規模が大きく、柱跡も確認されている。主柱穴にあたると思われる。

(cm)

PIT	P1	P2	P3	P4
径	45	43	55	23
深	12	15	60	15

<炉跡> (第62図) 東の壁寄りに位置する。円形の石囲炉 (I部) と北側に浅い掘込みと土



第62図 D-6号竪穴住居炉跡

<D-6号竪穴住居跡埋土土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A 1	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR2/2 シルト質埴壤土20%	軟質、疎。少量の炭。
A 2	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR2/2 シルト質埴壤土20% 10YR4/4 シルト質埴壤土10%	軟質、疎。少量の炭。A 1より明
B 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR3/3 シルト質埴壤土15%	中、疎。少量の炭。
B 2	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/1 シルト質埴壤土5%	中、中。少量の炭。B 1より明
B 3	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR2/2 シルト質埴壤土20%	中、中～疎。少量の炭。

<D-6号竪穴住居跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/1 シルト質埴壤土5%	軟質、疎。炉内に多量の炭。
b 1	10YR2/1 黒シルト質埴壤土	10YR2/2 シルト質埴壤土10%	軟質、疎。多量の炭。
c 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR2/3 シルト質埴壤土20%	軟質、疎。
d 1	7.5YR3/4 暗褐シルト質埴壤土	5YR4/4 シルト質埴壤土15%	軟質、疎。少量の炭。
e 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴壤土	10YR3/4 シルト質埴壤土10%	軟質、疎。少量の炭。
f 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴壤土	10YR4/4 シルト質埴壤土15%	軟質、疎。少量の炭。

出土遺物（第63図）

1～8はB層の出土である。1は沈線上に円形刺突を加える。大木10式に伴う。2は口縁部を肥厚させ、平行沈線を施す。3は横位と縦位の沈線を伴う。4は隆線の縦位の渦巻文、沈線による方形の区画に横位の刺突を加える。5は斜、横の沈線の下に隆帯を設け、隆帯に縦位の刺突を施す。6は平行沈線と山形沈線を伴う。7は結節縄文を縦回転させ、8は網目状撚糸文で施文される。

9～11はA層の出土である。9は口縁部に刺突を円形に配列する。10は沈線による縦位の区画と磨消を伴う。9、10は大木9式に伴う。11は山形沈線の中に粘土紐を貼付け、縦位に刻みを入れる。

12～16は遺構内から出土した層位不明のものである。12は甕の口縁部である。口縁部は無文で、口唇部に溝が入る。弥生土器と思われる。13は波状口縁で、横位の沈線と沈線による区画文？を伴う。14は波状沈線と直線の沈線を交互に施す。15は磨消縄文である。16は口唇部に押圧を加える。

17～21は石器である。17は石鏃である。凸基で、正三角形型である。側縁はわずかにふくらむ。18は石錐である。つまみと錐部の境が不明瞭で、錐部は短い。19は塊状耳飾りである。円形で、断面形状は隅丸方形である。切込みの部分には2面の面取りが認められ、全面に擦痕を残している。20は磨製石斧の頭部である。形状は平らで、胴部側縁との境は明瞭である。21は敲打磨石である。やや広い機能面をもつ。調整磨面は認められなかった。

C-3号住居跡（第64図）

<検出状況> C区の南東部に位置する。検出面は地山面である。切り合いは、南部をC-2号住居跡に切られる。炉跡、柱穴、周溝を検出し、壁は検出していない。

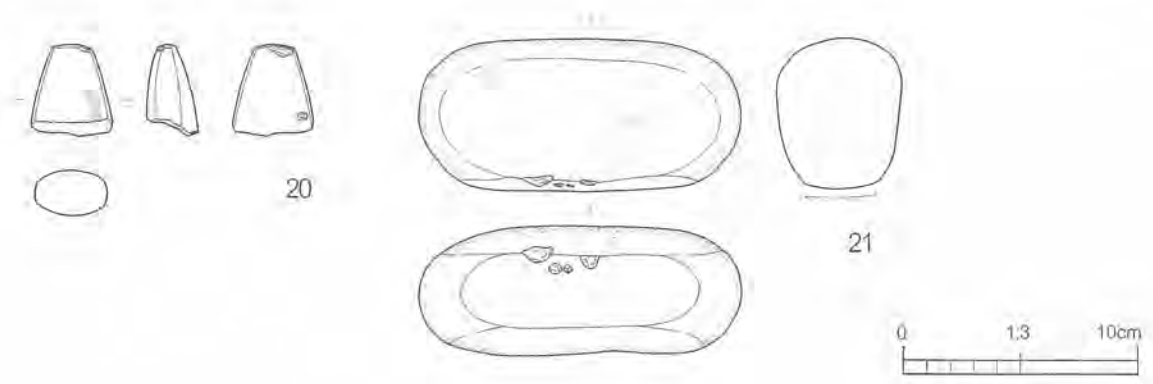
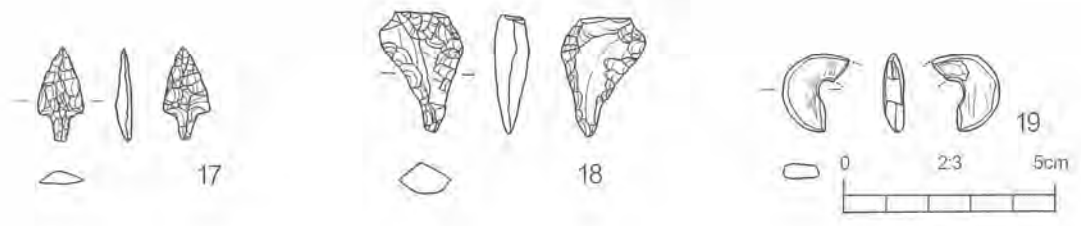
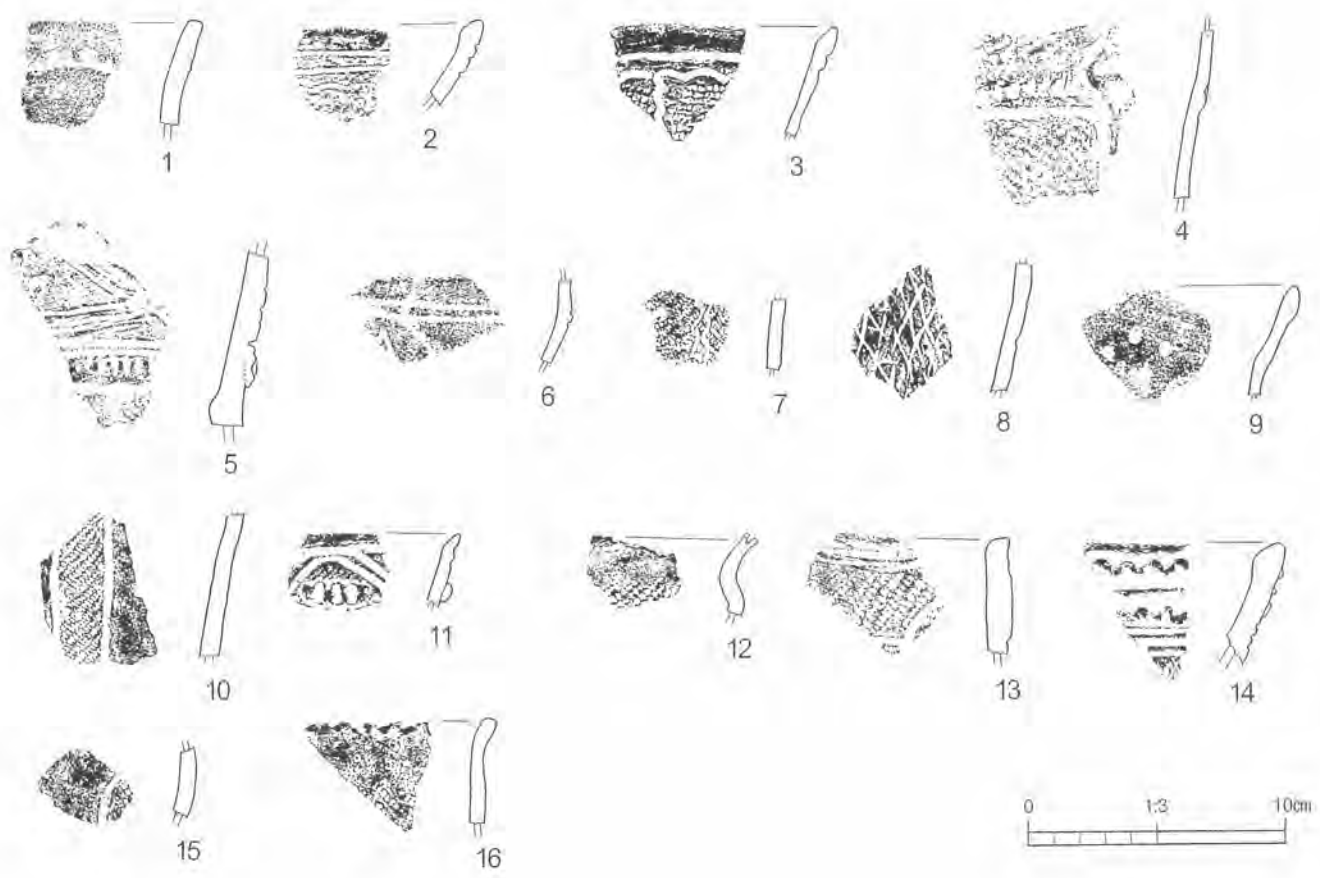
<形状・規模> 平面形は、周溝跡から円形と推定される。規模は不明である。床面は貼床などは検出されず凹凸があるが、勾配はほぼ水平である。周溝の規模は、幅10cm～30cm、深さ7cm～10cmである。

<柱穴> 床面の周縁、周溝上から小土坑が6基検出している。いずれも柱痕は確認されていない。

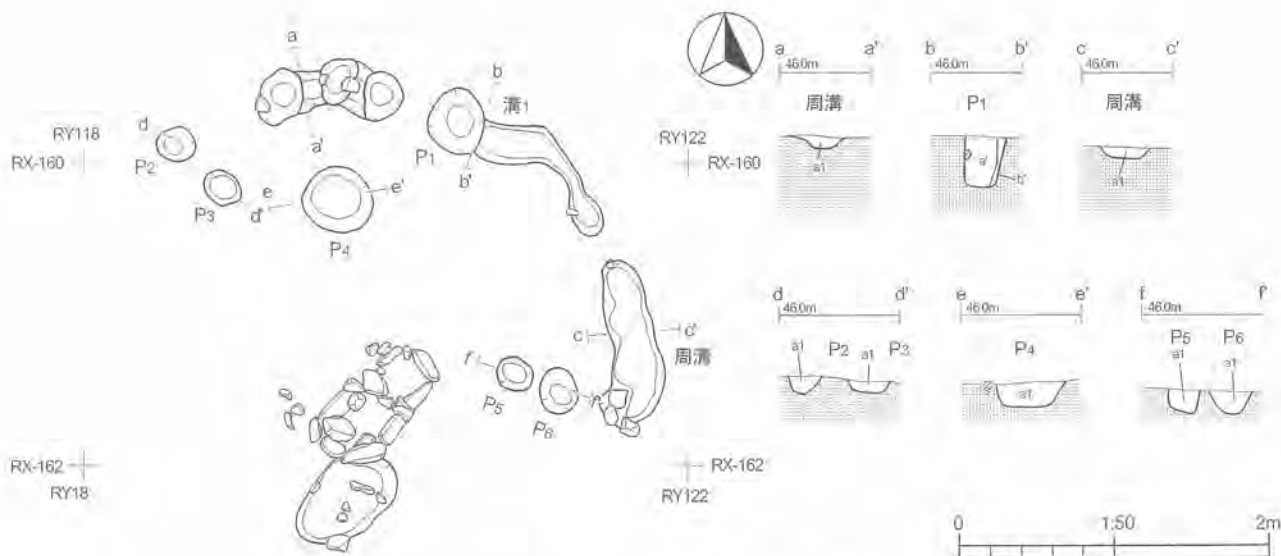
(cm)

PIT	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
径	45	27	28	48	25	30
深	34	12	7	16	15	15

<炉跡>（第65図） 南東部に位置し、周溝からの距離は1.8mである。「日」の字型石組み（I、II部）と南東にずれて浅く掘り込まれた楕円形の土坑（III部、前庭部にあたるとされる。）から構成される複式炉である。主軸方向は北東である。規模は、I部が40cm×40cm、深さ12cmである。II部は55cm×50cm、深さ15cmである。構築方法は、隅丸方形に掘込み、石を埋設して方形に区画するという手順である。III部は、73cm×48cm、深さ4cmである。a1層は構築土である。焼土は検出していない。



第63图 D-6号竖穴住居跡出土遺物



第64図 C-3号竪穴住居跡

出土遺物 (第66図)

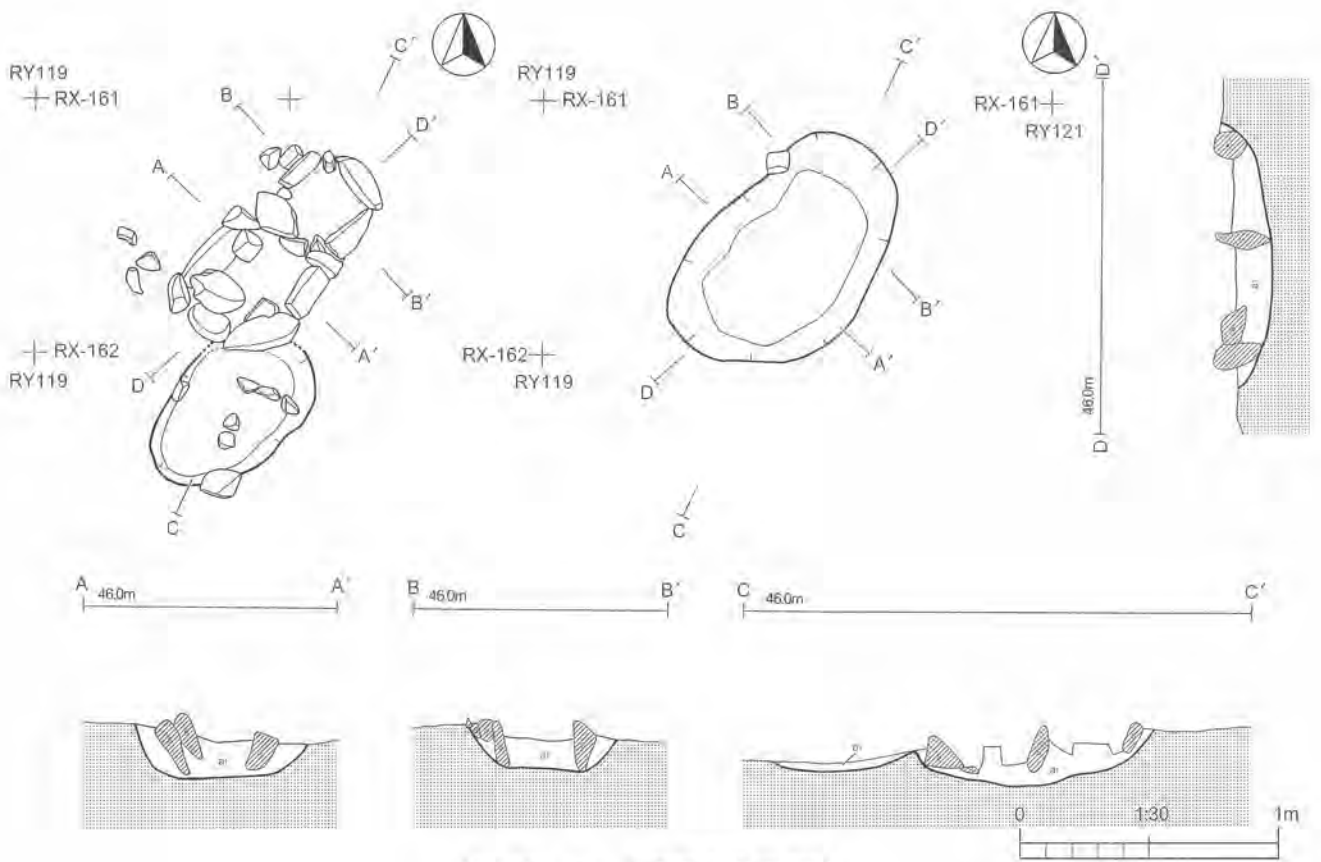
1、2とも炉跡から出土している。1は弥生土器である。変形工字文と細かい縄文で施文される。2はLR単節斜縄文を縦回転させた深鉢である。

<C-3号竪穴住居跡土層観察表>

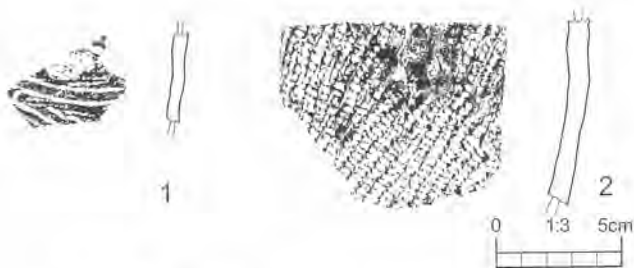
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P1 a1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR3/4 シルト質埴土20% 10YR2/1 シルト質埴土5%	中、中。
// b1	10YR4/4 褐シルト質埴土	10YR3/4 シルト質埴土20% 10YR3/3 シルト質埴土10%	中、中～疎。
P2 a1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/3 シルト質埴土15% 10YR2/1 シルト質埴土5%	中～軟、中～疎。
P3 a1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴土10% 10YR3/3 シルト質埴土10%	中、中～疎。
P4 a1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/3 シルト質埴土20% 10YR2/1 シルト質埴土3%	中、中～疎。
P5 a1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/3 シルト質埴土10%	中～軟、中～疎。
P6 a1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/3 シルト質埴土15%	中、中～疎。
周溝 a1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土10%	中、中～疎。

<C-3号竪穴住居炉跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴土10% 10YR2/3 シルト質埴土5%	軟、疎。
b1	10YR2/1 黒シルト質埴土	10YR2/2 シルト質埴土15% 10YR2/3 シルト質埴土5%	中～固、中。



第65図 C-3号竪穴住居炉跡



第66図 C-3号竪穴住居跡出土遺物

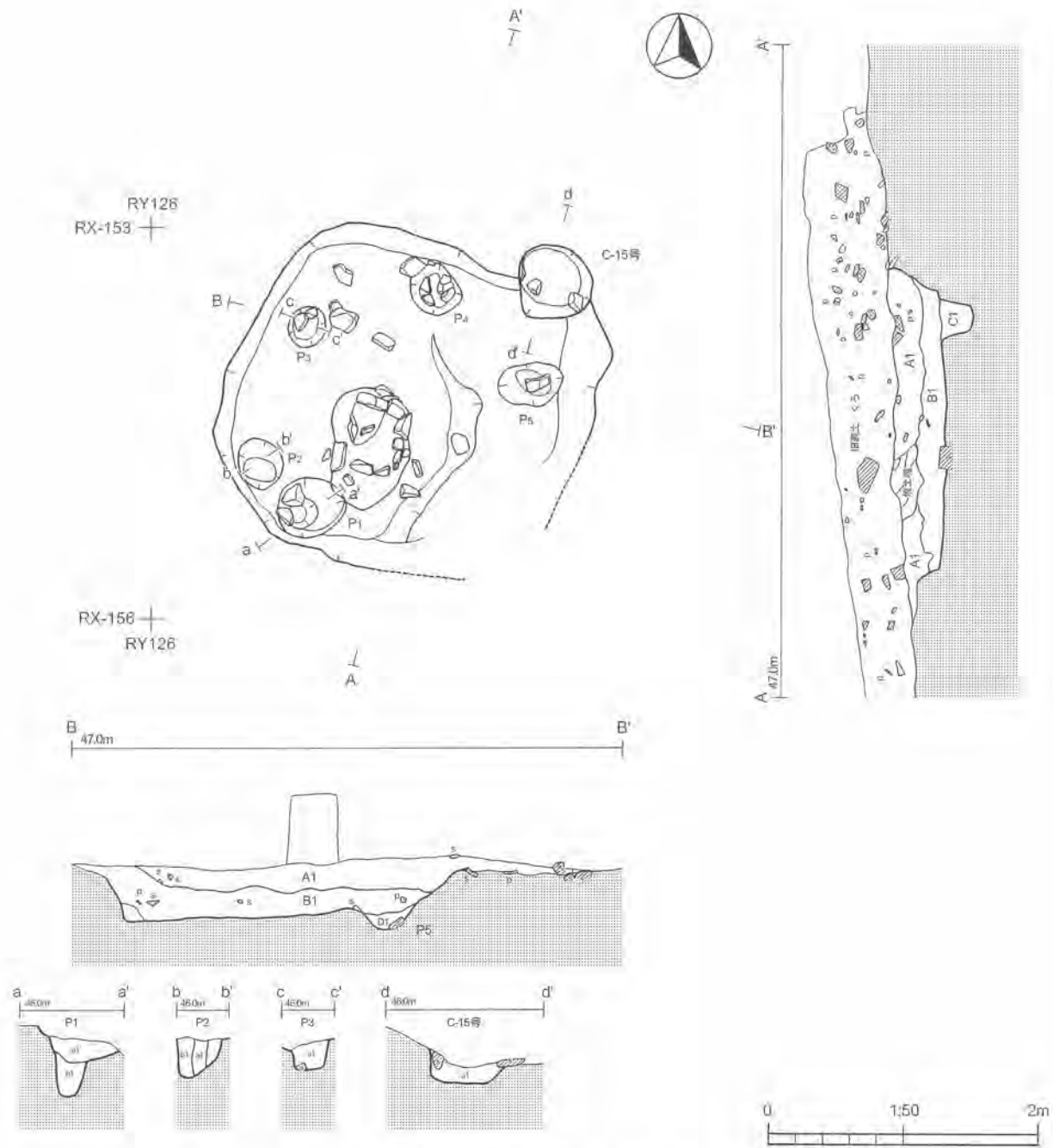
C-4号住居跡 (第67図)

<検出状況> C区南東部に位置する。検出面は地山面である。切り合いは、北壁の一部をC-15号土坑に切られている。

<形状・規模> 平面形は隅丸方形で、正方形にちかい。規模は南北2.5m、東西2.7mと、小規模な住居跡である。壁は外反して立上がり、壁高は、北側で40cm、南側で20cmである。床面は凹凸があり、東側に段差がつけられている。勾配は水平である。貼床、周溝は検出していない。

<埋土> 2層に分けられる。A層は、焼土塊の混じる軟質の黒褐色土である。B層は褐色土の混じる軟質の暗褐色土層である。

<柱穴> 床面の壁際から5基の土坑が出土している。P1、P2が比較的規模が大きく、P2では柱痕が確認されている。

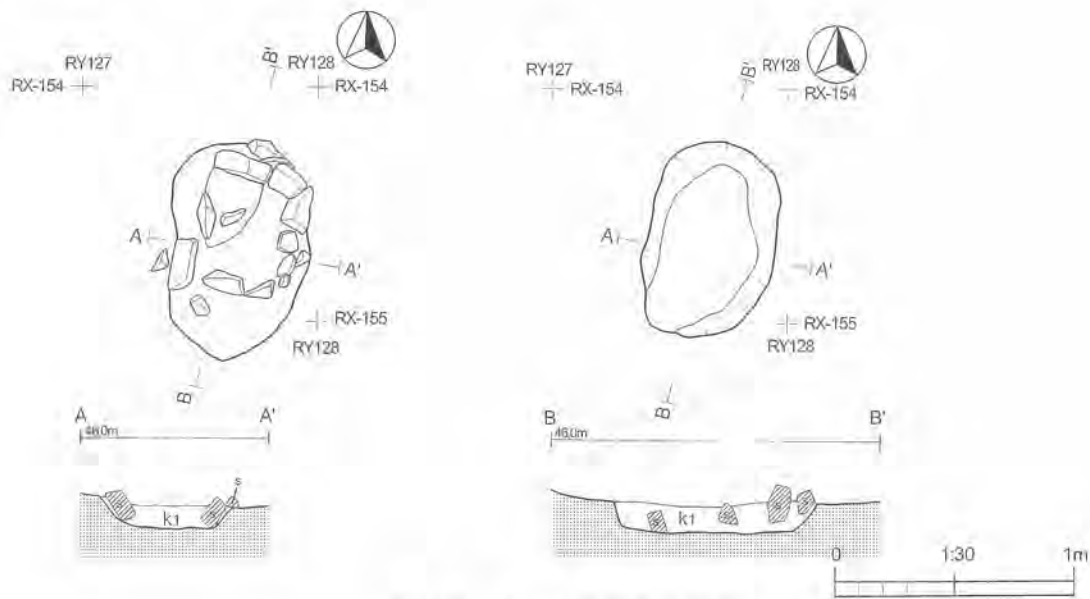


第67図 C-4号竪穴住居跡・C-15号土坑跡

(cm)

PIT	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	C-15
径	53	38	32	42	50	61
深	27	31	21	25	20	19

<炉跡> (第68図) 床面中央部、やや南寄りに位置する。方形に組まれた石囲炉である。楕円形の掘り込み、周縁部に石を方形に組んでいる。K1層上面の一部でごく薄い焼土層を確認して



第68図 C-4号竪穴住居炉跡

いるが、焼きしまったものではない。また掘り込みの床面の一部がわずかに焼けているのが認められた。

出土遺物 (第69、70図)

1は炉跡から出土した胴部の張出す深鉢である。RL単節斜縄文を縦回転させる。2～14はB層の出土である。2～4は弥生土器である。2、3は浅鉢もしくは高坏の口縁部である。2は山形口縁で、3は口縁部に溝が入り、変形工字文で施文される。4は甕である。山形口縁で、頂部に小さな抉りと口唇部に溝が入る。5は沈線による「∩」文の区画と磨消を伴う口縁部で、7は磨消を伴う体部片である。6はLR単節斜縄文、8は撚糸文で施文される。9～11はRL単節斜縄文を縦回転させた深鉢である。12は沈線よる楕円区画を横位に展開させ、磨消を伴う。縄文後期に伴う。13は磨消と円形刺突を伴う。14は沈線による区画と撚糸文で施文される。

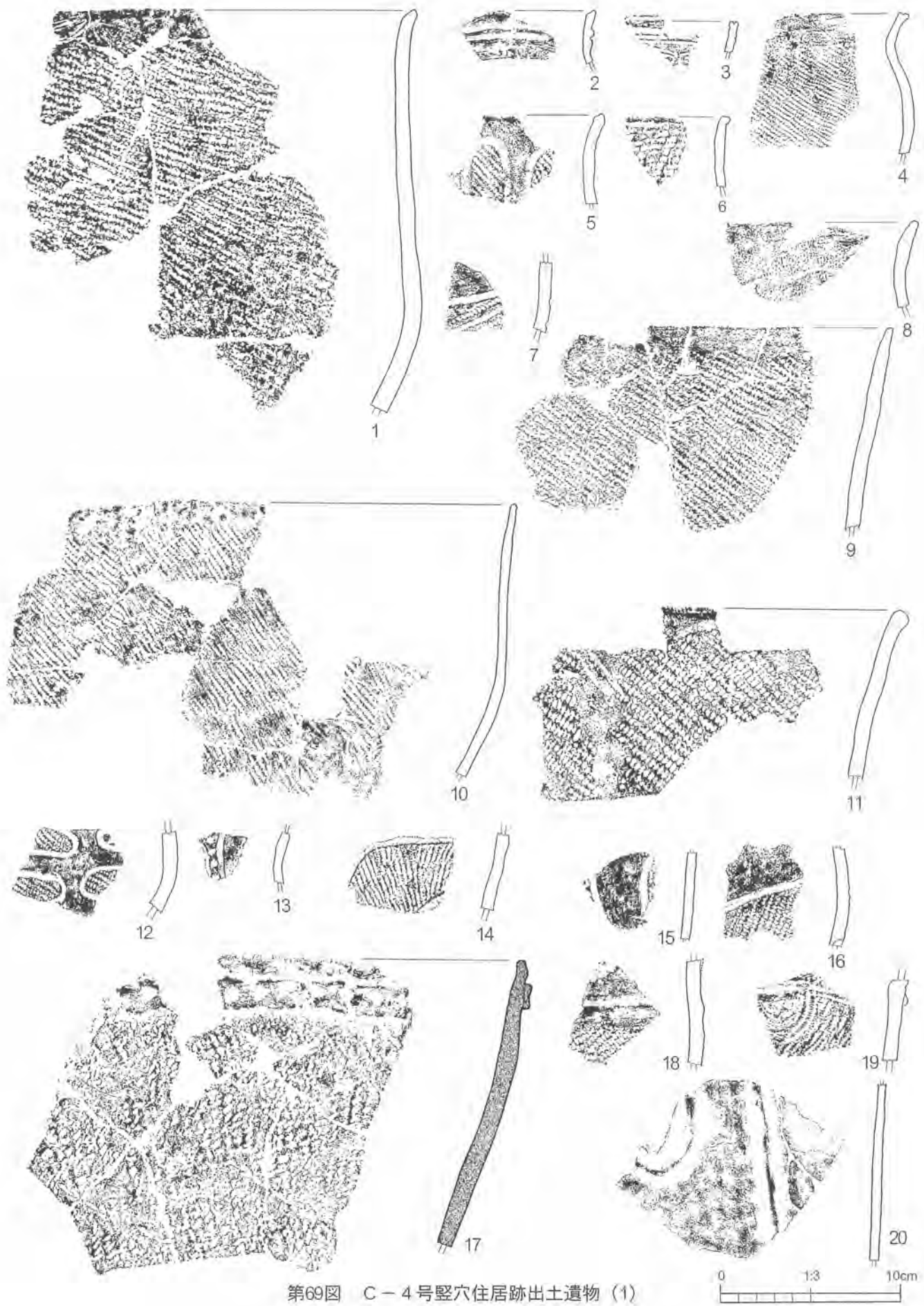
15～20はA層の出土である。15～18は磨消縄文を伴い、20は隆起区画文で施文される。19は隆線の下に同心円を沈線で描く。17は胎土に繊維を含む。口唇部と粘土紐には押圧が加えられている。

21、22は石器である。21は石匙である。縦型であるが、両面とも調整痕は周辺部の一部にしか認められない。半製品か。22はA層から出土した石刀である。一側縁に刃をつくりだしているが、反りはほとんど認められない。

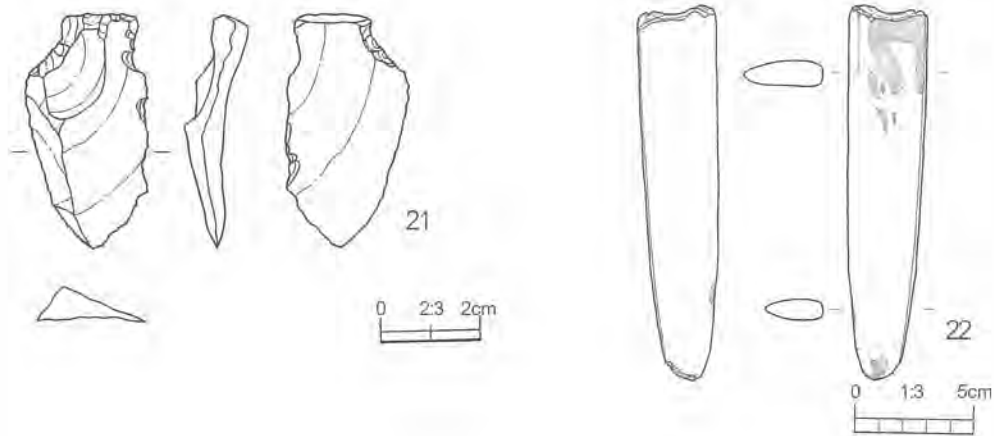
<時期> 遺物からおおまかに大木9～10式に伴うと思われる。

<C-4号竪穴住居跡埋土土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
旧表土	基本層序C,D区6層参照		
A1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR4/3 砂壤土10%	やや軟質、疎。
B1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/3 砂壤土10%	軟質
C1	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR2/3 砂壤土10%	固め、砂礫多し
D1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR4/3 砂壤土15%	中、疎。



第69图 C-4号竖穴住居跡出土遺物 (1)



第70図 C-4号竪穴住居跡出土遺物(2)

<C-4号竪穴住居跡柱穴土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P3 a1	10YR3/3 シルト質壤土 暗褐	10YR5/8 砂質埴土1%	軟質、疎
P2 a1	10YE2/2 シルト質壤土 黒褐	10YR5/8 砂質埴土5%	軟質、疎
" b1	10YR3/4 シルト質壤土 暗褐	10YR5/8 砂質埴土10%	軟、中～疎。
P1 a1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/4 砂壤土10%	固、疎。
" b1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/4 砂壤土5%	固、疎。

<C-4号竪穴住居跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
K1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR3/3 砂壤土10%	中、疎。

B-2号住居跡(第71図)

<検出状況> B区の北部に位置する。検出面は3層上面である。B-1号住居跡に上部を切られている。南東部は大礫に覆われてすでに壁は壊されていた。

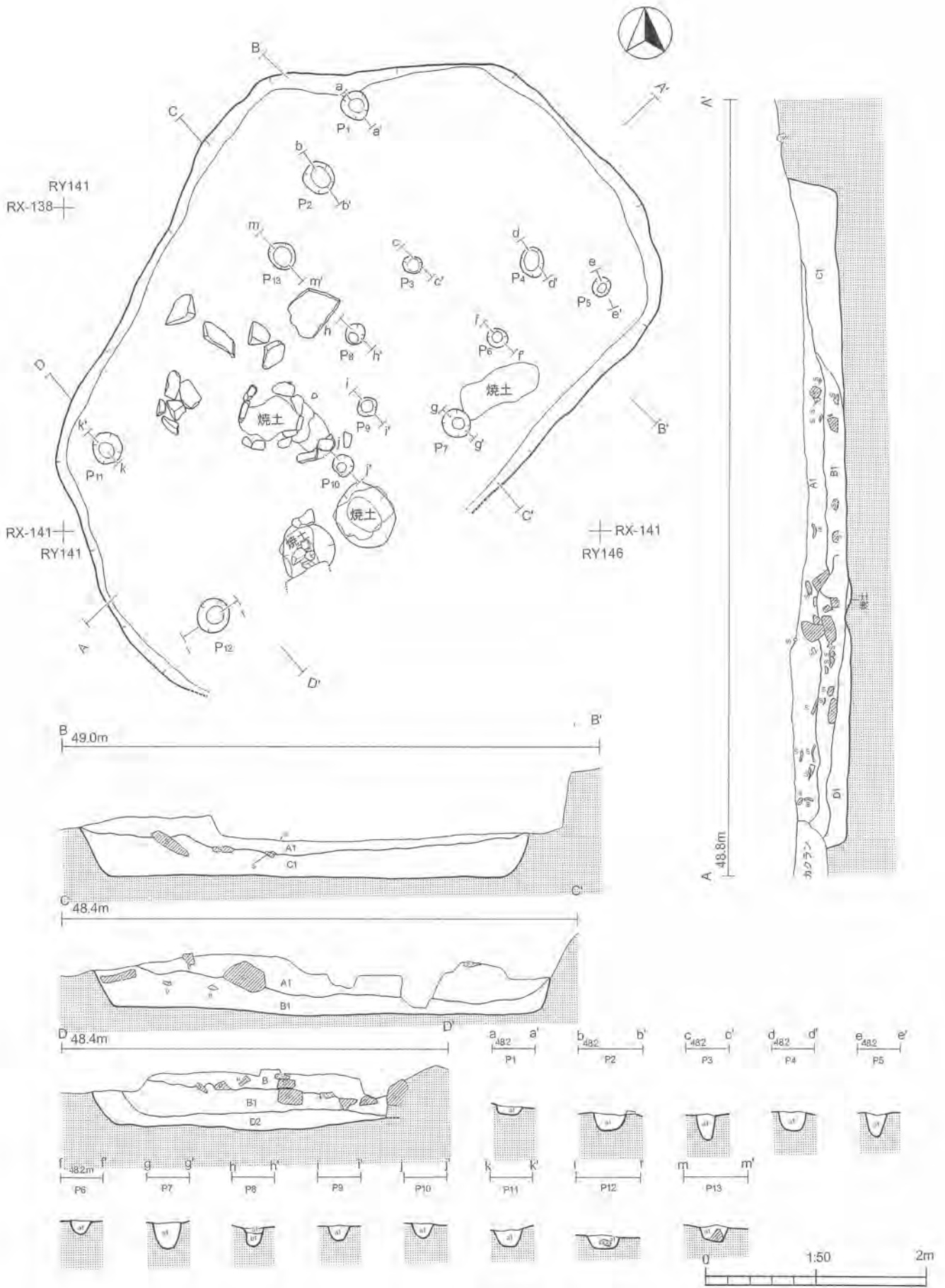
<形状・規模> 平面形は隅丸の不整形である。規模は南北6.2m、東西4.2mである。壁は外傾して直線的に立上がり、壁高は北側で、50cmである。床面はほぼ平坦で、勾配は水平である。周溝、貼床は検出していない。

<埋土> 4層に大別される。B層は固く、粘性のない黒褐色土である。南側に厚く堆積する。C層はやや固めの粘性のない黒色土である。やはり南西部に堆積する。D層は固めの粘性のない黒褐色土である。北側に厚く堆積する。E層は固く粘性のない黒褐色土である。南西部に厚く堆積する。

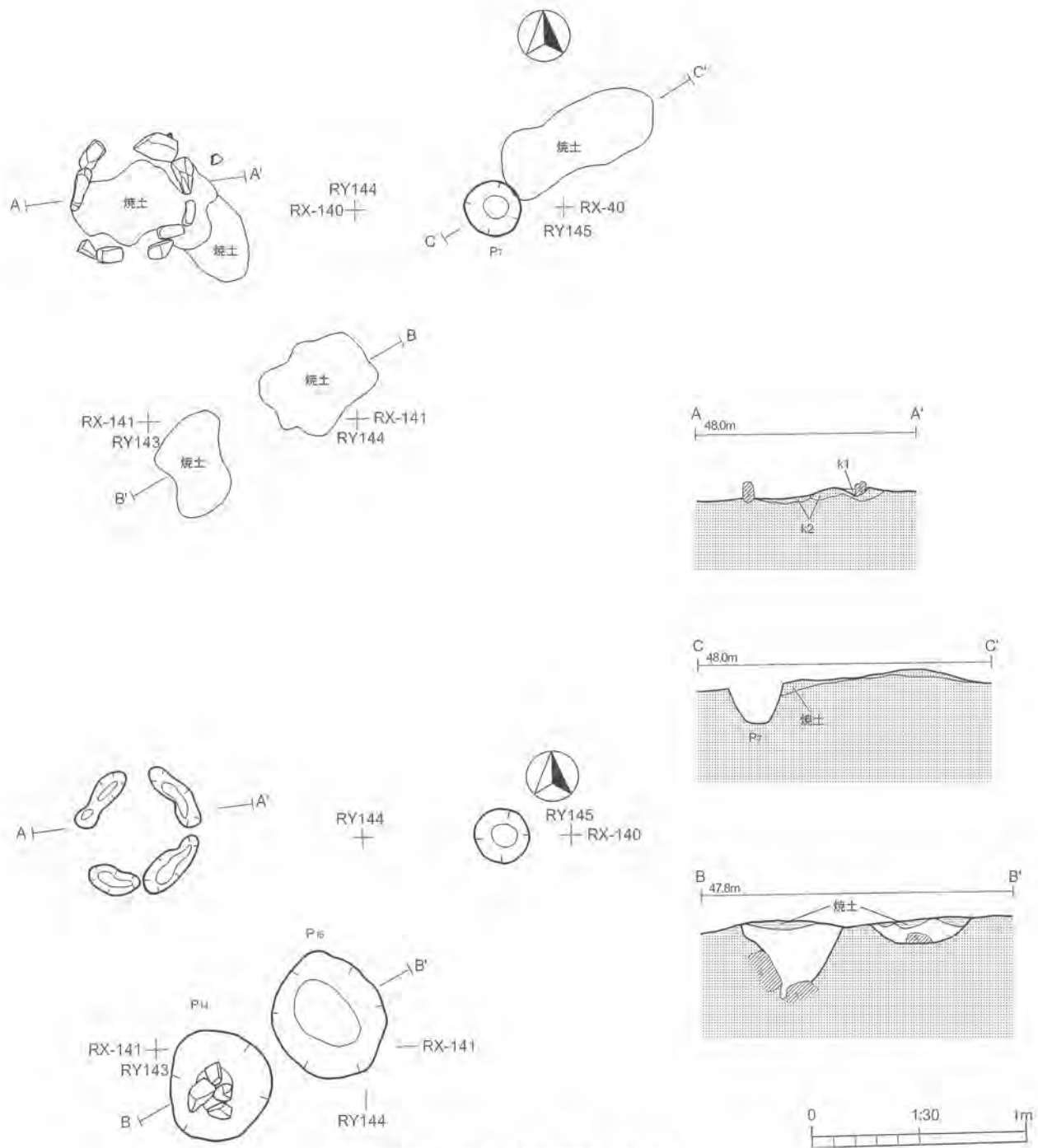
<柱穴> 床面から13基の小土坑跡を検出している。いずれも柱痕は確認されていない。西側のP1、P2、P13、P11と東側のP4、P6、P7、P12が対をなして平行に並んでおり、支柱穴にあたると思われる。

(cm)

PIT	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
径	27	31	18	27	16	20	27	20	19
深	8	16	25	17	20	13	24	17	15



第71図 B-2号竪穴住居跡



第72図 B-2号竪穴住居炉跡

(cm)

PIT	P10	P11	P12	P13
径	20	30	32	28
深	14	16	13	15

〈炉跡〉(第72図)住居跡の中央部、やや南寄りに位置する。円形の石囲炉である。掘り方はなく、石を円形に据えただけの構造である。規模は70cm×65cmである。F層は、やや固めの粘性のない焼土層である。炉の東側で焼土の広がりを検出しているが、南側の焼土の下からは小土坑跡が出土している。

< B - 2号竪穴住居跡土層観察表 >

層名	基本土	混入土	土性
A 1	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR2/3 黒褐 砂壤土 15%	固、疎。
B 1	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	やや固、疎。
C 1	10YR2/3 黒褐 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土 10%	やや固、疎。
D 1	10YR2/3 黒褐 砂壤土	10YR3/3 暗褐 砂壤土 10%	固、疎。

< B - 2号竪穴住居跡柱穴土層観察表 >

層名	基本土	混入土	土性
P 1 a 1	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土		軟、疎。
P 2 a 1	10YR2/3 黒褐 シルト質壤土	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土1%	中、疎。
P 3 a 1	10YR2/1 黒 シルト質壤土	10YR2/3 黒褐 シルト質壤土2%	軟、疎。
P 4 a 1	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土	10YR2/3 黒褐 シルト質壤土2%	中、疎。
P 5 a 1	10YR2/1 黒 シルト質壤土		軟、疎。
P 6 a 1	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土	10YR2/3 黒褐 シルト質壤土10%	軟、疎。
P 7 a 1	10YR2/3 黒褐 シルト質壤土	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土	軟、疎。
P 8 a 1	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土		軟、疎。
# b 1	10YR3/3 暗褐 シルト質壤土		中、疎。
P 9 a 1	10YR2/1 黒 シルト質壤土		軟、疎。
P 1 0 a 1	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土	10YR3/3 暗褐 砂質壤土5%	中、疎。
P 1 1 a 1	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土	10YR2/3 黒褐 シルト質壤土10%	軟、疎。
P 1 2 a 1	10YR2/1 黒 シルト質壤土		軟、疎。
P 1 3 a 1	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土		軟、疎。

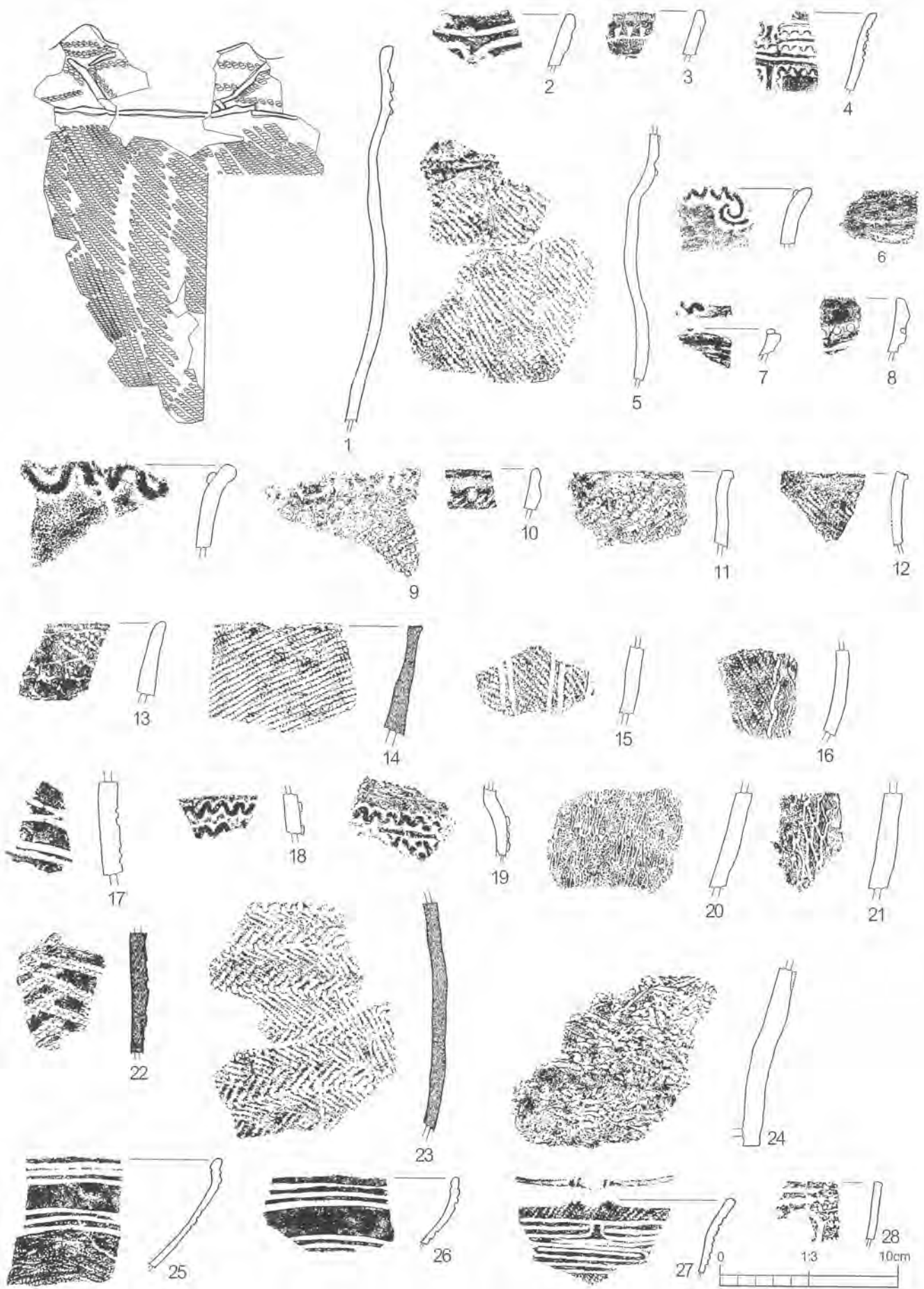
< B - 2号竪穴住居跡土層観察表 >

層名	基本土	混入土	土性
k 1	5YR4/8 赤褐 砂壤土	7.5YR2/3 極暗褐 砂壤土 5%	軟。
k 2	5YR4/8 赤褐 砂壤土	7.5YR2/3 極暗褐 砂壤土 2%	中、疎。

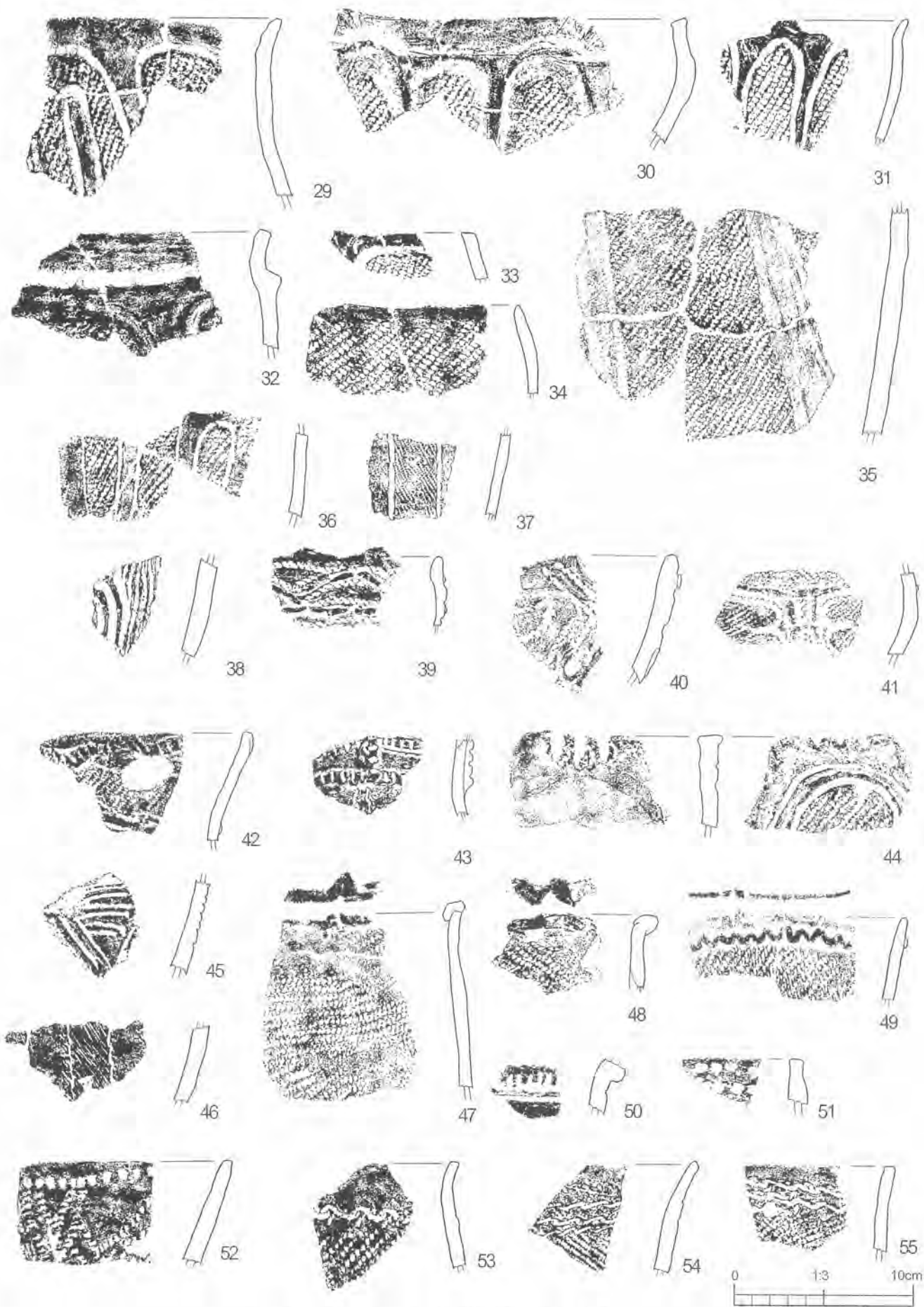
出土遺物 (第73~76図)

1~24は床面、D、E層の出土である。1はキャリパー型深鉢である。山形状の小突起をもち、隆線による区画と原体圧痕を伴う。5は1と同一個体である。1、5は大木7bから8a式に伴う。2は沈線による区画を伴う波状口縁である。縄文後期か? 3は複合口縁に円形刺突を施す。4は沈線上に交互刺突を加える。3、4は大木7a式に伴う。6、7、9は口縁部内面に粘土紐を貼付する。大木4式に伴う。8は沈線上の円形刺突を加え、10は沈線の下に円形刺突と無節縄文をを施す。11はLR単節斜縄文、12はRL単節斜縄文でそれぞれ施文される。13は組紐による施文か。14は胎土の繊維を含み、LR単節斜縄文を全面に横走させる。15は沈線を縦位に施し、16は結節縄文を縦回転させる。17は横位の沈線を施し、18、19は波状に粘土紐を貼付する。18、19は6、7、9と同一タイプである。20、21は撚糸文による施文である。22、23は胎土に繊維を含み、22は原体圧痕で施文され、23は羽状縄文である。24は組紐?で施文された底部片である。

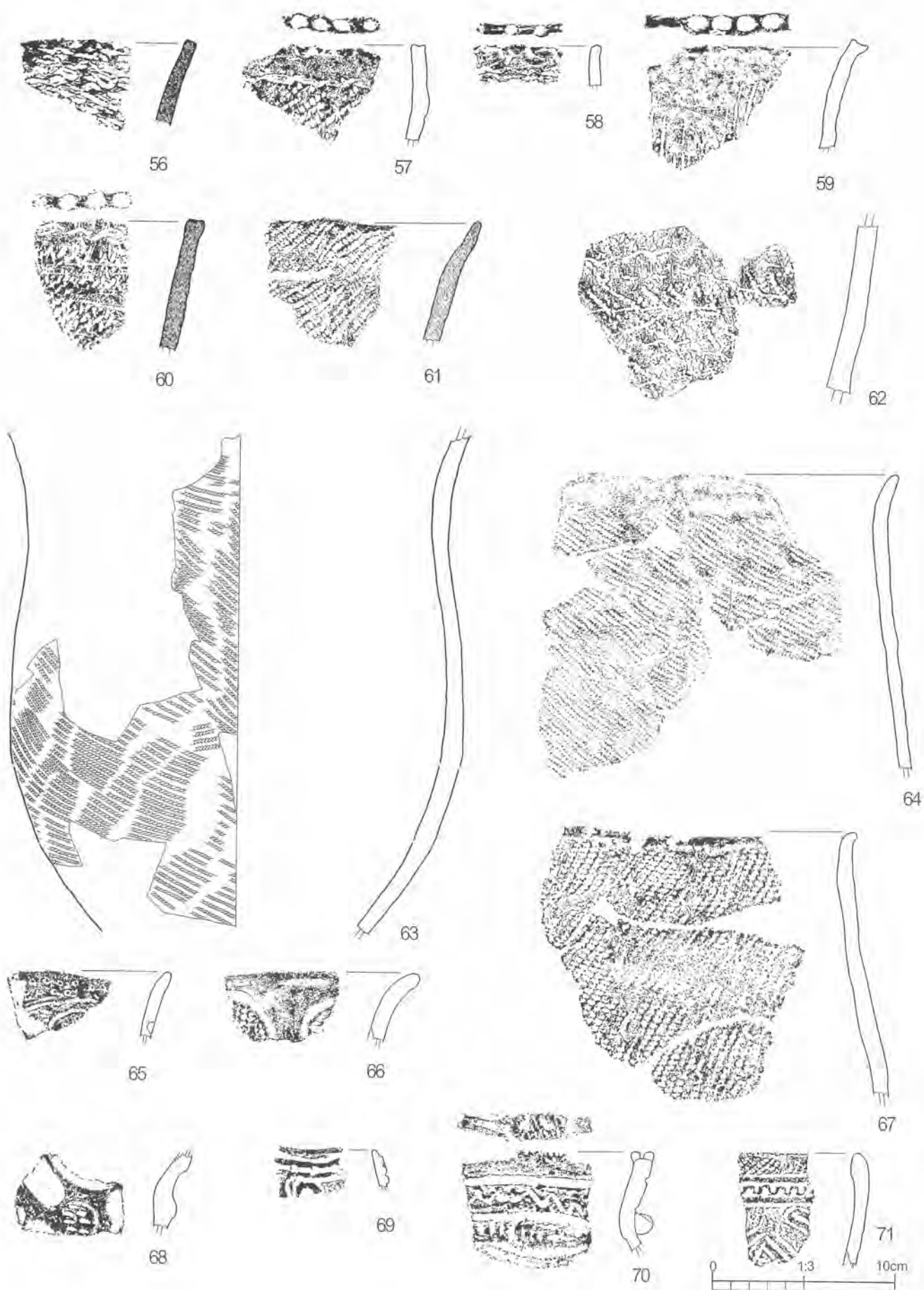
25~62は埋土中~下層として取上げたもので、B~C層にあたる。25~27は弥生土器である。25、26は沈線と縄文で施文された高坏の口縁部である。27は精製の小形甕である。口縁部に山形突起が付き、口唇部には溝が入る。縄文の上に変形工字文が施文される。



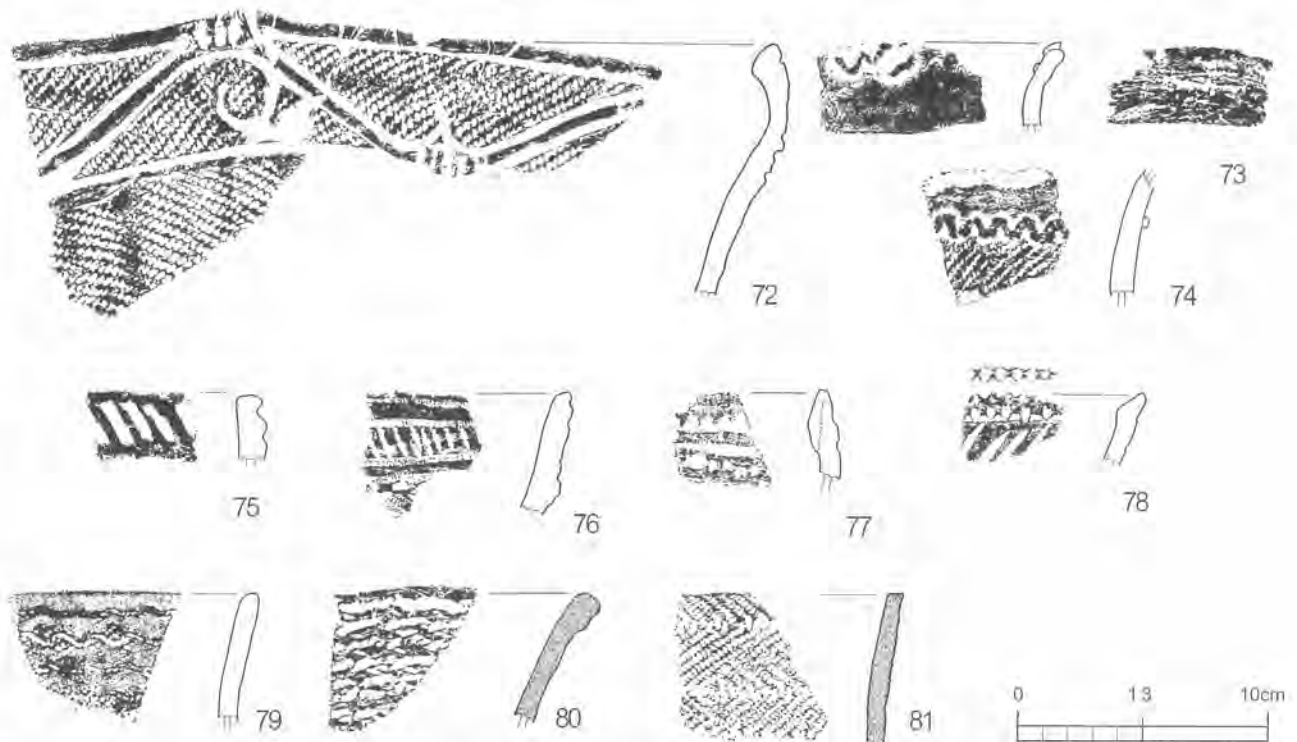
第73图 B-2号竖穴住居跡出土遺物(1)



第74图 B-2号竖穴住居跡出土遺物(2)



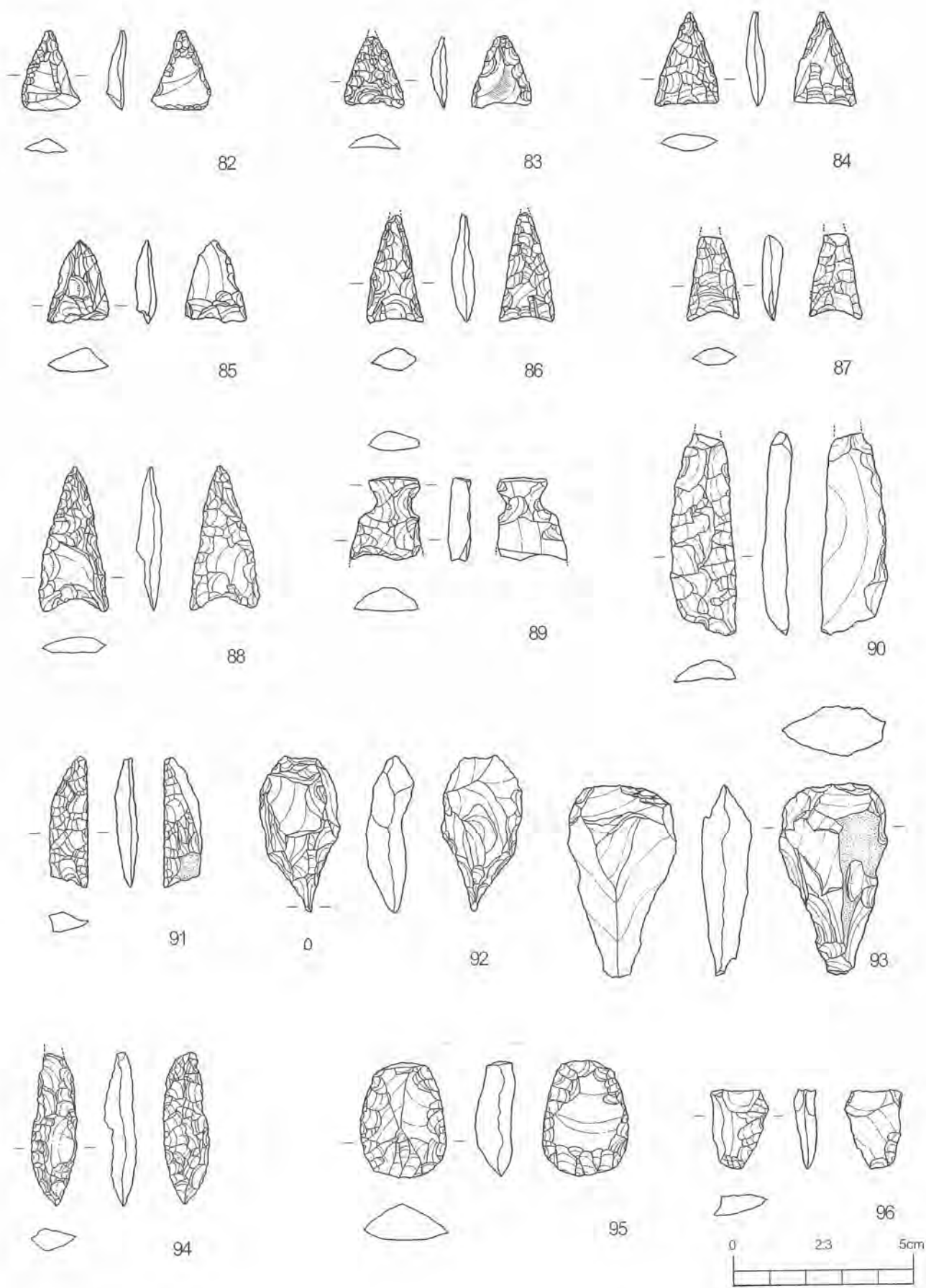
第75图 B-2号竖穴住居跡出土遺物(3)



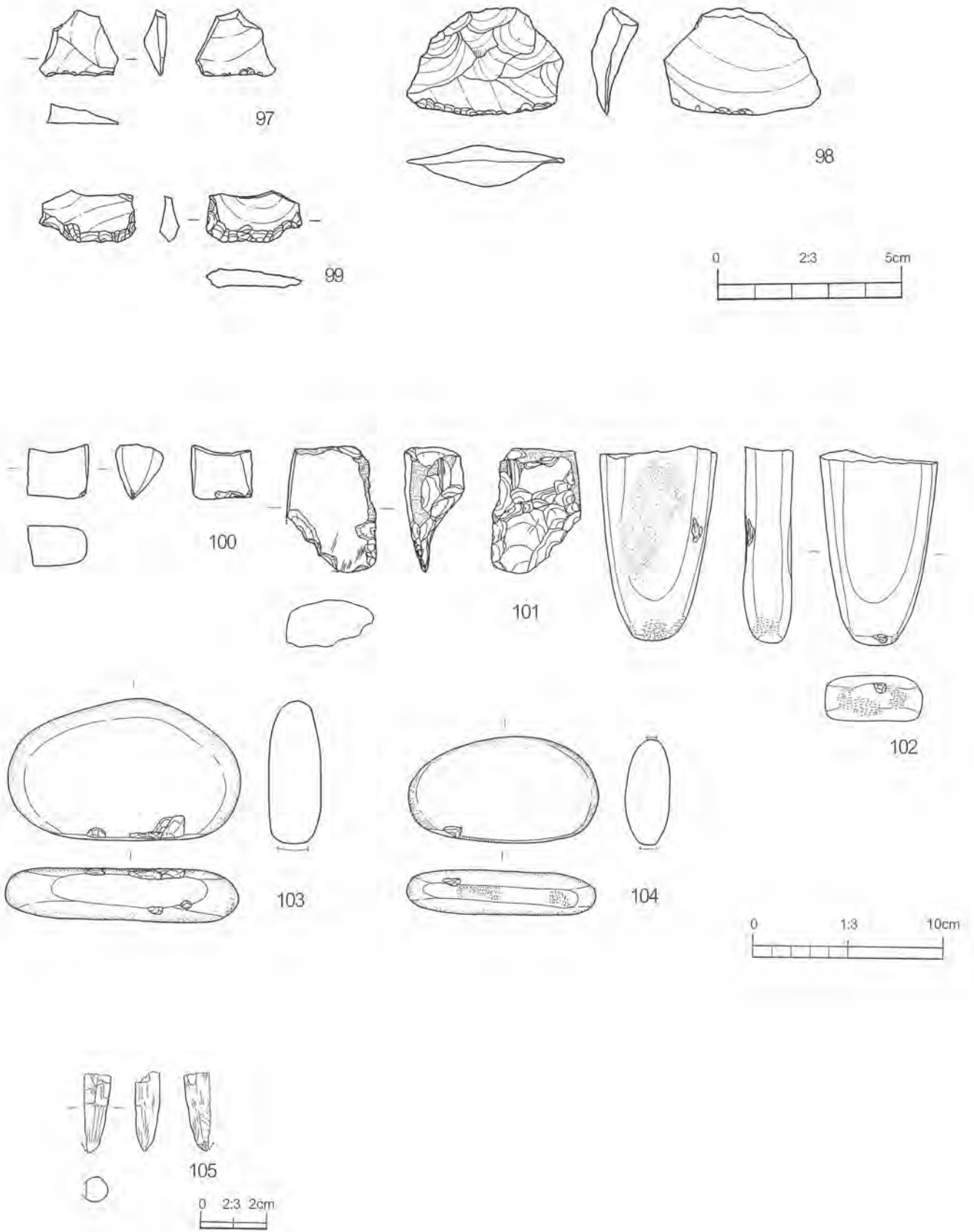
第76図 B-2号竪穴住居跡出土遺物(4)

28は横位の沈線上の円形刺突が施され、その下に沈線で円が区画される。29～33は沈線による「∩」文の区画を伴う口縁部である。32は隆起区画文を伴う。29～33は大木9式に伴う。34はLR単節斜縄文を縦回転させる。35は隆起区画文、36は沈線による「∩」文区画を施文される。37は沈線と磨消を伴う。38は隆沈線で施文される。39～41は隆線で区画し、原体圧痕を伴う。42は複合口縁で、口縁部にも縄文の押圧が施される。43は横位、縦位の粘土紐に刻み加えられる。44は口縁部に抉りが入り、平行沈線で円形に区画される。45は斜方向と同心円状の沈線を組み合わせる。46は結節縄文の縦回転と磨消を伴う。39～41は大木7b式、42～46は大木7a式に伴うものと思われる。47、48は口唇部に「S」字状の粘土を貼付する。大木6式に伴うか。49は口唇部と頸部に粘土紐を貼付し、頸部は波状に横走させる。大木4式に伴う。50は沈線状に縦位の刺突を加える外反する頸部である。51は円形刺突を平行させる口縁部である。52は横位の角押文の下に山形に刺突が施される。53は結節縄文を横回転させる。54、55はS字状連鎖沈文と縄文の横回転である。大木2b式に伴う。56は胎土に繊維を含み、不整燃糸文で施文される。57、58は結節縄文の横回転で施文され、口唇部に押圧が加えられる。59は燃糸文で施文され、口唇部に押圧が加えられる。60、61は胎土に繊維を含む。60は口唇部に押圧痕をもつ。施文方法は不明である。61はLR単節斜縄文を横走させる。62は結節縄文を横走させたものか。

63～81はB層の出土である。63～67は胴張りタイプの深鉢で、施文は縄文の縦回転である。65～68は沈線による区画と磨消を伴う。65には円形刺突、68には隆起区画と刺突が加えられる。65～68は大木9式に伴う。69は刺突と伴う隆沈線で施文される。70は縄文の押圧を伴ったS字状の粘土紐が貼付される。頸部の平行沈線の間を波状の沈線が横走し、下段の太めの粘土紐にも縄文の押圧痕が加えられる。71は平行沈線の間は交互刺突で埋められ、その下に山



第77图 B-2号竖穴住居跡出土遺物・石器(5)



第78图 B-2号竖穴住居跡出土遺物・石器・骨角器(6)

形の沈線が施文される。70、71は大木7a式に伴う。72はキャリパー型の深鉢である。隆線により渦巻文が区画され、上下の接点には刺突が加えられる。大木8a式に伴う。73は粘土紐を口縁部内面に、74は頸部にそれぞれ貼付する。大木4式に伴う。75は斜方向の刺突で施文される。76は平行する無節縄文の押圧痕の間を縦位の刺突で埋める。77は口縁部の内面を肥厚させ、円形刺突と沈線が交互の横走する。78は口唇部に刻みが入る。沈線を横走させ、刺突を加えられ、さらに斜方向の沈線が入る。79はS字状連鎖沈線で施文される。80、81は胎土に繊維を含み、80は不整撚糸文、81は羽状縄文で施文される。

82～104は石器である。82～88は石鏃である。82～85は平基で、正三角形型である。側縁は平らである。86も平基であるがわずかに抉りが入る。二等辺三角形型である。側縁は平らである。87、88は凹基である。二等辺三角形型で、側縁は平らである。89～91は石匙である。89は縦型をつまみ部と思われる。片面の全面を加工する。90はつまみが欠損し、91はつまみを持たない。いずれも刃部の末端を平らに成形する。92、93は石錐である。92はつまみ部が大きく錐部は短い。93はつまみ部と錐部の境界は不明瞭である。94～99は不定形の石器である。94は末端を尖らせ、両面を加工して側縁に刃部をつくりだす。95は円形にちかく、両面の周縁を二次加工して刃部をつくる。96は先端部と片方の側縁を二次加工して刃部をつくる。97～99は横長で、底部と側縁に刃部をもつ。

100は磨製石斧の刃部である。刃縁は直線的で、中心がわずかに凹む。101は石斧と思われるが、片面は研磨され、片面は剥離調整痕をのこし、先端部を尖らせている。二次利用したものか。102は石斧の頭部である。先端部に調整痕を残している。103、104は敲打磨石である。いずれも調整磨面は認められない。

105は骨角器である。円形で先端を尖らし、擦痕が観察される。刺突具か。

B-3号住居跡（第79図）

<検出状況> B区中央部の西側に位置する。検出面3層上面である。切り合いは、B-2号住居跡に切られ、北と東の壁の一部と炉跡を検出した。南の壁は検出していない。

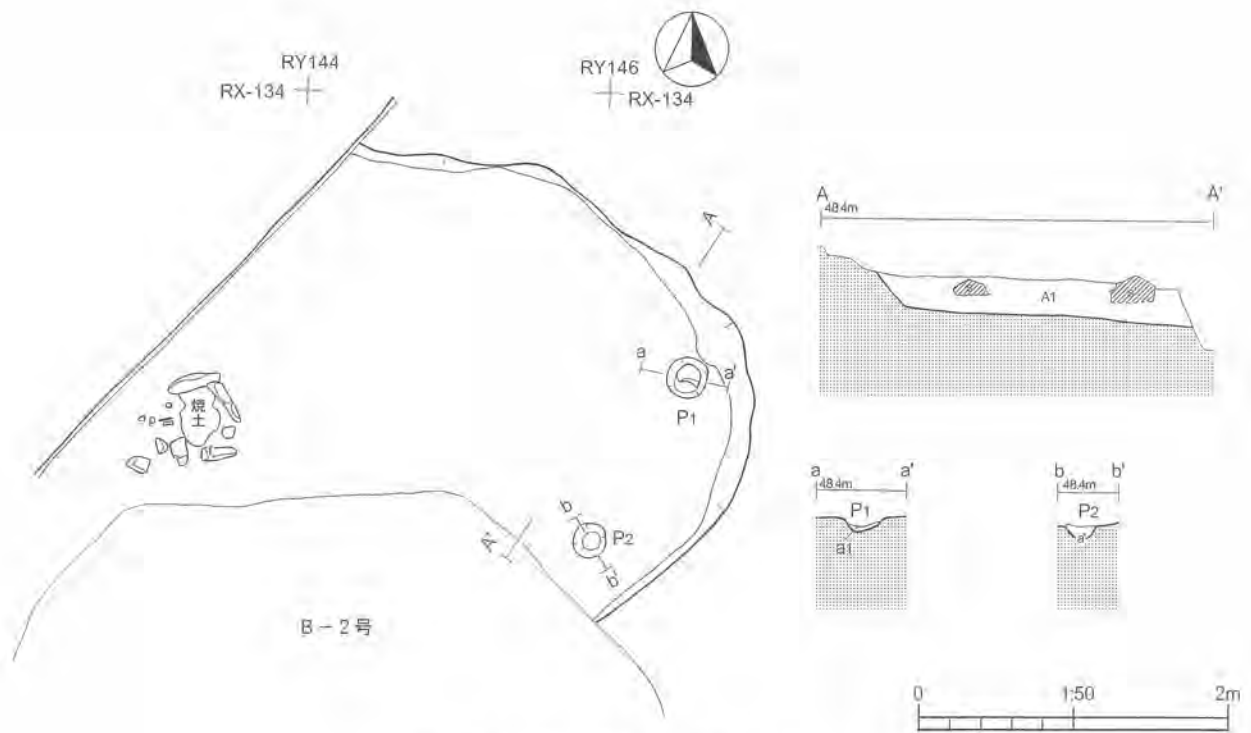
<形状・規模> 平面形は隅丸の方形と推定される。規模は不明であるが、炉跡が中央にあるとすれば、大形の住居が考えられる。壁は大きく外反しながら立上がり、壁高は北側で20cmである。床面は、礫が露出しているところもあって起伏があり、勾配は南にやや下がっている。貼床、周溝は検出していない。

<埋土> 1層である。固く、粘性のない黒色土で、上層に火山灰を含む。

<柱穴> 東壁の際から小土坑が2基検出している。柱跡は確認されていない。

(cm)

PIT	P1	P2
径	28	24
深	12	12



第79図 B-3号竪穴住居跡

<炉跡> (第80図) 北壁から南へ約3.0mの地点に位置する。平面形は、L字状の石組みから方形と推定される。規模は南北1.2m、西側の石組みは確認されておらず東西約0.9mと推定する。掘り窪めたような跡はなく、L字状の石の埋設跡が確認されただけである。南側の石は自然石を利用している。F層はやや固めで、若干粘性のある赤褐色土である。

出土遺物 (第81図)

1は波状の複合口縁である。円形の粘土紐が貼付され、全面に縄文の側面圧痕が施される。2は縦位の粘土紐に刻みが入り、横位の波状沈線を伴う。3は横位、縦位の粘土紐に刻みが入り、直線と波状の沈線を伴う。1～3は大木7a式に伴う。4～9は胎土に繊維を含む。4～6は不整撚糸文で施文される。7はLR単節斜縄文を横回転させる。8、9は端を閉じた縄文を横走させ、9の口唇部には押圧が加えられる。

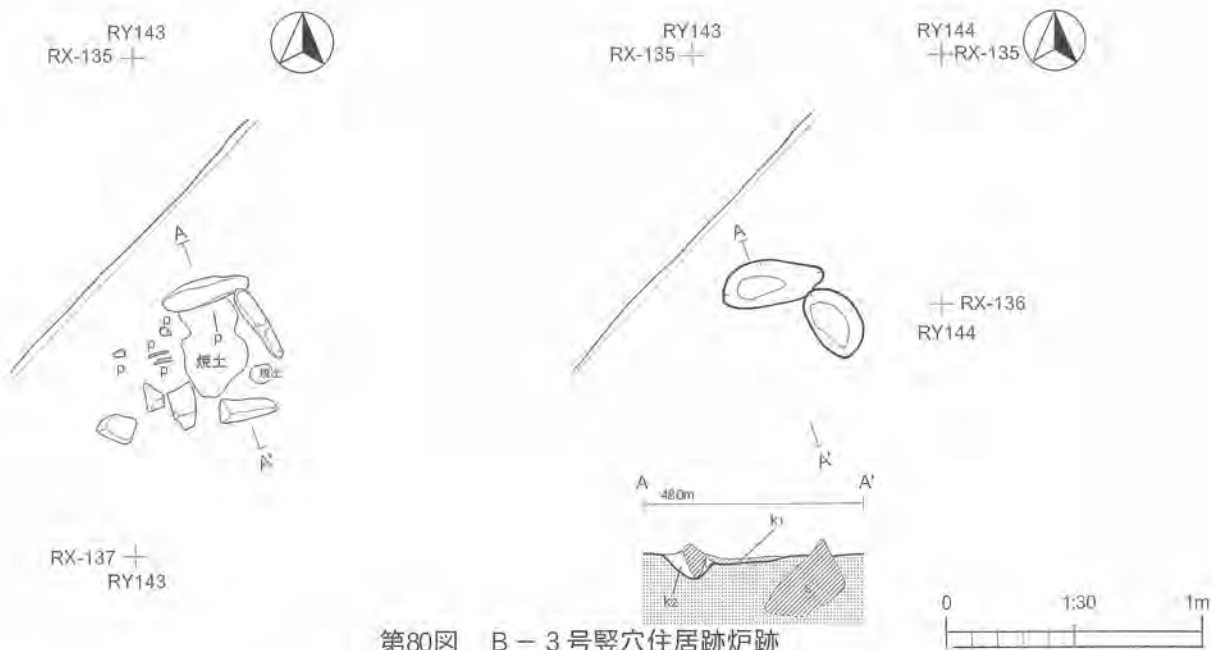
10～13は石器である。10、11は石匙である。いずれも縦型である。10は片面の周縁を加工して刃部とし、刃部末端を尖らす。11は調整痕が片面上半集中し、刃部末端は平らに成形する。12は円形で、片面を調整し末端を尖らす。石錐か。13は磨製石斧である。胴部はわずかにふくらみをもち、隅はあまり角張らない。片平刃で、刃縁は直線的である。

<B-3号竪穴住居跡埋土土層観察表>

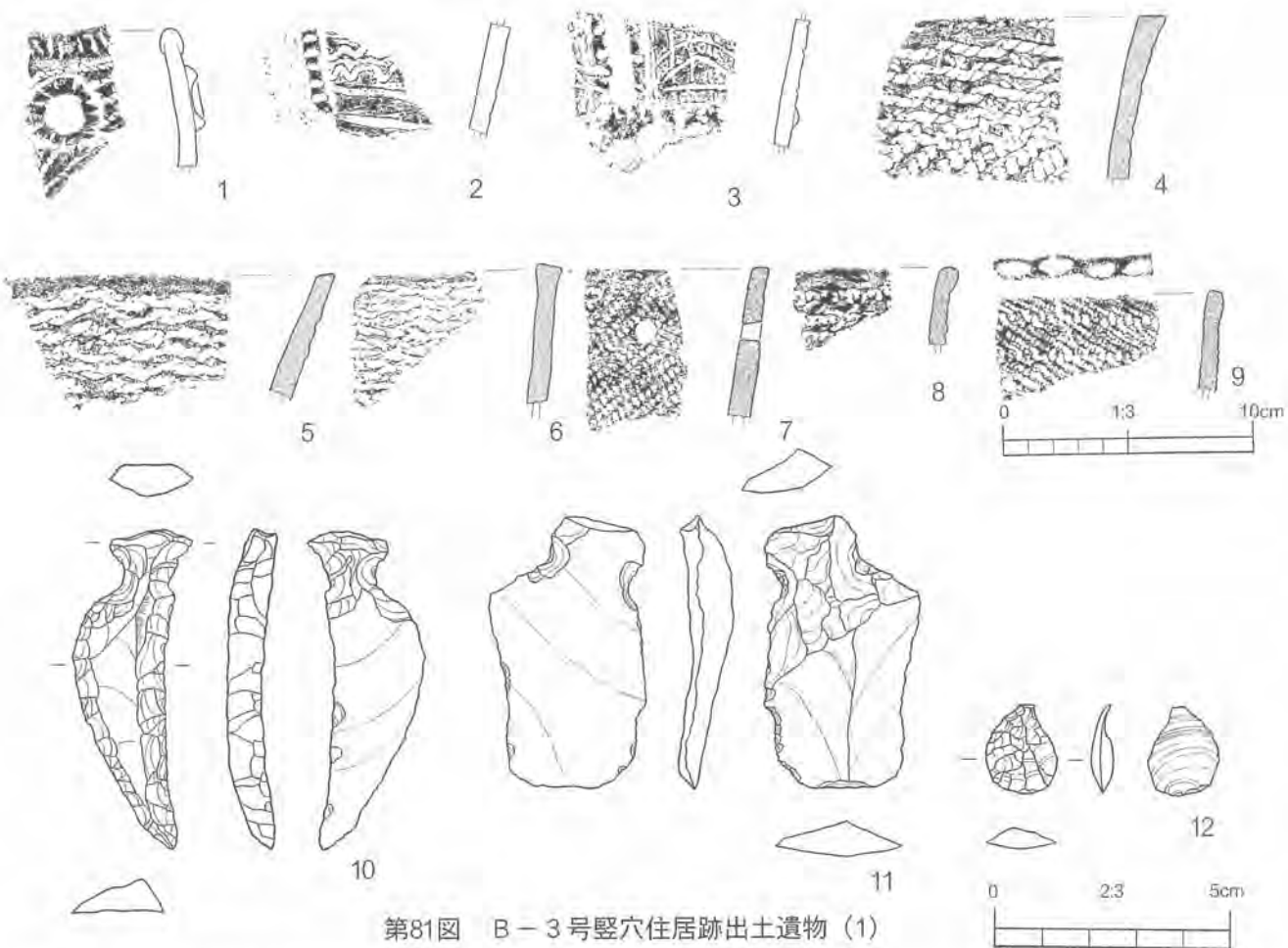
層名	基本土	混入土	土性
A1	10YR2/1 黒 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土	固、疎。上層に火山灰

<B-3号竪穴住居跡柱穴土層観察表>

層名	基本土	混入土	土性
P1 a1	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土		軟、疎。礫含む
P2 a1	10YR2/2 黒褐 シルト質壤土		軟、疎。礫含む



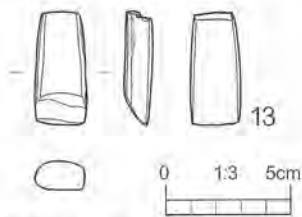
第80图 B-3号竖穴住居跡炉跡



第81图 B-3号竖穴住居跡出土遺物(1)

<B-3号竖穴住居跡土層觀察表>

層名	基本土	混入土	土性
k 1	5YR4/8 赤褐 砂壤土	10YR2/2 黒褐 砂壤土7%	中、中。
k 2	10YR2/2 黒褐 砂壤土	10YR2/3 黒褐 砂壤土	やや軟、疎。



第82図 B-3号竪穴住居跡出土遺物(2)

D-7号竪穴住居跡(第83~89図)

<検出状況> D区の中央に位置する。検出面は、掘りすぎのため壁を確認できなかったが、断面から判断してE層上面と思われる。図示した壁の立上がりは断面で確認したもので、Ⅱ期の東側の壁の立上がりは確認できなていない。切り合いは、北部をD-5号に切られている。

周溝、焼土遺構、土坑跡を検出したが、周溝跡から三度の建替えが確認された。

I期(第83図)

建替えによる拡張というより移動である。北側の周溝は確認できなかった。Ⅱ期の位置より北東へ50cm移動している。

床面の北、南の二箇所で見つかった焼土遺構を検出した。当初別遺構かとも考えたが、切り合いが認められないこと、周溝の位置などから共伴するものと判断した。また南北で比較的大形の土坑跡が出土している。北のP78は焼土遺構の下から検出した。すでに掘られていた土坑を半分ほど埋めて利用したものと断面から判断した。南のP79についても同じ埋土状況を示している(第88図)。凹みを利用したものと思われるが、石組みなどの施設は認められなかった。

平面形は方形である。南北は不明であるが、東西4.5mである。周溝は、幅15cm~30cm、深さは15cm~20cmである。一部で深さ30cmほどの所もあるが、比較的規模は小さい。床面は平坦で、勾配は水平である。

<埋土>(第86図) 4層に大別される。A層は、礫層(11層)直下の堆積層である。固めで粘性のあるにぶい黄褐色の砂質土で、炭、粘土塊などを含む。B層は、固めでやや粘性のある黄褐色土である。C層は、粉状の火山灰をわずかに含む、粘性のある暗褐色土である。D1層は、固めのやや粘性のある黒褐色土で、炭、焼土を多く含む。D2層は軟質で粘性のない暗褐色土で、炭、焼土を多く含む床面直上の堆積層である。

<柱穴> 床面から多数の土坑跡を検出したが全般に規模が小さく、柱痕を確認できたものも少ない。竪穴東側では、南からP34、P35、P32、P20~P24、P37~P39などが柱列をなし、西側ではその対をなすものとしては、周溝上AのP80、P16、17、P18などがあげられるがややバランスに欠ける。単体の規模の大きい柱よりも、大きな掘り方の中に小土坑がいくつか掘られている場合が目立つ。

柱穴計測表には主なものをあげた。

(cm)

PIT	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18
径	29	25	23	19	31	68	19	26	16	54	70	24	14	14	55	44	25	26
深	7	20	41	27	29	20	25	10	10	15	5	18	17	21	18	4	30	21

(cm)

PIT	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36
径	29	17	32	31	44	117	17	33	35	20	27	62	24	46	17	36	25	35
深	37	47	45	26	30	28	13	23	11	26	30	28	38	24	15	29	20	13

(cm)

PIT	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48	P49	P50	P51	P52	P53	P54
径	25	24	30	35	18	19	20	31	29	24	31	78	44	77	30	24	37	27
深	20	20	24	21	9	12	10	20	19	12	9	42	15	11	12	17	12	21

(cm)

PIT	P55	P56	P57	P58	P59	P60	P61	P62	P63	P64	P65	P66	P67	P68	P69	P70	P71	P72
径	31	46	42	29	28	18	27	20	16	24	43	27	26	41	25	25	71	19
深	12	24	12	11	3	26	16	9	12	20	17	6	18	15	16	9	16	19

(cm)

PIT	P73	P74	P75	P76	P77	P78	P79	P81	P82	P83
径	31	33	16	29	36	119	118	23	30	37
深	10	28	23	24	29	70	85	29	32	25

<焼土遺構> 焼土Ⅰ（第83図） 床面の中央部を占める。溝跡で一部を攪乱されている。平面形は不整な長楕円形で、規模は4.0×2.5mである。層厚は最大7cmで、固く焼きしまっている。

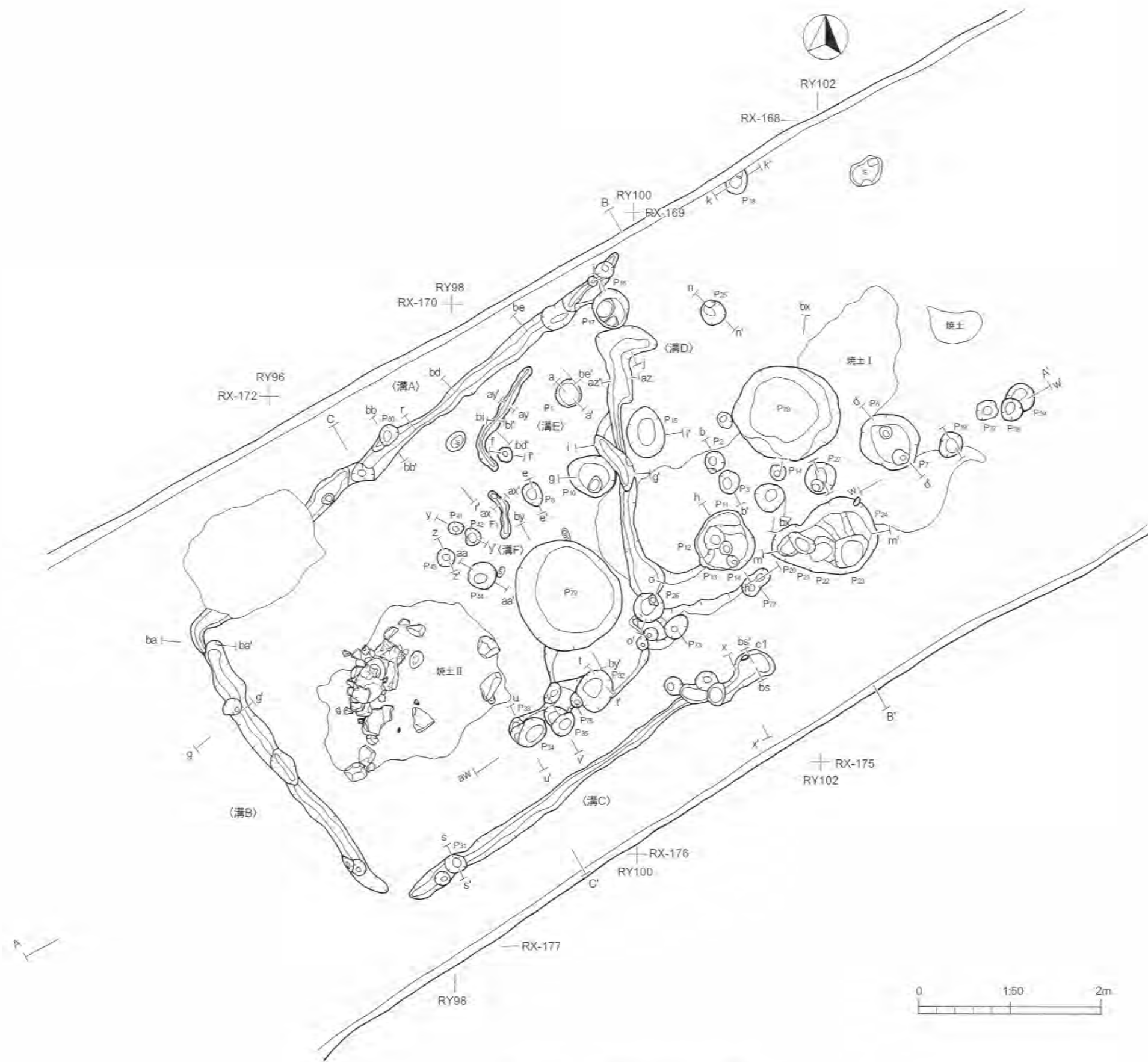
焼土Ⅱ（第89図）床面南側の中央に位置する。焼土内の南側に50cmぐらいの楕円礫が置かれ、土器で覆われていた。それらの土器は一括土器として第90～92図にあげた。形状は不整楕円形で、規模は2.2m×1.5mである。焼土層厚は6cmである。

焼土の下からは浅い掘込、掘込のなかの柱穴、掘込を横断するように掘られた溝跡が検出している。柱穴は南北の端に掘り込まれている。規模はやや大きいが柱跡は確認されていない。溝跡は、周溝をなすものと考えられる。今回検出した周溝のなかで最も古い時期のものである。規模は幅15cm～35cm、深さは10cm～20cmで、両端が深くなっている。

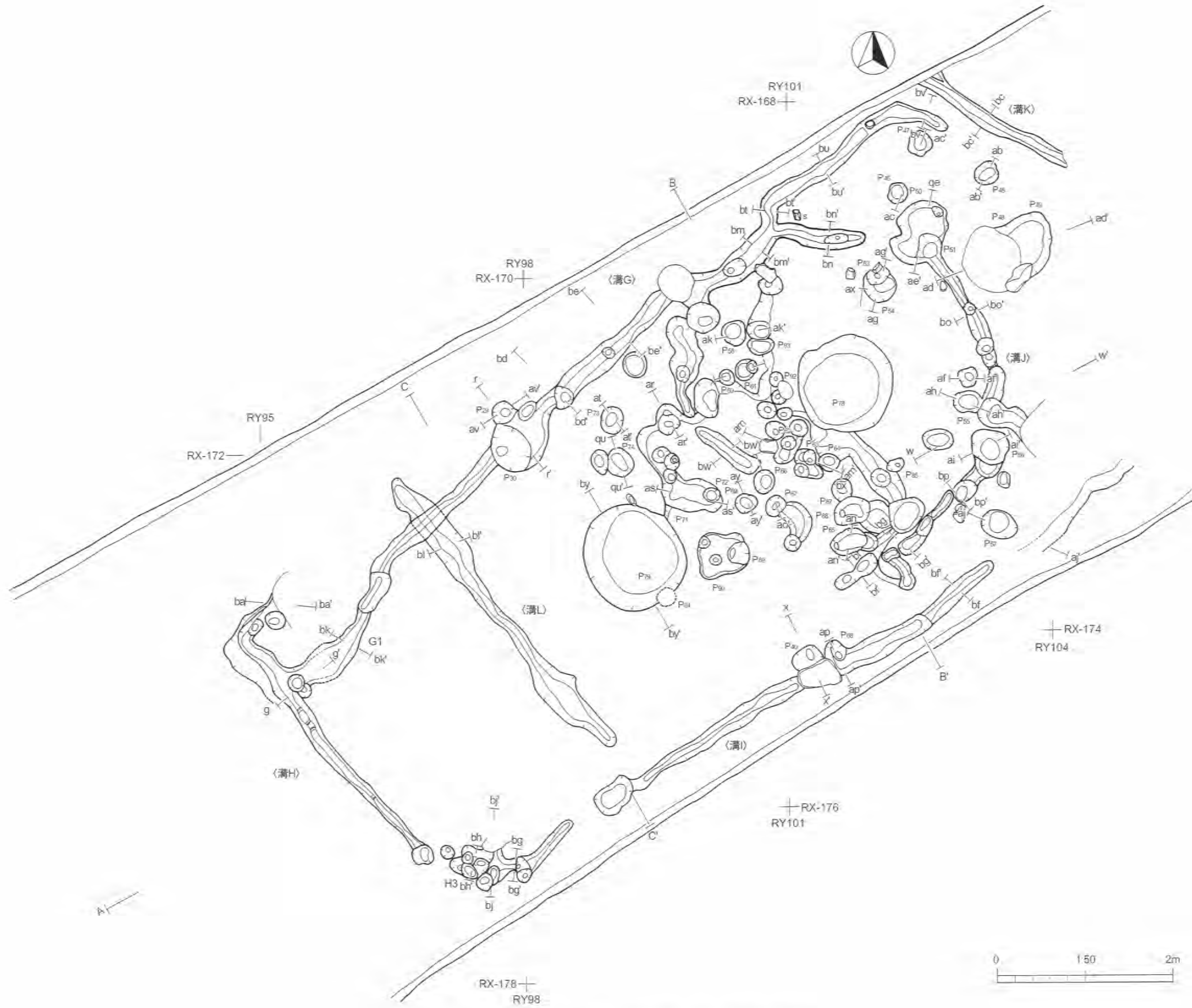
Ⅱ期（第84図）

南西部は大部分をⅠ期の竪穴に削られているが、南西の壁際と床面が低い北東部が残されていた。北側の周溝の方向がずれているのが奇異ではあるが、平面形は方形と思われる。東の周溝は確認できなかったが、規模は少なくとも東西10.5m、南北5.0mである。Ⅰ期の規模とあまり変わらない。床面は南西部で、期よりもやや高く、北東部では低くなっている。勾配が東に傾斜していたものと思われる。周溝の規模は、幅は約20cm、深さ10cm～20cmである。

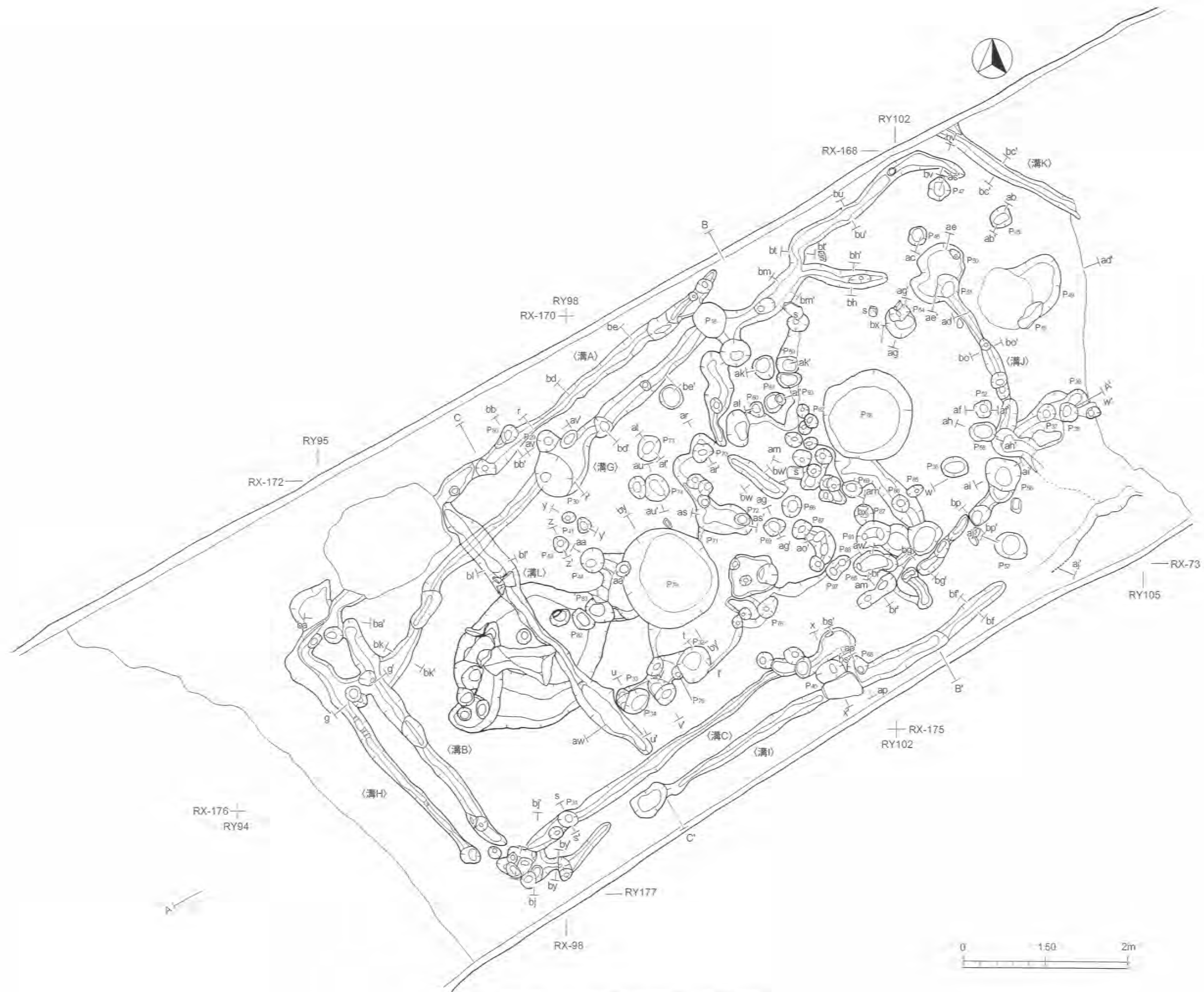
床面北東部では、Ⅰ期においても利用されていた土坑跡P78を囲むような溝跡、小土坑跡を検出した。溝跡の規模は、幅約20cm、深さ10cm～15cmである。焼土遺構などは検出していない。



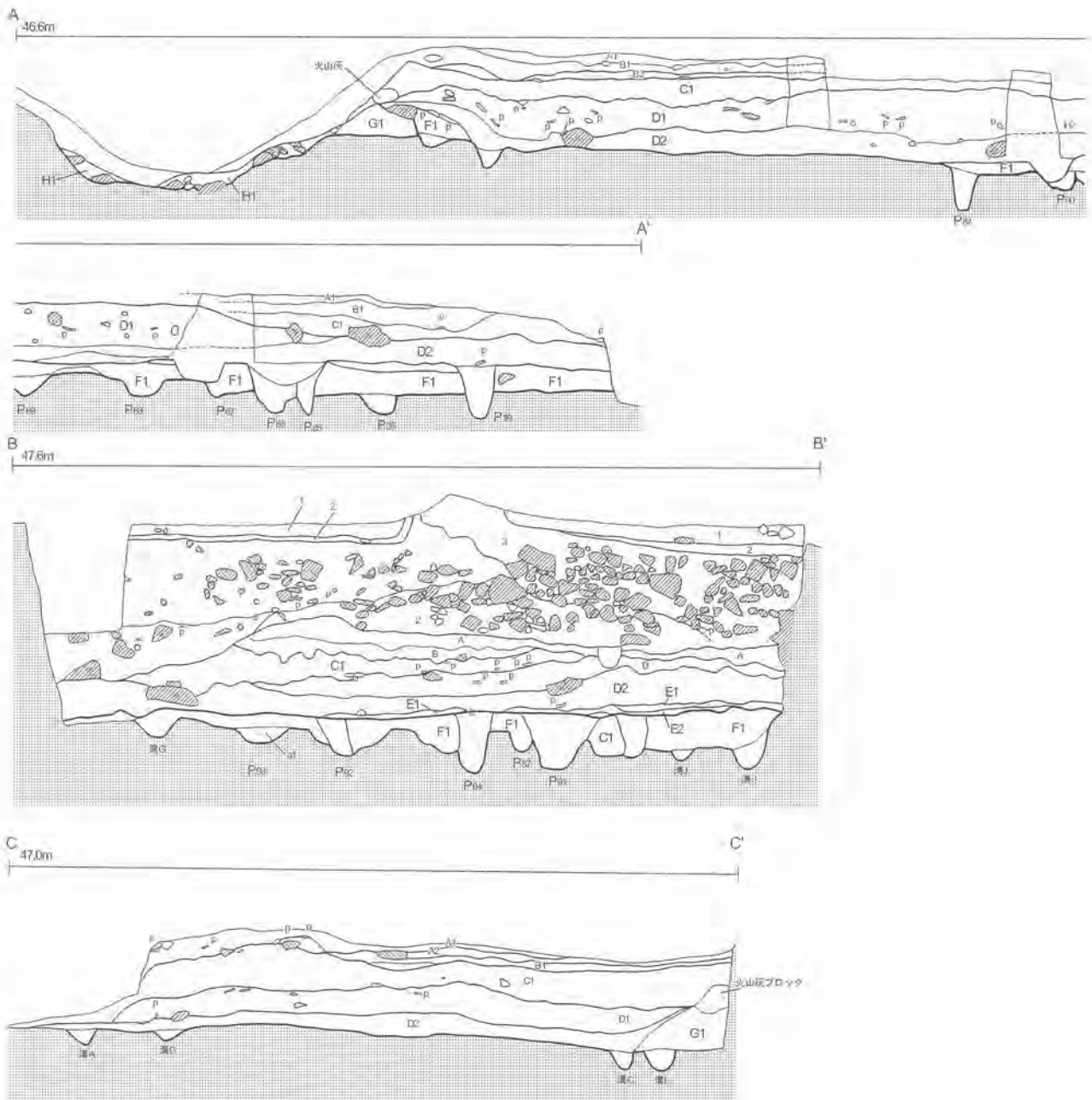
第83図 D-7号竖穴住居跡 I期



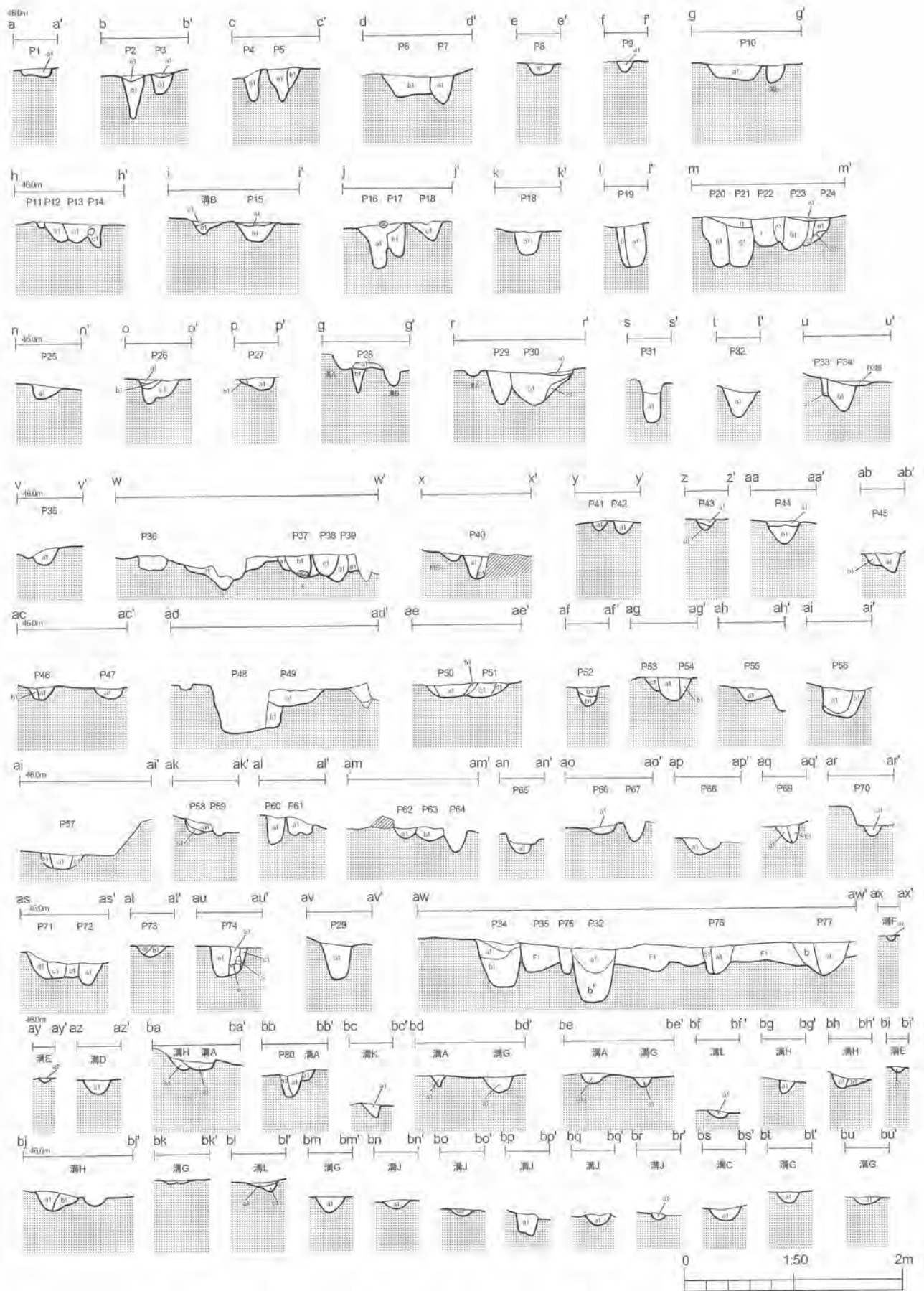
第84図 D-7号竖穴住居跡 II期、III期



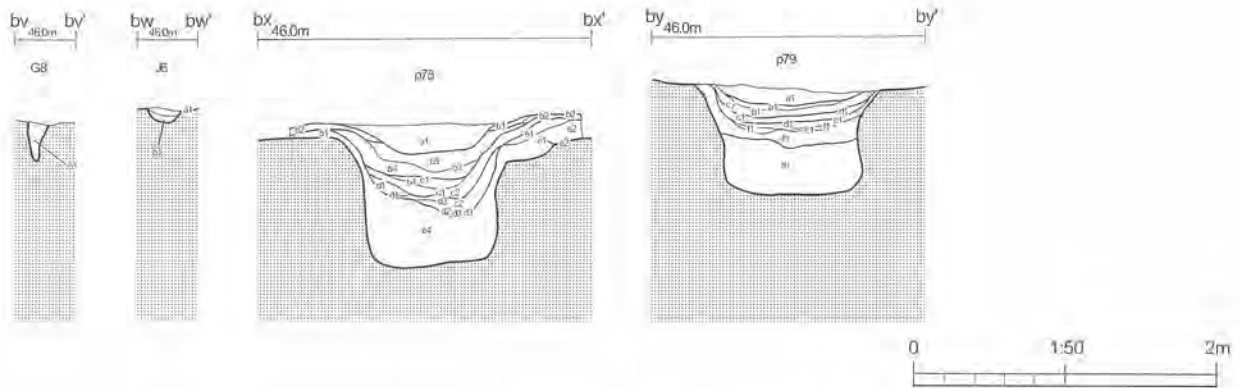
第85図 D-7号竖穴住居跡 完掘状況



第86図 D-7 竪穴住居跡土層断面



第87图 D-7号竖穴住居迹土坑·周沟迹断面图(1)



第88図 D-7号竪穴住居跡土坑断面 (2)

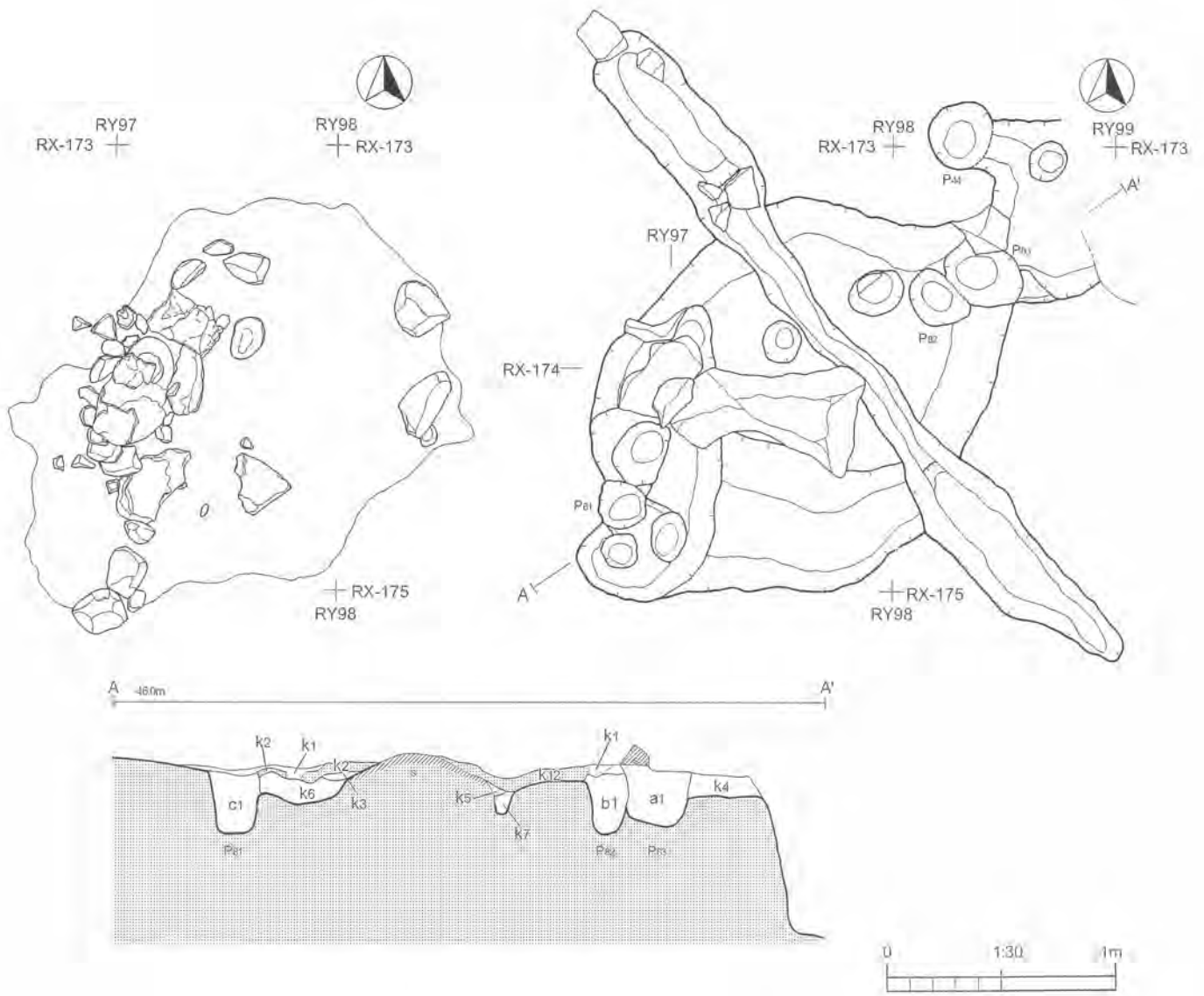
<埋土> (第86図) F層とG層である。壁際の埋土であるF層は、黄褐色土が混じる黒褐色土で、火山灰ブロック含む。壁際の床面は灰で覆われていたが、火山灰か否は不明である。F層は北東部に堆積していた層である。固めでやや粘性のある黒褐色土である。

<柱穴> 南側では西から周溝の角の土坑群、P40、それに対して北側の周溝の角の一群、P29、P30があげられる。いずれも小規模な土坑である。

<土坑跡> P78は、平面形は円形で、規模は径1.1m×1.2m、深さ80cmである。P79は平面形は円形で、規模は径1.1m、深さ70cmである。ほとんど同形、同規模であり、埋土層も同じような堆積層をもつ。上半分は炭、焼土を多く含んだ層が堆積し、下半分は人為的に埋められた褐色土層である。遺物は出土していない。

Ⅲ期 (第84図)

Ⅲ期については、Ⅱ期の焼土Ⅱの下から出土した周溝Lに伴う竪穴と推定されるが、形状・規模などは不明である。



第89図 D-7号竖穴住居跡焼土II

<D-7号竖穴住居跡埋土土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A 1	10YR5/3 にぶい黄褐シルト質壤土	10YR6/4 シルト質壤土15%	固、密。炭多し。
A 2	10YR3/4 暗褐シルト質壤土	10YR5/4 シルト質壤土10%	固、密。粘土粒多し
B 1	10YR5/8 黄褐シルト質埴壤土	10YR4/4 シルト質壤土15%	固、やや密。水成堆積層
C 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	中～固、中。炭多し
D 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土10%	中～固、やや密。炭、焼土を含む
D 2	10YR2/3 黒褐		E 1層より疎で、炭が多い。
E 1	7.5YR3/3 暗褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土15% 7.5YR3/4 砂壤土10%	軟質、疎。焼土、炭多し
E 2	7.5YR3/3 暗褐砂壤土	7.5YR5/6 砂壤土15% 7.5YR6/8 砂壤土5%	軟質、疎。焼土、炭多し
F 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10% 10YR2/1 砂壤土5%	中～固、中

G 1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR2/2 砂壤土15% 10YR4/6 砂壤土5%	固め、中。
H 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR3/3 砂壤土10%	中、中。最下層

<D-7号竪穴住居跡柱穴土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P 1 a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR5/6 砂壤土10%	中、中。
P 2 a 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR5/6 砂壤土3%	
" b 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10%	中、疎。
P 3 c 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	7.5YR3/4 砂壤土10%	中、密
" d 1	7.5YR3/4 暗褐砂壤土	7.5YR4/4 砂壤土10%	中～固、中。
P 5 a 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	7.5YR4/4 砂壤土10% 10YR4/4 砂壤土10%	中、中。多量の焼土。
" b 1	7.5YR4/3 褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土10%	中、中。多量の焼土。
P 6 a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土5%	軟質、密。
" b 1	7.5YR4/4 褐砂壤土	7.5YR4/6 砂壤土10%	軟質、疎。
P 6 b 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR5/8 砂壤土10%	中、中。
P 7 a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR3/3 砂壤土10%	軟質、疎。
P 8 a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土15%	軟質、疎。
P 9 a 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR5/6 砂壤土15%	中～固、中。
P 1 0 a 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10%	軟質、疎。
P 1 2 b 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土10%	固め、中。
P 1 3 a 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR3/4 砂壤土10% 10YR4/6 砂壤土3%	固め、中。
P 1 4 c 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土3%	固め、中。
P 1 5 a 1	10YR4/4 褐	10YR2/3 砂壤土10%	中、疎。
" b 1	10YR4/4 褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土20% 10YR2/3 砂壤土3%	固め、疎。
P 1 6 a 1	10YR4/4 褐砂壤土	10YR5/6 砂壤土20% 10YR3/4 砂壤土5%	中、中。少量の炭
P 1 7 b 1	10YR4/4 褐	10YR5/6 砂壤土10%	固め、疎。a 1より明。
P 1 8 a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10%	中、中。
P 1 9 a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土10%	固め、中。
" b 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10%	固め、中。a 1より明。
P 2 0 a 1	7.5YR6/4 にぶい橙砂壤土	10YR4/4 砂壤土101%	軟質、密。
P 2 0 h 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土3%	軟質、疎。
P 2 1 g 1	10YR4/4 褐砂壤土	10YR5/6 砂壤土20%	軟質、疎。炭多
P 2 2 i 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土5%	固め、やや密。少量の炭。
P 2 3 b 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10%	中、中。
" c 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10% 10YR4/6 砂壤土10%	中、中。
P 2 4 d 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土15%	中、中～密。
" e 1	10YR5/6 黄褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土10%	中、中。
" f 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR5/8 砂壤土15%	中、中。少量の炭。
P 2 5 a 1	10YR2/3 黒褐	10YR4/6 砂壤土10%	固め、疎。多量の炭。
P 2 6 a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10%	中、疎。
" b 1	10YR4/6 褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土5%	軟質、疎。
" c 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10%	中、中。
P 2 7 a 1	7.5YR3/3 暗褐砂壤土	10YR5/8 砂壤土10% 10YR2/3 砂壤土5%	中、中。
" b 1	7.5YR4/3 褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土5%	中、中～密。多量の焼土。
P 2 8 a 1	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR4/4 砂壤土10% 10YR5/8 砂壤土5%	中、中。
" b 1	注記なし		

P 2 9	a 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR4/6	砂壤土10%	固め、やや密。多量の炭。
P 3 0	a 1	10YR4/6	砂壤土	褐	10YR5/6	砂壤土10%	軟質、疎。
"	b 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR5/8	砂壤土10%	中、中。
P 3 1	a 1	10YR2/2	砂壤土	黒褐	10YR2/3	砂壤土10%	軟質、疎。多量の炭。
P 3 2	a 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR5/6	砂壤土15%	中、中。少量の炭。
P 3 3	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	やや軟質、疎。周溝?
P 3 4	a 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR3/4	砂壤土10%	軟質、疎。多量の炭。
P 3 5	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土10%	中～軟、中。
P 3 7	b 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR3/4	砂壤土10%	中、中。中央ベルト追加分
P 3 8	c 1	7.5YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR2/3	砂壤土10%	固、やや密。
P 3 9	d 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR3/4	砂壤土10%	固、やや密。中央ベルト追加分
P 4 0	a 1	7.5YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR2/3	砂壤土10%	中、中。
"	b 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土10%	やや軟質。
P 4 1	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	固め。少量の炭。
P 4 2	b 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	固め。少量の炭。
P 4 3	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR3/1	砂壤土10%	固め。
"	b 1	10YR4/6	砂壤土	褐	10YR4/4	砂壤土10%	固め。
P 4 4	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	固め。多量の炭。
"	b 1	10YR4/6	砂壤土	褐	10YR6/4	砂壤土5%	
"	b 1	10YR4/6	砂壤土	褐	10YR4/4	砂壤土15%	少量の炭。
P 4 5	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	固め、中。
"	b 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR4/6	砂壤土10%	固め、中。
P 4 6	a 1	10YR3/3	砂壤土	暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	中、中。
"	b 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR2/3	砂壤土3%	
"	b 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR3/4	砂壤土10%	中、中。
P 4 7	c 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土10%	中、中。
P 4 9	a 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR4/6	砂壤土10%	固。少量の炭。
"	b 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR5/6	砂壤土3%	注記なし
P 5 0	a 1	10YR3/3	砂壤土	暗褐	10YR2/3	砂壤土10%	中、疎。
"	b 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土10%	中、中。
P 5 1	c 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR3/4	砂壤土5%	軟質、疎。
"	d 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR5/6	砂壤土10%	中、疎。
P 5 2	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	中、疎。
"	b 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土5%	固め。a 1より暗。
P 5 5	a 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR4/6	砂壤土10%	中、疎。
P 5 6	a 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR4/6	砂壤土3%	軟質、疎。
"	b 1	10YR4/3	砂壤土	にぶい黄褐	10YR5/6	砂壤土15%	軟質、疎。
P 5 7	a 1	10YR2/3	砂壤土	黒褐	10YR4/4	砂壤土10%	軟質
"	b 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR4/6	砂壤土10%	中、疎。
P 6 0	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土15%	中、疎。
P 6 1	b 1	10YR4/3	砂壤土	にぶい黄褐	10YR2/3	砂壤土10%	中、中。
P 6 2	a 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土15%	固め。少量の炭。
P 6 3	b 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	固め。少量の炭。
P 6 5	a 1	10YR2/2	黒褐		10YR4/6	砂壤土10%	固、中。
P 6 6	a 1	10YR2/2	黒褐		10YR3/4	砂壤土10%	固め。
P 6 8	a 1	7.5YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土10%	軟質。
P 6 9	a 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR5/6	砂壤土15%	中、中。少量の焼土。
"	b 1	10YR3/4	砂壤土	暗褐	10YR4/6	砂壤土10%	やや軟質、疎。
P 7 0	a 1	10YR4/4	砂壤土	褐	10YR5/6	砂壤土20%	中、疎。
P 7 1	b 1	10YR4/6	砂壤土	褐	7.5YR3/3	砂壤土10%	中～固、疎。少量の焼土、炭。
"	c 1	7.5YR2/3	砂壤土	極暗褐	7.5YR3/3	砂壤土10%	中～固、疎。

"	d 1	7.5YR3/4 砂壤土 暗褐	7.5YR2/3 砂壤土10%	中、疎。
P 7 2	a 1	7.5YR4/6 砂壤土 褐	7.5YR4/4 砂壤土10% 10YR4/6 砂壤土10%	疎。多量の焼土、炭。
P 7 3	a 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR5/8 砂壤土10%	軟質、疎。
"	b 1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/4 砂壤土10%	中、疎。
P 7 4	a 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR5/6 砂壤土5%	固め、中。
"	b 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR5/8 砂壤土20%	固め。a 1より明。
"	c 1	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土10%	固め。少量の焼土。
P 8 0	a 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR5/6 砂壤土10%	固め、中。
"	b 1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/4 砂壤土10%	固め、中。
P 8 0	a 1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土5%	固、中。
"	b 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR5/6 砂壤土10%	固、やや密。
溝A	b 1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR2/3 砂壤土10%	中、中。
溝B	c 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土5%	中、中。多量の炭。少量の火山灰。
"	d 1	10YR2/3 黒褐	10YR4/6 砂壤土15%	中、中。
溝C 1	a 1	10YR4/6 砂壤土 褐	10YR4/4 砂壤土10%	固、疎。
"	b 1	7.5YR2/3 砂壤土 極暗褐	10YR2/1 砂壤土10%	中、中。
溝D 1	a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土5%	固め、中。少量の炭、焼土。
溝E 1	a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR5/6 砂壤土10%	中、中。
溝G 1	a 1	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土10%	中、中。
溝G 3	a 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR4/6 砂壤土10%	中、中。
溝H	a 1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR2/3 砂壤土10%	軟質。
"	b 1	10YR4/6 砂壤土 褐	10YR4/3 砂壤土20%	中、疎。
溝J 1	a 1	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR4/4 砂壤土10%	固め、密。
溝J 6	b 1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR4/4 砂壤土10%	中、疎。
溝K 1	a 1	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR5/6 砂壤土5%	固め、やや密。
溝L 1	a 1	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土10%	中、中。
"	b 1	10YR4/6 砂壤土 褐	10YR2/3 砂壤土10% 10YR2/1 砂壤土3%	中、中。

< P 7 8 土坑跡土層観察表 >

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a 1	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土5%	軟質、密。
a 2	7.5YR4/4 褐砂壤土	7.5YR4/6 砂壤土10%	軟質、疎。
b 1	10YR6/6 明黄褐シルト質埴壤土	10YR6/8 シルト質埴壤土10%	固、密。
b 2	5YR5/6 明赤褐シルト質埴壤土	5YR4/6 シルト質埴壤土20% 10YR4/6 シルト質埴壤土5%	固め、密
b 3	7.5YR4/4 褐砂壤土	7.5YR4/3 砂壤土10% 7.5YR6/4 砂壤土10%	軟質、やや密。
b 4	7.5YR3/4 暗褐砂壤土	7.5YR3/4 砂壤土15%	軟質、疎。

c 1	7.5YR2/3 極暗褐砂壤土	7.5YR4/3 砂壤土10%	軟質、疎。多量の炭。
c 2	7.5YR4/2 灰褐砂壤土	7.5YR4/4 砂壤土10%	軟質、疎。
d 1	7.5YR4/4 褐砂壤土	7.5YR3/4 砂壤土15%	軟質、疎。
d 2	5YR2/4 極暗赤褐砂壤土	5YR3/4 砂壤土10%	軟質、疎。
d 3	10YR5/8 黄褐砂壤土	10YR4/6 砂壤土10%	中、疎。
e 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	7.5YR2/3 砂壤土10%	固、中。
e 2	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土10%	固、中。
e 3	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土10% 10YR5/6 砂壤土5%	中、中。
e 4	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR6/8 砂壤土15%	軟質、疎。

<P 7 9 土坑跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	7.5YR3/3 砂壤土15% 7.5YR4/4 砂壤土10%	軟質、中。少量の火山灰、炭。
b 1	7.5YR3/4 暗褐砂壤土	7.5YR4/6 砂壤土10%	軟質、疎。
c 1	7.5YR4/3 褐砂壤土	7.5YR3/4 砂壤土15%	軟質、疎。
d 1	10YR1.7/1 黒砂壤土	7.5YR2/3 砂壤土5%	軟質、疎。
e 1	7.5YR6/6 橙砂壤土	7.5YR5/4 砂壤土15%	軟質、疎。
f 1	7.5YR2/3 極暗暗褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10%	軟質、疎。
g 1	7.5YR3/4 暗褐砂壤土	7.5YR2/3 砂壤土15% 10YR5/6 砂壤土3%	軟質、疎。少量の焼土塊。
h 1	10YR5/8 黄褐砂壤土	10YR5/6 砂壤土15%	軟質、疎。

<D-7号竪穴住居跡焼土Ⅱ土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
K 1	5YR3/3 砂壤土 暗赤褐	7.5YR3/4 砂壤土10%	軟質、密。多量の焼土、炭。
K 2	2.5YR4/8 砂壤土 赤褐	5YR4/8 砂壤土10%	固、密。
K 3	10YR6/8 砂壤土 明黄褐	10YR5/8 砂壤土10%	固め、密。
K 4	10YR4/6 砂壤土 褐	10YR4/4 砂壤土10% 10YR5/6 砂壤土10%	固、密。
K 5	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/4 砂壤土10%	軟質、疎。多量の炭。
K 6	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR5/6 砂壤土10%	疎。少量の粘土塊、炭。
K 7	10YR4/6 砂壤土 褐	10YR2/3 砂壤土5%	軟質、疎。多量の炭。
P 8 3 a 1	10YR4/6 砂壤土 褐	10YR4/4 砂壤土10% 10YR5/6 砂壤土5%	中、中。多量の粘土塊。
P 8 2 b 1	10YR5/6 砂壤土 黄褐	10YR4/6 砂壤土15%	中、疎。

D-7号住居跡出土遺物（第90～113図）

1～3 7は焼土Ⅱに伴う一括土器である。1は南側の炉跡に伴う。口縁部は外反し、胴部はわずかにふくらみをもつ。口縁部の内面の一部と頸部に粘土紐を貼付する。隆帯はいずれも波状であるが、頸部は一部弧状に垂下する。2は口唇部にS字状の粘土紐を貼付し、頸部にも隆帯をめぐらす。頸部の隆帯には、斜位の刻みが入る。3、5は1と同施文である。4は口唇部に円形に凹みを設け、口縁部に渦巻状に隆線を貼付する。6は1と同タイプであるが、平行、波状、円形の隆線を組み合わせる。7は口縁部は直に折れて、内面は水平となる。胴部は丸く張出す。粘土紐による施文である。口縁部は一部がとくに幅広に成形され、大小の波状隆線が貼付される。体部は、幅広の隆帯を頸部にめぐらし、中位には渦巻文を貼付する。隆帯には円形刺突が加えられ、頸部と胴部の隆帯を斜の粘土紐で連絡する。地文は単節縄文の横回転である。8は口縁部は大きく外反し、胴部は丸くつよ

く張出す。口唇部に波状の粘土紐を貼付する。頸部は無文で、胴部上半に波状文を伴った渦巻文を隆線で施文する。9は1と同形と思われるが、胴部の張出しがよい。施文は、平行隆線による渦巻文と波状文を施し、隆線の一部を梯子状に連絡する。10は1に伴出する。口縁部は外形し、胴部はふくらみをもたずにすぼまる。ラッパ形である。口縁部内面にS字状の粘土紐が貼付される。体部は地文のみで、単節縄文の横回転である。11は口唇部にS字状粘土紐が貼付され、それに斜位の粘土紐が連絡する。12は口縁部に山形沈線、頸部の隆帯には刻みが施される。以上12をのぞき大木4式に伴う。

13～37は1、10と共伴する一括土器である。13は口縁部は内反気味で、胴部はややふくらみをもつ。口縁部に、単位は不明であるが、5個の円形の凹みをもつ。地文は単節縄文の横回転である。14は口唇部にS字状粘土紐が貼付され、地文は羽状縄文である。15～19は結節縄文の横回転で施文される。16は口唇部に半円状の刻みが入り、18は押圧が加えられる。20、21は隆帯に押圧が加えられ、21は多軸絡条体で施文される。22、24は口唇部に押圧が加えられ、22、23、25は結節縄文の横回転で施文される。26は組紐による施文か。27は半截竹管による縦位の波状文と原体圧痕を伴う。28は撚糸文、29は櫛目状沈線を伴う。30、31はS字状連鎖沈文による施文である。32～35は繊維を含む。32、34、35は不整撚糸文、33は羽状縄文を伴う。36は小形の鉢、37は深鉢の底部である。

38～40は結節縄文の横回転で施文され、40は口唇部に押圧が加えられる。41は口唇部に押圧痕をもち、口縁部は無文である。

42～65は胎土に繊維を含む。42～51は不整撚糸文で施文され、50は単節縄文の横回転を伴う。52～60は単節縄文の横回転である。61～64は羽状縄文を伴う。65は原体圧痕を施される。

66は無文で、外面に輪積痕を残す。内面は平滑である。67は円形刺突列を伴う。68、69は撚糸文を施される。70～75は貝殻腹縁圧痕を伴う。76～78は深鉢の底部である。

79は円盤状土製品である。結節縄文の横回転を伴うが、上半を擦り消す。

80～177はE層の出土である。

80はやや太めの波状の粘土紐を頸部に貼付する。81、83～89は細い粘土紐で波文、円文、渦巻文などを施文する。82、90は口縁部の内面に粘土紐を貼付する。91、92は口縁部外面への粘土紐の貼付である。93～95は頸部隆帯への斜方向の刻みを伴う。96は横位のやや幅の広い隆帯に沈線を施す。隆帯の下に円形の粘土紐の剥離痕を残す（隆帯と連絡している）。97～100は同一個体の可能性がある。口縁部は外反し、直線的に立上がる。口縁部には凸状の2個の突起をもつ。口縁部に粘土紐で渦巻状の文様を施し、粘土紐には円形刺突列が加えられる。地文は単節縄文の横回転である。

101は円盤状土製品である。83などと同施文である。以上96をのぞき大木4式に伴う。

102～105は竹管による円形刺突を伴う。106は細い粘土紐に刻目が入る。102～106は大木3式に伴う。

107～139は胎土に繊維を含む。107～119は不整撚糸文で施文され、113、114、119は単節縄文の横回転を伴う。120、121は原体圧痕を伴う。122～125は単節縄文の横回転を伴い、123、124は口唇部に押圧を加える。126～130は羽状縄文を伴う。127は口唇部に縄文の回転で施文され、130は撚糸の押圧を加える。131、132、134は

組紐による施文か。133は口唇部に刻みが入り、RL、LRの単節縄文を縦回転させる。135～138は羽状縄文である。107～119は大木2a式、122～125は大木1式に伴う。

140～155は結節縄文の回転を伴うが、144の縦回転をのぞきすべて横回転である。147～149は口縁部に押圧を加える。

156は口縁部が外反し、胴部はわずかにふくらんですぼまる深鉢である。施文は、一部不鮮明であるが単節縄文の横回転と思われる。157は口縁部に押圧痕を残し、地文は単節縄文の横回転である。158は直線的に立上がる深鉢で、櫛目状の沈線で施文される。159は山形沈線に横位の沈線を施す。160は複合口縁で、隆帯も縄文回転で施文される。161、162は沈線による波状文?である。168は口唇部に斜方向の切込みが入る。164は山形口縁で、口唇部に刻みが入る。165は口唇部に細かい刻みが入り、口縁部は無文である。166、167は口縁部に押圧を加える。168は櫛目状の沈線を伴い、158と同一個体と思われる。169、170は沈線で、169が撚糸を伴う。171、173～174は撚糸文で施文される。172は縦位の沈線である。175、176は貝殻腹縁圧痕を伴う。177は深鉢の底部で、単節縄文の縦回転で施文される。

178～291はD層の出土である。

178は口縁部の隆帯の上下に棒状工具で沈線を施して薄く延ばし、中位に刺突列を加える。隆帯の下には粘土紐が貼付される。179は縦位の粘土紐に押圧を加え、地文は結節縄文の縦回転である。178、179はおおまかに大木6式～大木7a式に伴うものと思われる。

180、181は頸部の隆帯に斜の刻みが入る。182、183は口縁部に粘土紐で波状文、渦巻文が施される。184～190、192は口唇部にS字状または波状の粘土紐が貼付される深鉢の口縁部である。191～198は粘土紐による横位の波状文と直線の組合わせである。199、200は粘土紐による渦巻文を施文する。201～204は粘土紐による梯子状の文様をほどこす。205は波状、直線の粘土紐に円形の刺突を施す。180～205は大木4式に伴う。

206～208は細かい粘土紐に刻みが施される。大木3式に伴う。

209～233は不整撚糸文で施文される。217、222、225、227～232は縄文の横回転を伴う。209、210は山形口縁である。227は口縁部に山形の小突起をもち、口唇部に押圧が加えられる。229は口唇部に縄文回転が施され、230は押圧が加えられる。以上大木2a式に伴う。

234～250は縄文の横回転で施文される。250は口唇部は縄文の横回転で施文される。

251～259は羽状縄文で施文される。以上大木1式に伴う。

260～269は沈線で施文される一群である。260、261、264は波状の沈線で、260には上下に不整な長円形の区画が入る。262、263、265～268は山形沈線である。269は櫛目状の沈線である。270は口縁部に円形刺突が施され、口唇部に溝が入る。

270～281、284は結節縄文の横回転で施文される。275～277、282の口唇部には刻みが入り、278～280、284、283の口唇部には押圧が加えられる。282、283は施文技法は不明である。285は付加条縄文で施文される。286、287は木目状撚糸文で施文される。288、289は付加条縄文で施文される。290は小形の深鉢の底部である。291は全面に網代痕を残す底部である。

292～355はC層の出土である。

292は、口縁部にやや幅の広い波状の粘土紐を貼付し、頸部にも隆帯をめぐらす。隆帯には縦

位の刻目が入る。地文は撚糸文である。293は口唇部に波状の粘土紐を貼付する。頸部の隆帯には斜の刻みが入る。294は波状口縁である。頸部の隆帯には円形刺突が施される。口縁部は隆線で方形に区画し、そのなかに弧状の隆帯を貼付し、刺突を加える。295は口唇部と口縁部の内面に大小の波状の粘土紐を貼付する。口縁部は無文である。296、297、301は口唇部に粘土紐が貼付される。298、300、302は頸部に波状の粘土紐が貼付され、300は口唇部にも波状の隆帯を伴う。299は口縁部は無文で、頸部に結節痕を残す。298と同タイプと思われる。292～302は大木4式に伴う。

303～314は胎土に繊維を含み、撚糸文で施文される。304は網目状撚糸文、303、305～313は不整撚糸文で施文され、310～313は単節縄文の横回転を伴う。以上大木2a式に伴う。315～320は胎土に繊維を含む。315～317は単節縄文の横回転を伴い、318はループ文である。319、320は羽状縄文で施文される。315～318は大木1式に伴う。

321は沈線の間を円形刺突列で埋める。322は山形口縁で、口唇部に円形刺突が加えられる。体部はジグザグの沈線で施文される。大木5式に伴うか。323は沈線に円形竹管による刺突が加えられる。324～331は結節縄文の横回転を伴う。324は波状口縁で、器形は楕円形に歪む。325、327は口唇部に刻みが入り、328は押圧が加えられる。332、333は山形口縁で、332は押圧痕、333は刻目を伴う。334、335は口縁部に凸状の突起をもつ。336、337は隆帯に押圧が施される。336は網目状撚糸文で施文され、337は隆帯の下に横位の円形刺突列を伴う。338は口縁部に抉りが入り、339～341は口縁部に押圧が加えられる。341は付加条縄文で施文される。342～344は組紐で施文され、344は口唇部に沈線が入る。345は胎土に繊維を含む。施文は不鮮明であるが、一部単節縄文の縦回転が認められる。346は組紐、347は縄の束による施文と思われる。348、349は付加条縄文で施文される。350、351は撚糸文を伴う。352～355は深鉢の底部である。353は沈線で施文され、355は網代痕を残す。

356～399はA～B層の出土である。

356は口唇部に円形凹条の突起をもち、S字状の粘土紐を貼付する。頸部にS字状隆線を伴う。357は口縁部内面に渦巻条の粘土紐を貼付する。地文は撚糸文である。358は幅広の口唇部に円形、波状の粘土紐を貼付する。頸部の幅広の隆帯に同じ隆帯で円文を貼付し、刺突を加える。円文は細い隆帯で車輪状に連絡され、横位の隆帯にも斜の細い粘土紐が連絡している。359は直に折れた口縁部の内面に粘土紐が貼付される。地文は単節縄文の横回転である。360は口縁部に粘土紐による渦巻文を施され、頸部は隆沈線を伴う。356～359は大木4式に伴う。

361～369は撚糸文を伴う。368をのぞき頸部に隆帯を伴い、隆帯には円形の刺突が加えられる。361は口縁部は外反し、胴部はふくらみをもってすぼまる。網目状撚糸文である。366は口唇部に押圧が加えられ、木目状撚糸文で施文される。367も口縁部に押圧が加えられ、木目状撚糸文を伴う。368～370は網目状撚糸文を伴う。371は山形口縁で、頂部に刺突を施され、木目状撚糸文を伴う。

374～394は胎土に繊維を含む。372～382は不整撚糸文で施文される。374は単節縄文の横回転を伴い、380、382は羽状縄文を伴う。383は葺瓦状撚糸文で施文される。384、385は底部片で、不整撚糸文で施文され、385は単節縄文の横回転を伴う。386～388、390は単節縄文の横回転を伴い、386は口唇部に押圧を加える。389、391～39

4は羽状縄文である。389は口唇部を縄文の回転で施文される。394は尖底土器の底部である。372～385は大木2a式、386～388、390は大木1式に伴う。

395は口唇部に刻みが入り、頸部に平行沈線を伴う。396は平行沈線、沈線による方形に区画、刺突列を伴う。397～399は結節縄文を伴い、397、398は横回転、399は縦回転させる。

400～456は石器である。

400～421は石鏃である。400～411は凹基である。400～410は二等辺三角形型である。側縁は、400～406が平側、407～410がふくらみの小さい円側である。411は鋭角三角形型で、平側である。412～420は平基である。412～418は二等辺三角形型、419、420は鋭角三角形型にちかい。側縁は、417がふくらみをもち、420は器形が歪み、凹側、円側である。そのほかは平側である。421は凸基である。鋭角三角形型で、側縁は平側である。

421～440は石匙である。422～432は縦型、433は横型である。調整は、片面の全面、片面の周縁を加工するもの(422、423)、両面の周縁を加工するもの(424～431、434、435)、両面全面を加工するもの(432)に分れる。422～428、432、433は、刃部の末端を尖らせる。434、435は刃部を欠損する。436～440は石匙の先端部と思われる。441～444は円形、楕円形の剥片を調整して凸刃をつくりだす。445は刃部の末端を尖らせ、凹刃をもつ。

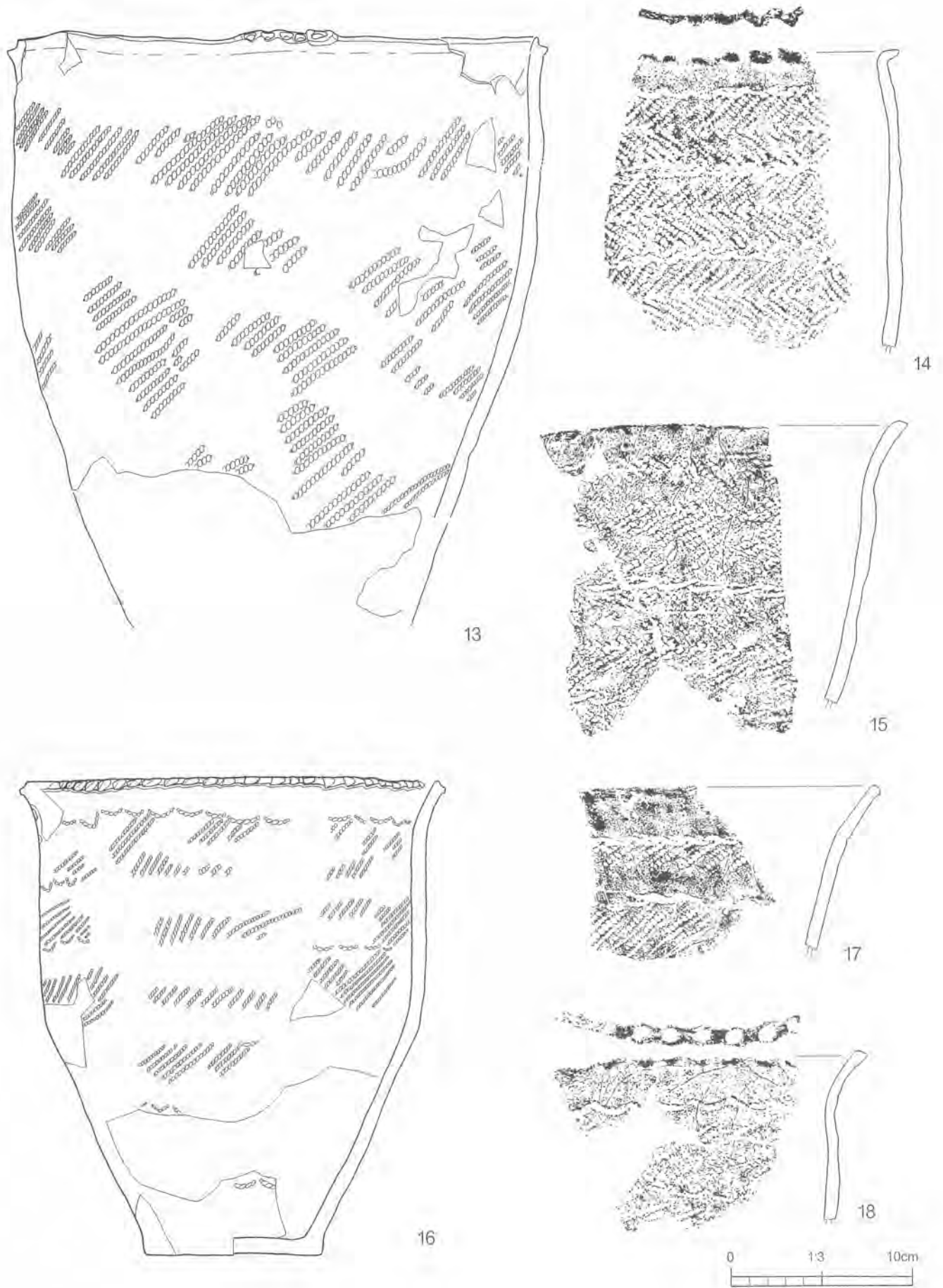
446～448は磨製石斧である。446は頭部と刃部の一部を欠損する。刃部は胴部よりやや広く、断面形は隅丸方形である。刃縁は円形であるが偏りをもつ。447は刃部である。断面形は中心部が膨らむ方形である。刃縁は丸みをもつが、直刃にちかい。448は丸みをもつ頭部である。断面形は一方が丸みをもつカマボコ形である。

449～456は敲打磨石である。449、450、452は機能面のほかに調整磨面をもつ。455は機能面を二面もつ。

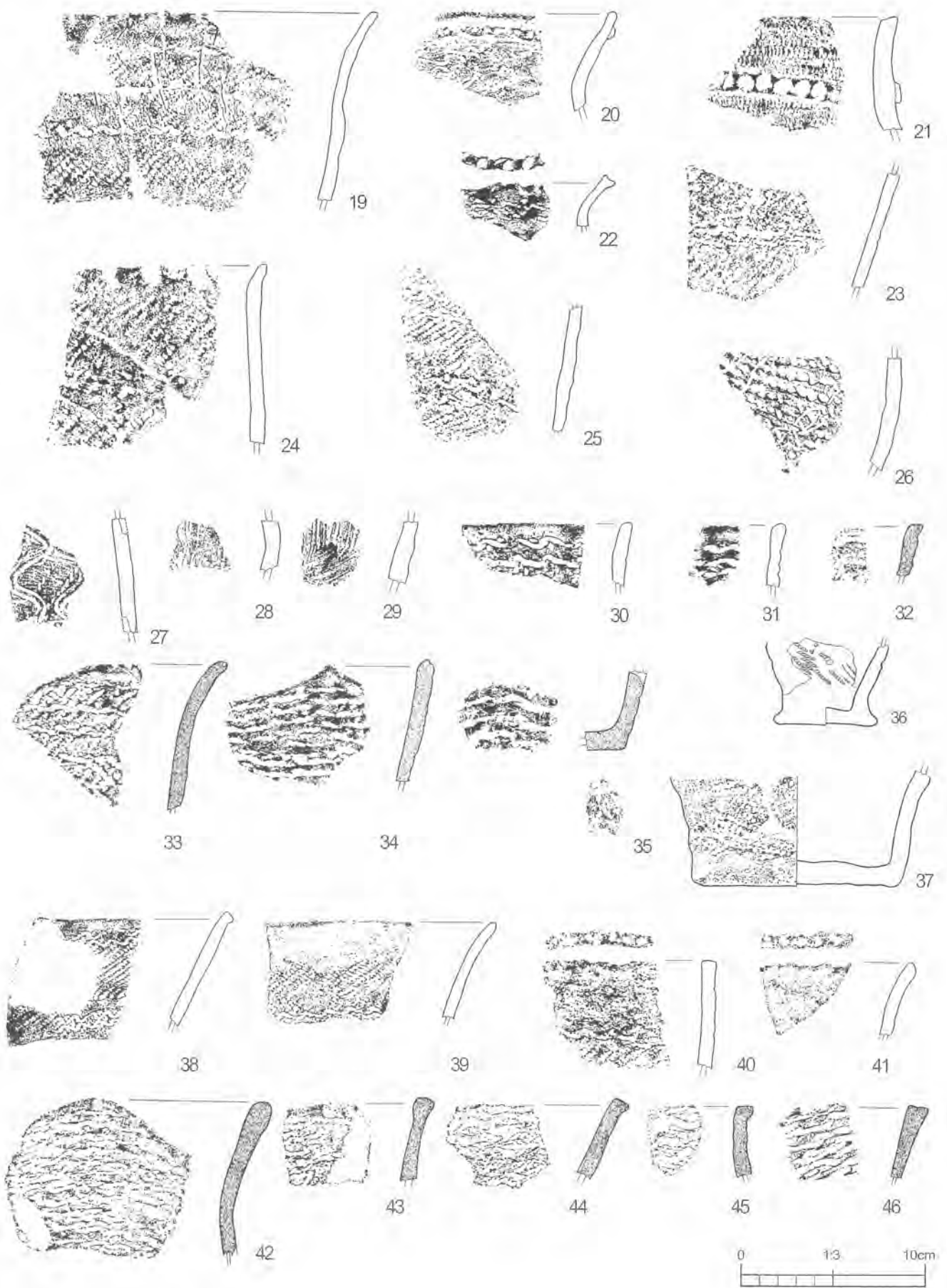
457～459は石製品である。457、458は塊状耳飾りである。457は縦長で、いくつかの磨面が明瞭に認められ、各磨面は擦痕をもつ。458は円形で、孔部、抉りには両面から擦られた磨面が観察された。両面に擦痕をもつ。459は有孔石製品で、形状は円形と思われる。孔部、側縁に明瞭な磨面が認められる。石材は花崗岩である。



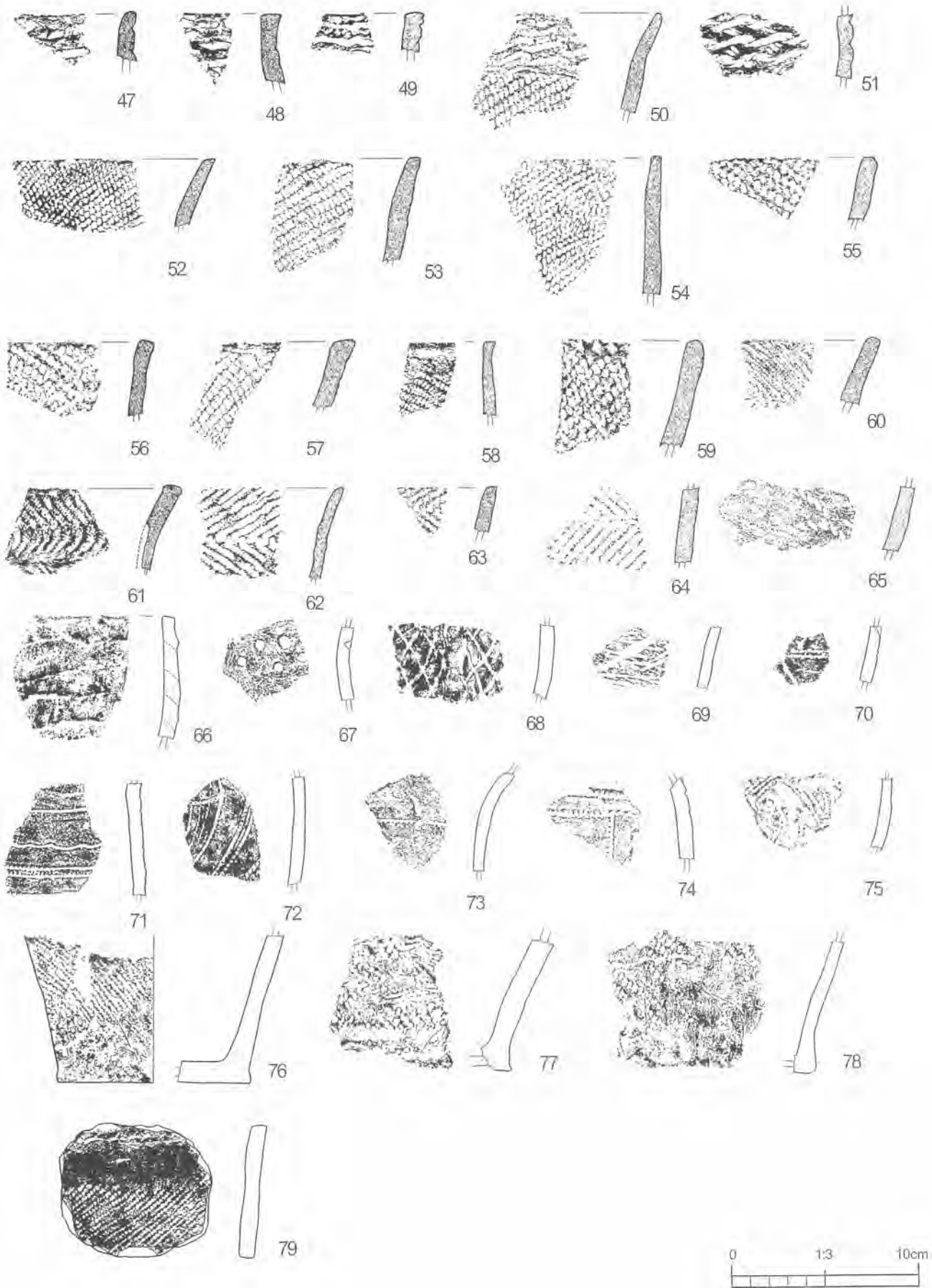
第90图 D-7 竖穴住居跡出土遺物 (1)



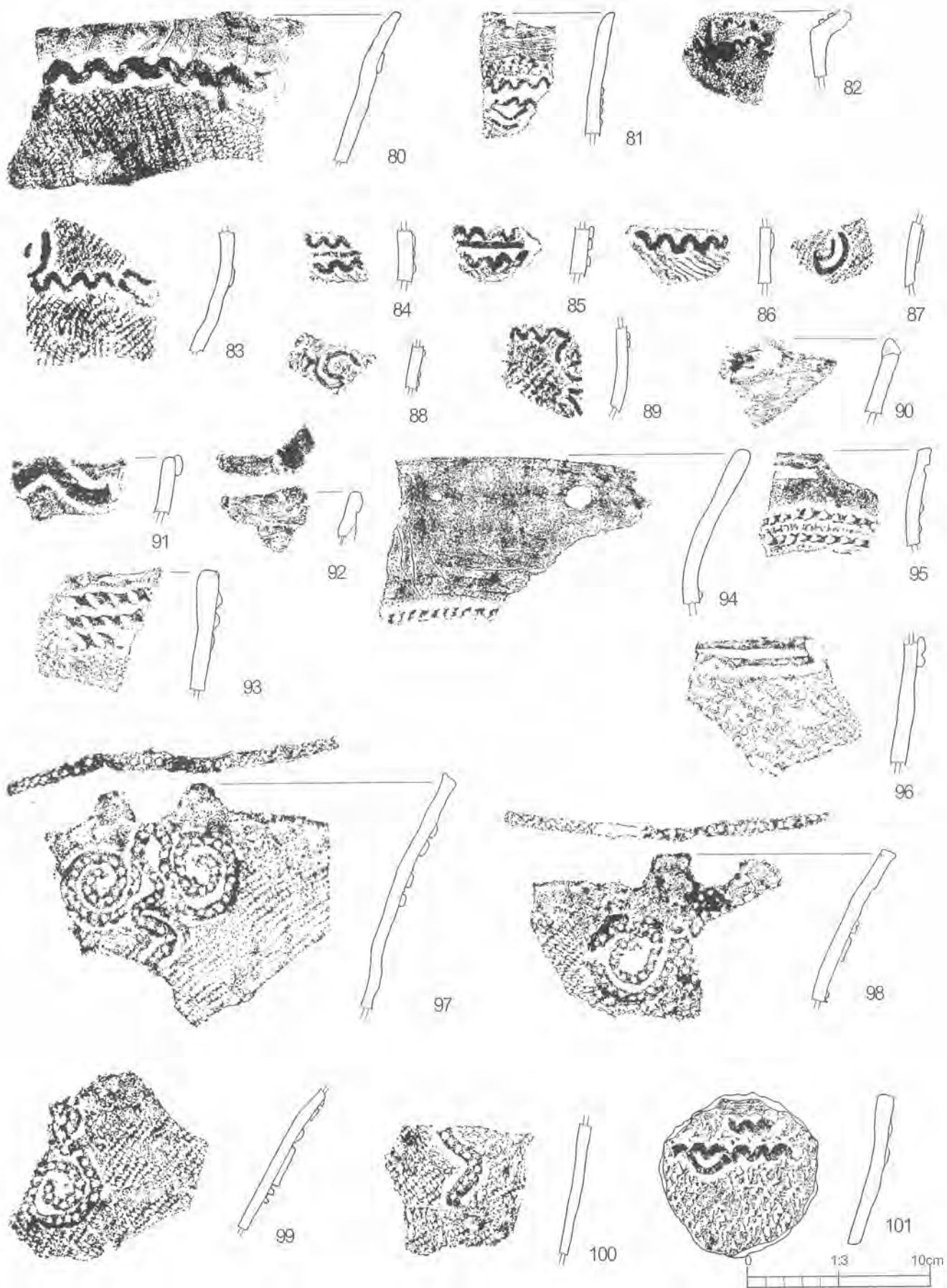
第91图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(2)



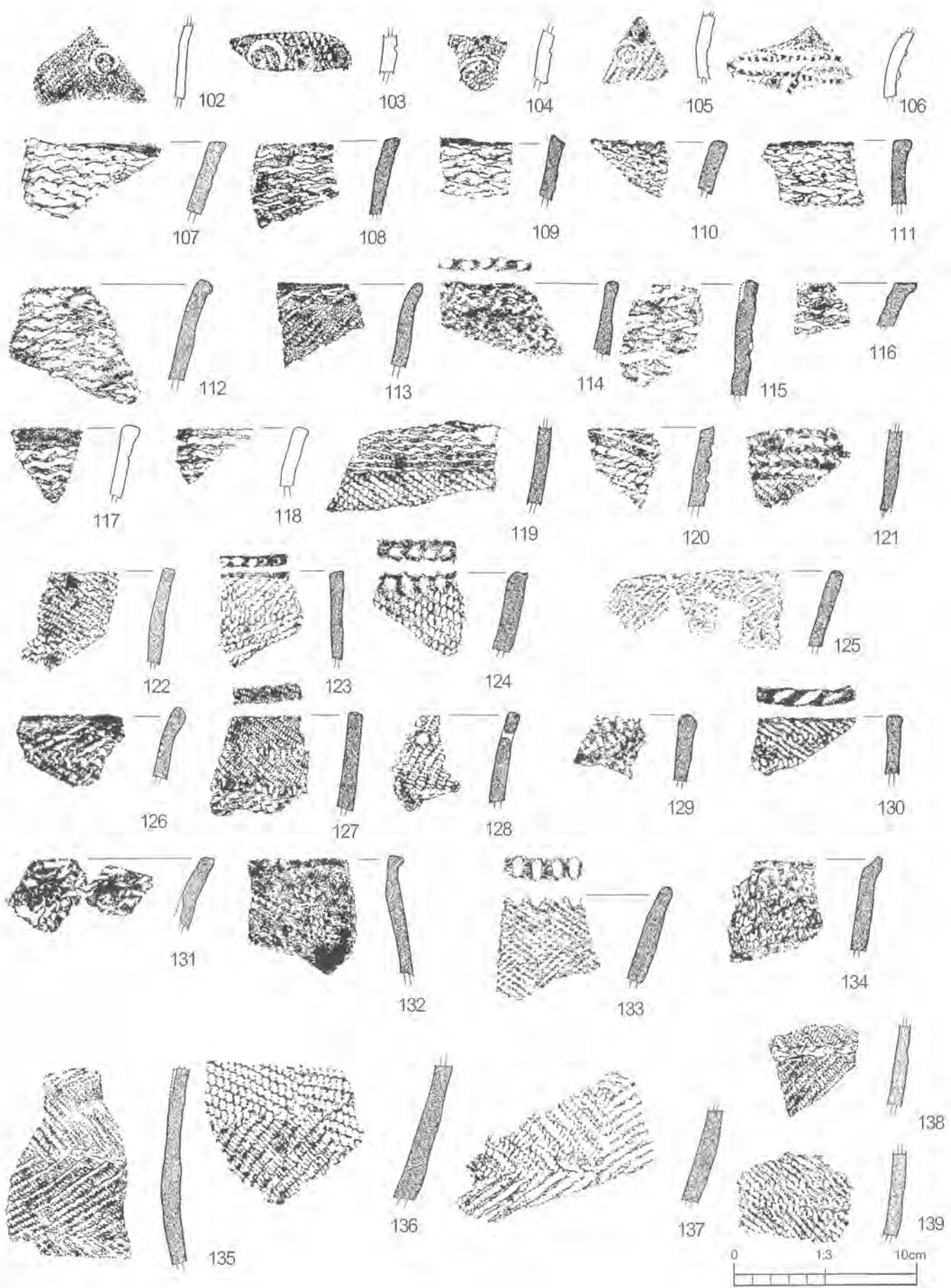
第92図 D-7 竖穴住居跡出土遺物 (3)



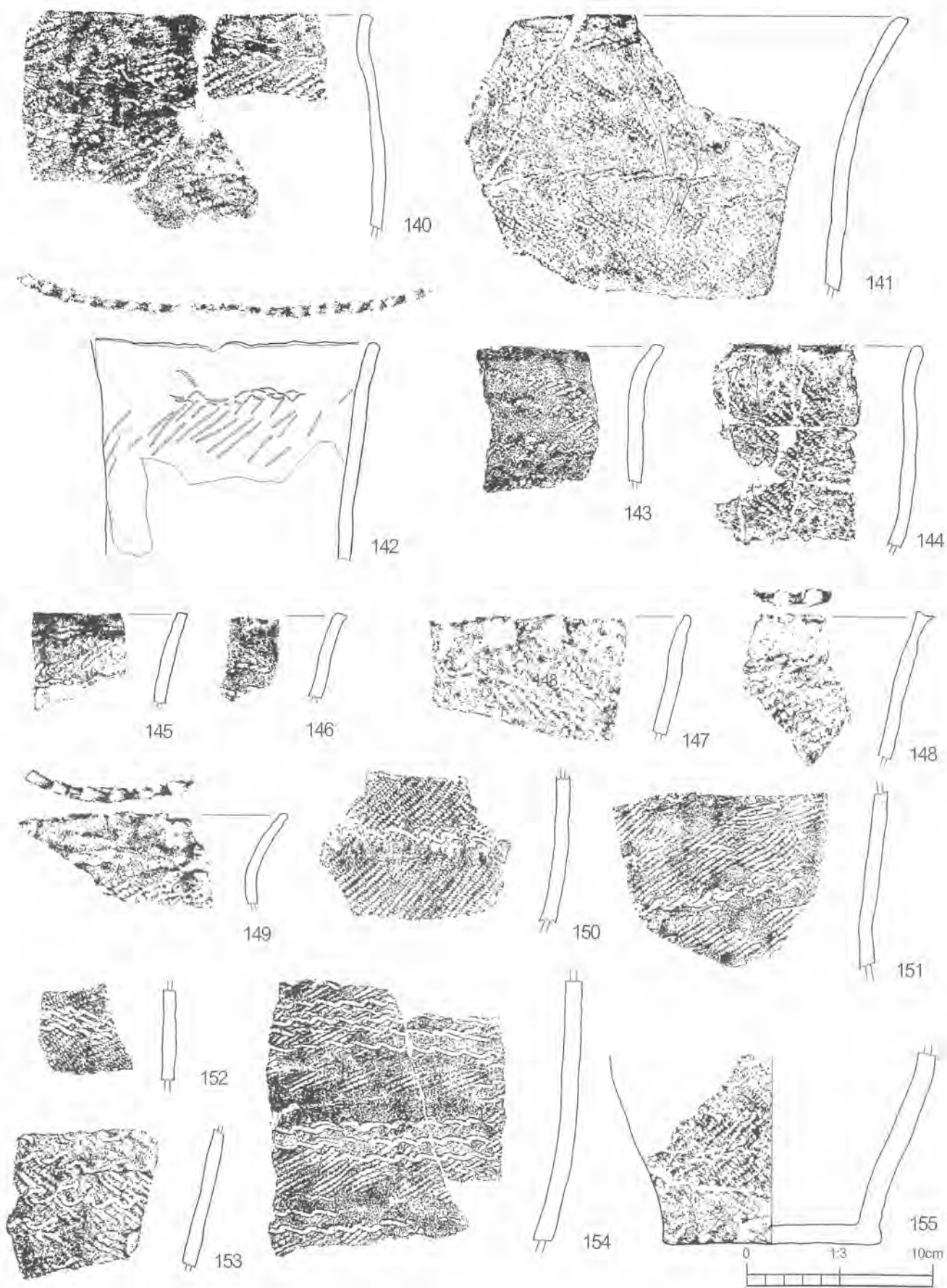
第93图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(4)



第94图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(5)



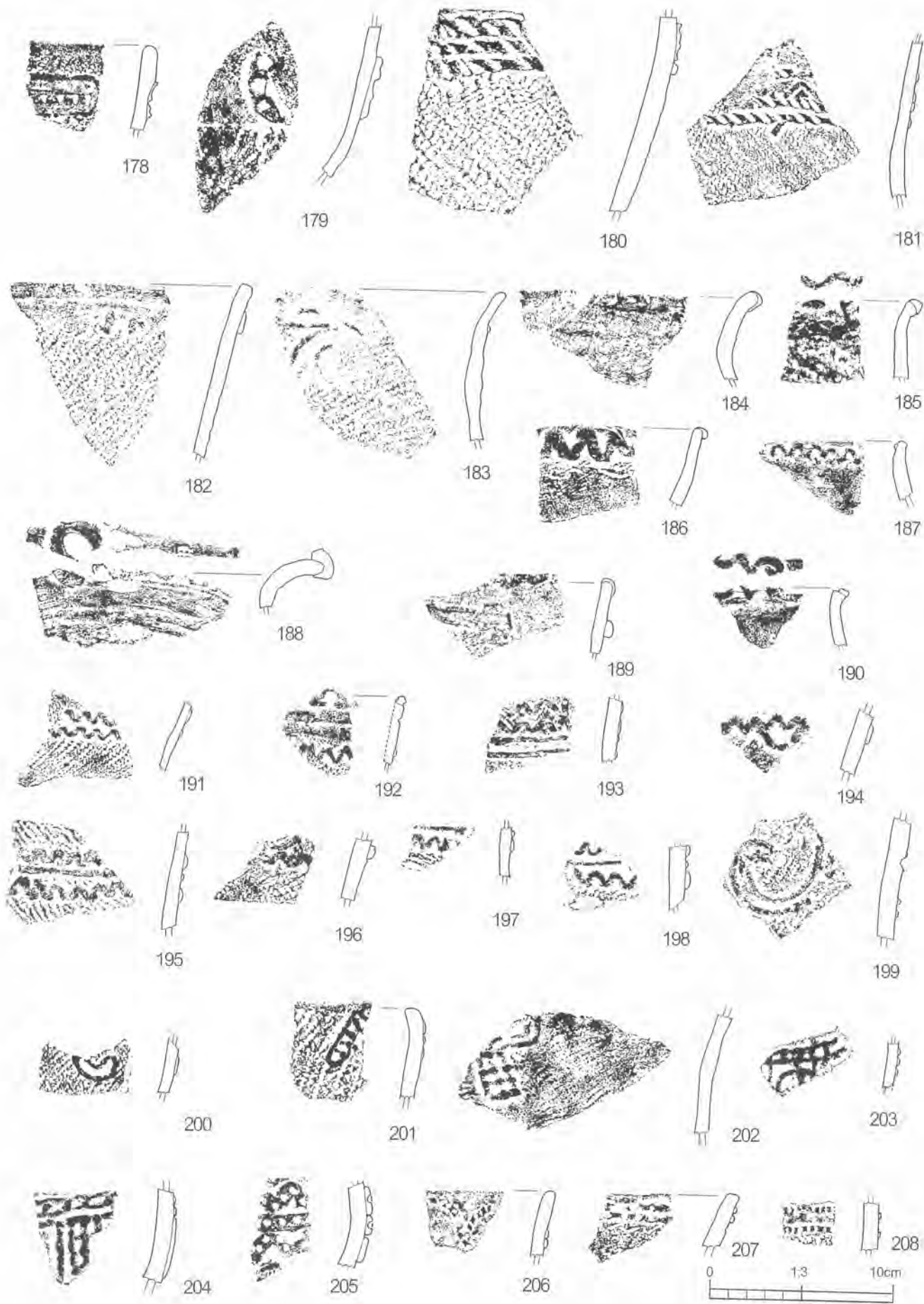
第95号 D-7号竖穴住居跡出土遺物 (6)



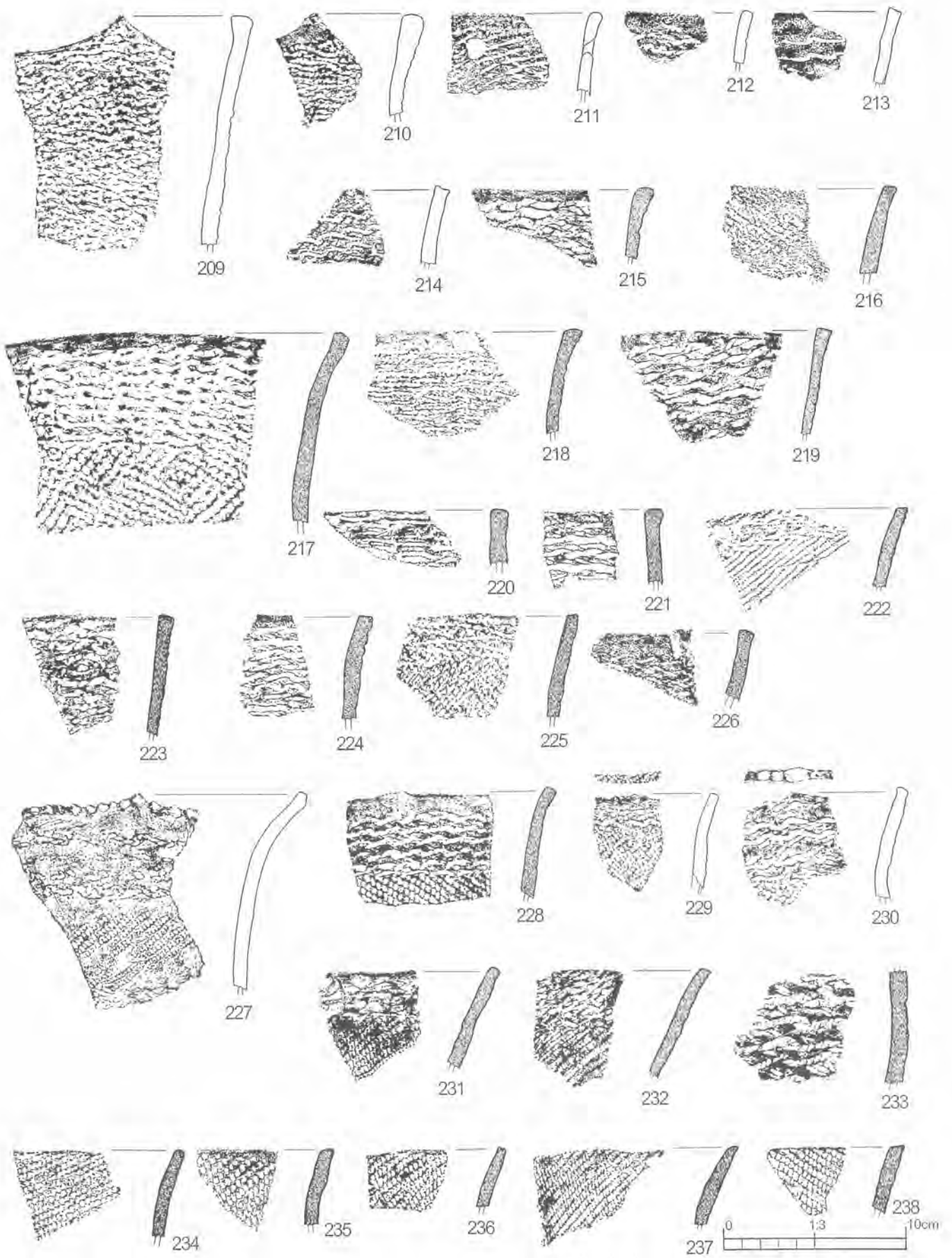
第96图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(7)



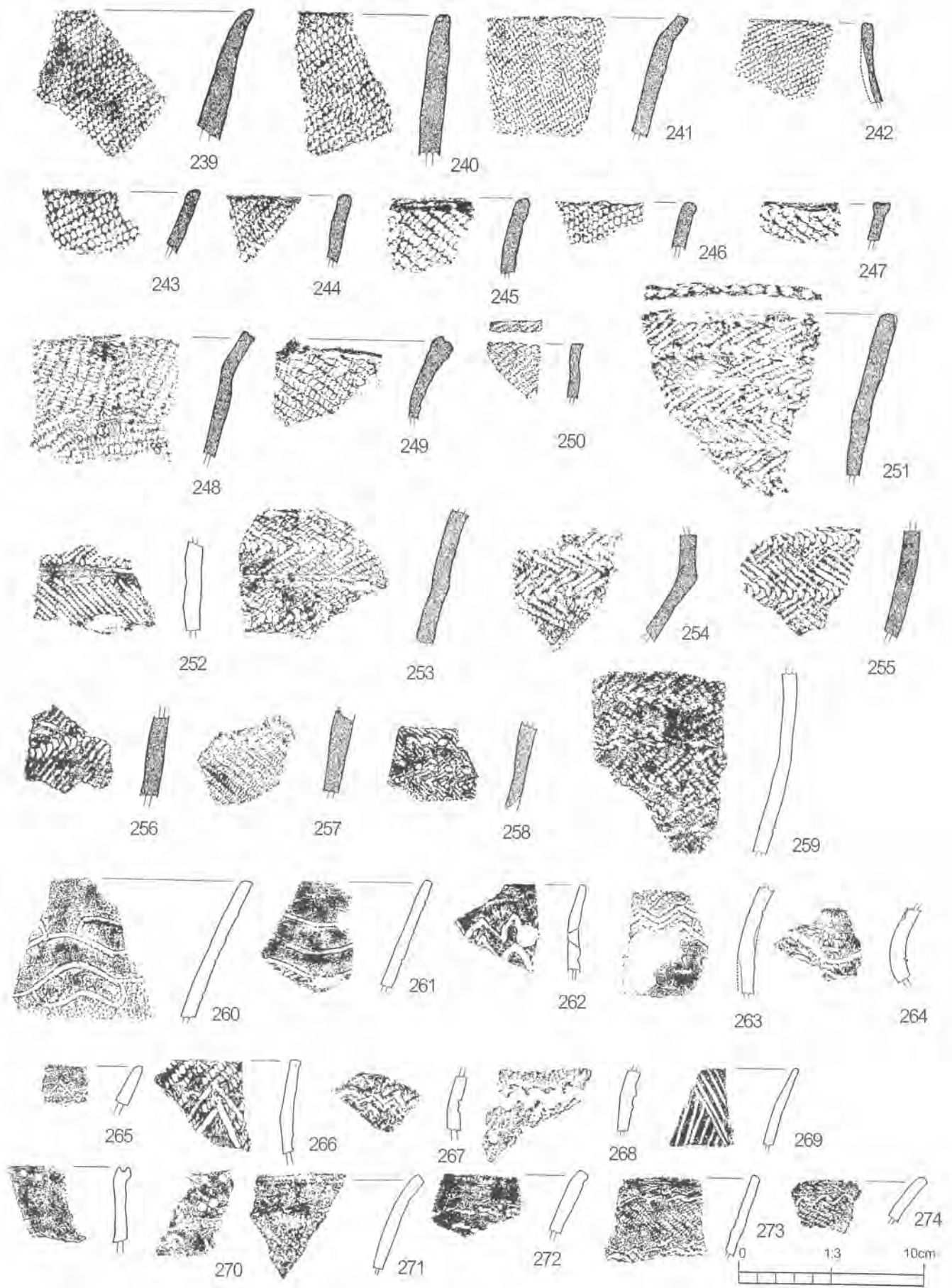
第97图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(8)



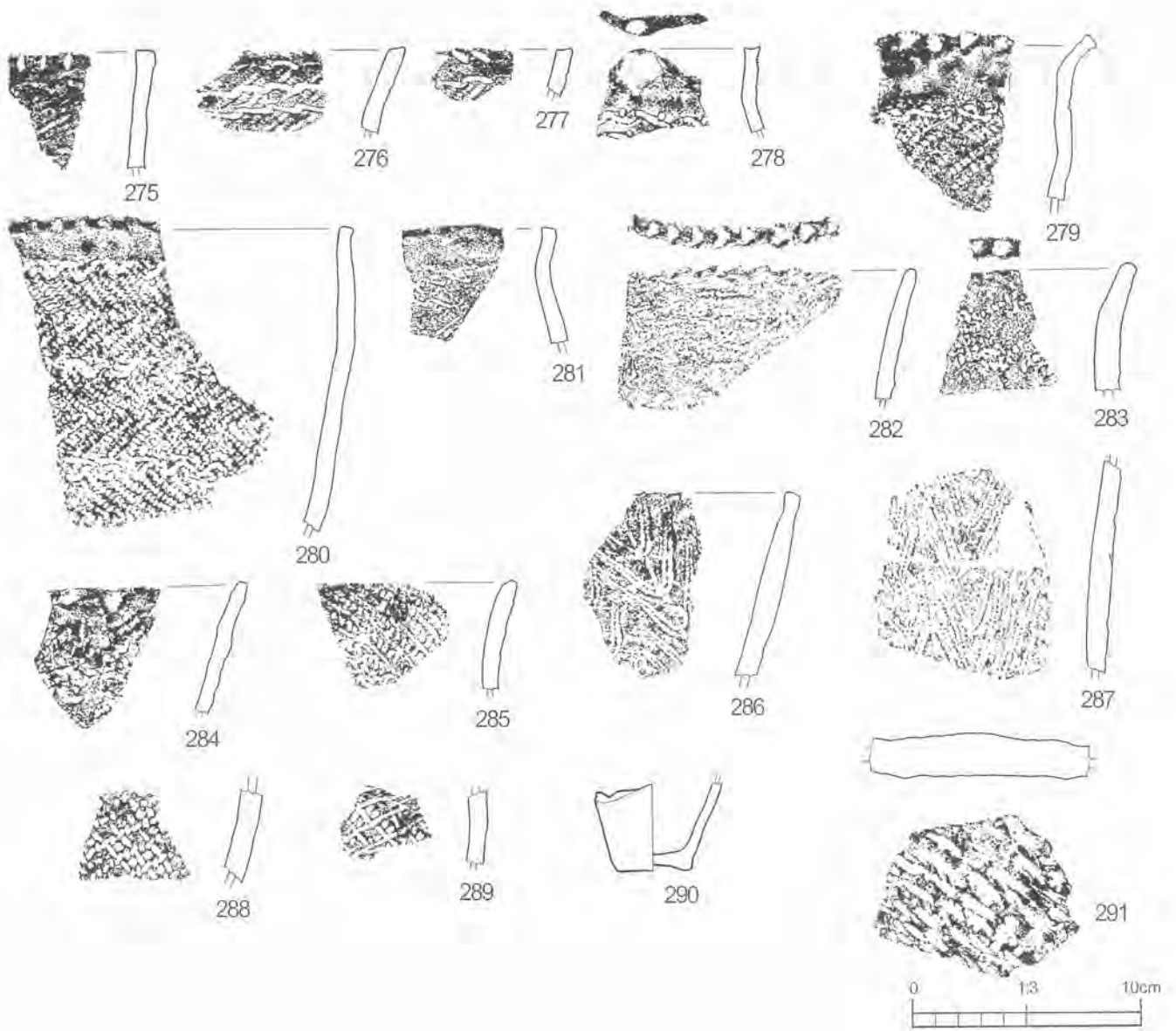
第98图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(9)



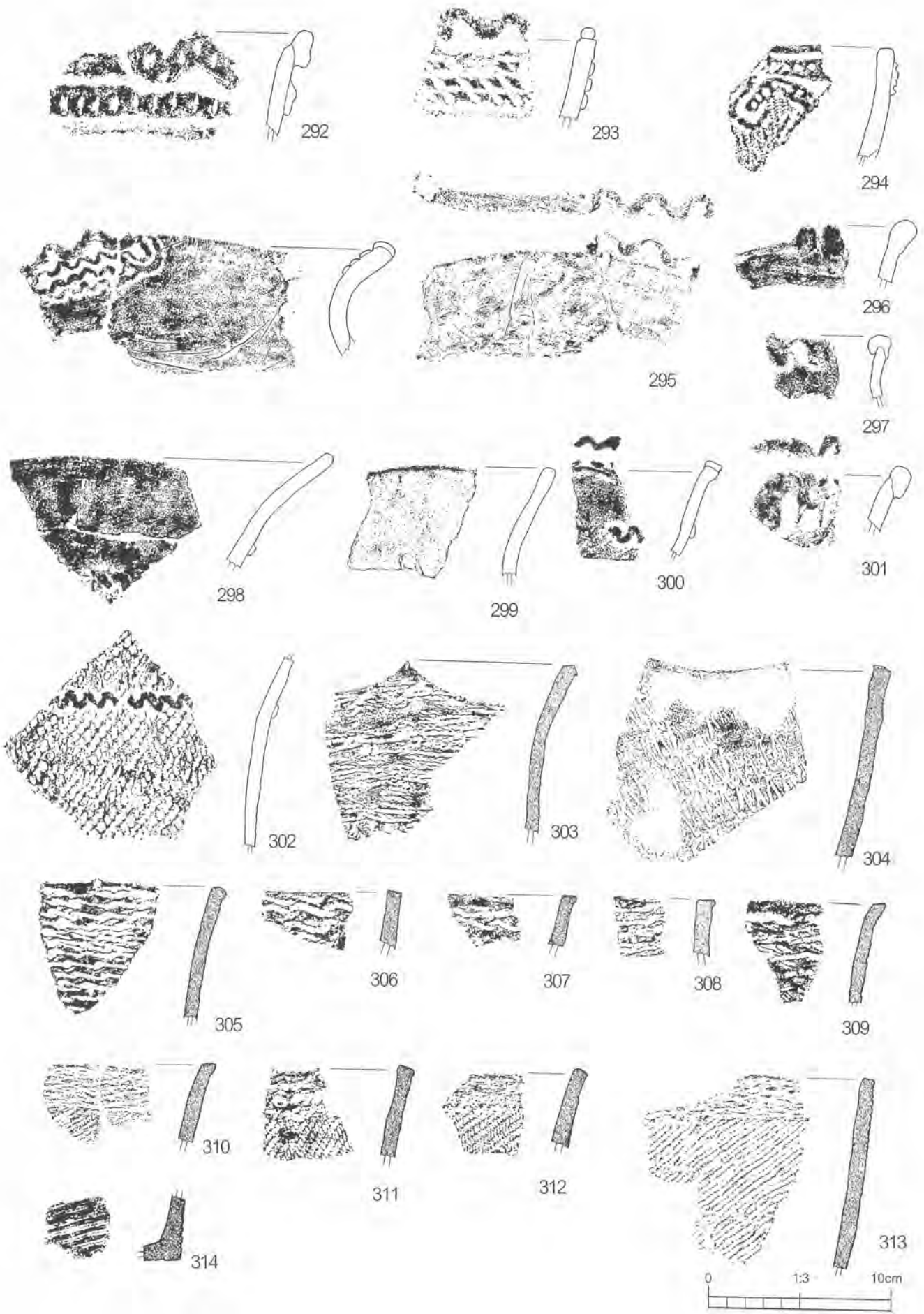
第99图 D-7号竖穴住居跡出土遺物 (10)



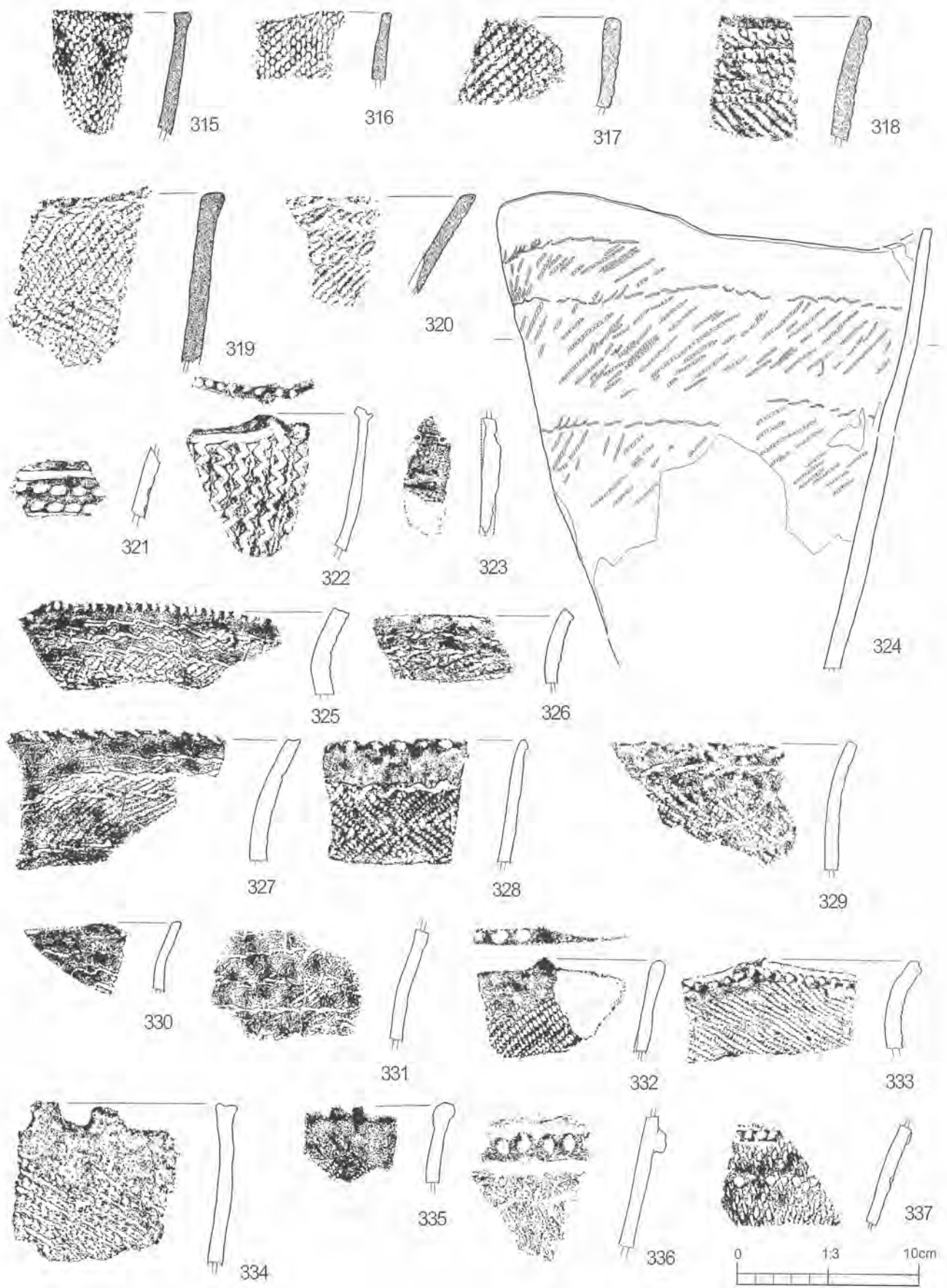
第100图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(11)



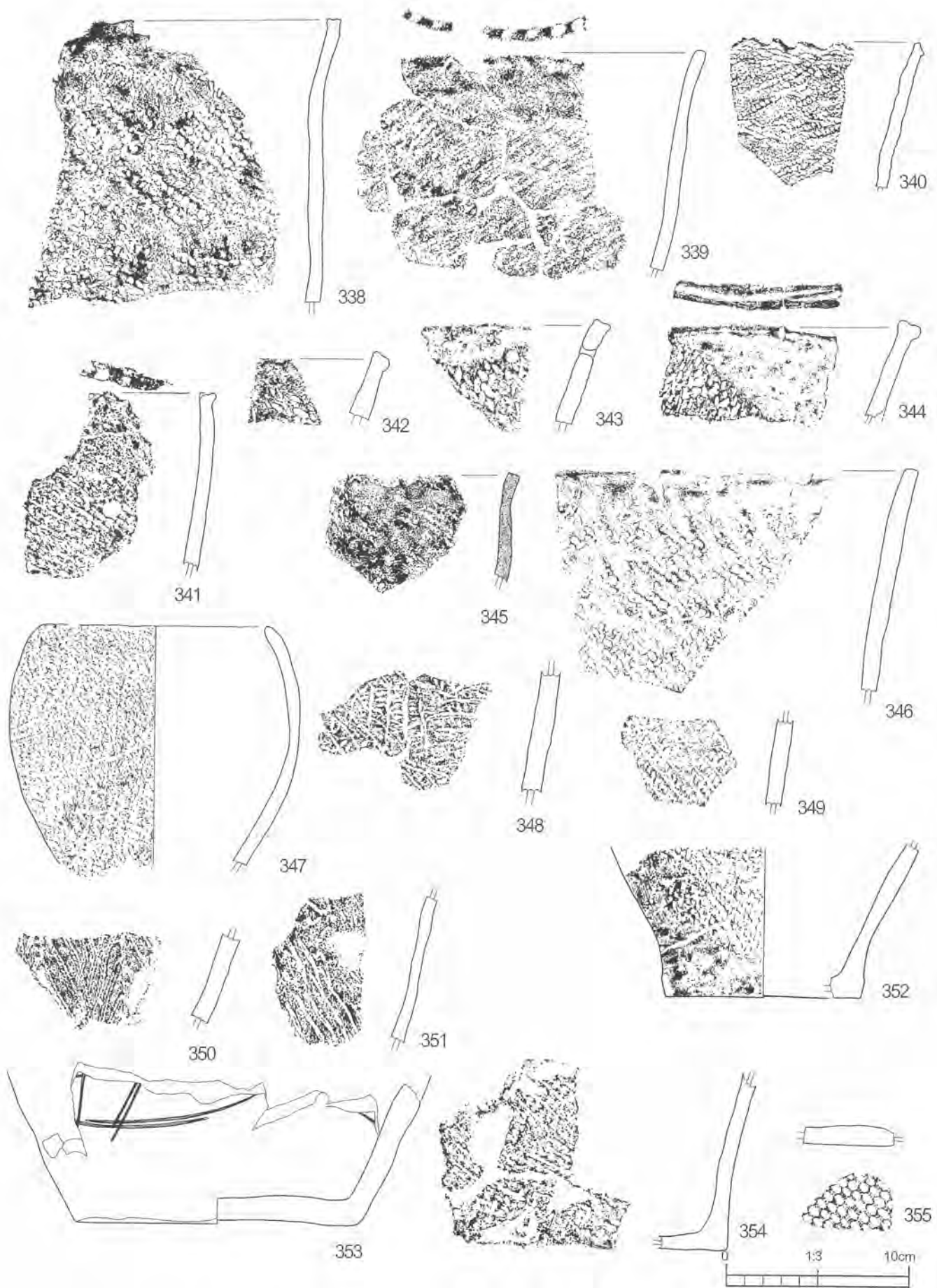
第101图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(12)



第102图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(13)



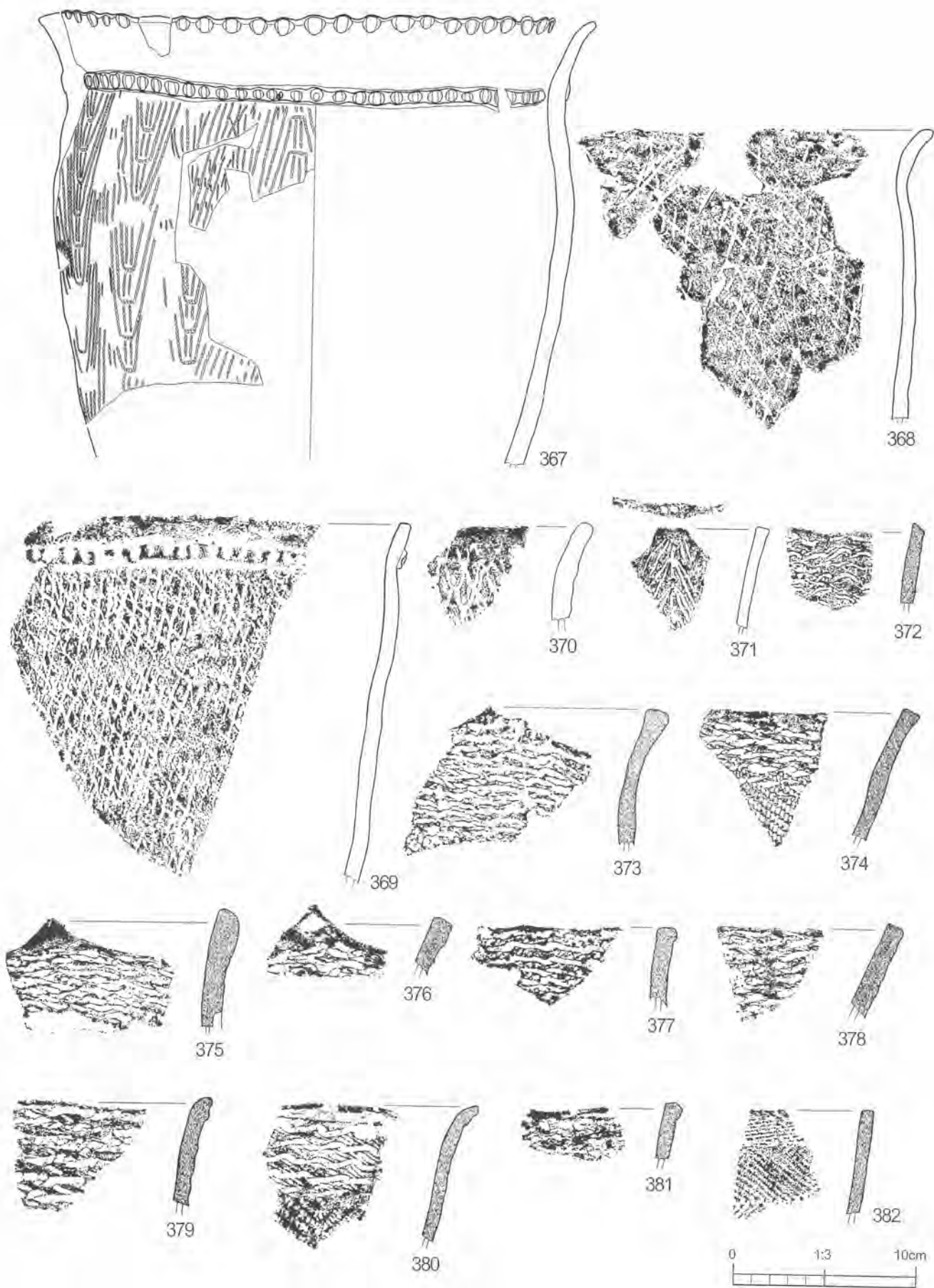
第103图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(14)



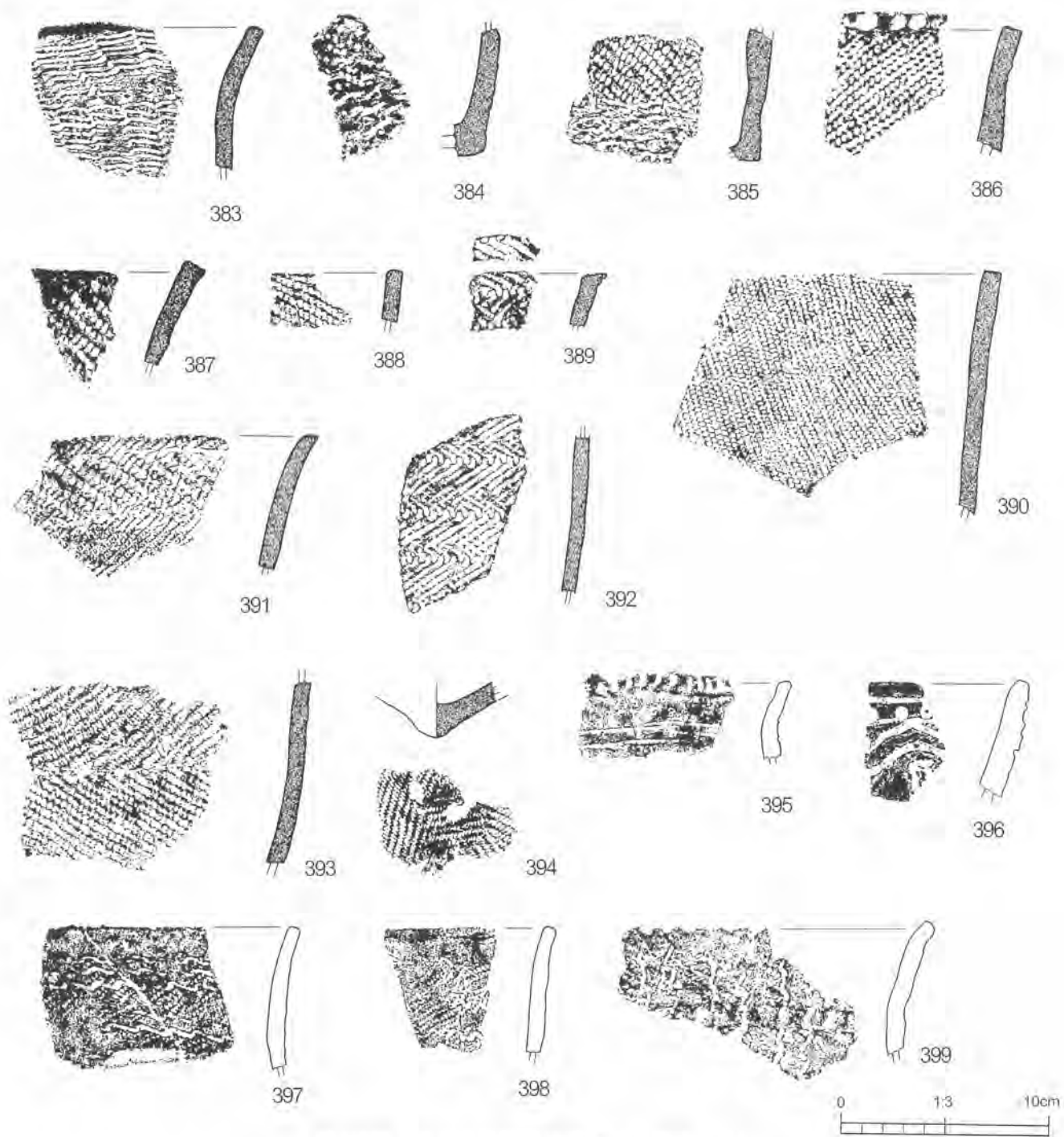
第104图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(15)



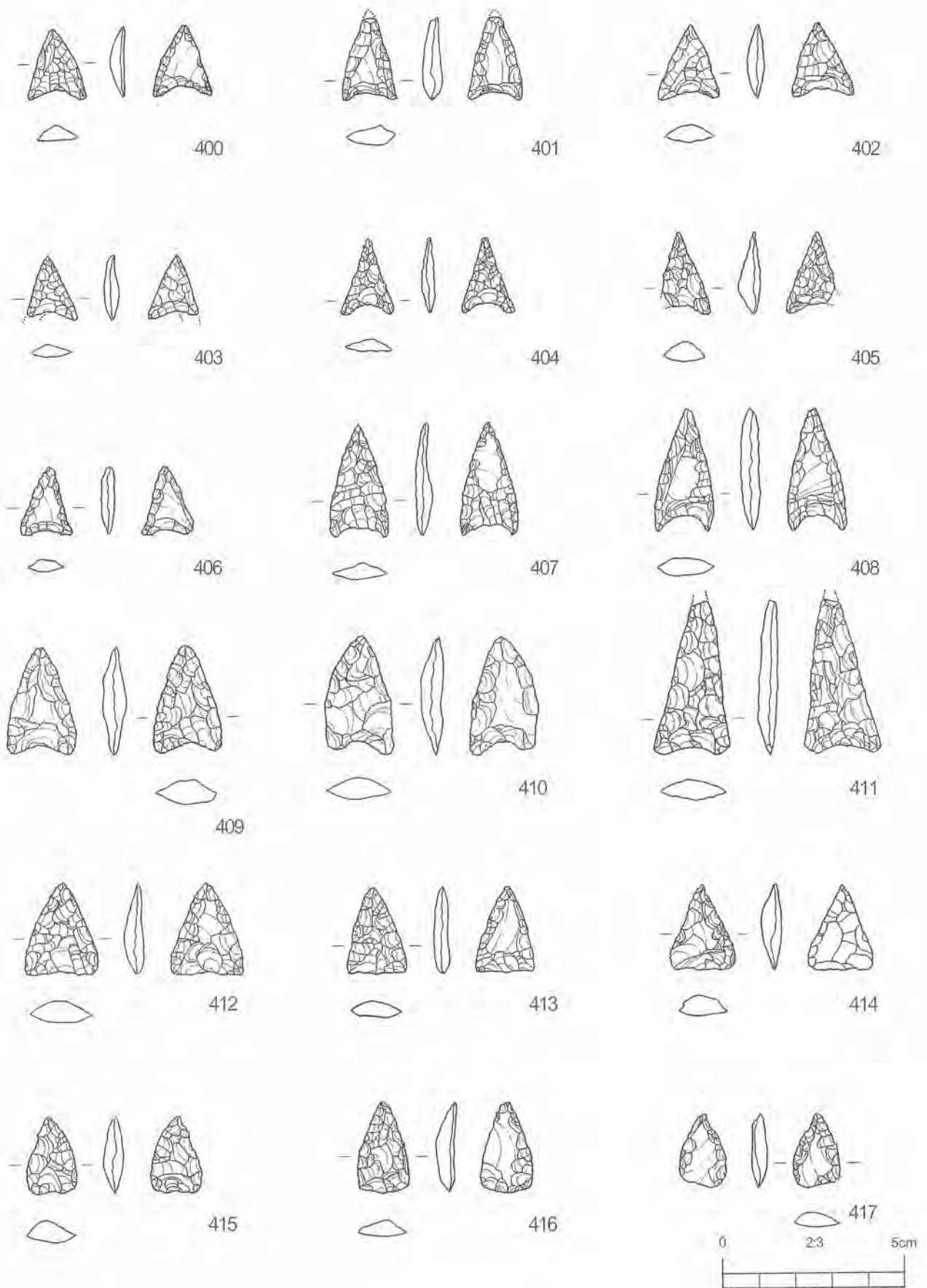
第105图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(16)



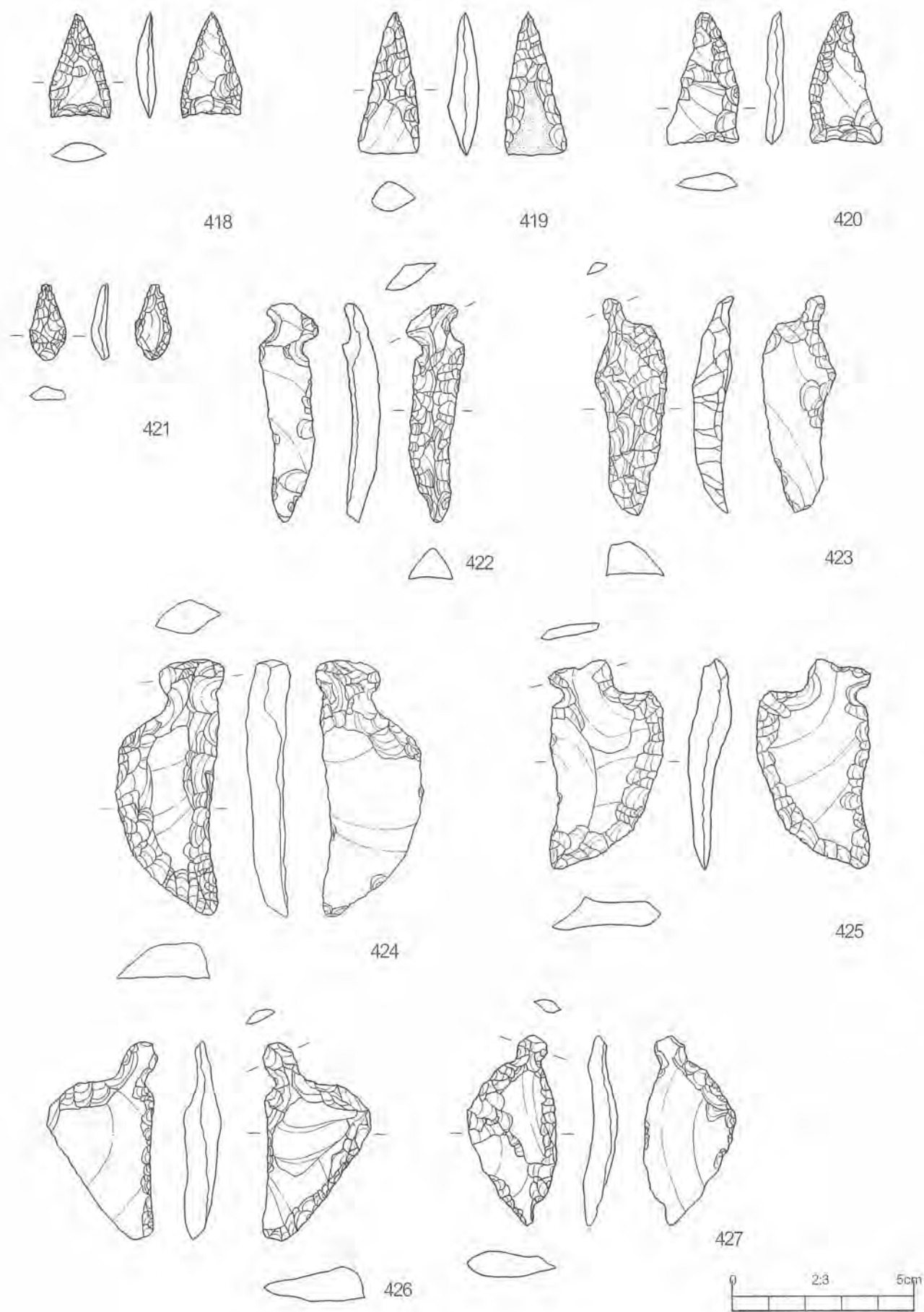
第106图 D-7号竖穴住居跡出土遺物(17)



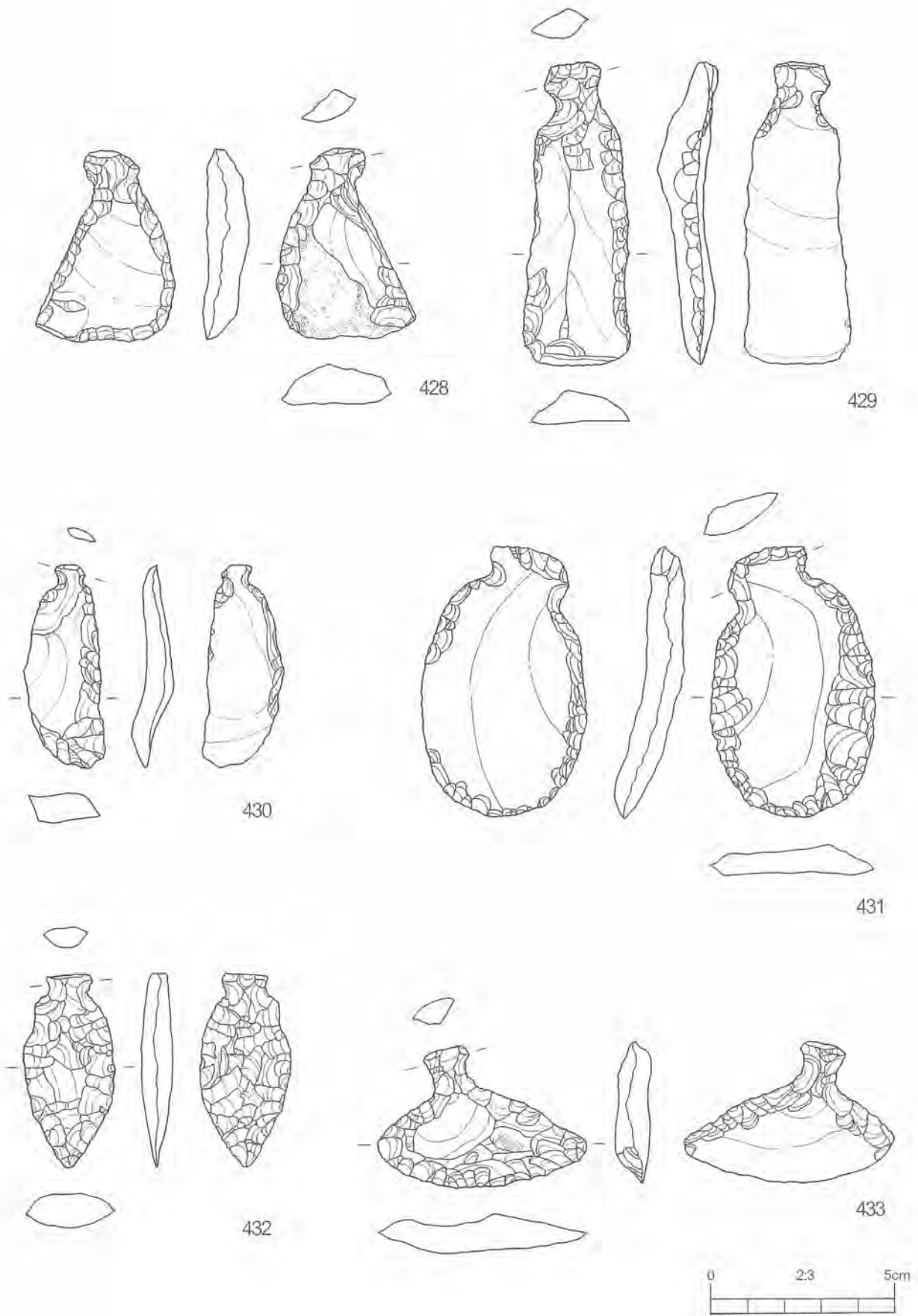
第107图 D-7号竖穴住居跡出土遺物 (18)



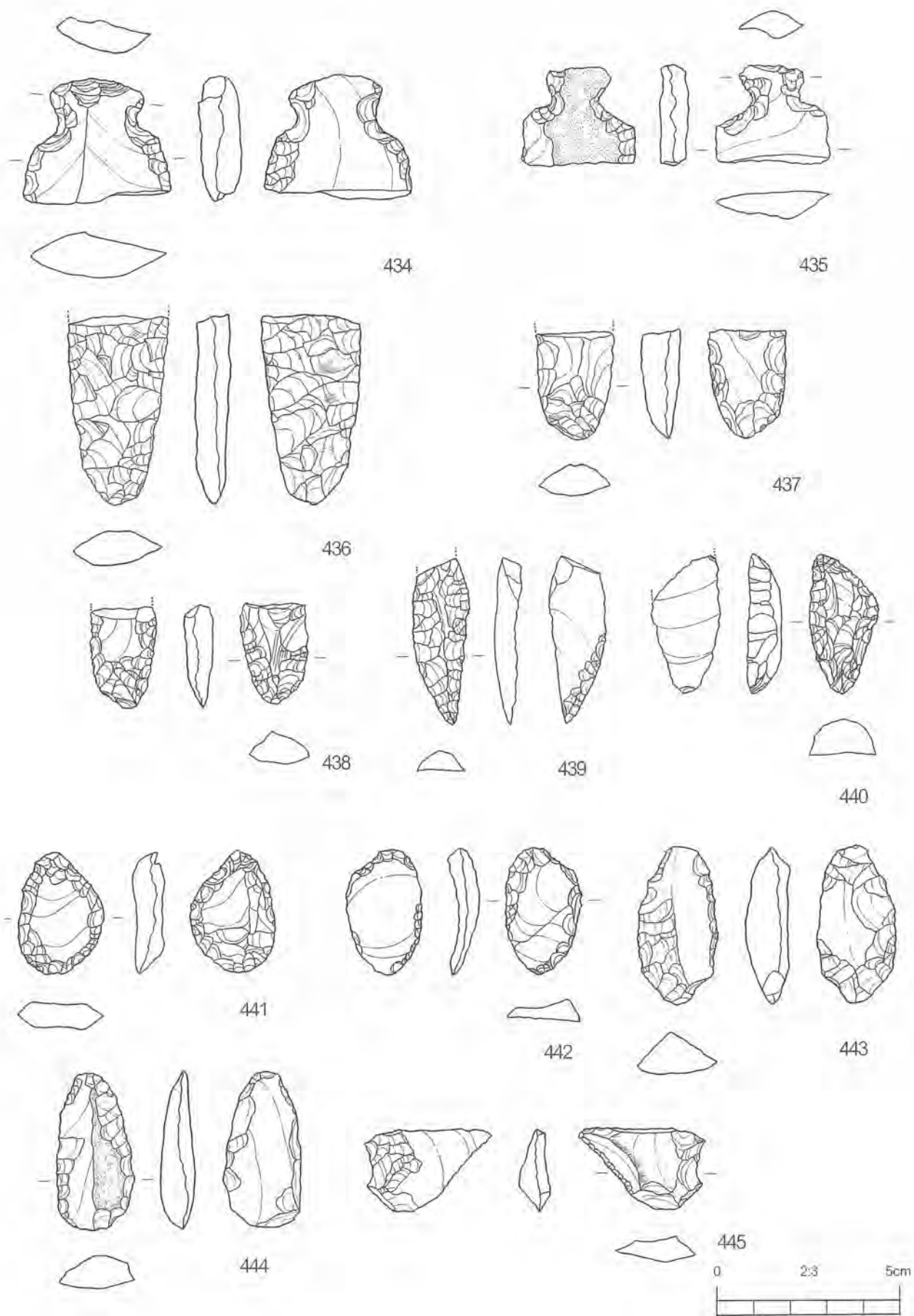
第108图 D-7号竖穴住居跡出土遺物・石器(19)



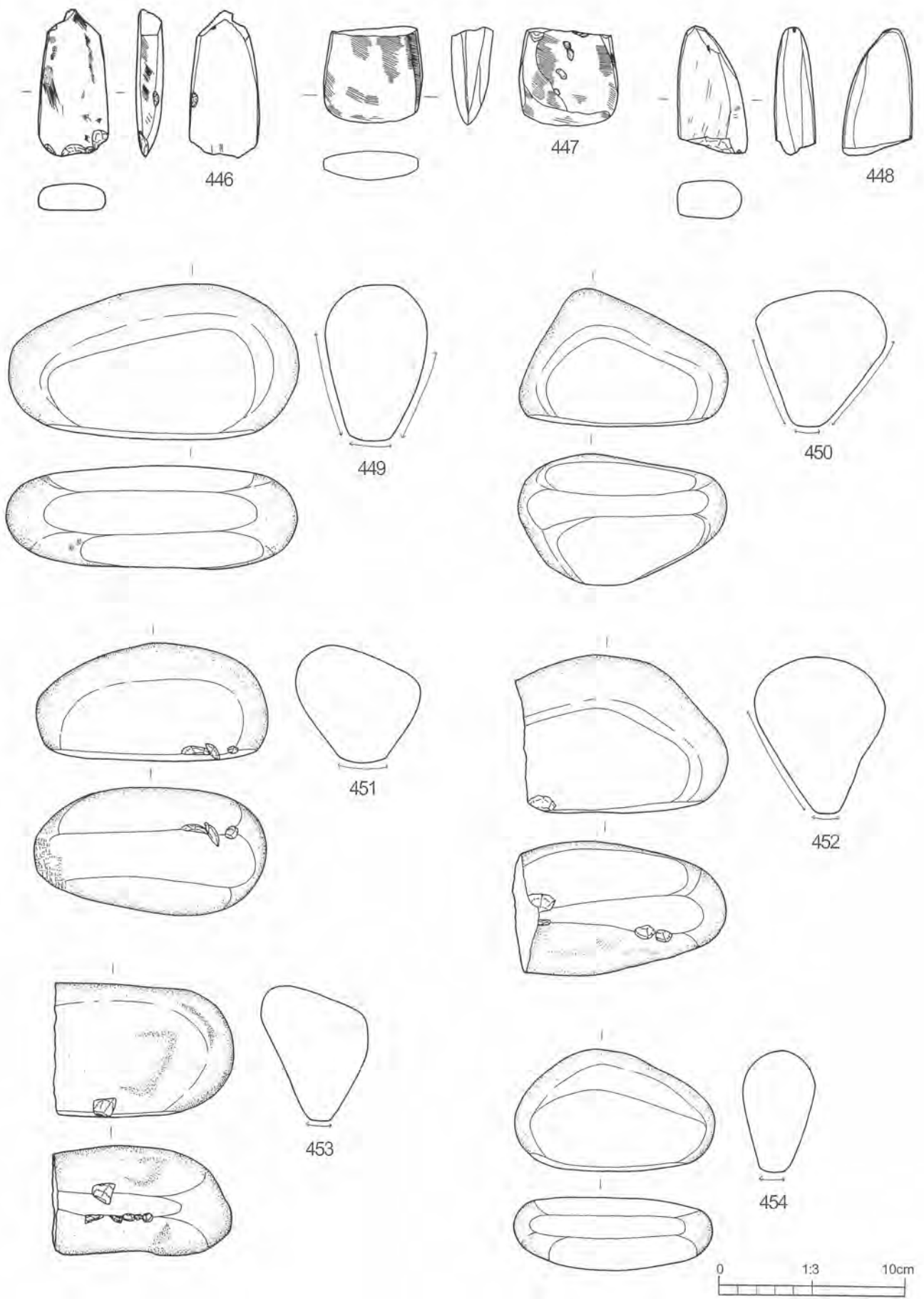
第109图 D-7号竖穴住居跡出土遺物・石器(20)



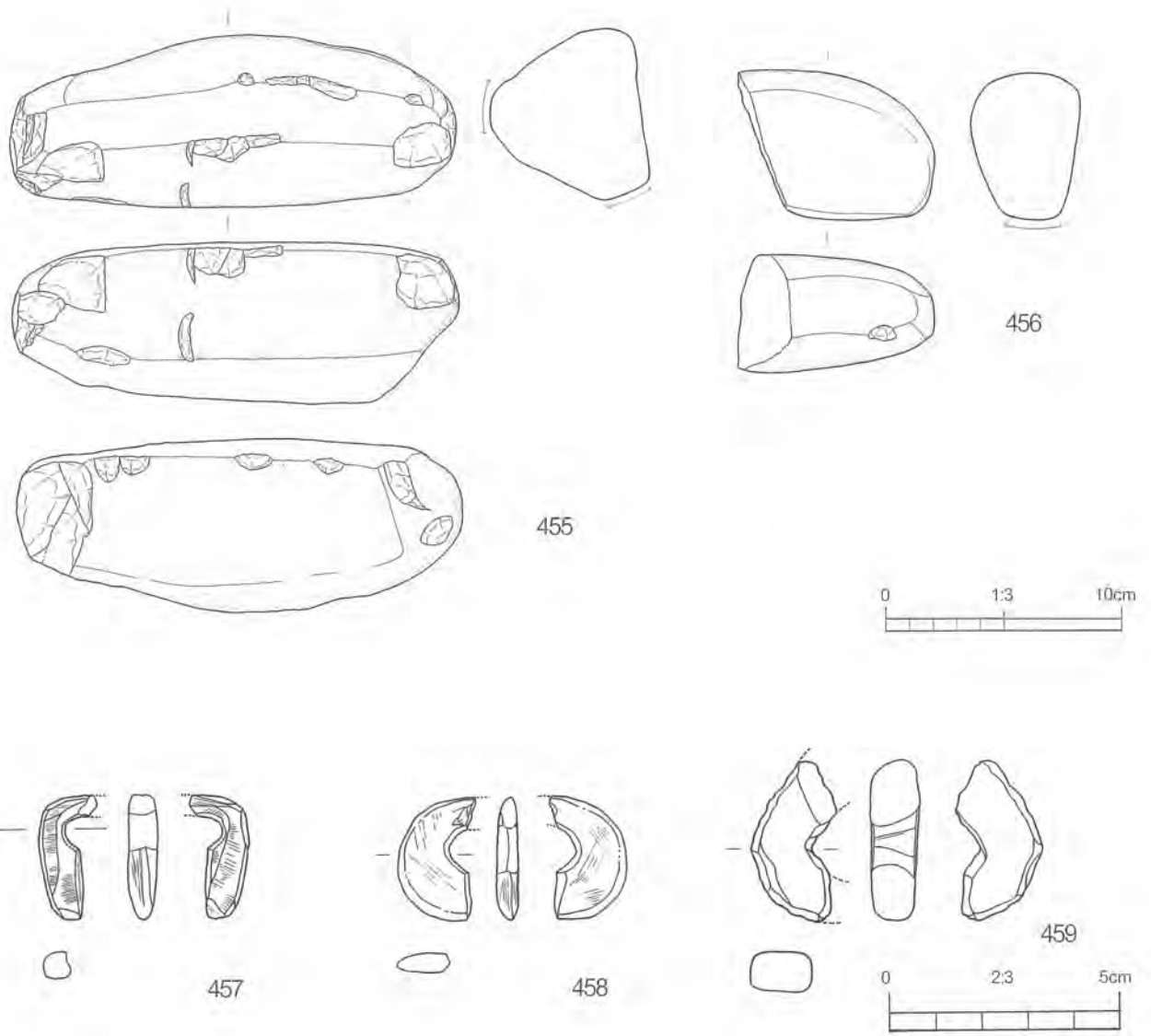
第110図 D-7号竖穴住居跡出土遺物・石器(21)



第111图 D-7号竖穴住居跡出土遺物・石器(22)



第112图 D-7号竖穴住居跡出土遺物・石器(23)



第113图 D-7号竖穴住居跡出土遺物・石器・石製品 (24)

D-8号住居跡（第114図）

＜検出状況＞ D区の南部に位置する。検出面は地山面である。切り合いは、北側をD-7号住居跡に切られ、南側は礫層に侵食され削られる。西側の壁の一部を検出しただけで、北側の壁は確認できなかった。

＜形状・規模＞ 形状、規模とも不明であるが、床面は平坦である。炉跡、周溝、貼床は検出されていない。

＜埋土＞（第86図） 1層である。G1層は、二次堆積と思われる火山灰を含む。

＜柱穴＞ 床面から小土坑が3基出土している。いずれも柱痕は確認されていない。

(cm)

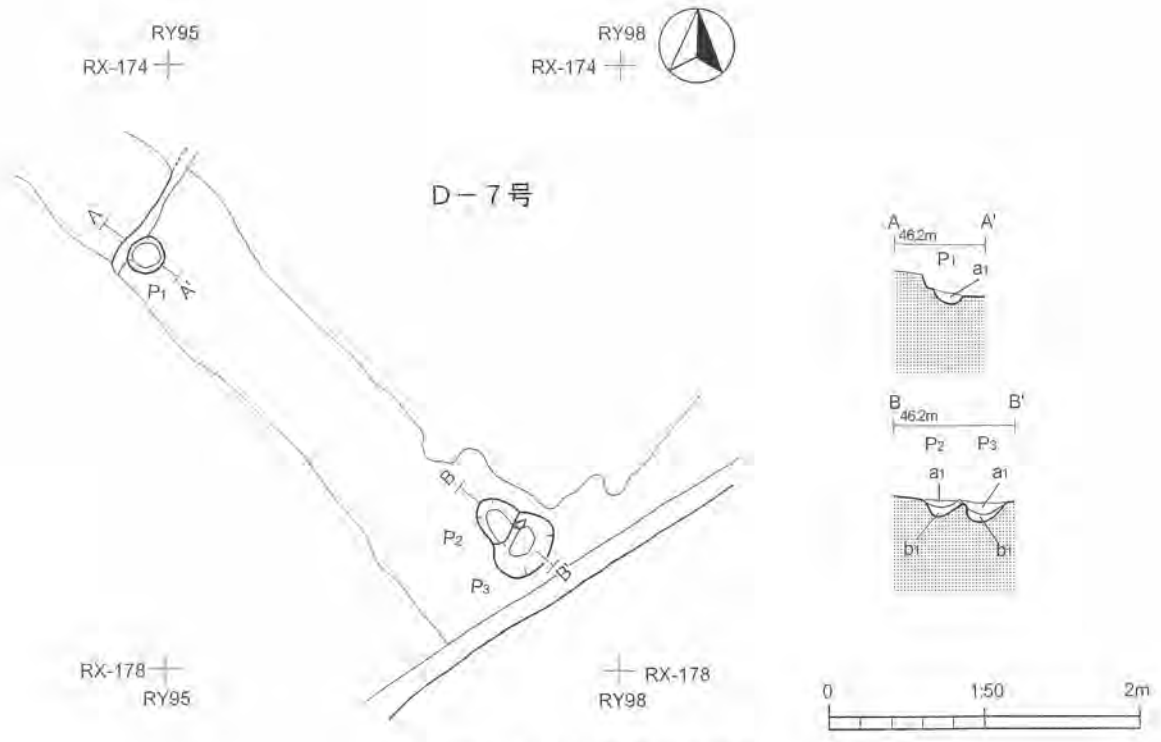
PIT	P 1	P 2	P 3
径	26	27	44
深	8	11	13

出土遺物（第115図）

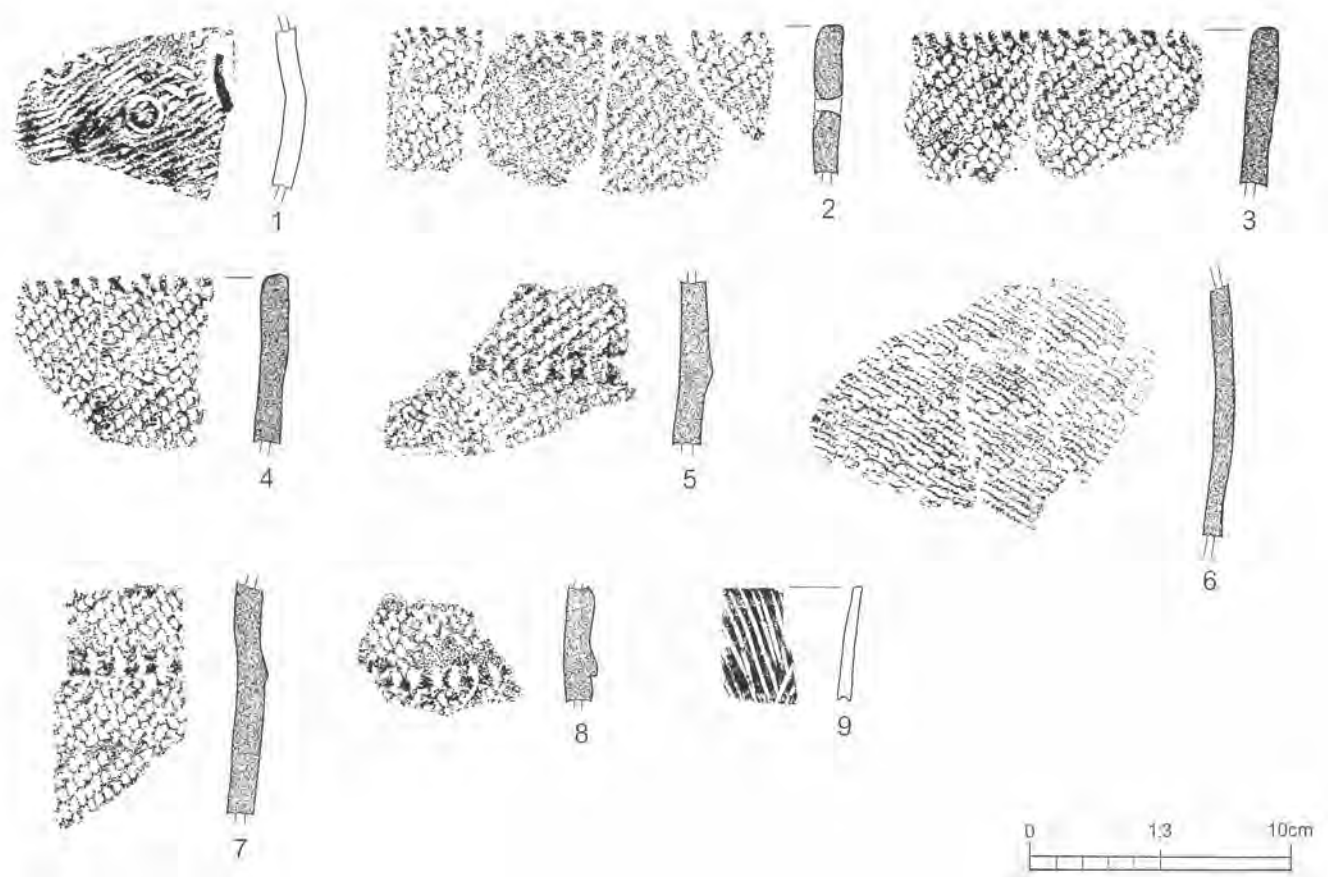
いずれも埋土層から出土したものである。1は円形刺突と細い粘土紐で施文される。大木3～4式に伴う。2～8は胎土に繊維を含む。同一個体である。LR単節斜縄文を横回転させ、口唇部には刻みは入る。また頸部？を肥厚させ爪型の刺突を施す。上川名Ⅱ式に伴う。9は斜方向の沈線で施文された口縁部である。器厚は薄く、胎土も密なほうである。

＜D-8号竪穴住居跡柱穴土層観察表＞

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
P 1 a 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR3/4 砂壤土5% 10YR5/8 砂壤土20%	中、中。
P 2 a 1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR4/3 砂壤土10%	軟質。
# b 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR4/6 砂壤土15%	中、中。
P 3 c 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR5/6 砂壤土10%	中、中。
# d 1	10YR3/3 砂壤土 暗褐	10YR4/6 砂壤土10%	中、中。



第114图 D-8号竖穴住居跡



第115图 D-8号竖穴住居跡出土遺物

c. 土坑跡

C-8号土坑跡 (第116図)

<検出状況> C区の北部、西端に位置する。検出面は地山面である。

<形状・規模> 平面形は楕円形と推定される。規模は短軸で約1.6m、長軸は不明である。深さは25cmである。

<埋土> 3層に大別される。A層は固い黒褐色土である。B層はやや軟質の暗褐色土である。C層は軟質の黒褐色土である。いずれも粘性はない。

<C-8号土坑跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A1	10YR2/2 砂壤土 黒褐	10YR2/3 砂壤土10%	固、疎。
B1	10YR3/4 砂壤土 暗褐	10YR2/3 砂壤土10%	疎
C1	10YR2/2 砂壤土 黒褐	10YR2/1 砂壤土5%	やや軟質、疎。

出土遺物 (第117図)

1は胎土に繊維を含む。不整撚糸文で施文される。2はA層から出土した塊状耳飾りである。円環状であるが、やや横に長い。切込みと孔は両面から斜に面取りされている。3は不定形石器である。片方の側縁と底部に刃部をつくりだしている。

<時期> 縄文時代。

C区土坑群 (第118図)

<検出状況> C区の北部、中央～西側に位置する。検出面は地山面である。切り合いは、C-5～C-7号、C-9号はC-1号住居跡を切っている。

<形状・規模> 平面形は、規模の大きい土坑(C-5～7号、C-9号、C-12号)は楕円形で、小土坑は円形である。規模は別表のとおりである。C-14号は、柱痕も確認され形状からみても柱穴であるが、それに伴う遺構は確認できなかった。

(cm)

PIT	C-5	C-6	C-7	C-9	C-10	C-11	C-12	C-13	C-14
径	164×96	146×102	135×131	86	46	31	80	62×44	35
深	92	40	55	41	20	9	16	16	53

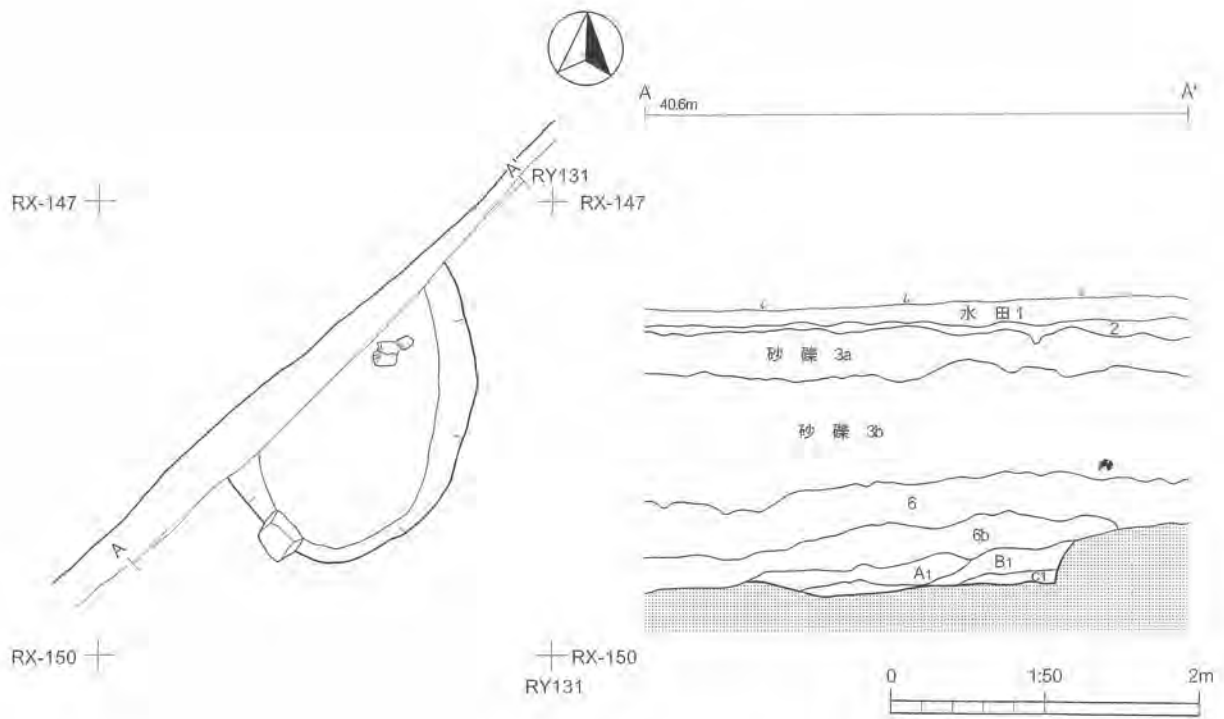
(cm)

PIT	C-16	C-17	C-18	C-19	C-20	C-21
径	42	30	(16)	23	38	27
深	18	11	12	20	17	16

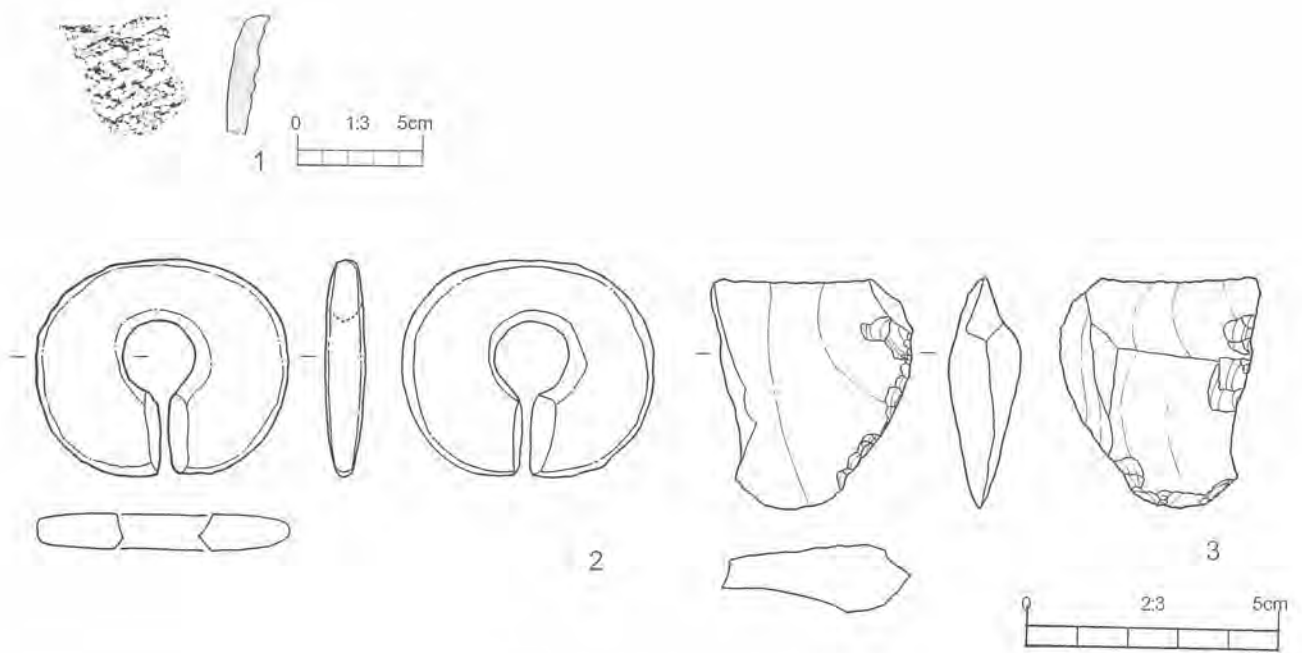
出土遺物 (第119図)

遺物はC-5号土坑跡とその周辺に集中している。1～13、15はC-5号土坑跡の出土である。

1～8は弥生土器である。1は壺の肩～胴部である。細かい縄文で施文される。2、3は高坏である。2は平行沈線、3は変形工字文を伴う。4～6は高坏の脚部である。いずれも波状の沈線で施文される。7は精製の小形の鉢である。口縁部に平行沈線をめぐらし、胴部を縄文で埋める。8は甕である。口縁部は外反し、肩部が張る。口唇部には溝、一箇所で抉りが入る。口縁部は無文、頸部から縄文で施文される。9は波状口縁で、円形の刺突列を伴う。10は沈線による楕円の区画文、



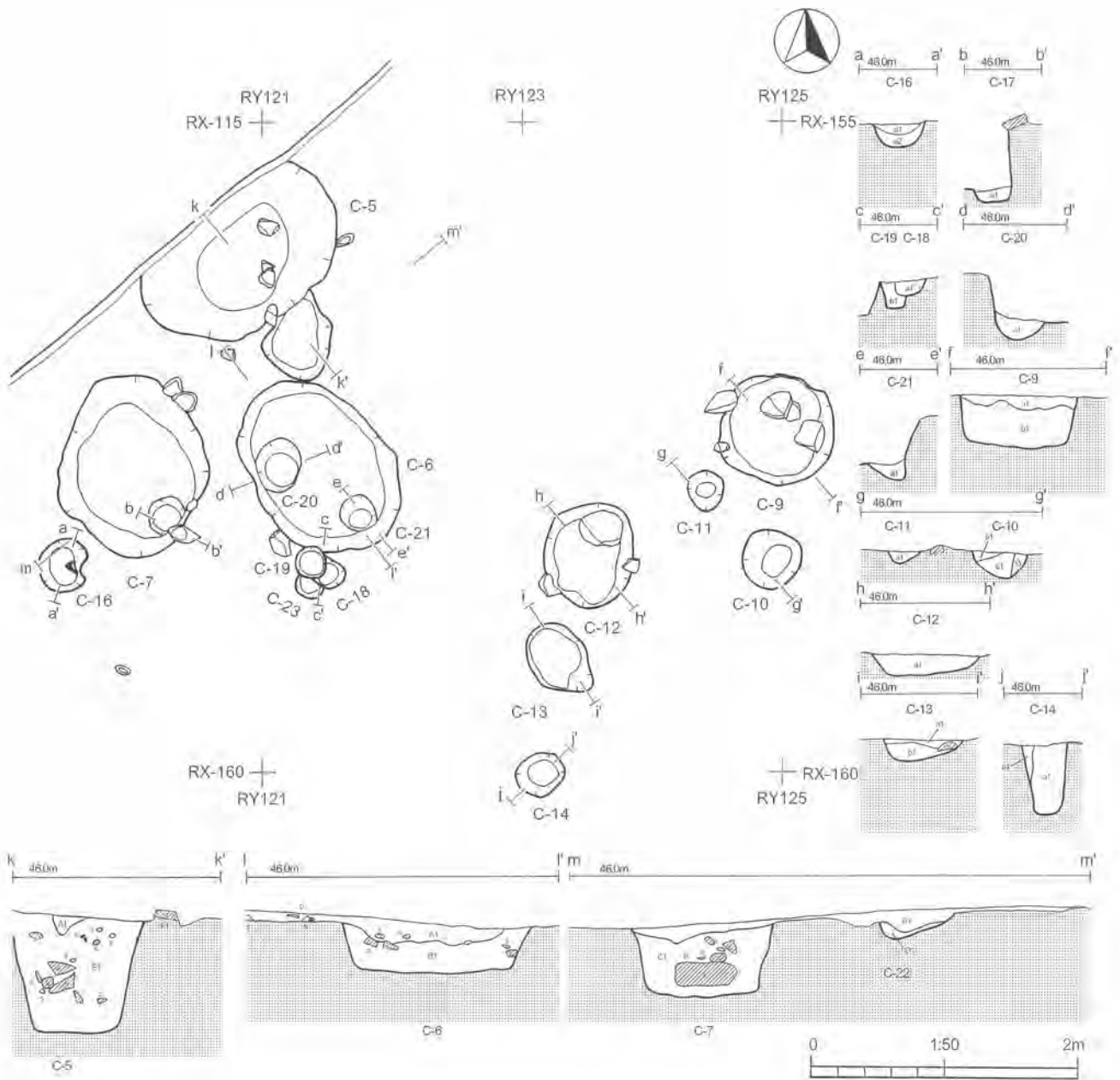
第116図 C-8号土坑跡



第117図 C-8土坑跡出土遺物

1 1は隆起区画文を伴う。1 2、1 3はRL単節斜縄文を縦回転させる。1 5は底面全体に網代痕を残す底部である。1 4はC-6号土坑から出土した高坏の体部である。

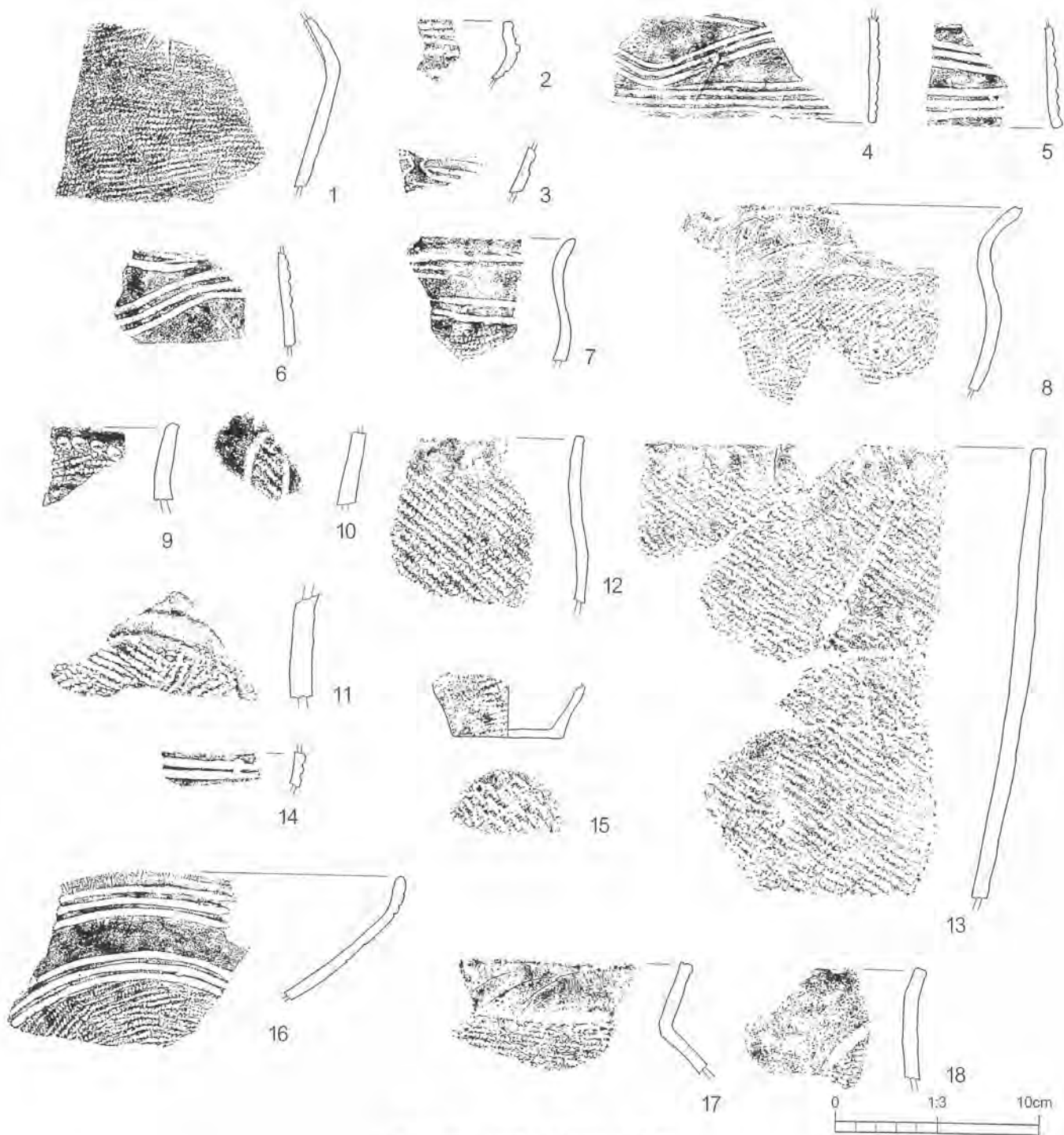
1 6～1 8は遺構検出面の出土である。1 6は高坏である。上～中位に平行沈線、下位に縄文を



第118図 C区土坑群

配す。17は8と同じタイプの甕である。肩部の張りが強く、頸部の境に段をもつ。18は磨消縄文を伴う深鉢の口縁部である。

<時期> 切合い、遺物などから、C-5号、6号、7号は弥生時代前期に伴う。



第119図 C区土坑群出土遺物

<C区土坑群土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A 1	10YR2/1 黒砂壤土	10YR2/3 砂壤土15%	中、中。表土最下部か
C-5号 E 1	10YR4/3 にぶい黄褐砂壤土	10YR3/4 砂壤土10%	中、疎。礫多し
C-6号 B 1	10YR3/3 暗褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土10% 10YR5/8 砂壤土3%	中、疎。
C-7号 C 1	10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR3/3 砂壤土15%	中、中。礫多し
C-9号 C 1	10YR2/1 砂壤土 黒	10YR2/3 砂壤土10%	軟質、疎。
" d 1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR2/2 砂壤土5%	固め、疎。
C-10号 b 1	10YR2/1 砂壤土 黒	10YR2/2 砂壤土10%	軟質、疎。
" c 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR4/6 砂壤土10%	軟質、疎。
" d 1	10YR4/4 砂壤土 褐	10YR4/6 砂壤土5%	疎。c 1より暗。
C-11号 a 1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR4/4 砂壤土5%	中、疎。
C-12号 a 1	10YR2/3 砂壤土 黒褐	10YR3/4 砂壤土10%	固、疎。床面に火山灰。

C-13号	a 1	10YR2/2	砂壤土 黒褐	10YR3/4	砂壤土10%	中、疎。
"	b 1	10YR3/4	砂壤土 暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	中、疎。
C-14号	a 1	10YR2/3	砂壤土 黒褐	10YR3/4	砂壤土5%	
"	b 1	10YR3/4	砂壤土 暗褐	10YR4/4	砂壤土10%	固め、疎。
C-16号	a 1	10YR2/3	黒褐	10YR2/3	砂壤土10%	中、中。
"	a 2	10YR3/4	暗褐砂壤土	10YR2/3	砂壤土10%	中、疎。
C-17号	a 1	10YR3/2	黒褐砂壤土	10YR4/3	砂壤土10%	中、疎。
C-18号	a 1	10YR2/2	黒褐砂壤土	10YR2/1	砂壤土5%	中～固、中。
C-19号	a 1	10YR3/4	暗褐砂壤土	10YR4/6	砂壤土10%	中～固、疎。
C-20号	a 1	10YR2/2	黒褐砂壤土	10YR2/3	砂壤土10%	固、中。
C-21号	a 1	10YR3/4	暗褐砂壤土	10YR4/4	砂壤土15%	中～固、疎。
C-22号	D 1	10YR3/4	暗褐砂壤土	10YR4/4	砂壤土15%	中～固、疎。

D-9号、D-10号、D-11号土坑跡（第120図）

D-9号土坑跡

D区中央、西端に位置する。D-2号住居跡の直下から出土し、上部をD-2号住居跡に切られている。平面形は不整楕円形と推定される。断面が皿状の掘込みである。埋土は固めのやや粘性のある褐色土である。

出土遺物（第121図）

1は壺型の土器である。頸部に橋状の把手が付けられる。頸部～胴部は、沈線による縦位のS字連鎖文、渦巻状の帯縄文が施文される。縄文後期前葉に伴う。2は平行沈線の間には隆帯を設け、刻みを施す。3は沈線による区画を伴う。

<時期> 縄文後期前葉に伴う。

D-10号土坑跡

D区の南部、中央に位置する。検出面は3層下面である。平面形は円形、断面は浅い皿状の土坑である。埋土は大、中の礫を含む黒褐色土層である。

出土遺物（第122、123図）

1～3は弥生土器である。1、2は高坏である。1は口縁部に大小の突起が付く。大突起の頂部は凹状になり、口唇部には溝が入る。2は平行沈線で施文される。1、2とも2個一対の粘土瘤が貼付される。3は甕の頸～胴部である。頸部の境に沈線が入る。4は沈線による縦位の区画と磨消を伴う。5は円盤状土製品である。組紐による施文か。

6～8は石器である。6は横型の石匙である。片面の周縁を調整して刃部をつくりあげ、刃部末端は尖る。7は磨製石斧の頭部である。平面形はわずかに丸みをもつが、胴部側縁との境界は明瞭である。上面形は楕円形である。8は敲打磨石である。やや広い機能面をもち、先端に敲打痕を残す。

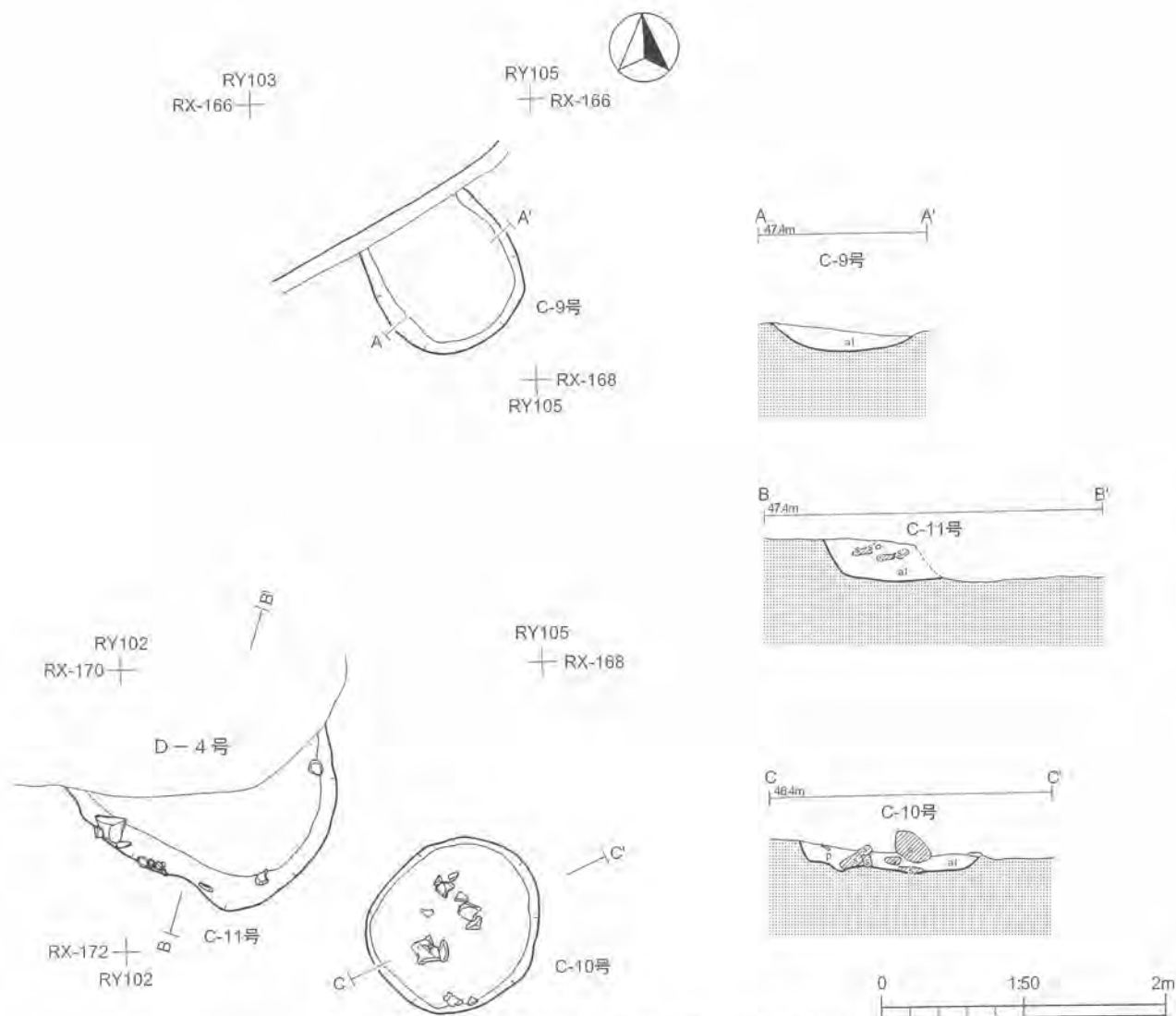
<時期> 弥生前期に伴う。

D-11号土坑跡

D-10号土坑跡の西に位置する。検出面は3層下面である。D-4号住居跡に切られている。形状は円形と推定されるが、壁の立上がりは明瞭ではない。深さは25cmである。埋土は、炭、焼土粒などを多く含むしまった黒褐色土層である。

出土遺物（第124図）

D-2号住居跡との境界を明瞭に確認できなかったため、D-2号住居跡の遺物も混入している



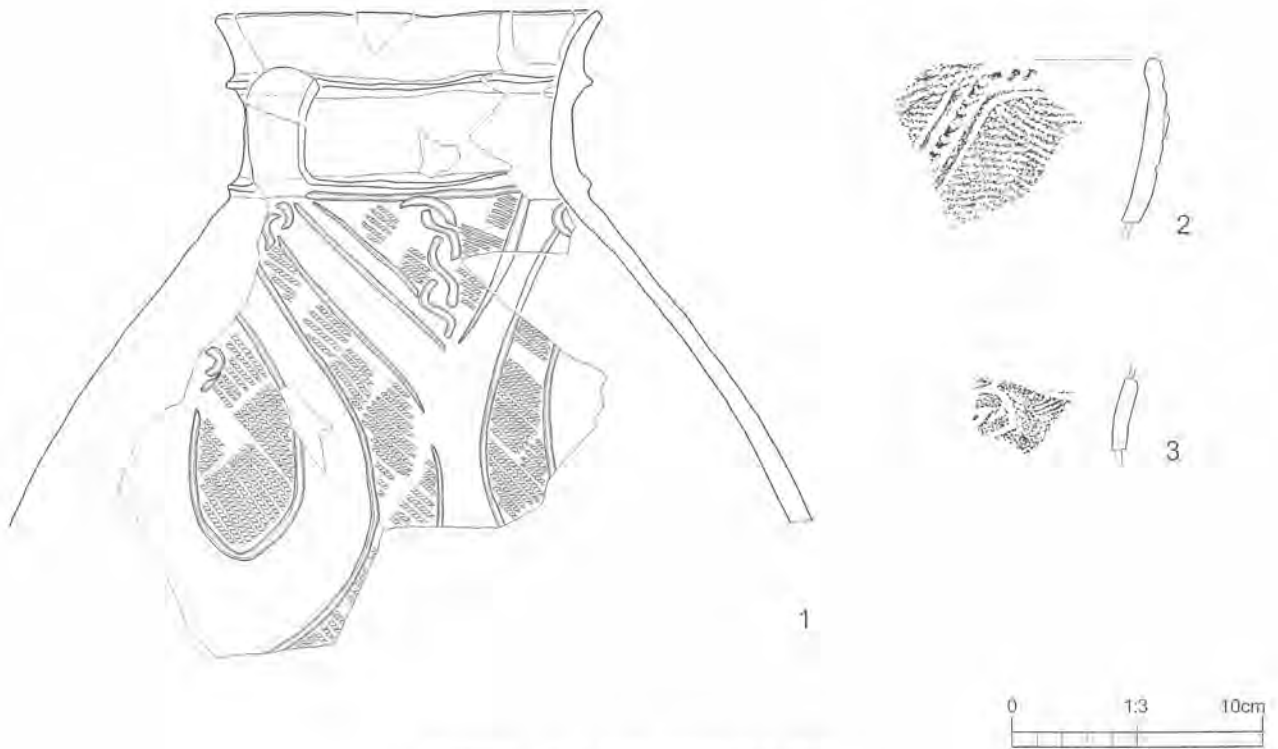
第120図 D-9号、D-10号、D-11号土坑跡

可能性があることを断っておきたい。

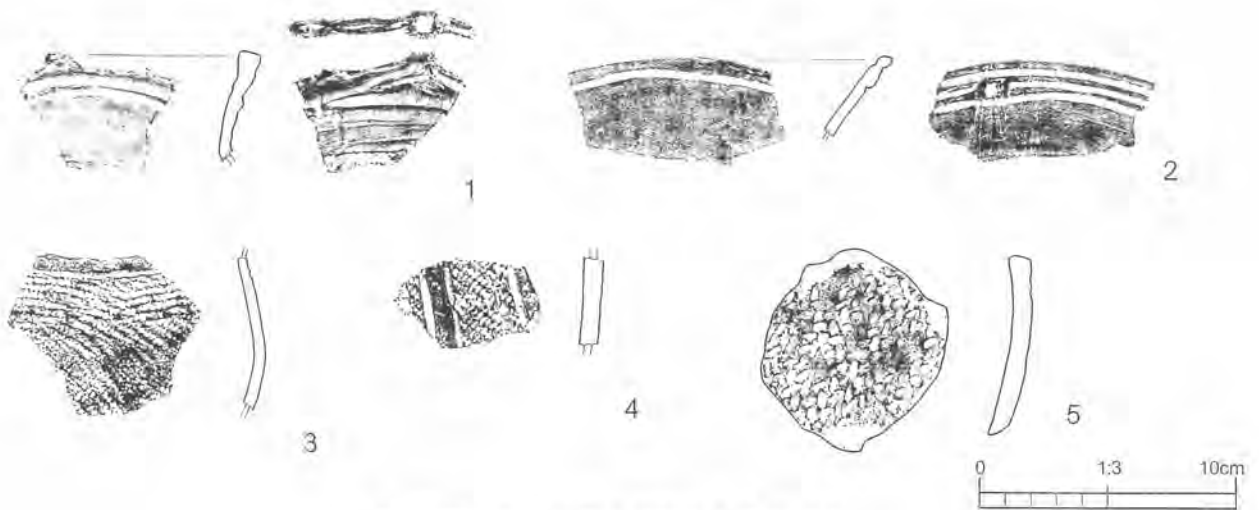
1、5は胴張りタイプの深鉢で同一個体である。1は、口縁部の波状沈線の下に横位の円形刺突列を施し、沈線による帯状無文帯で「ノ」字状の区画をする。2～4、6は口縁部に横位の刺突列を伴う。以上大木10式に伴う。7は細く薄い2本の隆帯を伴う。8は結節縄文を縦回転させる。9は複合口縁で、口縁部も施文される。10～16は磨消縄文で施文され、11、12、14は隆起区画文、15、16は沈線による縦位の区画を伴う。17は沈線上に円形刺突を施す。18は縦位の沈線、19はRL単節斜縄文で施文された底部である。

(cm)

PIT	D-9	D-10	D-13
径	130	—	105
深	17	29	15



第121図 D-9号土坑跡出土遺物



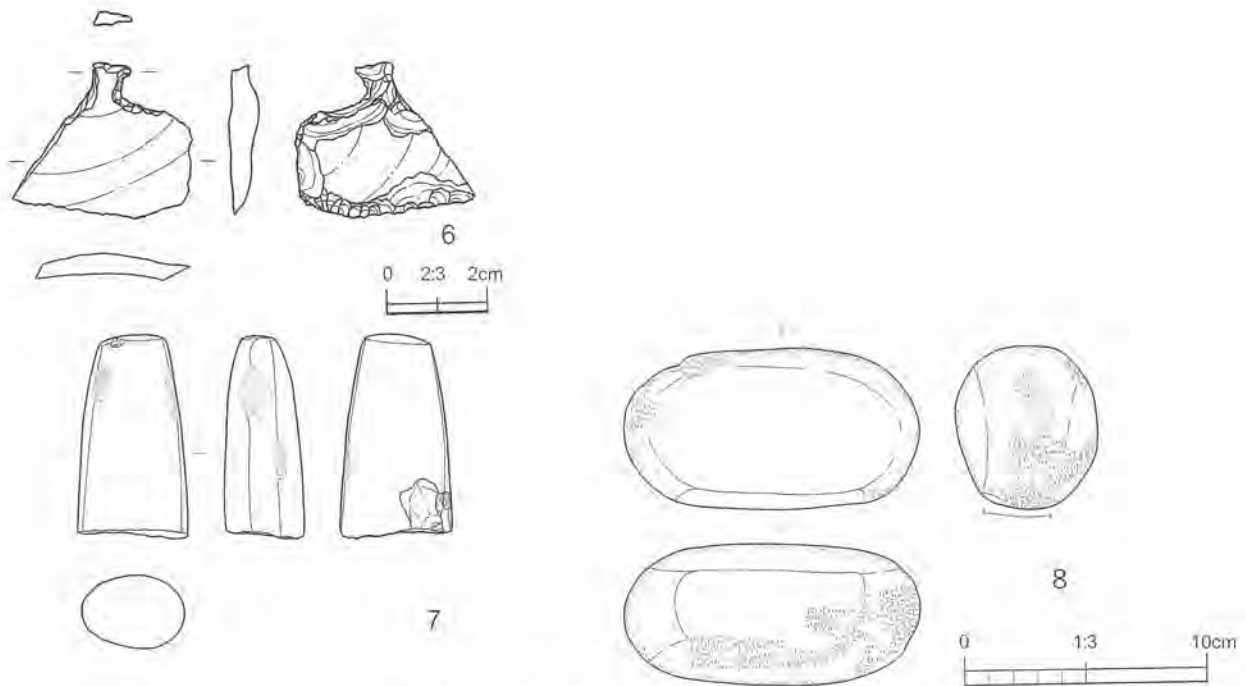
第122図 D-10号土坑跡出土遺物 (1)

<D-10号土坑跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR2/3 砂壤土10% 10YR3/4 砂壤土10%	中、やや密。礫多し

<D-11号土坑跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a 1	10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR4/4 砂壤土10% 10YR2/3 砂壤土10%	軟、中。炭、焼土粒多し



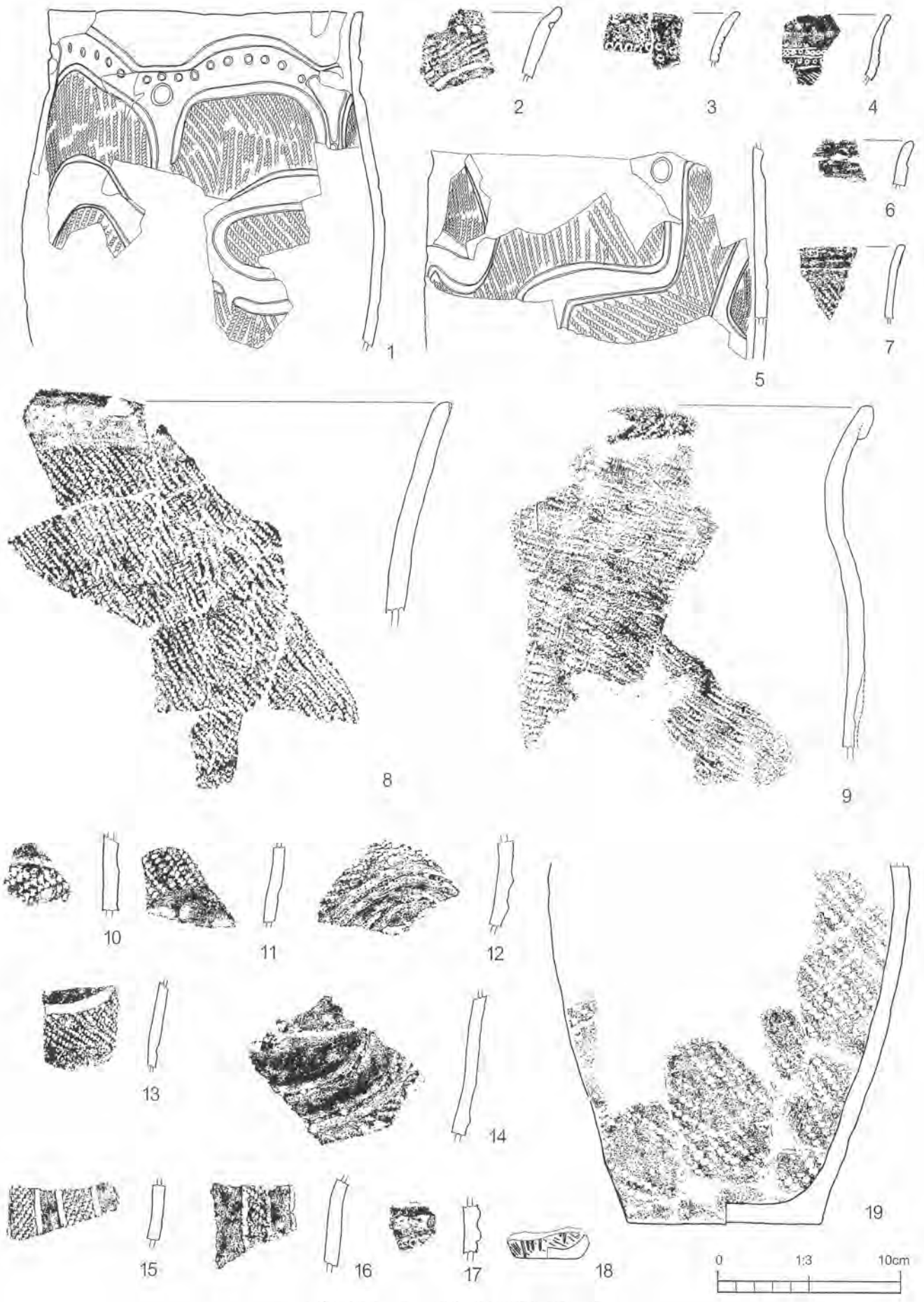
第123図 D-10号土坑跡出土遺物 (2)

<D-1 2号土坑跡土層観察表>

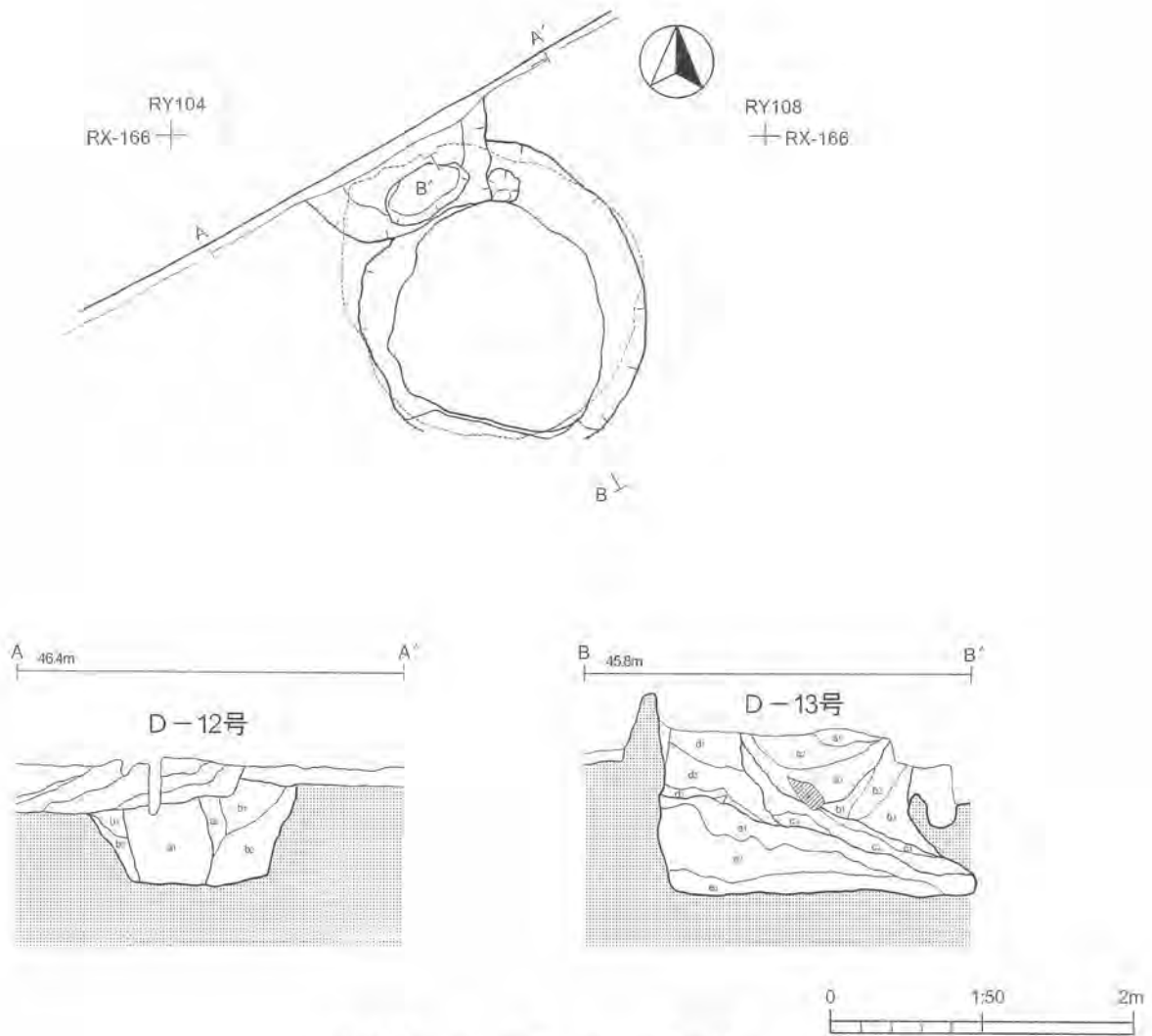
層名	基本土	混入土	しまり、密度など
a 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土10%	軟質、疎。多量の炭。
a 2	10YR2/3 黒褐シルト質埴土		軟質、疎。少量の炭。
b 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土10%	軟質、疎。少量の炭。褐色土混じり。
b 2	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭。b 1より暗
b 3	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土30%	中、中。少量の炭

<D-1 3号土坑跡土層観察表>

層名	基本土	混入土	しまり、密度など
A 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴土5%	中、中～疎。少量の炭。
A 2	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土20%	中、中。少量の炭。
A 3	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土15% 10YR2/2 シルト質埴土10%	中、中～疎。少量の炭。
B 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土15% 10YR2/2 シルト質埴土15%	軟質、疎。炭。
B 2	10YR4/4 褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土20%	中、中。少量の炭。
B 3	10YR3/3 暗褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土15% 10YR2/2 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭。
C 1	10YR2/3 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴土10%	軟質、疎。少量の炭。
C 2	7.5YR2/2 黒褐シルト質埴土	5YR3/4 シルト質埴土20% 10YR4/4 シルト質埴土20%	軟質、疎。少量の炭。
C 3	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR4/2 シルト質埴土20%	軟質、疎。少量の炭。灰黄褐色土混じり
D 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR3/3 シルト質埴土5%	軟質、疎。微量の炭。
D 2	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR4/4 シルト質埴土10%	中～軟、中～疎。少量の炭。
D 3	10YR2/1 黒シルト質埴土	10YR4/2 シルト質埴土10%	軟質、疎。少量の炭。
E 0	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭。
E 1	10YR2/2 黒褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴土20% 10YR4/4 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭。E 0より暗
E 2	10YR4/4 褐シルト質埴土	10YR2/1 シルト質埴土15%	軟質、疎。少量の炭。
E 3	10YR2/1 黒シルト質埴土	10YR2/3 シルト質埴土10% 10YR4/4 シルト質埴土5%	軟質、疎。少量の炭。



第124图 D-11号土坑迹出土遗物



第125図 D-12号、D-13号土坑跡

D-12号土坑跡 (第125図)

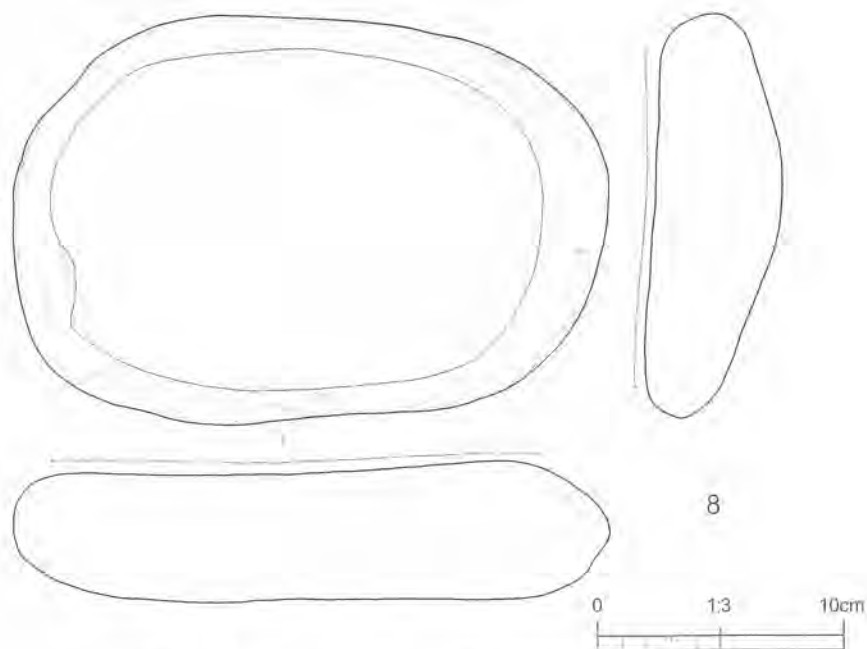
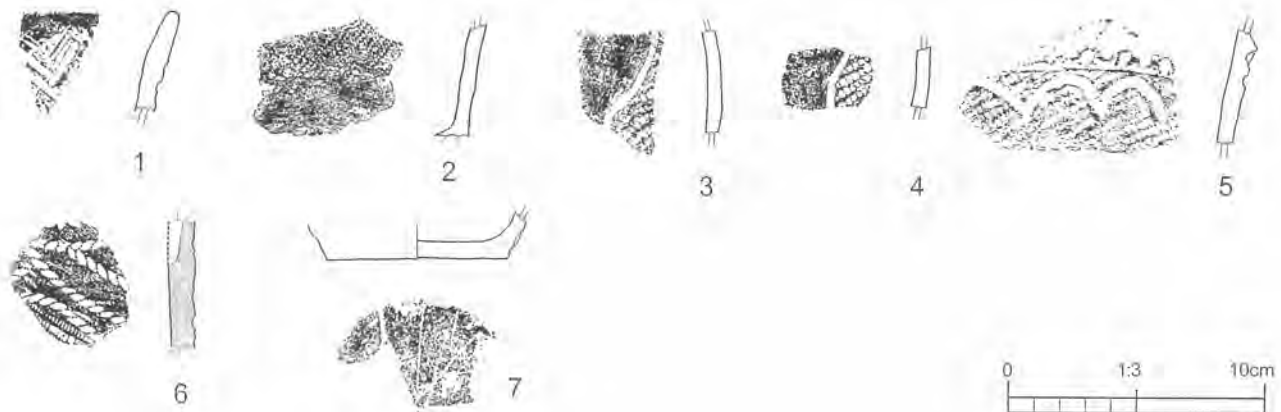
ⅢB区北部、西端に位置する。D-6号住居跡の直下から出土し、同住居跡に上部を切られる。平面形は円形と推定される。床面は平坦で、東端に楕円形の小土坑が掘られている。壁は外傾して立上がる。規模は上部の径が1.4m、底面径が90cm、深さ70cmである。埋土は、柱状の埋土層が確認されている。

出土遺物 (第126図)

1、2がD-12号土坑跡の出土である。1は口縁部に山形の沈線をめぐらす。2は底部と思われるが、底部に磨消を施している。

D-13号土坑跡 (第125図)

D-12号土坑の東に位置する。D-5号、D-6号住居跡に南東部を切られる。形状は所謂フラスコピットである。底部は北西に寄り、床面は北西に張出す。床面は平坦である。規模は上部径1.9m、底部径2.0m、深さ1.3mである。埋土は5層に大別されるが、北西に傾斜す堆積層(C、E層)とそれらを切るA~C層に二分できる。

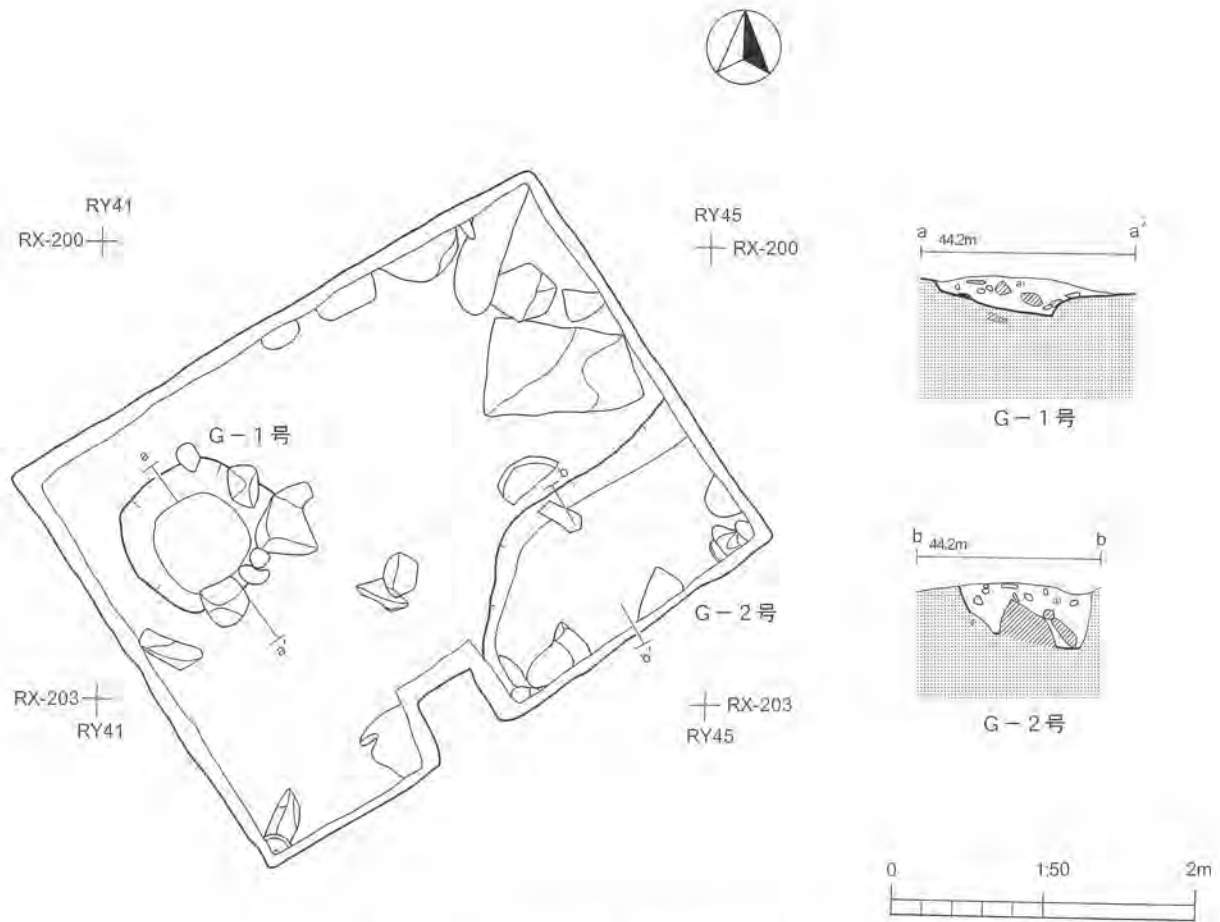


第126図 D-12号、D-13号土坑跡出土遺物

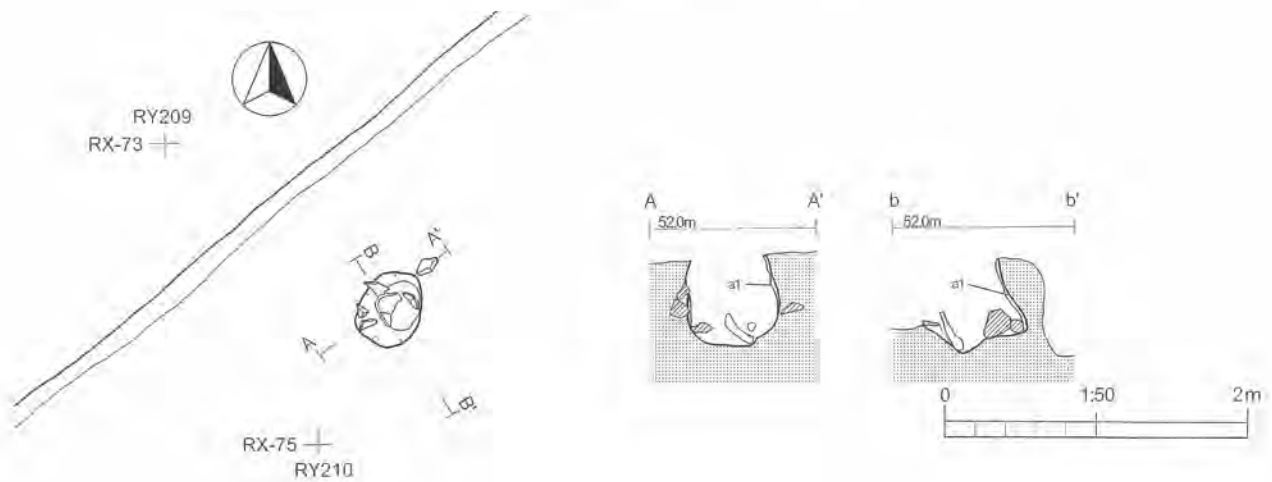
出土遺物（第126図）

3～7がD-13号土坑跡の出土である。3、4は上層から出土した土器で、沈線による区画と磨消を伴う。5は沈線上に円形刺突列を加え、その下に弧状の連続沈線を配す。6は胎土に繊維を含み、原体圧痕を伴う。D層の出土である。7は木葉痕を残す底部である。体部は剥離し、施文は観察できない。

8はC層から出土した石器で、石皿である。磨面は平坦で、とくに磨り減った部分は認められなかった。



第127图 G-1号、G-2号土坑迹



第128图 A-2号柱穴迹

G-1号土坑跡（第127図）

G区の7層上面から出土している。平面形は不整円形である。規模は径1.0m、深さ25cmである。埋土は軟質でやや粘性のある黒褐色土である。土坑内からの出土遺物はないが、検出面から馬の歯が出土しており、墓坑の可能性はある。時期は不明である。

G-2号土坑跡（第127図）

G-1号土坑跡と同じ面から出土している。平面形は円形と思われるが、規模は不明である。深さは35cmである。埋土はG-1号と同質の黒褐色土である。遺物は骨片が出土しておりG-1号と同じく墓坑跡と思われる。時期は不明である。

A-2号柱穴跡（第128図）

<検出状況> A-2区の中央、西寄りに位置する。検出面は2層上面である。柱の木質部を残す。柱はやや西側に傾いて据えられている。遺物は出土していない。

<形状・規模> 平面形は不整円形で、規模は50cm×45cm、深さは60cmである。周縁部にわずかに残る埋土a1層は、固めでやや粘性のある黒褐色土である。

<時期> 不明である。検出面2層は柱穴の出土付近で一部攪乱を受けており、この柱穴に関連するものと推測される。2層は盛土層であり、近世までの時期が考えられる。

3-3 遺構外出土遺物

a. A区遺構外出土遺物 (第129~150図)

弥生土器

1~26は6層の出土である。

1~3は壺である。1は口縁部は直に立上がり、胴部上半部が強く丸く張出す。口縁部と頸部を隆線がめぐり、体部は縄文で埋められる。2、3は肩部である。2は変形工字文を伴い、3は沈線による楕円の区画と磨消を伴う。4は高坏である。口縁部はほぼ直に立上がり、胴部はわずかなふくらみをもつ。上半に貼瘤付きの変形工字文を施し、下半は縄文を施す。5は鉢である。口縁部には山形状の突起をもち、頂部には抉りが入る。上半に貼瘤を施した変形工字文、下半に縄文を伴う。6~14は高坏である。7は直線的に外反し、12は山形口縁で、頂部に抉りが入る。6は変形工字文を伴い、ほかは平行沈線で施文される。10~12は貼瘤される。15、16は鉢である。口縁部は無文で、頸部もしくは体部に変形工字文を伴う。17、18は浅鉢である。口縁部は内反する。口縁部に変形工字文を施し、下半は縄文でうめる。19~22は甕である。口縁部は外反もしくは直に立上がり、肩部がやや強く張出す。口縁部は無文で、頸部から縄文で覆われ、その境界は明瞭である。23~25は鉢の口縁部と思われる。いずれも口縁部は山形の突起をもち、沈線を伴う。26は高坏の脚部で、無文である。

27~83は5層の出土である。

27~34は壺である。27、28は器形、施文法ともほぼ同じである。口縁部はわずかに外反して、直線的に立上がり、胴部中位に最大径をもつ。上半に貼瘤付きの変形工字文を施し、下半は縄文で埋める。29~32は口縁部である。29はやや大きく外反し、口縁部、頸部に隆線をめぐらし、貼瘤される。30は直に立上がり、口唇部で外反する。口縁部と頸部に沈線が入る。31は内湾しながら立上がる。口縁部は沈線、頸部から縄文が施される。32は外反して直線的に立上がる。33、34は沈線による区画と磨消を伴う。

35~55は高坏である。35は口縁部は内反する。上半に変形工字文、下半に縄文を施文する。37は口縁部が外反して直線的に立上がる。口縁部に沈線、無文帯を設けて下半に沈線と縄文を施す。沈線は貼瘤を伴う。36は口縁部は内反し、変形工字文で施文される。38は口縁部は内反するが、施文は37と同じであるが貼瘤は伴わない。39は口縁部が直に立上がり、口縁部に沈線、その下は全面に縄文を施す。40は口縁部は外反気味で、胴部がやや張出す。二段に貼瘤付きの沈線をめぐらす。41は口縁部は直線的に外反し、胴部はふくらみをもつ。三段の貼瘤付き沈線と縄文で施文する。42、43は山形口縁である。42の頂部には抉りが入り、変形工字文で施文される。44は平縁で、平行沈線と変形工字文を伴う。45~47は山形口縁である。45、46の頂部には抉りが入り、3点とも貼瘤付き沈線で施文される。48は口縁部が直線的に外反し、貼瘤付き沈線で施文される。49、50はいずれも平行沈線と縄文で施文される。51~55は高坏の脚部である。51~54は平行沈線で施文され、55はそれに波状沈線が伴う。

56、57は浅鉢である。口縁部は内反し、胴部がややふくらむ。上半を変形工字文、下半を縄文で施文する。

58~79は甕である。口縁部は外反もしくは直立し、肩部はやや強く張出す。口縁部は無文、頸部から縄文が施文される。頸部に段あるいは沈線をもち、無文と施文の境界は明瞭であることなどを特徴とする。75、77、78は口唇部に縄文が施され、76は溝が入る。79は頸部に貼瘤が